チテ乙ノ登記義務消滅スト爲ス約旨ナリト解釋スルヲ相當トス（大正一一・九・二九）

○中間省略登記ト文書僞造罪　中間省略登記ハ登記法上許サレタル登記ニシテ毫モ不實ノ登記ト目スルコトヲ得サルノミナラス刑法第百五十七條ノ犯罪ヲ構成スルモノニ非ス（大正一二・一・三〇）

○無效ノ登記ト之カ回復ノ爲ノ登記方法　乙カ甲名義ノ所有土地ニ付贈與證書ヲ僞造シ所有權移轉登記ヲ爲シタル場合ニ甲カ自己ノ所有權登記ヲ回復スルニハ抹消登記ノ方法ニ依ルヘク移轉登記ノ方法ニ依ルヘキモノニ非ス（大正一三・四・二二）

○共有物ニ對スル信託契約解除ニ因ル登記手續　共有不動產ヲ共有者ノ一人ニ信託讓渡シ其ノ所有トシテ査定確定シ所有權保存登記ヲ爲シタル場合ニ信託讓渡ヲ解除シタル爲ニ之ヲ共有者ノ共有名義トナスニハ不動產登記法第七十八條ノ所有權ノ一部移轉登記ノ手續ニ依ルコトヲ要シ更正登記ニ依ルヘキモノニアラス（大正一四・一一・一〇）

○不動產ノ賃貸借ト其ノ登記請求權　不動產ノ賃貸借ハ之ヲ登記スヘキ特約アルニ非サレハ賃借人ハ登記ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス（大正一四・一二・二二）

○時效ニ因ル物權取得ト登記　時效ニ因ル不動產物權ノ取得ハ之ヲ登記スルニ非サレハ第三者ニ對抗スルヲ得サルモノトス（昭和三・六・九）

○法人ニ非サル團體ノ名ヲ以テスル登記ノ是正方法　共有登記ニ代フル團體ノ名稱ヲ以テセル登記ハ不適法ニシテ更正登記ニ依ツテ是正シ得ヘキモノニ非ス一旦之ヲ抹消スルコトヲ要ス（昭和八・八・二五）

第二條

○假登記後所有權取得ノ本登記ヲ受ケタル第三者ト假登記ノ抹消請求　所有權移轉ノ假登記ヲ爲シアル不動產ニ付第三者カ所有權取得ノ本登記ヲ爲スモ假登記權利者カ登記義務者ヲシテ本登記ヲ爲サシムル實體上ノ權利ヲ有スル以上所有權取得ノ本登記ヲ爲シタル第三者ハ却テ假登記權利者ノ保全シタル權利ノ實行ヲ認容セサルヘカラサルモノニシテ本登記ヲ爲シタル所以ヲ以テ其權利ヲ假登記權利者ニ對抗シ假登記ノ抹消ヲ請求シ得ヘキモノニ非ス（大正八・三・一一）

○假登記後第三者ノ本登記ト假登記ニ基ク本登記　所有權移轉ノ假登記アリタル後假登記義務者タル登記名義人カ第三者ニ對シ所有權移轉ノ登記ヲ爲シタルトキハ登記簿上ノ登記名義人ニ變更ヲ生スルヲ以テ假登記權利者カ假登記ニ對スル本登記ヲ爲サントスルニハ所有權移轉ノ本登記ヲ爲シタル第三者ニ對シ該本登記ノ抹消ヲ求メ登記簿上ノ名義人ヲ假登記義務者ノ名義ニ回復セシメ然ル後假登記義務者ヨリ所有權移轉ノ本登記ヲ受クヘキモノニシテ第三者ノ所有權移轉ノ本登記アルニ拘ラス假登記權利者カ假登記義務者ヨリ直接所有權移轉ノ本登記ヲ受クルハ現在登記簿上登記名義人ニ非サル者ヨリ所有權移轉ノ登記ヲ受クルコトトナリ明ニ登記法第四十九條第六號ノ場合ニ該當スヘケレハ斯ル登記ノ申請ハ同條ニ依リ却下セサルヘカラス（大正一〇・八・二六）

○假登記ノ效力及假登記名義人ヲ登記義務者トスル移轉登記　假登記ハ後日爲サルヘキ本登記ノ效力ヲ遡ラシメ假登記ノ時ニ於テ爲シタルト同一ノ順位ヲ保有スルコトヲ得シメムトスルモノニシテ假登記ノ目的及效力ハ唯之ニ止マリ決シテ假登記ニ因リテ新ニ特種ノ權利ヲ取得セシムルコトナキハ勿論未タ本登記ヲ爲ササル時ニ於テ假登記名義人ヲ登記義務者トシテ更ニ當該不動產ニ關スル權利ノ移轉ヲ登記スルコトヲ得シムルモノニ非ス（昭和五・九・二六）

○地上權假登記後ノ本登記ト其ノ登記義務者　他人ノ土地ニ付地上權ヲ設定シ其ノ旨ノ假登記ヲ受ケタル後其ノ土地所有權カ第三者ニ讓渡移轉セラレ其ノ者ノ所有名義ニ登記ヲ經了シタル場合ニ於テハ固ヨリ地上權ノ存在ハ其ノ土地所有權ノ處分ニ何等支障ナク之カ所有權移轉登記亦地上權ノ本登記ヲ爲スニ付毫末モ妨ヲ爲ササルト共ニ其ノ不動產ニ付所有權取得ノ登記ヲ受ケタル敍上第三者ハ假登記アリタル權利ヲ對抗セラルル結果其ノ本登記ヲ爲スヘキ

義務ヲモ承繼シタルモノト謂フヘキカ故ニ地上權假登記權利者ハ現在ノ登記名義人タル第三者ニ對シテノミ地上權ノ本登記手續ノ履行ヲ請求シ得ヘキモノトス（昭和五・一〇・二四）

○虚無ノ賣買ヲ原因トセル假登記ノ效力　不動産ノ所有權ノ讓渡人カ讓受人ノ處分行爲ヲ禁止シ讓受人ニ於テ之ヲ處分シタルトキ其ノ第三取得者ヨリ之ヲ回收スル目的ノ下ニ豫メ虚無ノ賣買ヲ原因トシテ假登記ヲ爲シ置クカ如キハ假登記ニ關スル法規ヲ利用シテ法律上認ムヘカラサル處分禁止ノ實ヲ擧ケ以テ不當ニ第三者ノ權利ヲ侵害セムトスルモノニ他ナラスシテ正當ノ登記原因ノ存セサルモノナレハ其ノ登記ハ當然無效ノモノトス（昭和八・六・三〇）

第三條

○豫告登記ト登記原因ノ内容タル事實ノ知不知ノ推定　豫告登記ハ登記原因ノ無效又ハ取消ニ因ル登記ノ抹消又ハ回復ノ訴ノ提起アリタル場合ニ受訴裁判所カ職權ヲ以テ之カ登記ヲ囑託スルモノニシテ其ノ登記ニ因リ訴ノ提起アリタルコトヲ第三者ニ豫告シ專ラ係爭不動産ニ付物權ノ得喪變更ニ關スル法律行爲ヲ爲サントスル善意ノ第三者ヲ保護セントスルニ在リ而シテ豫告登記ハ一ノ公示方法ナルカ故ニ豫告登記アリタル以後ニ於テ係爭不動産ニ付法律行爲ヲ爲シタル第三者ハ豫告登記ノ存スル事實ヲ知リテ法律行爲ヲ爲シタリトノ推定ヲ受クヘク訴訟ノ結果ニ依リ不利益ナル影響ヲ受クヘキ場合アルハ當然ナリト雖之カ爲ニ豫告登記ノ原因タル訴訟ニ於ケル登記ノ無效又ハ取消ノ内容ヲモ知レルモノトノ推定ヲ受クヘキモノニ非ス（大正一三・五・一六）

第五條

○證明義務者カ自ラ爲シタル證明ト抹消請求　所有權移轉證明手續ヲ爲スヘキ義務アル者カ既ニ其證明手續ヲ爲シタル以上ハ自ラ進ンテ權利者タル者ニ對シ其手續ニ瑕疵アルコトヲ主張シテ之カ抹消手續ヲ請求スル權利ナキモノトス（大正七・八・一六）

卷	頁
一七	二一五
二〇	二八三
一一	一一〇
五	六九一

○亡父ノ名義ヲ以テ爲シタル所有權移轉證明ノ效力ノ有無　甲カ乙ニ其所有ニ係ル不動産ヲ賣却シ其義務ノ履行トシテ甲カ其父ノ賣主名義ヲ以テ所有權移轉證明ヲ爲シタルトキハ縱令其父カ證明當時死亡シ所有權移轉證明無效ナリトスルモ證明義務者タル甲ハ同權利者タル乙ニ對シ該證明ノ無效ヲ主張シ證明抹消履行手續ノ請求ヲ爲スヲ得サルモノトス（大正八・一二・六）

第三章　登記ニ關スル帳簿

第十一條

○保存登記抹消ト土地臺帳ノ整理　登記所カ所有權保存登記ヲ抹消シタルトキハ登記所ハ不動産登記法第十一條ノ趣旨ニ則リ之ヲ土地臺帳所管廳ニ通知スヘク其ノ通知ヲ受ケタル土地臺帳所管廳ハ土地臺帳規則第二條ノ趣旨ニ則リ土地臺帳ヲ整理スヘキモノトス（大正一〇・六・三）

第十五條

○性質上抹消サルヘキ證明ノ存在ト重複登記　甲丙間ノ所有權移轉證明カ抹消セラルヘキ性質ノモノナリトスルモ其未タ之ヲ抹消セサル以上ハ同一不動産ニ付重ネテ乙丙間ノ所有權移轉登記ヲ爲シ得ヘキモノニアラス（大正七・九・一〇）

○登記ノ一部ノ重複　一ノ土地ニ付保存登記アリテ既ニ登記用紙ヲ起シタル以上ハ其ノ閉鎖セラレサル限リ同一土地ノ全部若クハ一部ニ付新ニ保存登記ヲ爲スコトヲ得ス（昭和五・一・二八）

卷	頁
六	六一九
八	二〇〇
五	七一四
一七	二八

第四章　登記手續

第一節　通則

第二十六條

○中間登記省略ノ合意ト登記義務者　不動産ノ所有者カ其所有權ヲ他人ニ移轉シタルトキハ其移轉ヲ受ケタル者ニ對シ所有權移轉登記ヲ爲ス義務アリ斯ル登記義務ノ生スル理由ハ其所有權ヲ直接若クハ間接ニ承繼シタル現在ノ所有者ヲシテ登記名義人タルヲ得セシメ以テ其權利ノ效力ヲ充實スルコトヲ得セシムル必要ニ基因スルモノナレハ所有權ノ移轉カ多數人間ニ連續シテ行ハレタル場合ニ於テ現在ノ所有者ハ其前主ニ對シ其移轉登記ヲ請求セサル狀況ニ在ルトキハ中間ノ當事者ハ各其前主ニ對シ登記ヲ要求スル要ナキヲ以テ斯ル場合ニハ其前主ニ對シ登記請求ヲ爲スコトヲ得ス從テ其前主ハ登記義務履行ヲ拒絶スルコトヲ得ルモノトス　（大正八・八・二六）

○登記原因無效ノ主張ト抹消登記義務者　同一不動産ニ付數次ノ所有權移轉登記アリテ登記名義人ニ非サル土地所有者カ其登記原因ノ無效ヲ主張シ該登記ノ抹消ヲ請求スル場合ニ於テ自己ノ所有權ヲ害スヘキ登記ハ現ニ其效力ヲ有スルト否トニ論ナク其各登記名義人ニ對シ抹消ヲ請求スルヲ得ヘキモノナレハ各登記名義人ハ抹消ニ付テノ登記義務者ナリトス

如上ノ場合ニ於テ所有者ハ總テノ登記義務者ニ對シ同時ニ若クハ各別ニ移轉登記ノ抹消ヲ請求スルコトヲ得ヘシ（大正一一・三・二四）

年	頁
六	四八五
九	一〇〇

○所有權移轉登記ノ抹消登記ノ登記義務者　同一ノ不動産ニ付數次ノ所有權移轉登記アリテ原所有者カ登記原因ノ無效ヲ主張シテ最後ノ所有權移轉登記ノ抹消ヲ請求スル場合ニ於テハ現在ノ登記名義人即該登記ノ登記權利者カ抹消登記ノ登記義務者ト爲ルヘキモノニシテ該登記ノ登記義務者ハ抹消登記ノ登記義務者ニ非サルカ故ニ現在ノ登記名義人ヲ被告トシテ訴求スヘキモノニシテ該登記ノ登記義務者ヲ共同被告トシテ請求スヘキモノニ非ス　（大正一一・六・九）

○抵當不動産ノ讓渡後ニ於ケル抵當權ノ消滅ニ因ル登記抹消請求權者　抵當權設定登記アル不動産カ第三者ニ讓渡サレタル後抵當權ノ消滅シタル場合ニ於テハ抵當權者ニ對スル該登記ノ抹消請求權ハ現在ノ所有者タル第三者ノミ之ヲ有シ設定者ハ之ヲ有セサルモノトス　（大正一二・九・四）

○抵當權讓渡後ノ債權ノ時效消滅ト抵當權抹消ノ登記義務者　債權及之ヲ擔保スル抵當權ノ讓渡アリタル後債權カ時效ニ因リ消滅シタル場合ニ之ニ因ル抵當權ノ消滅ニ付爲スヘキ抵當權設定登記ノ抹消登記ハ抵當權消滅當時ニ於ケル登記上ノ抵當權者タル讓受人ヲ登記義務者トシテ之カ申請ヲ爲スヘキモノトス　（昭和四・三・五）

○地上權假登後ノ本登記ト其ノ登記義務者　他人ノ土地ニ付地上權ヲ設定シ其ノ旨ノ假登記ヲ受ケタル後其ノ土地所有權カ第三者ニ讓渡移轉セラレ其ノ者ノ所有名義ニ登記ヲ經了シタル場合ニ於テハ固ヨリ地上權ノ存在ハ其ノ土地所有權ノ處分ニ何等支障ナク之カ所有權移轉登記亦地上權ノ本登記ヲ爲スニ付毫末モ妨ヲ爲ササルト共ニ其ノ不動産ニ付所有權取得ノ登記ヲ受ケタル敍上第三者ハ假登記アリタル權利ヲ對抗セラルル結果其ノ本登記ヲ爲スヘキ義務ヲモ承繼シタルモノト謂フヘキカ故ニ地上權假登記權利者ハ現在ノ登記名義人タル第三者ニ對シテノミ地上權ノ本登記手續ノ履行ヲ請求シ得ヘキモノトス　（昭和五・一〇・二四）

九	一九七
一〇	二五九
一六	三八
一七	二一五

○反對給付ト引換ニ所有權移轉登記手續ヲ爲スベク命セラレタル判決ニ基キ登記申請
反對給付ト引換

登記ノ申請アリタル以上登記官吏ハ之ヲ受理スベク該登記ハ當然無效ノモノト謂ヲ得サルモノトス
（昭和一一・一〇・二九）

文ヲ得タルモノナルトキハ違法ナリト雖ハ其ノ執行文付與ニ對スル異議ノ事由タルニ止リ苟モ執行力アル正本ヲ執行ノ付與ヲ得テ爲スヘキ強制執行ハ違法ニアラス

付記ニ基キ登記ヲ爲スヘキ旨ノ判決ニ基キ登記ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ登記官吏ハ之ヲ受理スヘキモノトス
（昭和一一・一〇・二九）

○永小作權設定登記手續ヲ命スル判決ト小作料ノ確定

第二十七條

登記義務者ニ對シ登記手續ヲ命スル判決ハ登記義務者ノ現名義人ニ對シ該常權ノ登記簿上ニ於ケル抹消ノ登記ニ對シ請求スヘキモノトス
（昭和一一・一〇・二九）

○辨濟ニ因リ消滅シタル抵當權設定登記ノ抹消ヲ登記義務者

抵當權カ被擔保債權ノ辨濟ニ因リ消滅シタルトキハ

（第二七條）

不動產登記法
登記手續
通則

（第二七條）

不動產登記法
登記手續
通則

○反對給付ト引換ニ所有權移轉登記手續ヲ爲スベク命セラレタル判決ニ基キ登記申請
反對給付ト引換

登記ノ申請アリタル以上登記官吏ハ之ヲ受理スヘク該登記ハ當然無效ノモノト謂ヲ得サルモノトス
（昭和一一・一〇・二九）

文ヲ得タルモノナルトキハ違法ナリト雖ハ其ノ執行文付與ニ對スル異議ノ事由タルニ止リ苟モ執行力アル正本ヲ執行ノ付與ヲ得テ爲スヘキ強制執行ハ違法ニアラス

付記ニ基キ登記ヲ爲スベク命セラレタル判決ニ基キ所有權移轉登記ヲ爲シタル場合ニ於テ登記官吏ハ之ヲ受理スヘキモノトス
（昭和一一・一〇・二九）

○永小作權設定登記手續ヲ命スル判決ト小作料ノ確定

第二十七條

登記義務者ニ對シ登記手續ヲ命スル判決ハ登記義務者ノ現名義人ニ對シ該常權ノ登記簿上ニ於ケル抹消ノ登記ニ對シ請求スヘキモノトス
（昭和一一・一〇・二九）

○辨濟ニ因リ消滅シタル抵當權設定登記ノ抹消ヲ登記義務者

抵當權カ被擔保債權ノ辨濟ニ因リ消滅シタルトキハ

（第二七條）

不動產登記法
登記手續
通則

○單獨登記名義ノ共有土地ト共有名義ノ登記方

第二十八條

甲ノ共有不動產ニ付甲ハ自己單獨名義ノ所有權ノ登記又ハ

必ス甲ヲシテ更正登記ニ依リ甲ノ單獨所有名義ニ更正セシムヘキモノニ非ス

（昭和八・八・二五）

○法人ニ非サル團體ノ名ヲ以テスル登記ノ是正方法

共有登記ニ代ヘル團體ノ名稱ヲ以テスル登記ハ不適法

ニシテ更正登記ニ依リ是正シ得ヘキモノニ非ス一旦之ヲ抹消スルコトヲ要ス
（昭和八・八・二五）

○事實上吻合セサル登記原因ノ表示ト登記ノ效力

當事者間ニ於テ賣買以外ノ原因ニ基ク所有權移轉ノ效果ヲ

生スル法律行爲アリタル場合ニ之カ登記ヲ爲スニ當リ賣買ヲ以テ登記原因ヲ爲スモ適法ノ手續ヲ經テ登記ヲ爲シ

（第七條―第三六條）

不動產登記法
登記手續
通則

○單獨登記名義ノ共有土地ト共有名義ノ登記方

第二十八條

甲ノ共有不動產ニ付甲ハ自己單獨名義ノ所有權ノ登記又ハ

登記ノ申請アリタル以上登記官吏ハ之ヲ受理スヘク該登記ハ當然無效ノモノト謂ヲ得サルモノトス
（昭和一一・一〇・二九）

○法人ニ非サル團體ノ名ヲ以テスル登記ノ是正方法

共有登記ニ代ヘル團體ノ名稱ヲ以テスル登記ハ不適法

ニシテ更正登記ニ依リ是正シ得ヘキモノニ非ス一旦之ヲ抹消スルコトヲ要ス
（昭和八・八・二五）

○事實上吻合セサル登記原因ノ表示ト登記ノ效力

當事者間ニ於テ賣買以外ノ原因ニ基ク所有權移轉ノ效果ヲ

生スル法律行爲アリタル場合ニ之カ登記ヲ爲スニ當リ賣買ヲ以テ登記原因ヲ爲スモ適法ノ手續ヲ經テ登記ヲ爲シ

（第七條―第三六條）

不動產登記法
登記手續
通則

○國ノ名ニ依ル登記ノ抹消ノ爲ノ判決

組合員者タハ登記官吏ハ登

記義人トセル抹消登記ノ申請ヲ受理スヘキモノトス
（昭和八・八・二五）

○判決主文ト登記原因ノ明示

不動產ニ關スル登記義務者ニ登記手續ヲ命スル判決ハ登記手續上登記原因ヲ明

スル書面ニ該當スルコトヲ要ス登記原因ハ主文ニ登記ニ現ハレサルモノナルトキハ

（昭和三一・一一・一七）

○判決ニ因ル登記ノ抹消

登記義務者ノ申請ニ依ル登記ノ抹消ハ同法

（昭和二・五・六）

○登記義務者ノ申請ニ依ル登記ノ抹消

判決ニ因ル登記義務者ノ出頭シテ申請シタルトキハ同法

第四十九條第二號ノ場合ニ諸證書ヲ以テ登記義務者ノ出頭ニ代フルコトヲ得サルモノトス
（昭和二・五・六）

○判決ニ因ル登記ノ申請

判決ニ因ル登記義務者ノ出頭シテ申請スルコトハ不動產

第二十七條ニ依リ登記權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得ルモノトス
（大正一五・一〇・二九）

○裁判上ノ和解ト登記權利者一方ノ登記申請

裁判上ノ和解ニ因ル登記ハ判決ニ準シ不動產登記法

確定シタル主文ニ明示スルコトヲ要ス
（大正一三・四・一一）

手續ヲ爲スヘキ意思表示ニ代ヘルヘキ判決ナルカ故ニ永小作權設定ノ登記ノ

（第二七條）

登記義務者ニ對スル登記ノ手續ヲ命スル判決ハ登記

タル以上ハ右登記ヲ無效ナリト云フヲ得ス（大正七・三・五）

○契約ノ日時カ事實ト異リタル登記原因ヲ證スル書面ト之ニ基ク登記ノ效力　賣買以外ノ契約ニ因リ一定ノ日ニ土地所有權ノ移轉アリタル場合ニ於テ當事者合意上之ト異ル日附アル賣買契約書ヲ作リ登記原因ヲ證スル書面トシ之ニ基キ所有權移轉登記ヲ受クルモ新登記名義人カ眞實所有權ノ取得者タル以上ハ斯ル登記ト雖目的タル土地ニ關スル現在ノ眞實ナル權利狀態ヲ公示シ登記ノ目的ヲ達スルニ適合スルカ故ニ之ヲ有效ノモノト謂フヲ妨ケス（大正一〇・五・一〇）

○判決主文ト登記原因ノ明示　不動產ニ關スル登記義務者ニ登記手續ヲ命スル判決ハ登記手續上登記原因ヲ證明スル書面ニ該當スルモノナレハ其主文ニ登記原因ヲ明記スルコトヲ要ス（昭和三・一一・一七）

第四十一條

○七代ノ孫タル旨ノ面長ノ證明書ト相續ヲ證スル書面　登記申請人ハ土地所有名義者甲ノ七代ノ孫タル旨ノ面長ノ證明書ハ相續ヲ證明スル書面トシテ適法ノモノニ非ス（昭和四・一・二五）

第四十四條

○保證書ノ內容　登記申請ニ際シ登記義務者ノ權利ニ關スル登記濟證又ハ登記義務者ノ人違ナキコトノ保證書ヲ提出セシムル所以ハ登記義務者トシテ申請ヲ爲ス者カ眞正ノ本人ナリヤ否ヤヲ確認シ眞正ノ本人ニ非サル者カ登記義務者トシテ登記申請ヲ爲スノ不正行爲ヲ防止シ以テ登記ノ正確ヲ期スルニ在リ左レハ右保證書ハ登記義務者タルヘキ者カ登記簿上ノ登記名義人ナルコトヲ證明スルヲ以テ足レリトセス登記義務者トシテ登記申請ヲ爲ス者カ眞正ノ本人ナルコトヲ證明スルモノナルコトヲ要ス（大正一二・四・六）

卷	頁
五	一三七
八	一二九
一五	三二六
一六	一
一〇	九〇

第四十七條

○申請書押捺印影ト届出印鑑トノ對照　登記官吏ハ登記申請アリタル場合ニ不動產所有者ノ提出スル書面ニ押捺シアル印影ト印鑑中ノ同人ノ印影トヲ對照シ同一ナリト認メタルトキニ非サレハ之ヲ受理スルコトヲ得ス（大正一二・七・一三）

○申請書押捺印影ト印鑑トノ鑑別ニ關スル注意ノ程度　從テ登記官吏ハ右印影ト印鑑トノ對照ヲ爲シ其ノ異同ヲ鑑別スルノ義務アリ然レトモ鑑別スヘキ注意ノ程度ニ付テハ登記法上何等ノ規定ナキカ故ニ登記官吏トシテ相當ナル智識經驗アル者ノ普通用フル程度ノ注意ヲ爲スヘキ義務アルモノト解スヘク又其ノ程度ノ注意ヲ以テ足リ夫以上ニ特別ノ注意ヲ爲ササルヘカラサルノ義務ナシ（大正一二・七・一三）

第四十九條

○性質上抹消サルヘキ證明ノ存在ト重複登記　甲丙間ノ所有權移轉證明カ抹消セラルヘキ性質ノモノナリトスルモ其ノ未タ之ヲ抹消セサル以上ハ同一不動產ニ付重ネテ乙丙間ノ所有權移轉登記ヲ爲シ得ヘキモノニアラス（大正七・九・一〇）

○假登記後第三者ノ本登記ト假登記ニ基ク本登記　所有權移轉ノ假登記アリタル後假登記義務者タル登記名義人カ第三者ニ對シ所有權移轉ノ登記ヲ爲シタルトキハ登記簿上ノ登記名義人ニ變更ヲ生スルヲ以テ假登記權利者カ假登記ニ對スル本登記ヲ爲サントスルニハ所有權移轉ノ本登記ヲ爲シタル第三者ニ對シ該本登記ノ抹消ヲ求メ登記簿上ノ名義人ヲ假登記義務者ノ名義ニ囘復セシメ然ル後假登記義務者ヨリ所有權移轉ノ本登記ヲ受クヘキモノニシテ第三者ノ所有權移轉ノ本登記アルニ拘ラス假登記權利者カ假登記義務者ヨリ直接所有權移轉ノ本登記ヲ受クルハ現在登記簿上登記名義人ニ非サル者ヨリ所有權移轉ノ登記ヲ受クルコトトナリ明ニ登記法第四十九條第六號ノ場合ニ該當ス

卷	頁
一〇	二二三
一〇	二二三
五	七一四

不動産登記法　登記手續通則　（第四九條―第六四條）　八一〇

○假差押ノ登記アル所有權保存登記ノ更正利害關係人　假差押ノ登記アル不動産ノ所有權保存登記ノ更正ノ

第六十四條

○登記官更ニ力更正ヲ爲シ得ヘキ場合ト抹消スヘキ場合トノ差異　登記官更カ不動産登記法第六十三條及同

○登記義務者ノミノ申請ニ依ル登記ト抹消　判決ニ因ル登記ヲ登記義務者ノミ出頭シテ申請シタルトキハ同法

○登記官更ノ事權ニ關スル法律ノ規定ニ違反ス　登記官更ハ事ヲ形式的事項ニ限ラレ其ノ實質的審査ニ及ハ

○國體ノ名ニ依ル登記名義人ト登記官更ノ事實權　國體ノ名ニ依ル登記名義人カ常設組合員タルハ共有ヲ指

第六十條

○登記濟證ト公文書ヲ爲ス內容部分　登記官更カ不動産登記法第六十條ニ依リ登記ノ完了後登記原因ヲ證スル

○登記濟證ト公文書ヲ爲ス內容部分　書面ニ登記濟ノ旨ヲ記載シ登記所ノ印ヲ押捺シテ作成スル登記濟證明書ハ公文書ニシテ該登記原因ヲ證スル書面中

ノ記載ヲ共ノ內容トスル勿論其ノ記載ハ登記官更ニ權能ナシ（昭和三・二・一三）

第六十一條

○登記官更ニ力更正ヲ爲シ得ヘキ場合ト抹消スヘキ場合トノ差異　登記官更カ不動産登記法第六十三條及同條ノ二ノ規定ニ依リ登記ノ更正ヲ爲スヘキ場合ハ事件カ元來登記スヘキモノナリシ要シ若シ事件カ元來登記スヘキモノナリシトキハ同法第四十九條ノ二乃至五ノ規定ニ從ヒ登記ヲ抹消スヘキモノトス（大正五・六・一六）

第四九條―第六四條）　八一一

○假差押ノ登記アル所有權保存登記ノ更正利害關係人　假差押ノ登記アル不動産ノ所有權保存登記ノ更正ノ

不動産登記法　登記手續通則

○判決ノ確定證明書ノ添附ヲ申請書ニ要ス效力　登記申請書ニ添附スヘキ判決ノ確定證明書ヲ缺ク

○判決ノ確定證明書ノ添附ヲ申請書ニ要ス效力　後ハ最早職權ヲ以テ之ヲ抹消スルコトヲ得サルモノトス（昭和二・五・六）

○登記義務者ノミノ申請ニ依ル登記ト抹消　判決ニ因ル登記ヲ登記義務者ノミ出頭シテ申請シタルトキハ同法第四十九條第三號ノ場合ハ登嘱スルモノト解スルヲ相當トシ受理スヘカラサルモノナレハ一旦其ノ登記完了シタル

（二一・七・一三）

○朝鮮不動産證明令ニ依リ爲シタル登記ノ效力　朝鮮不動産登記令施行前朝鮮不動

掠シアル印影ト印鑑中ノ同人ノ印影トヲ對照シ同一ナリト認メタルトキニ非サレハ之ヲ受理スルコトヲ得ス（大正

○申請書押捺印影ト屆出印鑑トノ對照　登記官更ハ登記申請アリタル場合ニ不動產所有者ノ提出スル書面ニ押

ケレハ新ル登記ノ申請ハ同條ニ依リ却下セサルヘカラス（大正一〇・八・二六）

（第四九條）　八一〇

○本條違背ノ登記ト抹消ノ方法　不動產登記法第一號及第二號ノ場合ヲ除ク外登記官更カ一旦登

トキハ不動產登記法第四十九條第八號ニ該當シ同條第二號ニ該當セサルモノニ非スシテ同法第百四十九條ノ二ニ依リ登

○判決ノ確定證明書ノ添附ヲ申請書ニ要ス效力　登記申請書ニ添附スヘキ判決ノ確定證明書ヲ缺ク

○朝鮮不動產證明令ニ依リ爲シタル登記ノ效力　朝鮮不動產登記令施行前朝鮮不動

產證明令ニ依リ爲シタル登記ハ朝鮮不動產登記令ニ依リ爲シタル登記ト看做サルヘキコトハ同登記令第七條ノ規定スル

所ニ從ヒ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ登記ノ申請ニ關スル法律ノ規定ニ違反スル手續ニ依リ爲シタル登記ハ同登記令第八條ノ二ノ規定スル

ニ規定スル假登記ノ方法ニ依ル外之ヲ許ササルモノニシテ假令證明ニ係ル權利カ事實ニ符合セサル不適法ノモノナリ

トスルモノニ共通スル效力ニ付テハ登記官更ニ權能ナシ（昭和八・八・二五）

○登記官更ノ事權ニ關スル法律ノ規定ニ違反スル登記ノ效力　登記官更カ不動產登記法第四十九條ノ規定ニ違反シテ登記ヲ爲シタルトキハ登記ノ申請ハ同條ニ依リ却下セサルヘカラス（大正一〇・八・二六）

（第四九條）　八一〇

○朝鮮不動產證明令ニ依リ爲シタル抵觸セル登記ノ效力　朝鮮不動產登記令施行前朝鮮不動

場合ニ於テ假差押債權者ハ登記上利害關係ヲ有スル第三者ナリトス（大正五・六・一六）

第二節　所有權ニ關スル登記手續

○無效ノ登記ト之カ回復ノ爲ノ登記方法　乙カ甲名義ノ所有土地ニ付贈與證書ヲ僞造シ所有權移轉登記ヲ爲シタル場合ニ甲カ自己ノ所有權登記ヲ回復スルニハ抹消登記ノ方法ニ依ルヘク移轉登記ノ方法ニ依ルヘキモノニ非ス（大正一三・四・二二）

第七十八條

○共有物ニ對スル信託契約解除ニ因ル登記手續　共有不動產ヲ共有者ノ一人ニ信託讓渡シ其ノ所有トシテ査定確定シ所有權保存登記ヲ爲シタル場合ニ信託讓渡ヲ解除シタル爲ニ之ヲ共有者ノ共有名義トナスニハ不動產登記法第七十八條ノ所有權ノ一部移轉登記ノ手續ニ依ルコトヲ要シ更正登記ニ依ルヘキモノニアラス（大正一四・一一・一〇）

第百二條ノ三

○地形ノ變更ニ因ル所有權ノ消滅　元私人ノ所有土地カ地形ヲ變シ永續的ノ狀態ニ於テ海湖河川トナリタルトキハ之ニ因テ所有權ハ消滅ス（昭和七・五・二四）

第百五條

○判決ニ基ク所有權登記ト査定名義人ノ抹消請求　甲カ嚮ニ土地申告ヲ爲シ其後同一土地ニ付乙ト所有權ヲ爭ヒ訴訟ノ結果甲ノ所有ニアラスシテ乙ノ所有ナリトスル判決確定シ爾後更ニ甲ノ申告ニ基キ甲ヲ同土地ノ所有者ナリトスル査定又ハ裁決アリタルトキハ乙ハ甲ニ對シ確定判決ニ基キ所有權ヲ主張スルコトヲ得ルト同時ニ甲モ亦其査定

又ハ裁決ニ基キ所有權ヲ主張スルコトヲ得ヘク而シテ其ノ間優劣ヲ付スヘカラサルモノナレハ乙カ同土地ニ所有權保存登記ヲ爲スモ其ハ其所有權ニ基ク正當ノ行爲ニシテ甲ハ之カ爲其所有權ヲ侵害セラルヘキモ自己ノ權利ヲ主張シ其抹消ヲ求ムルヲ得ス（大正七・七・九）

○受贈者ノ保存登記申請　未登記ノ土地ヲ他人ニ贈與シタル者カ其所有權移轉登記ヲ爲スニ至ラスシテ死亡シタル場合ニ於テ（一）受贈者カ其所有權移轉登記ヲ受ケントスルニ當リ既ニ相續人カ相續ニ因リ其所有權ヲ承繼シタリトシ自己名義ノ所有權保存登記ヲ爲シ居ルトキハ受贈者ハ相續人ニ對シ其保存登記ノ抹消ヲ請求スヘキモノニ非スシテ却テ之ヲ尊重シ以テ直チニ所有權移轉登記手續ヲ爲スヘク請求スヘキモノトス（二）受贈者カ其所有權移轉登記ヲ受クルコトヲ要セサルモノトシ單ニ自己名義ノ所有權保存登記ヲ爲サントスルニ當リ既ニ相續人カ相續ニ因リ其所有權ヲ承繼シタリトシ自己名義ノ所有權保存登記ヲ爲シ居ルトキハ受贈者ハ相續人ニ對シ其保存登記ノ抹消ヲ請求シ其抹消セラレタル後相續人ニ對スル判決ニ因リ自己ノ所有權ヲ證シテ保存登記ヲ申請スヘキモノトス

如上二ツノ方法中其何レヲ選擇スヘキヤハ固ヨリ受贈者ノ隨意ナレトモ（一）ノ方法ハ所有權移轉ノ關係ヲ登記簿上明白ニスルコトヲ得ルノミナラス其移轉ノ事實ニ付對抗力ヲ生スルヲ以テ受贈者ハ（二）ノ方法ニ依ルヨリモ（一）ノ方法ヲ採ルヲ通例トス

如上ノ場合ニ於テ受贈者ヨリ更ニ該土地ノ所有權ヲ取得シタル者カ受贈者ニ對シ其所有權移轉登記手續ヲ訴求シタル以上ハ其訴訟ニ於テ該取得者ヨリ相續人ニ對シテ爲シタル保存登記抹消ノ請求ハ之ヲ棄却セサルヘカラス（大正一一・一一・八）

第三節　所有權以外ノ權利ニ關スル登記手續

第百十二條

○永小作權設定登記ト小作料ノ記載　小作料ハ永小作權設定ニ缺クヘカラサル要件ヲ爲スモノナルニ依リ永小作權設定登記ヲ爲スニ當リテハ申請書ニ小作料ヲ記載スルコトヲ要ス　（大正一三・四・一一）　一一　六〇

○永小作權設定登記手續ヲ命スル判決ト小作料ノ確定　登記義務者ニ對スル登記手續ヲ命スル判決ハ登記手續ヲ爲スヘキ意思表示ニ代ハルヘキ判決ナルカ故ニ永小作權設定ノ登記手續ヲ命スル判決ハ理由ニ於テ小作料ノ額ヲ確定シ是ヲ主文ニ明示スルコトヲ要ス　（大正一三・四・一一）　一一　六〇

第百十七條

○抵當債務一部消滅後ノ抵當權設定登記　抵當權設定契約後之ニ因リテ擔保セラルル債務ノ一部カ辨濟ニ因リ消滅シタルトキハ該抵當權設定登記ハ殘存債務ノミニ付之ヲ爲スヘク辨濟前ノ債務全部ニ付之ヲ爲スコトヲ得サルモノトス　（昭和六・三・六）　一八　四〇

○根抵當權ト登記ノ記載事項　根抵當權ノ登記ハ與信契約ニ終期アルトキ及ヒ與信ノ範圍ニ制限アルトキハ之ヲ揭クルコトヲ要スト雖其ノ他ハ唯債權者及債務者ヲ表示シ根抵當權ノ擔保スル最高額ヲ明ニスルヲ以テ足ル設定當時現ニ存スル債權ヲモ包含スト云フカ如キ之ヲ登記ニ記載スル必要ナシ　（昭和六・一二・一）　一八　一八三

○年賦償還期限ノ利益喪失ノ定ト登記　朝鮮殖產銀行令第二十三條ノ適用アル貸借ニ於テ年賦償還期限ノ利益喪失ノ定ノ如キ不動產登記法第百十七條ニ依リ之ヲ登記セサルモ第三者ニ對抗スルヲ得ヘキモノトス　（昭和八・一一・七）　二〇　四一〇

第百二十七條

○不動產賃貸借ト其ノ登記請求權　不動產ノ賃貸借ハ之ヲ登記スヘキ特約アルニ非サレハ賃借人ハ登記ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス　（大正一四・一二・二二）　一三　五〇八

第四節　抹消ニ關スル登記手續

○契約解除ト抹消登記ノ原因　不動產登記法ニ於ケル登記ノ抹消ハ單ニ登記原因ノ無效又ハ取消ノ場合ノミニ限ラルルコトナク土地賣買契約ノ解除ニ因リ土地所有權移轉ノ登記ヲ原狀ニ復スル場合ニ於テモ亦之ヲ許スヘキモノトス　（大正八・四・一五）　六　二二九

○抵當不動產ノ讓渡後ニ於ケル抵當權ノ消滅ニ因ル登記抹消請求權者　抵當權設定登記アル不動產カ第三者ニ讓渡サレタル後抵當權ノ消滅シタル場合ニ於テハ抵當權者ニ對スル該登記ノ抹消請求權ハ現在ノ所有者タル第三者ノミ之ヲ有シ設定者ハ之ヲ有セサルモノトス　（大正一二・九・四）　一〇　二五九

○無效ノ登記ト之カ回復ノ爲ノ登記方法　乙カ甲名義ノ所有土地ニ付贈與證書ヲ僞造シ所有權移轉登記ヲ爲シタル場合ニ甲カ自己ノ所有權登記ヲ回復スルニハ抹消登記ノ方法ニ依ルヘク移轉登記ノ方法ニ依ルヘキモノニ非ス　（大正一三・四・二二）　一一　七六

○保存登記抹消ノ原因　不動產所有權保存登記ハ其カ眞實ニ適合セス若ハ所有者ノ申請ニ依ラサル等ノ事由ニ依リ初ヨリ無效ノモノナルトキニ限リ之カ抹消ヲ申請スルコトヲ得ヘキモノトス　（大正一四・一一・一七）　一三　四一〇

○信託解除ニ關スル登記ノ方法ト保存登記ノ抹消　不動產所有權ニ關スル信託的讓渡ヲ解除シタル場合ニ於テハ其ノ權利ノ回復ニ付移轉登記ヲ爲スコトヲ得ルモ既ニ受託者ノ名義ヲ以テ爲セル當該權利取得ノ登記若ハ其ノ所

有權保存登記ヲ抹消スルコトヲ得サルモノトス（大正一四・一一・一七）

○登記原因ノ無效ト抹消登記義務者　同一不動產ニ付數次ノ所有權移轉アリテ登記名義人ニ非サル土地所有者カ其ノ登記原因ノ無效ヲ主張シ抹消ヲ請求スル場合ニ於テハ自己ノ所有權ヲ害スヘキ登記ハ現ニ其ノ效力ヲ有スルト否トニ論ナク各登記名義人ニ對シ抹消ヲ請求スルコトヲ得ヘキモノニシテ第二次以下ノ登記現存スルノ理由ヲ以テ第一次ノ抹消ハ不能ニ歸シタルモノナリト謂フヲ得ス（大正一五・一〇・二六）

○抵當權讓渡後債權ノ時效ニ因ル消滅ト抵當權抹消ノ登記義務者　債權及之ヲ擔保スル抵當權ノ讓渡アリタル後債權カ時效ニ因リ消滅シタル場合ニ之ニ因ル抵當權ノ消滅ニ付爲スヘキ抵當權設定登記ノ抹消登記ハ抵當權消滅當時ニ於ケル登記上ノ抵當權者タル讓受人ヲ登記義務者トシテ之カ申請ヲ爲スヘキモノトス（昭和四・三・五）

第百四十六條

○本條ニ所謂第三者ニ對抗シ得ヘキ裁判ノ意義　不動產登記法第百四十六條ニ所謂第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ヲ指示スルモノナリトス（大正一三・四・三〇）

第百四十九條ノ二

○登記官吏カ更正ヲ爲シ得ヘキ場合ト抹消スヘキ場合トノ差異　登記官吏カ不動產登記法第六十三條及同條ノ二ノ規定ニ依リ登記ノ更正ヲ爲スヘキ場合ハ事件カ元來登記スヘキモノニアラサリシトキハ同法第百四十九條ノ二乃至五ノ規定ニ從ヒ登記ヲ抹消スヘキモノトス（大正五・六・一六）

○登記義務者ノミノ申請ニ依ル登記ト抹消　判決ニ因ル登記ヲ登記義務者ノミ出頭シテ申請シタルトキハ同法第四十九條第三號ノ場合ニ該當スルモノト稱スルヲ相當トシ受理スヘカラサルモノナレトモ一旦其ノ登記完了シタル後ハ最早職權ヲ以テ之ヲ抹消スルコトヲ得サルモノトス（昭和二・五・六）

○判決ノ確定證明書ヲ添附セサル申請ニ基ク登記ト抹消　登記申請書ニ添附スヘキ判決ノ確定證明書ヲ缺クトキハ不動產登記法第四十九條第八號ニ該當シ同條第二號ニ該當スルモノニ非ス從テ同法第百四十九條ノ二ニ依リ登記官吏カ職權ヲ以テ抹消スヘキ場合ニ該當セス（昭和二・五・七）

第五章　抗告

第百五十條

○登記官吏ノ決定又ハ處分ニ對シ抗告ヲ爲シ得ル者　不動產登記法第百五十條ニ依リ抗告ヲ爲シ得ル者ハ登記官吏ノ當該處分ニ付キ登記上ノ利害關係ヲ有スルモノニ限ルモノトス（大正一一・一二・二一）

○抗告ノ方法ニ依リ抹消シ得ヘキ登記　不動產登記法第四十九條第一號及第二號ノ場合ヲ除クノ外ハ登記官吏カ一旦登記手續ヲ完了シタル後ハ其ノ登記ニ對スル抗告ノ方法ニ依リテ登記ノ抹消ヲ求ムルコトヲ得サルモノトス（昭和四・六・一五）

第百五十八條

○前審ニ委任スル裁判ト再抗告　登記官吏ノ決定ヲ不當ナリトスル抗告ニ付抗告裁判所カ爲シタル裁判ニ對シテハ不動產登記法第百五十八條ニ依リ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノナレトモ同條ニ所謂抗告裁判所ノ裁判トハ事件ノ本體ニ付爲シタル裁判ヲ指稱シ本件ニ付テノ處分ヲ前審ニ委任スル裁判ヲ包含セサルモノトス（大正九・一二・一七）

朝鮮不動産登記令施行規則

第四十八條ノ三

○評價費用ノ豫納ト評價請求ノ適否　課稅標準ノ評價請求書ニハ登記官吏ノ指示シタル費用ノ豫納額ニ相當スル印紙ヲ貼用スルコトヲ要スルモノニシテ現金ヲ以テ納付スヘキモノニ非スト雖申請人カ其ノ指示セラレタル費用ヲ現金ヲ以テ納付セントシタルトキハ之ヲ印紙ニ代ヘテ貼付スヘキヲ諭示シテ其ノ手續ノ完成ヲ期スヘキハ登記官吏ノ義務ニ屬ス其ノ現金ヲ受領シテ自ラ保管シナカラ印紙ノ貼用ナキヲ以テ評價請求ハ不適法ナリトシ登錄稅ノ不足ヲ理由トシテ登記ノ申請ヲ却下スルカ如キハ啻ニ其ノ措置ノ不親切ナルニ止ラス未タ評價ノ請求ノ適否ヲ判斷スル時期ニ至ラサルモノトス（昭和九・七・三）

朝鮮不動産證明令

○地番坪數ニ誤謬アル證明ノ效力　所有權取得ノ證明ヲ得タル土地及建物ニシテ其四標土地ノ種目建物ノ種類構造等實地ニ符合スルトキハ其地番坪數ニ多少ノ誤謬アリトスルモ其ノ證明ハ有效ニシテ對抗力ヲ有スルモノトス（大正四・一二・二四）

○重復保存證明又ハ登記ヲ基本トスル差押登記ノ效力　所有權保存ノ證明若クハ登記ヲ經タル不動產ニ對シ再ヒ所有權保存ノ證明若クハ登記ヲ經タル場合ニ在テハ後ノ保存ノ證明若クハ登記モ亦無效ナリトス（大正四・二・二四）

○證明抹消請求ノ對手方　證明ノ抹消ハ證明名義人ニ對シテ請求スヘキモノナリ從テ賣主ヲ對手者トシテ請求シタルハ失當トス（大正五・八・一一）

○證明ト民法施行法第三十七條ノ適用　朝鮮不動產登記令又ハ朝鮮不動產證明令ニ於テ登記又ハ證明ノ規定ヲ設ケタル權利ニ付テハ民法施行法第三十七條ノ適用上證明ハ之ヲ登記ト同一ナリト解スヘキモノトス（大正六・二・二三）

○假處分命令ニ基キ爲シタル保存證明ト抹消請求　原告ノ申請ニ因ル假處分命令ノ執行上職權ヲ以テ爲サレタル被告名義ノ所有權保存證明ト雖原告ハ其假處分命令ノ存スル間ニ於テ被告ニ對シ之カ抹消請求ノ訴ヲ提起スルヲ得ルモノトス（大正六・三・一三）

○朝鮮民事令施行前ノ所有權ノ取得ト對抗要件　朝鮮民事令施行以前ニ不動產ノ所有權ヲ取得シタルモノハ朝鮮民事令施行後一年內ニ其所有權取得ノ證明（又ハ登記）ヲ受クルニ非ラサレハ民事令施行後一年ヲ經過シタル後ニ權利ヲ取得シタル第三者ニ對抗スルコトヲ得ス（大正六・七・一九）

○證明（又ハ登記）ノ欠缺ヲ主張スル第三者　其所謂第三者トハ當事者若クハ其包括承繼人ニ非スシテ不動產ニ關スル物權ノ得喪及變更ノ證明（又ハ登記）ノ欠缺ヲ主張スルニ於テ正當ノ利益ヲ有スル者ヲ指稱ス（大正六・六・一九）

○有效ナル第三者ノ證明ト事實ニ吻合セサル保存證明　有權保存ノ證明ハ事實ニ符合セサルモ其效力ヲ保有スルニ至レルモノトス（大正六・六・一九）

巻	頁
三	三六一
二	二五二
三	三六一
四	六八四
四	一一五
四	一七一
四	五三三
四	五三三
四	五三二

○所有權保存證明ヲ受ケタル土地家屋ト所有者ノ推定　土地家屋ニ關シ所有權保存證明ヲ受ケ居ルモノハ一應其所有者タルコトノ推定ヲ受クヘキモノナレトモ之ニ反對ナル事實證據アルニ於テハ其所有者タルコトヲ否定スルモ不法ニアラス（大正六・一〇・二六）

○登記ト證明トノ差異　朝鮮不動産登記令ニ依ル登記ト朝鮮不動産證明令ニ依ル證明トハ其内容ニ於テ同一ノ點アルモ其形式ニ於テ二者全ク異ナリ同視スルヲ得サルモノトス（大正六・一二・二八）

○同　旨　朝鮮不動産登記令第七條ノ趣旨タルヤ證明令ニ依ル證明ニ付スルニ登記ノ效力ヲ以テシタルニ過キスシテ之ヲ以テ登記證明ノ二者全然同一ニ看做スノ法意ナリト解スヘキモノニ非ス（大正六・一二・二八）

○移記ニ因ル登記ト移記以前ニ於ケル證明トノ關係　朝鮮不動産登記令第八條ニ依リ證明簿上ノ或不動産ニ關スル記載事項カ登記簿上ニ移記セラレタル場合ニ於テモ其内容ニ於テ同一ノ點アリト云フニ過キスシテ移記以前ニ於ケル證明ト移記以後ニ於ケル登記トハ其形式ヲ異ニスル別個ノ事物ニシテ同一ニ論スルヲ得サルモノトス（大正六・一二・二八）

○典當證明濟ノ奥書アル契約書ト其ノ成立ニ關スル立證責任　證明官吏カ典當權設定ノ證明ヲ爲シ其設定ノ契約書ニ證明濟ノ旨ヲ記入シタルトキハ其記入ノ部分ハ官吏職務上ノ記載ニ係ルヲ以テ之ヲ公正ノ證書トシテ論スルヲ得ヘキモ此記入ノ爲メ其他ノ部分マテ公正ノ文書ニ變スルモノニ非ス從テ其契約書ノ成立ニ付爭アルトキハ之ヲ提出シテ利益ヲ主張スル者ニ於テ其眞正ニ成立シタルコトヲ擧證スルノ責アルモノトス（大正七・二・二六）

○舊土地家屋證明規則ノ證明アル典當土地ト證明令ニ所謂既證明　舊韓國土地家屋證明規則ニ依リ典當ノ證明ヲ經タルモノハ朝鮮不動産證明令第二十一條ニ所謂未證明ノ不動産ニ非スシテ既證明ノ不動産ナリトス（大正七・三・五）

巻	頁
四	（八三）
四	一三六
四	一三六
四	一三六
五	一〇三
五	一四九

○舊土地家屋證明規則ニ依ル典當證明ト所有權保存證明　舊證明規則ニ依リ既ニ典當證明ヲ經テ新證明令施行後ニ渉リテ存續スルモノニ對シ新證明令第四十條ヲ適用スルニ當リテハ舊證明規則ニ依リ爲シタル典當證明中ニハ自ラ所有權保存證明ヲモ包含スルモノト解スヘキモノトス（大正七・三・五）

○舊證明規則ニ基ク典當證明ト新證明簿ノ移記　舊證明規則ニ基キ典當證明ヲ經タル土地ニ對シ新證明令施行後更ニ證明ヲ爲スヘキ事由ノ生シタル場合ニハ新タニ保存證明ヲ爲スヘキモノニ非スシテ先ツ新證明令第四十五條ノ規則ニ從ヒ舊證明簿ヨリ新證明簿ニ移記ノ手續ヲ終了シタル後新證明事項ノ記入ヲ爲スヘキモノトス（大正七・三・五）

○重複證明ニ基ク爾後ノ移轉證明又ハ登記ノ效力　土地ニ付新ニ保存證明ヲ爲シタルトキハ其保存證明ノ無效ナルハ勿論之ニ基ク爾後ノ所有權移轉ノ證明又ハ登記モ總テ無效ナリ（大正七・三・五）

○原因ナクシテ爲シタル保存證明ト之カ抹消請求　他人所有ノ土地ニ對シ何等相當ノ原因ナクシテ保存證明ヲ爲シタル者カ更ニ之ヲ他ニ移轉シ移轉證明ヲ受ケタルカ如キ場合ニ於テハ二個ノ證明ハ何レモ無效ニシテ土地ノ所有者及移轉證明ヲ受ケタル者ニ對シ各個獨立ノ抹消請求ヲ爲スヲ得ヘク訴訟法上其請求ヲ禁スヘキ理由ナシ（大正七・四・九）

○證明手續請求ヲ登記請求ニ改メタル場合ト訴ノ目的物ノ變更　登記ト證明トハ全然別個ノ事物ナルヲ以テ證明ノ手續ノ履行ヲ求ムル訴ヲ登記手續ノ履行ヲ求ムル訴ニ改ムルハ目的物ノ變更ニ依ル訴ノ變更ナリ（大正七・五・二四）

○證明手續履行請求中登記令ノ施行ト訴ノ變更　證明手續ノ履行ヲ求ムル請求訴訟進行中朝鮮不動産登記令施

巻	頁
五	一四九
五	一四九
五	一四九
五	二五四
五	四五〇

行セラレ證明手續ノ履行不能トナリタル場合ニ於テモ證明手續ノ履行請求訴訟ヲ登記手續ノ履行請求訴訟ニ改ムルハ訴ノ變更ニアラストスヘキ理由ナシ（大正七・五・二四）

○證明義務者カ自ラ爲シタル證明ト抹消請求　所有權移轉證明手續ヲ爲スヘキ義務アル者カ既ニ其證明手續ヲ爲シタル以上ハ自ラ進ンテ權利者タル者ニ對シ其手續ニ瑕疵アルコトヲ主張シテ之カ抹消手續ヲ請求スル權利ナキモノトス（大正七・八・一六）

○中間省略ノ證明　所有者甲ヨリ乙ニ乙ヨリ丙ニ順次不動産ヲ讓渡シタル場合ニ於テ當事者ノ特約ニ依リ甲ヨリ直接丙ニ不動産ヲ讓渡シタル旨ノ所有權移轉證明ヲ爲スハ不法ニアラス（大正七・九・一〇）

○典當權ノ對抗ヲ受クヘキ査定名義人ト競落證明抹消ノ請求　土地調査令ニ基キ所有申告ヲ爲シテ査定名義人トナルモ典當權ノ對抗ヲ受クヘキモノナルトキハ其當然ノ結果トシテ典當權ノ實行ニ因リ競落人ノ取得シタル所有權ノ證明ニ對シ大正三年五月制令第十六號ニ依リ査定名義人ノ權利ニ牴觸スルモノトシテ其證明ヲ抹消セシムルノ權利ナシ（大正八・五・六）

○亡父ノ名義ヲ以テ爲シタル所有權移轉證明ノ效力ノ有無　甲カ乙ニ其所有ニ係ル不動産ヲ賣却シ其義務ノ履行トシテ甲カ其父ノ賣主名義ヲ以テ所有權移轉證明ヲ爲シタルトキハ縱令其父カ證明當時死亡シ所有權移轉證明無效ナリトスルモ證明義務者タル甲ハ同權利者タル乙ニ對シ該證明ノ無效ヲ主張シ證明抹消履行手續ノ請求ヲ爲スヲ得サルモノトス（大正八・一二・六）

卷	頁
五	四五〇
五	六九一
五	七一四
六	三三
六	六一九

布教規則

第九條

○本條ノ教會堂設立者ト其ノ財産權ノ歸屬者　大正四年八月朝鮮總督府令第八十三號布教規則第九條第十二條ノ規定ノ精神ニ照シ同規則ニ所謂教會堂ノ設立者トハ教會堂ノ主宰者即チ教會堂ヲ中心トシテ結合セル信者全員ヲ代表スル者ヲ指稱シ財産權ノ歸屬者ヲ指稱スルモノニ非サルコト明白ナリ尤モ設立者ニシテ財産權ノ主體ヲ兼ヌルコトアリト雖這ハ布教規則ノ要求スル所ニ非ス（大正一三・一一・二五）

○單純ナル教會堂設立者確認ノ訴ト司法裁判所ノ管轄　布教規則ニ所謂教會堂ノ設立者ハ宗教團體ノ一機關ニシテ單純ニ之カ有效無效ヲ爭フハ全然宗教部内ノ紛議ニ屬シ私法上ノ權利關係ノ存否ニ關スル爭ニ非サルヲ以テ司法裁判所ノ管轄ニ屬セス隨テ布教規則ニ所謂教會堂ノ設立者タルコトノ確認ヲ求ムル訴訟ハ司法裁判所ノ管轄ニ屬セサル訴訟ナルニ依リ之ヲ不適法トシテ却下セサルヘカラス（大正一三・一一・二五）

第十二條

○布教規則ニ所謂教會堂設立者ト其ノ財産權ノ歸屬者　大正四年八月朝鮮總督府令第八十三號布教規則第九條第十二條ノ規定ノ精神ニ照シ同規則ニ所謂教會堂ノ設立者トハ教會堂ノ主宰者即チ教會堂ヲ中心トシテ結合セル信者全員ヲ代表スル者ヲ指稱シ財産權ノ歸屬者ヲ指稱スルモノニ非サルコト明白ナリ尤モ設立者ニシテ財産權ノ主體ヲ兼ヌルコトアリト雖這ハ布教規則ノ要求スル所ニ非ス（大正一三・一一・二五）

卷	頁
二	二〇六
二	二〇六
二	二〇六

法例

第二條

○強行法規ニ反シ廢止セラレタル慣習ト復活　從來ノ慣習カ新ニ發布セラレタル強行法規ニ反シ廢止セラレタルトキハ縱令後日其強行法規カ廢止セラルルモ從前ノ慣習カ當然效力ヲ復活スルコトナシ（大正六・一二・一八）　四一三三

第七條

○朝鮮人及內地人間ノ取引ト朝鮮法規タル利息規例ノ適用　朝鮮人カ朝鮮ノ地ニ於テ內地人ト取引スル場合ニハ準據スヘキ法律ヲ指定シタルヤ否ヤヲ審査セスシテ朝鮮法規タル利息規例ハ朝鮮人間ノ取引ニノミ適用スヘクシテ當事者ノ一方カ內地人ナル場合ニハ適用スヘキモノニアラストシテ判決シタルハ違法ナリ（明治四四・三・二一）　一二九

○朝鮮會社令ニ依ル會社ニ係ル訴訟ニ付テノ適用法規　朝鮮會社令ニ依ル會社ニ係ル訴訟ニハ朝鮮法規ヲ適用セスシテ日本法規ヲ適用スヘキモノナリ（明治四四・五・一二）　一二六〇

○朝鮮人間ノ訴訟ニ於ケル內地人ノ從參加ニ付テノ適用法規　內地人カ朝鮮人間ノ訴訟ニ付從參加ノ申立ヲ爲ストキハ之ニ適用スヘキ法規ハ朝鮮法規ナリトス（明治四四・五・一七）　一二六六

○國籍ヲ異ニスル當事者間ノ法律行爲ノ成立及效力ニ付テノ準據法　各當事者其國籍ヲ異ニシ行爲地及受訴裁判所モ亦其據ル所ノ法規同一ナラサル場合ニ於テハ裁判所ハ先ツ當事者ハ何レノ國ノ法律ニ依ルヘキ意思ナリシヤ又ハ其意思不明ナリシヤノ點ヲ取調ヘ準據スヘキ法律ヲ定メタル後ニアラサレハ法律行爲ノ成立及效力ニ付判斷スルヲ得サルモノトス（明治四五・七・二）　一四九三

○舊韓國人カ神戶ニ於テ爲シタル法律行爲ノ成立及效力ニ付テノ準據法　舊韓國人カ當時外國タリシ神戶港ニ於テ法律行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ其法律行爲ノ成立及ヒ效力ニ付何レノ國ノ法律ニ依ルヘキコトノ當事者ノ意思分明ナラサルトキハ行爲地法タル日本法ニ依ルヘキモノナリ（大正三・七・二八）　二四五三

○訴權ノ存否ニ關スル準據法　訴權ノ消滅ハ必然其訴權ノ基ク權利ノ消滅ヲ伴フモノニ非ス而シテ訴權ノ存否ニ關シテハ實體權利ニ付テノ準據法ノ如何ハ問ハス常ニ裁判所所在地ノ法律ニ依ルヘキモノトス（大正三・七・二八）　二四五三

第十條

○國籍ヲ異ニスル當事者間ノ不動產所有權得喪ノ準據法　當事者各其國籍ヲ異ニスト雖不動產所有權ノ得喪ニ付テハ其原因事實ノ完成當時ニ於ケル目的不動產ノ所在地法ニ依ルヘキモノトス（大正元・一〇・二九）　二四三

第十二條

○朝鮮人及內地人間ニ於ケル指名債權讓渡ノ效力ニ關スル準據法　日韓併合後朝鮮ニ於テ朝鮮人ト日本內地人トノ間ニ行ハレタル指名債權讓渡ノ第三者ニ對スル效力ハ債務者ニ對シテ適用スヘキ法律ニ準據シテ之ヲ定ムヘキモノトス（明治四五・三・二八）　一四五五

保稅倉庫法

○官設保稅倉庫ニ關スル事業ト民法ノ適用　官設保稅倉庫ニ關スル事業ト雖モ藏置貨物ニ付預證券ヲ作成交付スル行爲ハ其ノ交付ヲ受ケル者トノ關係ニ於テハ私法上ノ法律行爲ニ屬スルモノニシテ民法ヲ適用スルモノトス（昭和六・三・一三）

民事訴訟費用法

第一條

○辯護士ニ支拂ヒタル報酬ト損害賠償　民事訴訟法及民事訴訟費用法ノ規定ノ範圍外ニ於テ辯護士ニ支拂ヒタル旅費及報酬金ハ不法行爲ニ基因セル損害トシテ賠償ヲ求ムルヲ得ス（昭和八・六・二七）

○代替執行ニ依ル執行保全ノタメニ要シタル費用ノ取立ト給付判決　代替執行ニ依ル執行保全ノタメニス ル假處分ノ執行ニ要シタル費用ハ之ヲ取立ツルカタメ別個ニ給付判決ヲ求ムルヲ得サルモノトス（昭八・六・二七）

○訴訟代理人ノ要シタル旅費止宿料ト訴訟費用　當事者カ自己ノ住所以外ニ住所又ハ事務所ヲ有スル辯護士ヲ訴訟代理人トシテ選定シタル場合ニ於テ該代理人カ當事者本人ニ代リテ出頭シタル爲ニ要シタル旅費止宿料カ本人自ラ出頭スルモノトセハ支出スヘキ旅費止宿料ニ超過スルトキハ其ノ超過部分ハ特別ノ事情ナキ限リ權利ノ伸長又ハ防禦ニ必要ナル行爲ニ因リ生シタルモノト謂フヲ得サルモノトス（昭和一一・四・七）

卷　頁
一八　五三
二〇　二七六
二〇　二七六

民事訴訟用印紙法

○墳墓掘移請求訴訟ト訴訟價額算定　所有地内ニ侵入シ埋葬シタル墳墓ノ掘移ヲ請求スル事件ハ所有權ノ侵害排除ヲ要求スル程度ニ於テ訴訟物ノ價額ヲ算定シ之ニ依リテ裁判所ノ管轄ヲ定ムヘキモノトス（明治四三・一〇・一五）

○印紙不貼用ノ檢證申請書ニ基ク檢證ノ效力　相當印紙ノ貼用ナキ檢證申請書ハ無效ナルモ檢證處分ヲ無效ナラシムルコトナシ（大正元・一一・二二）

朝鮮民事訴訟用印紙令

○墳墓掘移請求訴訟ノ訴訟價額算定　所有地内ニ侵入シ埋葬シタル墳墓ノ掘移ヲ請求スル事件ハ所有權ノ侵害

民事訴訟用印紙法　一三三
朝鮮民事訴訟用印紙令　三七一

排除ヲ要求スル程度ニ於テ訴訟物ノ價額ヲ算定シ之ニ依リテ裁判所ノ管轄ヲ定ムヘキモノトス（明治四三・一〇・一五）

○印紙不貼用ノ檢證申請書ニ基ク檢證ノ效力　相當印紙ノ貼用ナキ檢證申請書ハ無效ナルモ檢證處分ヲ無效ナラシムルコトナシ（大正元・一一・二二）

民事訴訟期限規則

○所有物返還請求訴訟ト出訴期限　所有權ヲ主張シテ物ノ返還ヲ請求スル訴ナルトキハ民事訴訟期限規則中ニ出訴期限ノ規定ナシ（明治四四・一二・一七）

○不當利益返還請求ト出訴期限ノ起算點　不當利得返還請求ノ債權ヲ主張スルトキハ出訴スルコトヲ得ス而シテ其期限ハ同規則第五條ニ依リ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ヘキ時ヨリ起算シ其訴訟ヲ提起スルコトヲ得ヘキ時トハ不當利得返還請求ノ債權ニ付テ謂ハハ不當ニ利得シタル行爲アリタル時ヲ指稱シ請求權者ニ於テ其行爲アリタルコトヲ知ラサルトキト雖其期限ノ起算ヲ妨ケス（明治四四・一一・一七）

○無期限ノ預金ト出訴期限ノ起算點　期限ノ定ナキ預金債權ニ於ケル出訴期限ハ訴訟ヲ提起スルヲ得ヘキ時即チ預金ヲ爲シタル時ヨリ起算スヘキモノトス（明治四四・一二・一二）

○出訴期限經過ト訴ノ受理　朝鮮總督府裁判所ハ舊韓國民事訴訟期限規則施行中ニ出訴期限ノ經過ニ因リ訴權ノ消滅シタル債權ニ付テノ訴ヲ受理スルヲ得ス（大正三・七・二八）

○出訴期限ト債務ノ承認　出訴期限ハ其性質上債務ノ承認ニ因リテ中斷スルコトナシ（大正三・七・二八）

○訴權ノ消滅ト實體權ノ消滅　訴權ノ消滅ハ必然其ノ訴權ノ基ク權利ノ消滅ヲ伴フモノニ非ス（大正三・七・二八）

○確定判決ト出訴期限　出訴期限內ニ訴ヲ提起シタルトキ該訴カ形式上ノ缺點ニ因リ却下セラレタルカ又ハ取下ニ因リ訴トシテ未タ效果ヲ生セサリシ場合ヲ除クノ外是ニ因リテ判決ヲ受ケ確定シタル以上ハ再ヒ出訴期限ノ規定ヲ適用セラルルコトナキモノトス（大正四・二・五）

○出訴期限ヲ經過セサル債權ト民法施行後ニ於ケル時效期間ノ計算　民法施行ノ日迄ニ舊民事訴訟期限規則第三條所定ノ十年ヲ經過セサル債權ハ民法施行法第三十條ニ依リ民法第百六十七條第一項所定ノ十年ヲ經過シタルトキ時效ニ因リテ消滅スヘク此期間ヲ計算スルニハ民法施行前ニ經過シタル年月日數ニ施行後經過シタル年月日數ヲ通算スヘキモノトス（大正五・一二・二六）

○債務ノ承認ト出訴期限ノ中斷　民事訴訟期限規則ハ訴權ノ消滅ニ關スル規定ナルヲ以テ其性質上債務ノ承認ニ因リ出訴期限ヲ中斷スルヲ得ス（大正六・六・一五）

○民法施行法ノ施行ト出訴期限經過ニ因ル實體權ノ消滅　朝鮮民事令施行前ニ在リテハ出訴期限ヲ經過シタル債權ハ單ニ訴權ノ喪失ニ止マリ實體上ノ權利ハ依然トシテ存立ヲ認メラレタルモノナルニ民法施行法第二十九條規定ノ結果トシテ朝鮮民事令施行以後ニ於テハ訴權ノ喪失ト共ニ實體法上ノ權利ノ消滅ヲ來スモノトス（大正六・一一・二〇）

○出訴期限經過ノ債權ト民法施行以後ニ於ケル時效ノ援用　朝鮮民事令施行以後ニ於テ出訴シタル債權者ノ

參	頁
一	一三三
二	七二
一	三九八
一	三九八
一	四一三
二	四五三
三	四五三
三	三〇
三	三〇三
四	五二七
四	一〇〇

債權カ同令施行以前ニ出訴期限ヲ經過シタルモノナルトキハ中斷ニ關スル規定ノ適用ナキハ勿論債務者ノ援用ヲ待タス裁判所ハ職權ヲ以テ直チニ其訴ヲ却下スヘキモノトス（大正六・一一・二〇）

民刑訴訟規則

○第百六條ニ依ル異議ト普通民事訴訟ノ提起　民刑訴訟規則第百六條ニ依リ異議ノ申立ヲ爲シタルニ拘ハラス更ニ普通ノ訴訟手續ヲ以テ實體法上ノ權利ニ基ク訴訟ヲ提起スルコトヲ得（隆熙三「明治四二」年七月六日）　一　二四

○判決ノ言渡ト前審干與　判決ノ宣告ハ作成シタル判決ヲ公表スル方式ニ外ナラサレハ前審干與判事ト雖立會宣告スルヲ妨ケス（隆熙三「明治四二」八・三一）　一　二四

○第三十三條ノ適用範圍　民刑訴訟規則第三十三條ハ取消スヘキ判決カ本案ニ關スルモノナルト將タ形式ニ關スルモノナルトヲ問ハス均シク適用セラルルモノトス（明治四三・一二・二三）　一　二八

○第七十七條ノ利害關係人　一般債權者ト雖債務者ノ他ノ財產ニテハ十分ナル辨濟ヲ受クルコトヲ得ス現ニ繫屬セル訴訟ノ結果ニ依リテ辨濟ヲ受クヘキ利益ヲ有スルトキハ民刑訴訟規則第七十七條ニ所謂訴訟ノ結果ニ付法律上利害關係ヲ有スル第三者ニ該當ス（明治四四・五・一七）　一　一六二

○強制執行ノ目的物ニ付權利ヲ主張スル第三者ト第六條ノ異議　民刑訴訟規則第百六條ハ第三者カ强制執行ノ目的物ニ付權利ヲ主張シテ强制執行ニ對シ異議ヲ主張スル場合ヲ包含セス從テ斯ノ如キ第三者ノ異議ハ訴ヲ以テ主張スヘキモノトス（明治四五・二・二八）　一　二六六

民籍法

○妾ノ姓　朝鮮ニ於テ妾ハ常ニ自家ノ姓ヲ冠稱シ其ノ夫ノ姓ヲ冠稱スルノ理由ト爲ラス（明治四五・二・一二）　一　四三四

○民籍簿ト證據力　民籍簿ハ民籍法ノ規定ニ基キ作成セラルル公文書ナルヲ以テ其記載事項ハ一應事實ニ適合スルモノト認ムヘク他ニ反證アルニ非サレハ其記載事項ヲ以テ直ニ虛僞ナリト斷スルヲ得ス（大正六・一二・二六）　四二七〇

○民籍簿ノ適法ナル記載事項ニ屬セサル事項ノ證明力　民籍簿ハ民籍法ノ規定ニ基キ作成セラルル公文書ナルヲ以テ其記載事項ハ一應事實ニ適合スルモノト認ムヘク他ニ反證アルニ非サレハ其記載事項ヲ以テ虛僞ナリト斷スルヲ得サルモノナリト雖斯ハ民籍ノ取扱上適法ニ民籍簿ニ記載スヘキ事項ノ記載タル場合ニ限ルヘク僧尼ノ師弟關係ノ如キハ其取扱上適法ニ記載スヘキ事項ニ非サレハ斯ル記載ニ付テハ裁判所ハ自由ニ其判斷ヲ爲シ得ヘシ（大正七・二・五）　五　六八

○民籍簿ノ性質及登錄事項ノ公信力　民籍法規ハ行政取締法規タルト同時ニ家及身分ノ發生變更消滅ノ公示竝證明ニ關スル法規ナルヲ以テ此等ノ事項ヲ民籍法所定ノ民籍簿ニ登錄スルトキハ該事項ハ一應事實ニ適合スルモノノ推定ヲ受クヘキモノトス（大正八・四・一五）　六　一九七

○民籍簿ト信憑力　民籍簿ハ民籍上ノ身分ニ關スル公正證書ナリト雖絕對的信憑力ヲ有スルモノニ非スシテ反證ノ存スルニ於テハ裁判所ハ之ト異リタル事實ノ認定ヲ爲スヲ妨クルモノニ非ス（大正九・六・二五）　七　二九四

○民籍簿ノ虛僞ノ記載ト抹消方法　虛僞ノ申立ヲ爲シ民籍簿ニ事實ニ適合セサル記載ヲ爲サシメタル場合ニハ之

カ爲メ權利ヲ侵害セラレタル者ハ其申告者ニ對シ事實ニ適合セサル民籍簿ノ記載ノ抹消申告ヲ爲サシムルノ權利アリ（大正八・四・一五）

○夫妾關係解消ノ申告手續　夫妾關係ノ解消ヲ申告スルニ當リテハ夫ノ家ノ戸主ヨリ其申告ヲ爲スヲ以テ足リ妾ノ實家ノ戸主又ハ妾ノ連署ヲ必要トスルモノニ非ス（大正一〇・九・二〇）

○夫妾關係ノ解消ト妾ノ實家復歸　夫妾關係解消ノ意思表示ニ因リ妾ハ妾タル身分ヲ喪失シ當然實家ニ復歸スヘキモノトス（大正一〇・九・二〇）

○重婚罪ヲ原因トスル民籍抹消ノ請求ト附帶私訴　重婚罪ヲ原因トシテ民籍ノ抹消ヲ求ムル訴ハ其ノ前提トシテ重婚ノ事實アリヤ否ヤ即人ノ身分關係ノ確定ヲ要スヘキモノナルニ依リ斯ノ如キ人事ニ關スル訴ハ私訴ノ目的タル損害賠償又ハ贓物返還ノ何レニモ該當セサルモノトス從テ公訴附帶ノ私訴トシテ許容スヘキモノニ非ス（大正一二・六・一八）

面制

○面ノ消費貸借ト代表者　面ノ出納ニ關シ現實ニ金錢ノ支拂ヲ爲シ又ハ收入ヲ受領スル權限ハ會計員ニ屬シ面長ニ屬セス故ニ面カ第三者ヨリ金員ヲ借入レントスル場合ニハ面ノ代表者ハ面長ナルモ會計員ニ於テ借入金ヲ受領スルニ非サレハ消費貸借ノ效力ヲ生セス（昭和四・三・八）

卷	頁
六	一九七
八	二八〇
八	二八〇
一〇	七九
一六	四四

○時效ノ利益拋棄ト面ノ新ナル義務負擔　時效ニ因リ消滅シタル債務ノ承認ヲ爲シ時效ノ利益ヲ拋棄スル場合ノ如キハ面制第四條ノ二及面制施行規則第四十八條ニ所謂新ナル義務ノ負擔又ハ權利ノ拋棄ニ該當スルモノニ非ス（昭和四・四・一九）

面制施行規則

○時效ノ利益拋棄ト面ノ新ナル義務負擔　時效ニ因リ消滅シタル債務ノ承認ヲ爲シ時效ノ利益ヲ拋棄スル場合ノ如キハ面制第四條ノ二及面制施行規則第四十八條ニ所謂新ナル義務ノ負擔又ハ權利ノ拋棄ニ該當スルモノニ非ス（昭和四・四・一九）

大正元年咸鏡南道令第二號（面及洞里有財產管理規定）

○府尹郡守ノ認可ナキ面及洞里有財產處分ノ效力　大正元年十一月二十五日施行朝鮮總督府咸鏡南道令第二號面及洞里有財產管理規定第二條第一項面及洞里有財產ノ處分ヲ爲サムトスルトキ又ハ負擔附贈與ヲ受ケムトスルトキ

面制施行規則
面及洞里有財產管理規定

卷	頁
一六	九一
一六	九一

ハ府尹ハ郡守ノ認可ヲ受クヘシトノ規定ハ面及洞里有財産ノ處分ヲ爲サムトスルニハ府尹又ハ郡守ノ認可ヲ受クルコトヲ要シ其認可ヲ受クルコトナクシテ爲シタル處分ハ之ヲ無效トスル法意ナリトス（大正六・一二・二七）

郵便法

○郵便物ノ到達ト立證責任　郵便物ヲ名宛人カ受領シタリトノ事ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外其之ヲ主張スルニ於テ利益ヲ有スル者ヨリ擧證スヘキ責任アルモノトス（大正四・九・二八）

○內容證明郵便ト證明力　郵便物ノ內容證明ハ其內容トスル文書カ書留ヲ以テ發送人ヨリ名宛人ニ發送セラレタルコトヲ證明スルモノナレトモ其內容トスル文書ノ記載カ果シテ眞實ノ事實ニ符合スルヤ否ヤニ付テハ公正ノ證明力ヲ有スルモノニアラス（大正七・四・二三）

朝鮮總督府郵便所長服務規程

○郵便所長ノ被傭者ノ行爲ニ因ル損害賠償責任　大正二年三月朝鮮總督府訓令第八號朝鮮總督府郵便所長服務規程第二條第二項カ郵便所長ノ第三者ノ行爲ニ因ル民事上ノ損害賠償責任ヲ規定セルモノナリトセハ訓令ヲ以テハ斯ル事項ヲ定メ得ヘキモノニ非サレハ同服務規程ハ法律トシテ一般適用ノ效ナカルヘシト雖モ當事者カ同服務規程ヲ援用シ其契約ノ內容ト爲スハ何等妨ナシ尙該條項ハ郵便所所屬ノ雇員又ハ傭人カ其職務ノ執行ニ關シ其行爲ニ因リ政府ノ損害ヲ惹起シタルトキハ其行爲カ不可抗力ニ基因スル場合ノ外總テ郵便所長ニ於テ其損害ヲ賠償スヘキ義務アリトスル趣旨ナリ從テ雇員又ハ傭人ノ行爲カ犯罪行爲ナルトキト雖モ其行爲カ其職務ノ執行ニ關連シ之ニ因リテ政府ニ損害ヲ生セシメタル以上ハ郵便所長ニ於テ其損害ヲ賠償セサルヘカラサル規定ナリ（大正九・三・二）

巻 頁
四 二九三
三 二七八
五 三二一
七 六二
二 一五六
二 一五六

朝鮮林野調査令

○林野調査中ノ林野賣買ト登記義務　林野調査令ニ依リ調査中ニ係ル林野ノ賣買ニ付テモ普通ノ不動產賣買ニ於ケルト同樣特約ナキモ賣買契約上當然ノ義務トシテ賣主ハ所有權移轉登記義務ヲ負擔スルモノトス（大正一三・八・五）

○林野調査中ノ所有權異動ノ調査整理ト査定ノ效力　林野調査中ノ所有權異動ハ當該官廳ニ於テ朝鮮林野調査令施行規則第八條ニ依リ之ヲ調査整理スルモ査定ノ效力ヲ生スルモノニ非ス（大正一三・八・五）

○林野調査委員會ニ於ケル共有ノ裁決ト信託契約ノ解除　林野ノ共有者カ其ノ林野ヲ共有者ノ一人ニ信託シ對外關係ニ於テ其ノ者ノ單獨所有ト爲シタル後其ノ者ノ名義ヲ以テ林野調査令ニ依リ所有申告ヲ爲シタルモ爾後林野

調査委員會ニ於テ其ノ林野カ信託者及受託者ノ共有ト裁決セラレタルトキハ如上信託契約ハ右所有申告ヲ爲シタル日ニ於テ當然解消シタルモノト看做スヘキモノトス（大正一四・三・一〇）

○林野調査令ニ依ル査定ト信託　信託ノ結果信託財産タル林野カ公簿上受託者ノ所有名義トナリタル後其ノ委託カ解除セラレ更ニ他人ニ之ヲ信託シテ林野調査令ニ依ル所有權申告ヲ爲シ其ノ所有名義ヲ以テ査定確定セシトキハ從前ノ受託者ハ假令尚公簿上所有名義人ナリトスルモ第三者ニ對スル關係ニ於テハ所有者ニ非サルコトニ歸スルモノトス（大正一四・一〇・一三）

○林野調査令ニ依ル異動申告ノ效力　朝鮮林野調査令ニ依ル林野所有者ノ申告後ニ爲ス所有者ノ異動申告ハ査定ノ基礎ト爲ルモノニ非サルカ故ニ其ノ査定ニ於テ新所有者ノ權利ヲ確定スルコトナキハ勿論又右ノ異動申告ハ權利ノ得喪ヲ公示スル趣旨ノモノニ非サルカ故ニ不動產登記法ノ定ムル登記ト同一ノ效力ヲ有スルコトナキモノトス（大正一五・五・二八）

○合有者ノ一人ノ氏名及宗中財產タルコトヲ竝記シ爲シタル査定ノ效力ト橫領罪　林野調査令ニ依リ當該官廳カ林野ノ所有者及其ノ疆界ヲ査定スルニ當リ合有者ノ一人ノ氏名及宗中財產タルコトヲ竝記シテ査定シタルトキハ其ノ合有者ノ一人ハ他ノ者トノ信託契約ニ因リ外部關係ニ於ケル完全ナル所有權ヲ取得シタルモノトシ其ノ者ノ所有トシテ査定シタルモノニシテ宗中財產タルコトノ記載ハ單ニ合有者ノ一人タル査定名義人ト他ノ全員トノ內部關係ニ於テ合有タルコトヲ表明シタルニ過キサルモノト解スヘキモノトス從テ査定名義人カ宗中ノ同意ヲ得ルコトナクシテ之ヲ自己ノ爲ニ處分スル意思ヲ表示シタルトキハ橫領罪ヲ構成スルモノトス（昭和二・一二・一二）

卷	頁
一三	四七
一三	三六八
一三	一四六
別一四	四三

朝鮮林野調査令施行規則

第七條

○林野調査令ニ依ル異動申告ノ效力　朝鮮林野調査令ニ依ル林野所有者ノ申告後ニ爲ス所有者ノ異動申告ハ査定ノ基礎ト爲ルモノニ非サルカ故ニ其ノ査定ニ於テ新所有者ノ權利ヲ確定スルコトナキハ勿論又右ノ異動申告ハ權利ノ得喪ヲ公示スル趣旨ノモノニ非サルカ故ニ不動產登記法ノ定ムル登記ト同一ノ效力ヲ有スルコトナキモノトス（大正一五・五・二八）

第八條

○林野調査中ノ所有權異動ノ調査整理ト査定ノ效力　林野調査中ノ所有權異動ハ當該官廳ニ於テ朝鮮林野調査令施行規則第八條ニ依リ之ヲ調査整理スルモ査定ノ效力ヲ生スルモノニ非ス（大正一三・八・五）

卷	頁
一三	一四六
一二	一五六
三	八三〇

利息制限令

第一條

○利息月三分ノ約定ニ基キ年五分ノ利息ヲ認容シタル判決ノ適否　月三分ノ利子ヲ附加シテ辨濟スヘキコトヲ約諾セル事實ニ基キ年五分ノ利息ノ請求ヲ認容スルハ其範圍內ナルヲ以テ相當ナリトス（大正五・一一・一七）

○元本ノ一部ト制限利率　利息制限令ニ依リ利率ヲ定ムヘキ元金ハ當初ノ契約ノ元金額ナリトス而シテ內入辨濟

アリ其元金額減少スルコトアルモ當初ノ契約依然トシテ存續スル限リハ利率ノ標準ニ變更ヲ來タスコトナシ（大正五・一二・二八）

○辨濟ノ提供ト制限利率　辨濟提供ノ場合ニ於テモ約定利率ニ依ル利息ノ提供ヲ爲スヲ要セス法定ノ制限ニ相當スル利息ヲ提供スレハ足ルモノニシテ如上ノ提供ハ債務ノ本旨ニ從ヒ現實ニ之ヲ爲シタルモノトシテ有效ナリ（大正六・三・三〇）

○民事令施行迄ニ元本額ニ達セサル利息ト施行後ニ於ケル制限ノ有無　朝鮮民事令施行ノ日迄ニ利息總額カ未タ元本額ニ達セサル場合ニ於テハ其元金ニ對シ同令施行後利息制限令ニ依ル利率ノ制限內ニ於テ利息ヲ生スヘク敢テ元本同額ニ制限セラルルモノニアラス（大正七・四・三〇）

聯○金錢以外ノ支拂債務ト利息制限令　利息制限令ハ金錢ノ外ニ米穀ノ消費貸借及米穀ノ支拂ヲ目的トスル債務ノ損害賠償額ノ豫定ニ付テ亦其ノ適用アルモノトス（大正一五・七・六）

○反對　利息制限令ニ於ケル利息ハ金錢ナルコトヲ要ス元本使用ノ對價トシテ金錢以外ノモノヲ給付スル場合ニハ同令ノ適用ナシ（大正六・四・二四）

○利息制限令ハ金錢貸借ニ關スル契約上ノ利息ニ限定セラレ其他ノ債務ニ關スル利息ニ付テハ之ヲ制限セラレタルモノニアラス（大正六・六・五）

○利息ト元本ノ同一性　利息ハ元本ト同一種類ノ物タルコトヲ必要トセス（大正一五・九・一〇）

○金錢貸借ニ關スル利息粗ト利息制限令　金錢貸借ニ關スル利息制限令ノ適用アルモノトス（大正一五・九・一〇）

○金錢貸借ニ關スル利息粗ノ利率算定方法　金錢貸借ニ關スル利息粗ノ利率ハ貸借當時ニ於ケル粗ノ價格ト元本タル金錢トノ比例ニ依リテ定ムヘキモノトス（大正一五・九・一〇）

○利息制限令ノ施行前後ニ亘ル約定利息ト利息制限令ノ適用　舊利息規例ノ施行中成立シタル金錢貸借ニ關スル契約上ノ利息ニシテ利息制限令施行後ニ渉リ之カ請求ヲ爲ス場合ニ在リテハ同令施行前ノ分ニ付テハ舊利息規例ノ制限利率ニ從ヒ同令施行後ノ分ニ付テハ同令第一條ニ定ムル制限利率ニ從ハサルヘカラス然レトモ當事者間既ニ任意上授受ヲ了シタル分ニ付テハ同令施行ノ前後ヲ問ハス之ヲ制限內ニ引直シテ計算スヘキモノニアラス（大正七・四・三〇）

○舊利息規例ノミニ依リ利息ヲ定ムヘキ場合　舊利息規例第三條ノ規定ヲ適用スヘキ債權ニ付朝鮮民事令施行前ニ於テ既ニ其ノ利息ノ總額カ元本額ニ達シタルトキハ爾後其ノ債權ニ付テハ絕對ニ利息ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス（大正七・七・九）

第二條

○制限利率超過ノ利息契約ノ效力　約定利率ニシテ法定ノ制限ヲ超過シタル部分ハ當然無效ナルヲ以テ金錢貸借契約ノ當事者間ニ利息制限令ノ制限利率ニ超過シタル利息ヲ辨濟スルノ義務アルニ止マリ制限ニ超過シタル利息ノ部分ヲ辨濟スルノ義務ナシ（大正六・三・三〇）

○利息制限令ノ施行前後ニ亘ル約定利息ト利息制限令ノ適用　舊利息規例ノ施行中成立シタル金錢貸借ニ關スル契約上ノ利息ニシテ利息制限令施行後ニ渉リ之カ請求ヲ爲ス場合ニ在リテハ同令施行前ノ分ニ付テハ舊利息規例ノ制限利率ニ從ヒ同令施行後ノ分ニ付テハ同令第一條ニ定ムル制限利率ニ從ハサルヘカラス然レトモ當事者間既ニ任意上授受ヲ了シタル分ニ付テハ同令施行ノ前後ヲ問ハス之ヲ制限內ニ引直シテ計算スヘキモノニ非ス（大正七・四・三〇）

卷	頁
三	一〇四五
四	二三九
五	三三四
一三	一六九
四	三三四
四	四七四
一三	二五九
一三	二五九
一三	二五九
五	三三四
五	六一七
四	二三九
五	三三四

○制限外利息ト法律上ノ充當　利息制限令所定ノ制限利率ヲ超過スル部分ノ利息ニ關スル契約ハ無效ナルカ故ニ法律上ノ充當ノ場合ニ於テハ其ノ利息額ハ制限利率ニ依リテ之ヲ算定スヘキモノトス（大正一四・八・七）　一三　二八三

○制限利率ヲ超ユル利息ト相殺　債務額カ法定ノ制限利率ヲ超脫シテ計算セラレタルモノナリトスルモ債務者ニ於テ之ヲ承認シ辨濟スルニ代ヘテ任意自己ノ有スル債權ト相殺ヲ爲シタルトキハ債權ハ其ノ對當額ニ於テ消滅ニ歸スルモノナルヲ以テ其ノ後ニ至リ制限利率ニ引直シ辨濟ニ付法定ノ充當方法ニ依ルコトヲ得サルモノトス（昭和二・一〇・一一）　一四　三四九

○制限超過利息ニ關スル消費貸借契約ハ無效　利息制限令所定ノ制限利率ヲ超過スル部分ノ利息ニ關スル契約ハ無效ナルカ故ニ當事者既ニ任意授受ヲ了シタルモノハ格別未タ授受ヲ了セサルモノニ付テハ利息制限令ノ規定ニ從ヒ更ニ計算ヲ爲シ元利金ノ辨濟ヲ爲ササルヘカラサルモノニシテ縱令當事者カ利息制限令ノ規定ニ超過セル利息ヲ授受スヘキコトヲ約定スルモ有效ナル債務關係ヲ發生セシムルコトヲ得サルニ依リ其ノ債務關係ヲ目的ト爲シタル消費貸借ハ無效ナリ（昭和二・九・六）　一四　二九五

○同　旨　利息制限令ニ定ムル制限ニ超過スル利息額ヲ消費貸借ノ目的ト爲ス同意ヲ爲スモ有效ニ消費貸借ノ成立スルコトナキモノトス（昭和五・一一・一一）　一七　二三八

○利息制限令超過利息ノ支拂ト民法第七百八條　利息制限令所定限度ヲ超ユル利息ノ支拂ハ其ノ給付自體公序良俗ニ反スルモノニシテ民法第七百八條ニ所謂不法原因ノ爲ノ給付ニ該當ス而シテ其ノ不法ハ債權者及債務者ノ雙方ニ付存スルモノトス（昭和一〇・三・五）　三三　六五

○利息制限令所定限度以上ノ利息辨濟ノ推定　金錢貸借ニ關スル契約上ノ利息ニシテ利息制限令所定限度ヲ超ユル部分ハ當然無效ナルヲ以テ別段ノ證據ナキ限リ其ノ支拂ヲ認定スヘキモノニ非ス（昭和一〇・一〇・二九）　三三　五八

利息制限法

○朝鮮ト利息制限法ノ施行　利息制限法ハ朝鮮ニハ施行セラルルコトナシ（明治四四・四・二九）　一二　二五五

利息規例

○利息ノ元本組入ノ效力　朝鮮人間ニ在リテ利息ハ元本ニ換作スルヲ得ス從テ新規證文ニ書改ムルモ其利息ノ分ハ無效ナリ（明治四三・五・二三）　一　九一

○手形條令ニ因ル手形債務ノ利率　手形條令ニ依リテ發行シタル手形債務ニ付テハ其利率ハ利息規例ノ法定利率ニ依ルヘキヲ至當トス（明治四四・一・二七）　一　一七九

○利息規例第三條ノ利息ノ總額ト既濟利息　利息規例第三條ニ利息ノ總額ハ元本額ヲ過クルヲ得ストアルハ既ニ支拂ヒタル分ヲモ合算スルノ意義ナリトス（明治四四・六・二〇）　一　三一〇

○任意ニ支拂ヒタル重利ノ返還請求權　重利ハ利息規例ノ禁スル所ナレハ其契約ハ無效ナルモ任意ニ支拂ヒタルトキハ其返還ヲ請求スルヲ得ス（明治四五・四・二四）　一　四六七

○利息規例ト利息制限令及朝鮮民事令トノ關係　利息規例中契約上ノ利息制限ニ關スル部分ハ利息制限令ニ依リ其ノ他部分ハ朝鮮民事令ニ依リ各其施行ト同時ニ廢止セラレタリト解釋スヘキモノトス（明治四五・六・一八）　一　四八三

○同　旨　舊利息規例中契約上ノ利息制限ニ關スル規定ノ部分ハ明治四十五年制令第七號朝鮮民事令ニ依リ廢止セラレタリト解スヘキモノトス（大正七・四・三〇）

セラレ其他ノ規定ノ部分ハ明治四十五年制令第七號朝鮮民事令ニ依リ廢止セラレタリト解スヘキモノトス（大正七・四・三〇）

○同　旨　舊利息規例第三條ノ利息總額ハ元本額ニ過クルコトヲ得ス」ノ規定ハ朝鮮民事令ニ依リ廢止セラルル迄ハ利息制限令ノ施行後ト雖仍ホ其效力ヲ有シタルモノトス（大正七・四・三〇）

○本規例ノミヲ適用スヘキ場合　舊利息規例第三條ノ規定ヲ適用スヘキ債權ニ付朝鮮民事令施行前ニ於テ既ニ其利息ノ總額カ元本額ニ達シタルトキハ爾後其債權ニ付テハ絕對ニ利息ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス（大正七・七・九）

○本規例第四條廢止ノ時期　舊利息規例第四條ノ利息ハ元本ニ換作スルヲ得ス」ノ規定ハ朝鮮民事令ニ依リ廢止セラレタルモノトス（大正七・七・五）

臨時帝室有及國有財産調査局官制

○舊韓國臨時帝室有及國有財産調査局ノ爲シタル決定處分ノ效力　舊韓國臨時帝室有及國有財産調査局官

卷	頁
五	三二四
五	三二四
五	三二四
五	六一七
五	五六五

制ノ規定ニ基ク委員會ハ帝室有及國有財産ヲ調査判定シ之カ整理ヲ爲スニ當リ其整理ニ關シ一個人ノ財産ニ關係アルトキハ之ヲ調査シ其處分ヲ爲ス職權ヲモ有スルヲ以テ同委員會カ一個人ノ所有ニ屬セシモノヲ帝室有又ハ國有財産ナリト決定セシトキハ其結果一個人ノ權利ヲ侵害スヘシト雖法規ニ基ク適法ノ處分ナレハ其處分ハ有效ナリ（大正四・二・二三）

○舊韓國臨時帝室有及國有財産調査局下給處分土地ニ對スル所有權ノ爭ト司法裁判所ノ管轄　舊韓國臨時帝室有及國有財産調査局カ或土地ニ對シ帝室有、國有ニ非ス民有ナリト決定シテ下給處分ヲ爲シタル場合ニ個人相互ノ間ニ於テ其土地ノ所有權ヲ爭ヒ司法裁判所ニ出訴シタルトキハ裁判所ハ下給處分ノ如何ニ拘ラス所有權ノ所在ヲ認定スルコトヲ得（大正四・二・二）

臨時財産整理局官制

○臨時財産整理局ノ還給處分ト裁判所ノ認定權　臨時財産整理局ノ處分ハ單ニ國有財産ナリヤ否ヤヲ確定スル效力アルニ過キサレハ或不動産ヲ民有トシテ還給處分ヲ爲スコトアルモ其國有ニアラサルコト確定スルニ止リ人民相互間ノ權利ヲ確定スル效力ナキハ勿論還給處分ハ國有財産ヲ人民ニ付與スルモノニアラサレハ還給處分ヲ受ケタレハトテ當然其所有者トナルモノニアラス從テ眞ノ所有者ハ還給處分ヲ受ケタル者ニ對シ其所有權ヲ主張スルコトヲ得ヘク裁判所モ亦還給處分ノ如何ニ拘ラス所有權ノ所在ヲ認定スルコトヲ得ルモノトス（大正八・四・一五）

臨時財産整理局官制

三	三五三
三	三一五
六	二四四

刑事判例

刑事判例

刑法

第一編 總則

第一章 法例

○保安規則ト刑法總則 刑法ノ總則ハ保安規則ニ付テモ適用セラルルモノトス（大正三・一一・五）

第二條

○國外犯未遂罪ノ處罰ト其教唆從犯ノ處分 朝鮮刑事令ニ依ル刑法第二條乃至第四條列記ノ國外犯ハ其正犯ノ既遂タル場合ハ勿論未遂罪ニ對シ刑法ヲ適用スヘキ場合ニハ其未遂タルトキニ於テモ其教唆者又ハ從犯ニ對シテ同刑法ヲ適用處斷スルコトヲ得ルモノトス（大正七・三・二三）

○國外犯ニ對スル裁判權ノ有無 朝鮮刑事令ニ依ル刑法中第二條乃至第四條ノ如キ國外犯ニ對シテハ朝鮮總督府裁判所ハ同刑法ヲ適用シ處罰スルコトヲ得ヘキモノトス（大正七・三・二三）

○刑法ノ適用ト支那 支那ハ現時我帝國ニ於テ領事裁判權ヲ有スル國ナリト雖朝鮮刑事令ニ依ル刑法ノ適用上ハ外國ニ外ナラスシテ之ヲ內地ト同視スルヲ得ス（大正七・三・二三）

卷	頁
二	三三三
五	七九
五	七九
五	七九

○領事裁判區域ノ性質及領事裁判權ニ基ク前科ト累犯加重ノ原因　領事裁判權ヲ行フ區域ハ共通法ノ適用上內地ト同視スヘキモノナリ從テ領事裁判權ニ基キタル前科ハ同一被告人ヲ朝鮮ニ於テ處罰スルニ當リ累犯加重ノ原因トナルモノトス（大正七・六・二九）

○領事裁判權ヲ行フ地域ニ於ケル刑法犯ト朝鮮刑事令第一條第一號刑法ノ適用　帝國ノ領事裁判權ヲ行フ地域ハ帝國臣民ニ對スル關係ニ於テハ我刑法ノ適用上帝國內ニ該リ共通法第一條ニ所謂內地ト同視スヘキモノナルヲ以テ帝國臣民カ該地域ニ於テ刑法所定ノ罪ヲ犯シタルトキハ朝鮮刑事令第一條第一號刑法ニ依リ朝鮮ニ於テ其ノ犯人ヲ處罰スルコトヲ得ルモノトス（昭和五・一〇・一六）

第三條

○刑法第六十條、第三條ヲ判決ニ掲記スルノ要否　刑法第六十條第三條ノ如キ總則的規定ハ之ヲ適用シタル趣旨自ラ明ナル以上必シモ之カ適用ヲ判文ニ明示セサルヘカラサルモノニ非ス（大正一〇・四・四）

第六條

○朝鮮刑事令施行以前ニ罪ヲ犯シタル者ヲ同令施行以後ニ於テ處斷スル場合ト刑法第六條　朝鮮刑事令第四十五條ノ規定ニ依リ同令施行ノ日即チ明治四十五年四月一日以前ニ罪ヲ犯シ未タ確定判決ヲ經サル者ニ對シテハ公訴時效ノ完成セサル限リ同令ヲ以テ引用シタル刑法ノ規定ヲ遡及シテ適用セシムルモノナレハ刑法第六條ノ規定ハ之ヲ除外スル旨趣ニシテ內地人ニ對シテモ新舊二法ノ刑ヲ比照シ輕キニ從ヒテ處斷スヘキモノニ非ス（大正四・三・一）

○一個ノ連續犯ノ一部カ新法施行後ニ行ハレタル場合ト新舊法ノ比照　一個ノ連續犯ヲ構成スル數行爲ノ一部カ大正八年制令第七號施行後ニ行ハレタル以上ハ其他ノ行爲カ同制令施行前ニ行ハレタルト否トヲ問ハス其全部ノ行爲ヲ包括シ一罪トシテ單ニ同制令ノミヲ適用スヘク新舊法ノ比照ヲ爲スヘキモノニ非ス（大正一〇・五・七）

巻　頁
五　二八
一七　三五六
八　一三
三　七五
八　一五七

○本條ノ法意　刑法第六條ハ犯罪當時ノ法律ニ依ル犯罪構成要件ト犯罪後ノ法律ニ依ル犯罪構成要件トカ全然同一ナル場合ハ勿論兩者間其構成要件ニ增減アルトキト雖其間共通スルモノアリテ苟モ犯人ノ行爲カ兩者ノ構成要件ヲ具備シ且兩者間刑ノ變更アリタル以上ハ兩者ノ刑ヲ比照シ其輕キモノヲ適用シテ處斷セシメントスル法意ニ外ナラス（大正八・六・五）

○併合罪中ノ或罪ニ付刑ノ變更アリタル場合ト處斷法條比照ノ順序　刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル刑罰法規相互間ニ刑ノ變更アリタル場合ニ在リテハ新舊兩法何レモ刑法總則ノ適用ヲ受ケ單ニ法定刑ニ差異ヲ生スルニ過キサルヲ以テ其刑ノ變更アリタル罪ニ付テノミ刑法第十條ニ依リ新舊法ニ於ケル法定刑ヲ比照シ輕キモノヲ適用スルヲ以テ足リ刑法施行法第二條第三條等ノ規定ニ準シ比照ヲ爲スノ要ナシ故ニ保安法ノ罪カ他ノ罪ト併合罪ノ關係ニ在ルトキハ刑法第六條第十條ニ依リ保安法ノ罪ニ付保安法及大正八年四月制令第七號ノ各法定刑ヲ比照シ其輕キモノヲ適用シ然ル後他ノ罪トノ關係ニ於テ併合罪ノ規定ヲ適用スヘキモノトス（大正八・六・二一）

○保安法第七條ト大正八年制令第七號第一條ノ罪質ト刑法第六條　保安法第七條ノ犯罪ト大正八年制令第七號第一條ノ犯罪トハ其內容及態樣ニ於テ全然同一ナリトカ爲スヲ得サルモ兩者共明白ナレハ今同時ニ兩者ノ構成要件ヲ具備スル同一ノ行爲カ前記制令實施以前ニ行ハレ其實施後ニ於テ處斷セラルル場合ハ則チ刑法第六條ニ所謂犯罪後ノ法律ニ依リ刑ノ變更アリタル場合ニ該當スルモノトス（大正八・七・二一）

○同旨　保安法第七條ノ犯罪ト大正八年制令第七號第一條ノ犯罪トハ其內容態樣全然同一ナリトカ爲スヲ得サルモ兩者共通ノ構成要件ヲ具備スル同一ノ行爲カ前記制令實施以前ニ行ハレ其實施後ニ於テ處斷セラルル場合ハ則チ刑法第六條ニ所謂犯罪後ノ法律ニ依リ刑ノ變更アリタル場合ニ該當スルモノトス（大正九・四・八）

六　一三三
六　一八九
六　二一五
七　六八

○大正八年制令第七號、治安維持法ト刑法第六條ノ比照　大正八年制令第七號ト治安維持法トハ其ノ内容及態樣ニ於テ全然同一ニハ非サルモ兩者共通ノ構成要件ヲ具備スルコト法文上明ニシテ治安維持法施行前ニ國體ノ變革ヲ目的トスル實行ノ協議ニ參與シタル如キ場合ハ右制令第七號第一條第一項ニ該當スルト同時ニ治安維持法第二條ニ該當スルコト言ヲ俟タサルカ故ニ新舊兩法ヲ比照シ其ノ輕キニ從テ處斷スヘキモノトス　（昭和五・五・二五）　一七　二七九

○牽連犯ノ一部ニ付刑ノ變更アリタル場合ノ處斷方　凡ソ一罪ハ之ヲ處斷スルニ付其各部分ヲ分割シテ觀察スルヲ許ササルモノナレハ牽連罪ニ其他實質上ノ一罪ヲ成ス所爲中其一部ニ付犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタル場合ニ於テモ其一罪ヲ分割シ其刑ノ變更アリタル部分ノミニ付獨立シテ新舊法ノ比照ヲ爲シ其適用法條ヲ定ムヘキモノニ非スシテ各別ニ新舊兩法竝刑法第五十四條ヲ適用シテ各其一罪ニ對シ科スヘキ刑ヲ定メタル後始メテ刑法第六條ニ依リ兩者ヲ比照シテ其輕キモノヲ適用スヘキモノトス　（大正八・七・二一）　六　三八

○新舊法ノ比照ト累犯加重　刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル刑罰法規相互間ニ刑ノ變更アリテ刑法第六條ニ依リ刑ノ比照ヲ爲スヘキ場合ニ在リテハ再犯加重ヲ爲スヘキトキ雖先ツ刑法第十條ニ依リ新舊兩法ノ法定刑ヲ比照シ其輕キモノヲ適用シ然ル後再犯加重ノ規定ヲ適用スヘキモノトス　（大正八・一〇・二）　六　二九七

第七條

○不動產ノ認證ニ關スル面長ノ資格　面長ハ一般ノ慣例ニ依リ不動產ニ關スル認證ヲ爲ス職務ヲ有スルモノトス　（大正三・四・一六）　二　一八九

○統首洞長郡守ノ資格　統首、洞長及郡守ハ土地建物證明規則及同施行細則ニ依リ認證又ハ證明ニ關シ公務員ナリトス　（大正三・七・二三）　二　一八九

○道廳ニ於テ使用スル土木工夫ノ資格　朝鮮總督府道廳ニ於テ使用スル土木工夫ナルモノハ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ從事スル議員委員ニ非サルハ勿論法令ニ依リ公務ニ從事スル職員ニモ非サルモノトス　（大正四・二・二二）　二　三二九

○兵卒ノ性質及哨兵ニ對シ暴行ヲ加ヘタル者ノ罪責　兵卒ハ官吏公吏ニ非サルハ勿論法令ノ規定ニ依リ公務ニ從事スル職員ニモ非サルニ依リ刑法上ノ公務員ニ該當セス從テ哨兵カ兵卒ナル場合ニ於テ之ニ對シ暴行ヲ加ヘタルトキハ陸軍刑法第六十四條ノ罪ヲ構成スルコトアルモ刑法第九十五條第一項ニ規定スル公務執行妨害罪ヲ構成セス　（大正八・九・六）　三　三二一

○憲兵上等兵ト公務員　憲兵上等兵ハ判任官ノ待遇アリ刑法上ノ官吏ニ該當スルモ其職務ノ執行中ニ非サルトキハ之ニ對シテ暴行ヲ加フルモ刑法第九十五條第一項ノ罪ヲ構成セス從テ憲兵上等兵ナルコトヲ認メタルニ止マリ其職務ノ執行中ナル事實ヲ明示セスシテ直ニ同法條ニ問擬スルハ理由ニ不備アルヲ免レス　（大正八・九・六）　六　二七九

○郡廳雇員ト公務員　郡廳ノ雇員ハ朝鮮總督府及所屬官署雇員規程第三條及第二條ニ基キ任命セラレ公務ニ從事スル職員ナルヲ以テ刑法第七條ニ所謂公務員ナリ　（昭和八・一一・六）　二〇　六三

○朝鮮道地方費ト刑法ニ所謂公務所　朝鮮道地方費令ノ定ムル所ニ依レハ道地方費ハ獨立シテ財產ヲ所有シ事業ヲ經營シ地方稅其ノ他ノ公課ヲ徵收スル等權利義務ノ主體ト爲リ得ルモノニシテ道知事ヲ以テ意思機關及執行機關トスル一種ノ公共團體ト認メタルモノナルコト明白ナルカ故ニ公務所ナルコト疑ヲ容レス　（大正一二・一〇・二五）　一〇　二七

第二章　刑

第十條

○併合罪中或罪ニ付刑ノ變更アリタル場合處斷法條比照ノ順序　刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル刑罰法規相互間ニ刑ノ變更アリタル場合ニ在リテハ新舊兩法何レモ刑法總則ノ適用ヲ受ケ單ニ法定刑ニ差異ヲ生スル

ニ過キサルヲ以テ其刑ノ變更アリタル罪ニ付テノミ刑法第十條ニ依リ新舊法ニ於ケル法定刑ヲ比照シ輕キモノヲ適用スルヲ以テ足リ刑法施行法第二條第三條等ノ規定ニ準シ比照ヲ爲スノ要ナシ故ニ保安法ノ罪カ他ノ罪ト併合罪ノ關係ニ在ルトキハ刑法第六條第十條ニ依リ保安法及大正八年四月制令第七號ノ各法定刑ヲ比照シ其輕キモノヲ適用シ然ル後他ノ罪トノ關係ニ於テ併合罪ノ規定ヲ適用スヘキモノトス（大正八・六・二一）

第十四條

○本條ノ適用ヲ判文上明示スルコトノ要否　併合罪ニ付加重ヲ爲シタル懲役刑ノ長期カ二十年ヲ超ヘサルトキハ刑法第十四條ノ適用ヲ判文ニ明示セサルモ不法ニアラス（大正六・三・三一）

第十九條

○賭錢ノ性質　賭錢ハ賭博罪ノ組成物ナリトス（明治四三・一〇・二八）

○僞造文券ノ歸屬者ノ說示　僞造文券ハ何人ノ所有ニモ屬セサル性質ノモノナルヲ以テ證據ニ依リ他人ノ所有ニ屬セサルコトヲ說明スルノ要ナシ（明治四五・六・一三）

○沒收物ノ所有權力國庫ニ歸屬スヘキ時期　沒收ノ判決確定スルモ之レカ執行ヲ爲ササル間ハ未タ其所有權國庫ニ移ラサルモノトス（大正二・五・二二）

○僞造文書ノ性質　僞造文書ハ文書僞造ノ所爲ニ付テハ犯罪行爲ヲ以テ生シタルモノナルト同時ニ僞造文書ヲ行使シタル場合ニ於テハ犯罪行爲ヲ組成シタル物ナリトス（大正三・四・六）

○僞造ノ文書ヲ沒收スヘキ場合ノ適用法條　文書ヲ僞造シテ之ヲ行使シタルトキハ刑法第五十四條ニ依リ重キ僞造文書行使ノ刑ニ從ヒ處斷シタル場合ニ於テモ其僞造文書ニ付テハ同法第十九條第一項第一號同第三號同第二項ニ依リ沒收スルヲ相當トス（大正三・四・六）

○僞造行使シタル文書ノ沒收ニ法條ノ項號ヲ明示セサル判決ノ當否　僞造文書ハ文書僞造罪ノ方面ヨリ觀察スレハ刑法第十九條第三號ニ所謂犯罪行爲ヨリ生シタル物ニ該當シ僞造文書行使罪ノ方面ヨリ觀察スレハ同條第一號ニ所謂犯罪行爲ヲ組成シタル物ニ該當ス從テ文書僞造罪及僞造文書行使罪ヲ結合シテ一罪ヲ構成スル事案ニ付テハ孰レノ方面ヨリ觀察シテ之カ沒收處分ヲ爲スモ違法ニアラサルヲ以テ該文書ヲ沒收スルニ當リ同條ヲ適用シタル以上ハ特ニ其何號ニ依リタルヤヲ明記セサルモ不法ニアラス（大正六・五・三）

○同　旨　犯人カ僞造行使シタル文書ヲ沒收スルニ當リ刑法第十九條ヲ適用シタル以上ハ特ニ同條ノ何號ニ該當スルヤヲ明示セサルモ不法ニ非ス（大正八・三・一）

○沒收刑ト判示方　沒收ハ刑罰ナルヲ以テ之カ言渡ヲ爲スニハ其目的物ト特定ノ犯罪トノ間ニ刑法第十九條所定ノ條件ノ存スルコトヲ具體的ニ說示シテ刑罰ノ基本タル事實關係ヲ明カナラシムルヲ要ス（大正九・三・一）

○沒收ト理由ノ明示　沒收ノ理由ハ犯罪ノ構成事實ニ非サルヲ以テ證據ニ依リテ之ヲ認メタル理由ヲ明示セサルモ刑事訴訟法第二百三條ノ規定ニ違背スルコトナシ（大正九・一一・四）

○同　旨　沒收ノ理由ハ犯罪構成事實ニ非サルヲ以テ證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ明示スルヲ要セス（大正一〇・三・一〇）

○判決中沒收ノ理由ヲ記載スヘキ部位　沒收ノ理由ハ判決中事實認定ノ部ニ記載セスシテ法律適用ノ部ニ記載スルヲ妨ケサルモノトス（大正九・一一・四）

卷	頁
六	一八九
四	五二
一	一九
一	二三七
三	九六
二	一八六
二	一八六
四	七九
六	六三
七	二五
七	一三七
八	五七
七	一三七

○出版法第十一條第一項第一號及同條第二項ノ犯行ニ因リ生シタル物件ト其ノ沒收　甲乙共謀シ甲著ハ出版法第十一條第一項第一號ニ該當スル文書ノ著述ヲ擔當シ乙者ハ其印刷ヲ擔當シタル場合ニ於テ印刷ニ因リ生シタル文書ハ同法第十一條第二項ニ所謂印刷ヲ擔當シタル者ノ犯罪行爲ニ因リテ生シタル物件タルト同時ニ同法第十一條第一項第一號ニ所謂著作者ノ犯罪行爲ニ因リテ生シタル物件ナレハ著作者ヲ處罰スルニ當リテモ亦之ヲ沒收スヘキモノトス（大正一〇・六・二〇）　一三八

○虛僞記入ノ手形ノ取得ト刑法第十九條ノ適用　商法上ニ於ケル手形ノ僞造モ署名資格ヲ僞リテ手形行爲ヲ爲シタル場合ニ於テノミ成立シ補充權ヲ濫用シテ權限外ノ記入ヲ爲シタルモノハ刑法上虛僞記入罪成立スヘキハ勿論ナルモ手形ノ僞造ニハアラス從テ惡意又ハ重大ナル過失ナクシテ斯ル手形ヲ取得セル者ハ適法ニ手形上ノ權利ヲ取得シ商法第十九條ヲ適用シ之ヲ沒收スヘキモノニ非ス（大正一四・三・一八）　一九七

○沒收刑ト判示方　判決ノ事實理由ノ部ニ於テ數名ノ被告人ノ犯シタル數罪ヲ認定スルニ當リ特定ノ押收物件カ其何レノ犯罪ノ用ニ供シ又ハ供セントシタルモノナルカヲ認定セス又其法律理由ノ部ニ於テモ具體的ニ之カ說示ヲ爲サス單ニ該押收物件ヲ概括的ニ犯罪ノ用ニ供シ又ハ供セントシタルモノナリトノ理由ヲ附シ刑法第十九條ニ依リ沒收ノ處分ヲ爲シタル判決ハ理由不備ノ不法アルヲ免レサルモノトス（大正九・三・一）　二二五

○無許可出版物ノ沒收理由　舊韓國隆熙三年法律第六號出版法第十一條第一項第一號ニ所謂國憲ヲ紊亂スル文書ヲ許可ヲ得スシテ出版（發賣又ハ頒布ノ目的ヲ以テ印刷）シタルトキハ其ノ出版セラレタル文書ハ該出版行爲ヨリ生シタル物ニシテ之ヲ組成シタル物ニハ非ス（昭和五・七・二一）　二二七

○沒收ノ場合ニ於ケル獵銃ノ同一性　獵銃ノ木製部分タル銃床ハ其ノ樞要ナル部分ニハ非サルヲ以テ縱令其ノ部分ノミヲ取替フルモ未タ獵銃全體ノ同一性ニ變更ヲ來スモノニ非ス（昭和六・九・三）　二四一

第二十一條

○本條ノ法意　刑法第二十一條ニ未決勾留ヲ本刑ニ算入スルコトヲ得ト謂ヘルハ刑ヲ言渡ス場合ニ於テ其ノ罪ノ審理中該訴訟手續ニ存シタル勾留ヲ右刑ニ通算スルコトヲ得ルノ意ニシテ右ノ罪ニ付勾留狀存スルト否トハ之ヲ問ハサル趣旨ナリト解スヘキモノトス

併合審理セラレタル數罪中ノ或罪ニ對スル勾留狀ニ依ル勾留存スル限リ其ノ罪ニ對シ無罪、公訴棄却、免訴等ノ裁判アリタルトキト雖他ノ罪ニ付刑ヲ言渡ス場合同罪ノ審理中ニ存シタル勾留ハ之ヲ算入スルコトヲ得ルモノトス（昭和一一・三・二）　三三　四四二

第六章　時效

第三十二條

○追徵ノ時效完成ノ時期　追徵ニ對スル時效ハ其ノ言渡確定シタル後一年內其ノ執行ヲ受ケサルニ因リ完成スルモノトス（昭和二・六・一三）　一四八

第三十四條

○追徵ト檢事ノ執行行爲　檢事ノ追徵金納入命令ハ追徵ノ執行行爲ニ非ス（昭和二・六・一三）　一四八

第七章　犯罪ノ不成立及刑ノ減免

○犯罪ノ遠因、犯人ノ人格等ト犯罪ノ構成　無慾、慈善、義俠等ノ如キ犯罪ノ遠因及ヒ犯人ノ人格或ハ犯情ニ

影響スルコトアランモ犯罪ノ構成ニ何等ノ影響ヲ及ホササルモノトス（明治四四・一・一六）

第三十五條

○正當ノ業務ニ因リ爲シタル行爲ノ意義　刑法第三十五條ニ所謂正當ノ業務ニ因リ爲シタル行爲トハ國民一般ノ慣習及法令一般ノ精神上正當ナリト認メラルル業務ヲ組成スヘキ行爲ヲ指稱シ其ノ正當ナリトハ公ノ秩序善良ノ風俗ニ反セサルノ意ニ外ナラス（大正一四・一二・二一）

○新聞紙ニ依ル名譽毀損ト正當業務行爲　苟モ人ノ名譽ヲ毀損スヘキ事項ヲ新聞紙ニ掲載頒布シタルトキハ縱令其ノ記事カ一面ニ於テ警察當局ノ犯罪檢擧ノ活動狀態ヲ表示シタルモノナリトスルモ該行爲ハ新聞記者ノ正當ナル業務ニ因リ爲シタル行爲ト謂フヲ得ス（昭和六・二・一六）

○談合入札ト正當業務行爲ノ範圍　土木建築請負業者タル各入札者入札ヲ爲スニ際リ單ニ營業上適正ナル請負價額ヲ維持スル趣旨ノミノ談合ヲ爲シ之ニ基キテ爲ス入札ハ刑法第三十五條ノ認ムル正當行爲ナリトス

然レトモ苟モ落札人タルヘキ入札者ヨリ他ノ入札者ニ對シ自己ノ經濟的不利益ヲ來スヘキ金品其ノ他人ノ需要ヲ滿足セシムヘキ利益ヲ授與スヘキ約定ヲ包含スル談合ニ基キテ爲ス入札ハ刑法第三十五條ノ認ムル正當行爲ナリト謂フヲ得ス（昭和六・七・三〇、三一）

第三十六條

○誤信ニ基ク反擊ト防衛行爲　他人カ被告ノ室内ニ入ラントシタルニ當リ被告ハ早計ニモ爭鬪ノ爲メ來リタルモノト思量シ直ニ之ニ對抗スヘク爭鬪ノ行動ヲ取リ刀ヲ執リ拳銃ヲ發射シタル場合ニ於テハ被告ニ緊急防衛權發生セサルモノトス（明治四四・三・三一）

○自己カ誘致シタル他人ノ攻擊ト正當防衛權　右ノ場合ニ於テ其他人カ被告ノ執リタル刀ヲ打落シ之ヲ拾ヒ被

告ニ斬リ付ケントシタル事實アルモ被告ニ正當防衛權生セサルモノトス（明治四四・三・三一）

第三十七條

○緊急避難行爲ト事實審ノ職權　被告ノ行爲カ刑法第三十七條所定ノ緊急避難行爲ナルヤ否ヤハ事實裁判所ノ確定スヘキ職權事項ナリトス（大正一二・二・二六）

第三十八條

○民事法令ノ不知ト違法阻却　詐欺賭博ニヨリ給付シタル金錢ハ之カ返還請求權ナキニ拘ハラス犯人之ヲ知ラス其返還請求權アリト思惟スルハ民事法令ノ不知ニ因ルモノニシテ民事法令ノ不知ハ彼ノ刑罰法令ノ不知ト異リ犯意ヲ阻却スヘキモノトス（大正七・一一・一四）

○特別刑罰法規上ノ犯罪成立ト故意ノ要否　犯罪ノ成立ニ故意ヲ必要トスル原則ハ諸般ノ特別刑罰法規ニ適用セラルヘキヲ以テ特別刑罰法規ニ依リ處罰スル犯罪ノ成立ニハ故意ヲ要セサル旨ノ一般的明文存スルカ若ハ各犯罪ニ對スル規定上其成立ニ故意ヲ要セサル趣旨ヲ認メ得ヘキ場合ニ非サレハ故意ナキ行爲ヲ處罰セサルモノトス（大正八・三・三一）

○精神病ノ治療トシテ爲ス暴行ニ對スル承諾ト違法阻却　暴行カ精神病ノ治療トシテ時ニ或ハ效果アルヘキヲ信シ患者又ハ看護人ノ依囑ニ應シテ患者ニ對シ暴行ヲ加フルモ違法ニ非スト誤想スルカ如キハ自己ノ行爲ノ法律上ノ價値判斷ヲ謬リテ罪ト爲ルヘキモノニ非スト思惟シタルニ外ナラサレハ幷ハ刑法第三十八條第三項ニ所謂法律ヲ知ラサルモノニ該當スルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト云フヲ得サルモノトス（昭和一〇・六・六）

第八章　未遂罪

第四十三條

○障礙未遂ト證據明示ノ要否　意外ノ障礙ニ因リ遂ケサリシ事實ハ罪トナルヘキ事實ニ非サルヲ以テ證據ニ因リテ之ヲ認メタル理由ヲ明示スルノ要ナシ（大正四・三・一）

○保險證券ノ騙取ト詐欺罪ノ既遂　保險證券ハ一ノ財物ナルヲ以テ之ヲ騙取シタル以上ハ縱令保險金ヲ騙取スルニ至ラサルモ詐欺罪ノ既遂ニシテ中止犯ニ非ス（大正五・三・九）

○他人ノ住家ニ接スル他ノ物體ニ放火シタル所爲ト住家放火罪ノ未遂　犯人ハ直接他人ノ住家ニ放火セシテ住家ニ接スル他ノ物體ヲ導火材料トシ因テ住家ヲ燒燬シ得ヘキ狀態ニ措キタル場合ハ縱令住家ノ一部ニ延燒スルニ至ラサリシトキト雖モ刑法第百八條ノ犯罪ノ實行ニ著手シタルモノニシテ同條犯罪ノ未遂ヲ以テ論スヘキモノトス（大正五・九・七）

○未遂ニ依ル減輕ヲ爲ササル場合ト刑法第四十三條引用ノ要否　刑法第四十三條本文ニ依リ未遂罪ノ減輕ヲ爲スト否トハ裁判所ノ職權ニ屬スルモノナレハ其減輕ヲ爲ササル場合ニ於テ同條ヲ引用セサルハ至當ナリ（大正八・六・二六）

○未遂罪ノ成否判斷ノ標準　未遂犯ノ成立ハ犯人ノ意思活動ニ因リ一定ノ犯罪構成要素ノ全部ヲ充實シ得ヘキ場合即チ既遂犯ノ成立シ得ヘキ場合ニ限リ認ムヘキモノニシテ既遂犯ノ成立シ得ヘキヤ否ヤハ其ノ犯罪行爲著手ノ當初ヲ標準トシテ各場合ニ於ケル目的物、手段其ノ相互ノ關係等ヲ考察シ一般社會觀念ニ從テ判斷スヘキモノトス（昭和五・九・八）

卷	頁
三	七五
三	三二九
三	四五五
六	一三八
一七	三二八

○行爲ノ方法ニ關スル不能犯成否決定ノ標準　或行爲カ法益侵害ノ結果ヲ生スヘキ可能性ヲ有スルヤ否ヤハ斯ル結果ヲ生スヘキ危險性ヲ有スヤ否ヤヲ標準トシテ決スヘク其ノ危險性ノ有無ハ方法ニ關シテハ行爲當時ニ於ケル具體的事情ヲ基礎トシ社會觀念ニ從テ評價セラレタル一般的性質ニ依リテ決スヘキモノトス從テ行爲カ方法ニ於テ單ニ法益侵害ノ結果ヲ生スルニ不適當又ハ不十分ナルニ過キサルトキハ所謂不能犯ヲ以テ論スヘキモノニ非ス（昭和八・七・一七）

○連續犯中ノ中止未遂ト刑ノ輕減　連續犯中ノ一所爲カ中止未遂ナル場合ニ於テ各所爲カ刑期ヲ異ニスルモノニ在リテハ其ノ最モ重キモノカ既遂又ハ障礙未遂ナルトキハ中止未遂ニ依ル輕減ノ適用ナキハ勿論最モ重キモノカ中止未遂ナルトキト雖他ノ所爲ニ付テ定メタル刑ノ長期カ輕減シタル長期ヲ超ユルトキハ輕減ノ範圍ハ其ノ限度ニ止メサル可ラス連續犯ノ各所爲カ刑期ヲ同シクスルモノニ在リテモ同樣ニ他ニ既遂ノモノアルトキハ刑ヲ輕減スルコトナク障礙未遂ノモノアルトキハ輕減セサルコトヲ得ルモノト謂ハサルヘカラス（昭和一〇・九・三〇）

第四十四條

○殺人未遂ノ場合ニ於ケル本條引用ノ要否　殺人未遂ノ場合ニ於テ刑法第二百三條ヲ適用シタル以上ハ同第四十四條ヲ引用セサルモ不法ニ非ス（大正八・六・二六）

第九章　併合罪

第四十五條

○確定裁判ヲ經タル罪ト其裁判ノ前後ニ犯シタル罪ノ處斷　裁判確定後ニ犯シタル一個若クハ數個ノ罪ト其

卷	頁
二〇	五八五
二三	六七八
六	一八三

確定裁判ヲ經タル罪及其裁判確定前ニ犯シタル罪トノ間ニハ併合罪タル關係ヲ有セサルヲ以テ裁判確定後ニ犯シタル一個若クハ數個ノ罪ハ獨立シテ單一罪若クハ併合罪ヲ以テ處斷スヘキモノニ非ス（大正五・六・二九）

○竊盜カ殺意ヲ生シ家人ヲ殺害シテ財物ヲ强奪シタル所爲ノ罪數　竊盜ノ目的ヲ以テ家宅内ニ侵入シタル後家人ニ誰何セラレタルヨリ殺意ヲ生シ家人ヲ殺害シテ財物ヲ强奪シタル所爲ハ竊盜殺人ニ非スシテ强盜殺人ナリトス前示ノ場合ニ於テハ刑法ノ家宅侵入罪ト刑法大全第四百七十八條ノ罪トニ該當スルヲ以テ併合罪トシテ處斷スヘキモノトス（大正四・一・二八）

○同一人カ編輯人ト發行人トヲ兼擔シタル場合ニ於ケル新聞紙規則第十條ノ違反罪ト刑法ノ併合罪ニ關スル規定ノ適用　新聞紙ニ新聞紙規則第十條ニ違反スル事項ヲ揭載發行シタル場合ニ其ノ編輯ト發行トヲ同一人ニ於テ兼擔シタルトキハ同一人カ二個ノ犯罪ヲ犯シタル場合ニ該當シ刑法ノ併合罪ノ規定ヲ適用處斷スヘキモノトス（昭和八・五・一八）

第四十八條

○刑ヲ併科シタル場合其ノ一ニ付上告理由アリ他ニ付其ノ理由ナキトキノ裁判　併合罪ノ場合ニ刑法第四十八條第一項ニ依リ刑ヲ併科シタルトキハ數個ノ併合罪ニ對シ一個ノ刑ヲ言渡シタル場合ト異リ其併合ノ一ニ付上告理由アリ他ノ併合罪ニ付其理由ナキトキハ之ヲ分離シ裁判ヲ爲シ證據ニ因リテ之ヲ認メタル理由ヲ明示スルノ要ナシ（大正四・三・一）

第五十四條

○他事件ト實質上ノ一罪ヲ爲ス拘留科料事件ノ處斷方　拘留又ハ科料ハ其ノ罪他ノ罪ト實質上ノ一罪ヲ成スモノナルトキハ併合罪ノ場合ニ於ケルカ如ク併科スヘキニ非スシテ刑法第五十四條ニ依リ最モ重キ刑ヲ以テ處斷スヘキモノトス（大正七・一・三一）

○竊盜逮捕ヲ免ルル爲メ人ヲ殺害シタル罪ノ處斷方　竊盜逮捕ヲ免ルル爲メ人ヲ殺シタルトキハ各一個ノ强盜殺人罪ヲ構成スルモノニシテ一個ノ行爲ニシテ强盜ト殺人トノ二個ノ罪名ニ觸ルルモノニ非ス（昭和四三・一〇・二八）

○數人ヨリ各別ニ預リタル數個ノ動產ノ所持者ヨリ同時ニ右動產ヲ竊取シタル罪ノ處斷方　洗張營業者ノ數人ヨリ各別ニ預リ居レル衣類數點ヲ同時ニ竊取シタル所爲ハ一個ノ竊盜罪ヲ構成スルモノニシテ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルモノニ非ス（大正二・九・一）

○人ヲ殺害シ後財物ヲ奪取シタル場合ノ擬律　强盜致死罪ハ强盜ヲ爲スノ機會ニ致死ノ結果ヲ生セシムルニ依リ成立シ財物ノ奪取カ致死ノ結果ヲ生セシメタル前ナルト其後タルトハ敢テ問フ所ニアラス而シテ人ヲ殺害シ財物ヲ奪取スル意思ヲ以テ人ヲ殺害シ然ル後財物ヲ取得スルハ奪取ノ顯著ナル一方法ニシテ此場合ニハ一所爲ニシテ殺人罪及强盜致死罪ヲ構成スルモノトス（大正六・一一・一五）

○想像上ノ數罪ノ擬律標準　刑法第五十四條第一項前段ハ數箇ノ罪名ニ於テ其構成要素トスルモノノ全部カ共通スル場合ナルコトヲ要セス其構成要素中ノ少クトモ一要素カ共通スルニ於テハ其他ノ構成要素カ共通セサルトキト雖モ其共通スル構成要素ニ其他ノ構成要素ヲ連結スルニ因テ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノト爲スノ趣旨ヲ規定シタルモノトス（大正七・一一・二一）

○稅關ノ免許及總督ノ許可ヲ受ケサル金輸出行爲ノ犯罪性　關稅法第七十六條違反罪ハ稅關ノ免許ヲ受ケス

集	頁
三	四四一
三	七
二〇	五四八
三	七六
一三	一
一	一三
二	一〇七
四	四五四
五	三〇八

シテ貨物ノ輸出若ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントスルニ依リテ成立シ大正六年朝鮮總督府令第六十五號違反罪ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケスシテ金銀貨幣又ハ金銀地金ヲ輸出スルニ因リテ成立スルモノナレハ其免許若ハ許可ヲ受ケサルコトニ犯罪性ヲ付スルコト兩者同一ナルノミナラス其輸出スルコトニ犯罪性ヲ付スルコトモ亦同一ニシテ其消極的行爲及積極的行爲ハ共ニ犯罪構成ノ要素ナリ　（大正七・一一・二一）

○稅關ノ免許及朝鮮總督ノ許可ナキ金地金輸出者ノ罪責　稅關ノ免許及朝鮮總督ノ許可ヲ受ケスシテ金地金ヲ輸出シタル行爲ハ一箇ノ行爲ニシテ二箇ノ罪名ニ觸ルルモノトス　（大正七・一一・二一）

○想像上數罪又ハ牽連犯ノ起訴ト一部無罪言渡ノ要否　起訴事實中不穩文書ヲ印刷シタル行爲ト其印刷シタル不穩文書ヲ配付シタル行爲トハ手段結果ノ關係アリ刑法第五十四條第一項後段ヲ適用スヘキモノ又其朝鮮ノ獨立運動ヲ促ス趣旨ヲ內容トスル不穩文書ノ配付行爲ト其獨立運動ヲ爲スヘキコトヲ煽動シタル行爲トハ一箇ノ行爲ニシテ二箇ノ罪名ニ觸レ刑法第五十四條第一項前段ヲ適用スヘキモノトシテ起訴セラレタルモノナルコト明ナル案件ニ在リテハ其起訴事實中ノ數個ノ行爲ハ之ヲ一罪トシテ起訴セラレタルモノト觀ルヘキモノナレハ其數個ノ行爲中其一部ヲ無罪ト認メ他ノ部分ヲ有罪ト認メタルトキト雖モ一罪中ノ一部ヲ無罪ト認メタルニ外ナラサレハ主文ニ於テ特ニ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノニ非ス　（大正八・一一・一五）

○放火ノ爲ノ家宅侵入ト放火著手トノ關係　放火ノ目的ヲ以テ家宅ニ侵入シタル行爲ト放火ノ著手行爲トハ一行爲ヲ組成スルモノニアラス當然二行爲ニシテ前行爲ハ後行爲ノ手段タル關係ニ在ルモノトス　（大正九・三・一）

○本條及同第五十五條ノ適用順序　一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルル方面ヨリ觀察シテ連續犯タル場合ニ於テハ先ツ刑法第五十五條ヲ適用シテ之ヲ一罪ニ包括シタル後同第五十四條第一項前段ヲ適用處斷スヘキモノトス　（大一〇・二・一）

條	頁
五	三〇八
五	三〇八
六	三七六
七	二五
八	二九五

○通貨ヲ僞造行使シ因テ不正ニ財物ヲ領得シタル行爲ノ擬律　通貨ヲ僞造シテ之ヲ行使シ因テ不正ニ財物ヲ領得シタルトキハ僞造通貨ノ行使ヲ手段トシテ詐欺罪ヲ行ヒタルモノニシテ僞造通貨行使罪ノ外ニ別ニ詐欺罪ヲ構成スヘク而シテ此兩者ハ手段結果ノ關係アルヲ以テ刑法第五十四條第一項後段ニ依リ牽連ノ一罪ヲ成スモノトス　（大正七・二・七）

○本條ニ所謂犯罪ノ手段タル行爲ト「モルヒネ」「コカイン」ノ詐欺　刑法第五十四條ニ所謂犯罪ノ手段タル行爲トハ或ル犯罪ノ性質上之カ手段トシテ普通用ヰラルヘキ行爲ヲ指稱スルモノニシテ「モルヒネ」「コカイン」ノ詐欺ハ「モルヒネ」「コカイン」服用注射ニ關スル取締規則第一條ノ罪ノ手段トシテ普通用ヰラルル行爲ナリト云フ能ハサルヲ以テ前者ハ後者ノ手段タル行爲ニ非ス　（大正一一・六・二九）

○本條ノ前段ト後段ノ適用順序　牽聯關係アル行爲ノ一若ハ總テカ同時ニ一面數個ノ罪名ニ觸ルル場合ニ於テハ刑法第五十四條第一項前段及後段第十條ヲ適用綜括シ其ノ最モ重キ刑ニ依リ一罪トシテ處斷スルヲ以テ足リ各個ノ當該關係ニ付個々ニ之等條項ノ適用ヲ爲スヲ要セサルノミナラス其ノ適用ノ順序如何ハ法律ノ問フ所ニ在ラス　（大正一三・四・二一）

○本條ニ所謂犯罪ノ手段若ハ結果タル行爲ノ意義　甲罪ト乙罪トカ互ニ手段若ハ結果ノ關係アリトシテ刑法第五十四條第一項後段ニ依リ一罪トシテ處斷スルニハ甲罪カ通常乙罪ノ手段トシテ行ハレ若ハ乙罪ハ甲罪ノ結果トシテ行ハルヘキ性質ノ犯行タルコトヲ要スルノミナラス現ニ互ニ手段若ハ結果タル關係ニ於テ行ハレタルコトヲ要スルモノトス　（大正一四・七・二三）

○同　旨　刑法第五十四條第一項後段ニ所謂犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲トハ犯人ノ主觀ニ於テ當該行爲ヲ犯罪ノ手段トシ又ハ結果ト爲シタルト否トヲ問ハス客觀的ニ觀察シ其ノ行爲カ通常犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ト認ム

條	頁
五	一三
九	八五
一一	二五
一二	三三

ヘキ行爲ヲ指稱スルモノトス（昭和八・七・二〇）

○殺人及傷害ノ目的ヲ以テ人ヲ不法ニ逮捕シタル場合ニ於ケル牽連犯ノ成立　殺人及傷害ノ目的ヲ以テ人ヲ不法ニ逮捕シタルトキハ不法逮捕ト殺人及傷害トノ間ニハ夫々手段結果ノ關係アリ牽連犯ヲ構成ス（昭和四・八・一六）

○牽連犯ノ公訴時效期間決定ノ標準　牽連犯ノ公訴時效ハ其ノ手段又ハ原因タル行爲ニ付時效完成セサル以前其ノ目的又ハ結果タル行爲カ爲サレタル限リ最モ重キ刑ニ該ル行爲ヲ標準トシテ全行爲ノ時效期間ヲ決スヘキモノトス（昭和五・九・二九）

○僞證敎唆ト詐欺トノ關係　一般ニ裁判所ヲ欺罔シテ裁判ヲ爲サシメ他人ヨリ財物又ハ財產上不法ノ利益ヲ得ル目的ヲ以テスル僞證敎唆ノ行爲ハ斯ル詐欺ノ行爲ニ對スル通常ノ手段ナルヲ以テ兩者ノ關係ニ付テハ牽連犯トシテ刑法第五十四條第一項後段ヲ適用スヘキモノトス（昭和七・六・七）

○道會議員立候補者ノ無告示中ニ於ケル選擧運動及金品供與ト想像的競合罪　道會議員立候補者カ選擧管理者ヨリ其ノ旨ノ告示ナカリシ以前無資格選擧運動者ト共謀ノ上選擧ノ際自己ニ投票ヲ得ル目的ヲ以テ面協議會員ニ對シ金品ヲ供與シ同時ニ自己ニ投票セラレンコトヲ依賴スルハ朝鮮地方選擧取締規則第四條ノ四第十三條ノ二ノ罪ト同規則第八條第一號ノ罪トノ想像的競合罪ヲ構成スルモノナルカ故ニ刑法第五十四條第一項前段ニ依リ處斷スヘキモノトス（昭和九・五・一七）

第五十五條

○連續犯ノ意義　犯人カ初發ノ意思ヲ繼續シテ同種ノ行爲ヲ反覆シタルトキハ刑法第五十五條ニ該當スル連續犯ナリトス（明治四四・五・二四）

○連續犯ヲ敎唆シタル者ノ責任　人ヲ敎唆シ連續シテ犯罪ヲ實行セシメタルトキハ被敎唆者ノ犯行カ連續犯タルト同時ニ敎唆ノ責任モ亦連續犯ナリトス（明治四四・八・七）

○連續シタル數個ノ行爲カ同一罪名ニ觸レサルトキト連續犯ノ成否　連續シタル數個ノ行爲ト雖モ同一ノ罪名ニ觸ルルトキニ非サレハ連續犯タル一罪トシテ處罰スルコトヲ得サルモノトス（大正元・八・二一）

○侵害セラレタル法益數個アル場合ト連續犯　連續犯タルカ爲メニハ侵害セラレタル法益ノ單一ナルコトヲ要セス侵害セラレタル法益數個アルトキト雖同性質ニシテ單一意思ノ發動ニ因ル數個ノ行爲ノ結果ナルニ於テハ連續犯タリ得ヘキモノトス（大正五・二・一四）

○刑法第五十四條第一項後段ト本條ノ適用順序　連續シタル數箇ノ行爲ノ一ニ手段結果ノ關係ヲ有スル牽連罪ノ伴フ場合ニ之カ擬律ヲ爲スニハ先ツ連續ノ行爲ニツキ刑法第五十五條ヲ適用シ一罪トシテ其處斷スヘキモノヲ定メ次ニ同第五十四條第一項同第十條ヲ適用シテ手段結果ノ關係ヲ有スル罪ト前揭連續シタル一罪トヲ對照シ最モ重キ刑ヲ以テ處斷スヘキモノニシテ同第五十四條第一項ヲ先ニ適用シ同第五十五條ヲ後ニ適用スヘキモノニアラス（大正六・三・三一）

○一箇ノ連續犯ノ一部カ新法施行後ニ行ハレタル場合ト新舊法ノ比照　一箇ノ連續犯ヲ構成スル數行爲ノ一部カ大正八年制令第七號施行後ニ行ハレタル以上ハ其他ノ行爲カ同制令施行前ニ行ハレタルト否トヲ問ハス其全部ノ行爲ヲ包括シ一罪トシテ單ニ同制令ノミヲ適用スヘク新舊法ノ比照ヲ爲スヘキモノニ非ス（大正一〇・五・七）

○同　旨　一個ノ連續犯カ新舊兩法時ニ跨リテ行ハレタルトキハ其ノ一部ノ行爲ハ縱令舊法時代ニ行ハレタレハトテ其ノ他ノ行爲ニシテノトス（昭和九・九・二〇）

○同　旨　連續犯ヲ構成スル數個ノ行爲中或ル一部ノ行爲カ

卷	頁	
二〇	五八九	
一六	三五	
一七	三五四	
一六	三五二	
二二	五四五	
一二	一〇九	
一一	一四七	
三	三四	
三	三一〇	
四	五三	
八	一五七	
二二	六二	

新法時代ニ行ハレタル以上單ニ新法ノミヲ適用シテ處斷ス（昭和一〇・五・一三）

○刑法第五十五條ノ旨趣ト判決理由ノ判示　刑法第五十五條ノ規定ノ旨趣ハ連續シタル二個以上ノ行爲ニシテ同一罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷スルニ在ルカ故ニ判決理由ニ之ヲ判示スルニ當リ繼續セル一定ノ日時ノ間ニ同一罪ニ該ル連續セル行爲カ二個以上行ハレタルコトヲ認定セル以上ハ其各行爲ノ日時ヲ具體的ニ明示セサルモ該判示ニ缺クル所ナシ（大正一〇・六・三〇）

○刑法第五十四條及本條ノ適用順序　一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ其數個ノ罪名ニ觸ルル方面ヨリ觀察シテ連續犯タル場合ニ於テハ先ツ刑法第五十五條ヲ適用シテ之ヲ一罪ニ包括シタル後同第五十四條第一項前段ヲ適用處斷スヘキモノトス（大正一〇・一二・一）

○數通ノ虚僞申告書ノ提出ト犯罪行爲ノ數　誣告行爲者カ虚僞ノ申告書二通ヲ各別ニ相當官廳以外ノ官廳ニ提出シタルモ其申告書カ同時ニ一括シテ相當官廳ニ到達シタルトキハ犯罪行爲ハ一個ニシテ連續シタル數個ノ行爲ニ非ス（大正一一・一・二六）

○一個ノ誣告行爲ニ對シ連續犯トシテ處斷シタル判決ノ當否　一回ニ誣告ヲ爲シタルモノトシテ處斷スルモ意思繼續シテ數回ニ誣告ヲ爲シタルモノトシテ處斷スルモ一罪トシテ處斷スル點ニ於テ異ル所ナケレハ前者ノ行爲ニ對シ連續犯ニ問擬シタル違法アルモ判決破毀ノ理由トナスニ足ラサルモノトス（大正一一・一・二六）

○幼女强姦罪ト幼女强姦死傷罪ノ連續性　十三歳未滿ノ幼女ヲ姦淫シタル所爲ト十三歳未滿ノ幼女ヲ姦淫シ因テ死傷ニ致シタル所爲トハ連續シテ犯シタル場合ニ於テモ彼是連續犯トシテ處斷スルヲ得サルモノトス（大正元・八・三）

○連續犯ト公訴時效ノ起算點　連續犯ハ數個ノ行爲ヨリ成立スルモ法律上一罪ト爲スモノナルヲ以テ縱令其ノ一部ヲ分離スルトキハ其部分カ公訴時效ニ罹ルトキト雖一罪ノ一部ハ之ヲ分離シテ考察スルコトヲ許ササルカ故ニ連續

犯ノ最後ノ行爲ノ終リタル時ヲ標準トシテ公訴時效ノ起算點ヲ定メサルヘカラス（大正一二・七・一六）

○同　旨　連續犯ニ付テハ公訴時效ハ假ニ其ノ行爲ヲ分離シテ考察スレハ其ノ一部ハ他ノ行爲ノ成立セシ當時又ハ起訴ノ際已ニ公訴時效完成スヘキ場合ニ該當スルトキト雖最後ノ行爲ノ終リタル時ヲ標準トシテ全部ノ行爲ニ付其ノ期間ヲ起算スヘキモノトス（昭和三・六・七）

○公文書ト私文書トノ各僞造及行使ト連續犯　公文書ト私文書トハ文書ノ性質效用ヲ異ニシ且其ノ罰條ヲモ異ニシ從ツテ其ノ各僞造及僞造文書ノ行使ノ行爲ハ罪質ヲ同シクセサルヲ以テ假令意思繼續シテ右各行爲ヲ反覆スルモ通シテ一個ノ連續犯ヲ構成セサルモノトス（大正一二・八・三〇）

○連續犯ノ反覆ト目サルル累行行爲　連續犯ハ同一ノ意思ヲ以テ同種ノ行爲ヲ反覆スルニ依リ成立スル右ノ反覆トハ必シモ月日ヲ異ニスルコトヲ要スルニアラス假令通常ノ觀念ニ於テ同時トシテ目セラルル一定ノ時間內ニ於テ行ハレタル場合ト雖モ行爲ノ累行セラルルニ於テハ猶之ヲ反覆ト謂フヲ妨ケス（大正一四・五・二八）

○連續犯ニ所謂意思繼續ノ意義　連續犯ノ構成ニ必要ナル意思ノ繼續アリト爲スニハ同一ノ意思カ隔時ニ反覆實行セラルルヲ以テ足ルカ故ニ同種ノ犯罪ヲ反覆實行シタルトキト雖苟クモ諸般ノ情況ニ照シ意思ノ繼續ヲ推測シ得ラルル以上連續犯ノ成立ヲ認ムルニ妨ケナキモノトス（昭和八・一〇・二三）

○一罪トシテノ處分ト上告理由　包括的ニ觀察シテ單純一罪トシテ處斷スヘキヲ連續犯トシテ刑法第五十五條ヲ適用處斷シタリトスルモ均シク一罪トスルモノナレハ判決ニ影響ヲ及ホササルコト明瞭ナルヲ以テ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス（昭和九・九・一七）

○昭和八年朝鮮總督府令第四十號外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件第三十五條第一號ト新舊兩法時ニ跨レ

ル連續犯　昭和八年朝鮮總督府令第四十號外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件第三十五條ニ於テ同令施行前ノ行爲ニ對シ昭和六年朝鮮總督府令第百五十二號金貨幣又ハ金地金ノ輸出等取締ニ關スル件ヲ適用スヘキ旨ヲ規定シタルハ新舊兩法時ニ跨リテ行ハレタル連續犯ノ場合ニ關スルモノニ非ス　（昭和九・九・二〇）　三　六二

○連續犯ノ成立ト各個行爲ノ豫見　連續犯ハ其ノ各個ノ行爲カ當初ニ於テ總テ豫見セラルル場合ニノミ成立スルモノニ非スシテ初發ノ行爲ヲ承ケテ更ニ犯行ニ出ツル場合亦連續犯タルコトヲ得ルモノトス　（昭和一〇・一一・一八）　三　六八七

第十章　累犯

第五十六條

○累犯者ニ對スル明治四十三年八月大赦ノ效果　刑法大全第五十一條ノ罪ヲ犯シタルニ因リ明治四十三年五月十日刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ同年八月ノ大赦ニ因リ其效力ヲ認ムヘカラサルニ至リタルモノナレハ右ノ者カ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處スヘキトキト雖累犯ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス　（大正四・四・八）　三　九五

○領事裁判權ニ基ク前科ト累犯加重ノ原因　領事裁判權ヲ行フ區域ハ共通法ノ適用上內地ト同視スヘキモノナリ從テ領事裁判權ニ基キタル前科ハ同一被告人ヲ朝鮮ニ於テ處罰スルニ當リ累犯加重ノ原因トナルモノトス　（大正七・六・二九）　五　三八

○累犯ノ處分ト非常上告　確定判決カ前科ノ時期ヲ誤認シ累犯ノ原因トナラサル已前ノ前科ヲ累犯ノ期間內ニ於ケル前科トシテ認定シタル結果之ニ對シテ刑法第五十六條第五十七條ヲ適用處斷シタリトスルモ事件ノ審判法令ニ違反シタリトノ理由ニ依リ非常上告ヲ爲スコトヲ得サルモノトス　（昭和九・九・三）　二　六〇四

第五十八條

○本條ニ所謂裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキノ意義　再犯者タルコトニ付被告ヨリ供述アリシモ或ル時ハ大正五年ト云ヒ又ハ五年前ナリト云ヒ或ル時ハ大正二年中ト云ヒ又ハ二三年前カ覺ヘスト云ヒテ其年月日不明瞭ナルノミナラス前科調書ヲモ得ルコト能ハサル所ヨリ裁判所カ前科ノ點ヲ不問ニ付シ置キタル場合ニ於テ判決確定後指紋對照ノ結果被告カ別名ニテ處分ヲ受ケタル前科アルコトヲ確定的ニ發見シタルトキハ刑法第五十八條第一項ニ裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキト該當ス　（大正六・六・二五）　四　三三五

○同　旨　刑法第五十八條第一項ニ所謂裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキ」トハ裁判確定前ニハ被告ニ於テモ全ク前科アルコトヲ隱秘シテ供述セス又一件記錄中ニモ被告ノ前科者タルコトヲ認知スヘキ何等ノ記載ナク裁判確定後ニ至リ始メテ再犯者タルコトヲ發見シタルカ如キ場合ヲ指稱スルハ勿論訴訟ノ取調中ニ被告ヨリ前科アルコトヲ供述シ又一件記錄中ニモ被告ニ前科アル旨ノ記載アルモ其供述又ハ記載カ事實ニ相違シテ前科調書ヲ徵スル能ハス從テ確定的ニ再犯者タルコトヲ認識スルヲ得スシテ之ヲ不問ニ付シ置キタルニ裁判確定後僞名ニテ前科ノ處分ヲ受ケ居リシコト若クハ前科ヲ言渡シタル裁判所名ニ相違アリシコトヲ發見シ因テ以テ始メテ前科調書ヲ徵シ得被告ノ再犯者タルヲ確定的ニ認識スルニ至リタル如キモ亦之ニ包含スルモノトス　（大正六・九・二二）　四　四三〇

○同　旨　再犯者タルコトヲ認ムヘキ證據ノ十分ナルニ拘ラス遺脫シテ加重處分ヲ爲サス裁判確定後ニ至リ其遺脫ヲ發見シタルモノノ如キハ固ヨリ刑法第五十八條ニ所謂再犯者ノ發見ニ該當スルモノニ非ス　（大正六・九・二二）　四　四三〇

第十一章　共犯

第六十條

○間接正犯ノ意義　間接正犯ハ責任無能力者又ハ故意ナキ者ヲ利用シテ間接ニ罪ノ構成要素ヲ實行シタル者ヲ指稱スルモノトス（大正三・一一・五）

○憲兵ヲシテ被害者ヲ逮捕セシメタル者ト間接正犯　憲兵カ被告ノ電話通告ヲ輕信シ職務上逮捕シ得ヘキモノト誤解シ被害者ヲ逮捕シタル以上ハ憲兵ハ機械的ニ行動ヲ爲シタルモノニシテ被告ニ於テ不法逮捕ノ間接正犯タル責任ヲ免レサルモノトス（大正四・一・二八）

○所謂犯罪ノ實行ノ意義　刑法第六十條ニ所謂犯罪ノ實行トハ直接ニ犯罪ノ特別構成要件タル行爲ニ加擔スルカ若クハ犯罪ノ特別構成要件ニ密接必要ナル行爲ヲ爲スヲ謂フモノトス（大正五・四・二二）

○共謀シテ犯罪ヲ遂行センコトヲ畫策シ一人ノミカ犯罪行爲ヲ爲シタル場合ニ於ケル共謀者ノ罪責　共謀シテ犯罪ヲ遂行センコトヲ畫策スルモ其一人ハ單ニ畫策ニ加リタルニ止マリ他ノ一人ノミカ犯罪ノ特別構成要件タル行爲ヲ爲シタル場合ニ於テハ單ニ畫策ニ加リタル者ハ共同正犯タルヘキモノニ非ス（大正五・四・二二）

○詐欺及恐喝罪ニ於ケル共同實行行爲ノ要否　詐欺罪恐喝罪ニ於テハ共謀ノ上畫策シタル欺罔手段ハ必スシモ共同シテ之ヲ實現スルヲ要セス其内ノ一人カ共謀シテ畫策シタル欺罔手段ノ實現ニ加リテハ數人カ共謀シテ畫策シタル欺罔手段ハ必スシモ共同シテ之ヲ實行スルヲ要セス其中ノ一人若クハ數人ヲシテ實行セシムルコトヲ得ヘク此場合ニ於テハ實行ニ干與セサル者ハ實行シタル者ヲ通シテ自己ノ犯意ヲ遂行スルモノニシテ自ラ實行ヲ爲シタルト同一ナレハ共謀者ハ總テ共同正犯タルヘキモノトス（大正五・四・二二）

○同　旨　詐欺罪ノ如キ所謂智能的犯罪ニ在リテハ數人カ共謀シテ畫策シタル欺罔手段ハ必スシモ共同シテ之ヲ實行スルヲ要セス其中ノ一人若クハ數人ヲシテ實行セシムルコトヲ得ヘク此場合ニ於テハ實行ニ干與セサル者ハ實行シタル者ヲ通シテ自己ノ犯意ヲ遂行スルモノニシテ自ラ實行ヲ爲シタルト同一ナルヲ以テ共謀者ハ總テ共同正犯タルヘキモノトス（大正六・五・一〇）

○同　旨　詐欺罪ニ於テ數人共謀ノ上畫策シタル欺罔手段ノ實現ハ必スシモ共同シテ之ヲ行フヲ要セス其内ノ一人ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得ヘク此場合ニ於テハ他ノ共謀者ハ其ノ一人ヲ通シテ各自己ノ犯意ヲ遂行シタルモノニシテ自ラ實行ヲ爲シタルト同一ナルヲ以テ共謀者ハ總テ共同正犯タルヘキモノトス（大正六・九・二七）

○同　旨　數人共謀シテ詐欺罪ヲ遂行スル爲其手段方法ヲ劃策シ共謀者中ノ一人ニ於テ共同ノ犯意ニ基キ欺罔行爲ヲ實行シ財物ノ交付ヲ受ケタルトキハ其共謀者ノ一人ハ自己及他ノ共謀者ノ爲ニ犯罪ノ實行ヲ爲シタルモノニシテ他ノ共謀者ハ其一人ヲ通シ犯意ヲ遂行シタルモノト爲スヘキヲ以テ同共謀者ハ詐欺罪ノ共同實行正犯ヲ以テ論スヘク教唆若クハ從犯ノ罪責ニ任スヘキニ非ス（大正九・二・一六）

○同　旨　詐欺罪ニ於テ數人共謀ノ上畫策シタル欺罔手段ノ實現ハ必スシモ共同シテ之ヲ行フヲ要セス其ノ内ノ一人ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得ヘク此ノ場合ニ於テハ他ノ共謀者ハ其ノ一人ヲ通シテ各自己ノ犯意ヲ遂行シタルモノニシテ自ラ實行ヲ爲シタルト同一ナルヲ以テ共謀者ハ總テ共同正犯ヲ以テ論スヘク從犯ノ罪責ニ任スヘキモノニ非ス（昭和五・四・一〇）

○共同暴行者ノ責任　數人共謀シ各自他人ニ暴行ヲ加ヘタル以上ハ各自ノ爲シタル傷害ノ輕重若クハ其有無ニ拘ラス擔シテ實行スルヲ得ヘキニ依リ其一ノ實行ニ干與シタルトキハ他ノ一ノ實行ニ干與セサルモ其罪ノ共同正犯タル刑責ヲ免ルルヲ得ス（大正六・五・一〇）

卷	頁	
二	三二八	憲兵カ被告ノ電話通告ヲ輕信シ職務上逮捕シ得ヘキモノト誤解シ被害者ヲ逮捕シタル以上ハ憲兵ハ機械的ニ行動ヲ爲シタルモノニシテ被告ニ於テ不法逮捕ノ間接正犯タル責任ヲ免レサルモノトス
三	一	刑法第六十條ニ所謂犯罪ノ實行トハ直接ニ犯罪ノ特別構成要件タル行爲ニ加擔スルカ若クハ犯罪ノ特別構成要件ニ密接必要ナル行爲ヲ爲スヲ謂フモノトス
三	三八三	共謀シテ犯罪ヲ遂行センコトヲ畫策シ一人ハ單ニ畫策ニ加リタルニ止マリ他ノ一人ノミカ犯罪ノ特別構成要件タル行爲ヲ爲シタル場合ニ於テハ單ニ畫策ニ加リタル者ハ共同正犯タルヘキモノニ非ス
三	三八三	詐欺罪恐喝罪ニ於テハ共謀ノ上畫策シタル欺罔若クハ恐喝ノ手段ノ實現ハ必スシモ共同シテ之ヲ行ハシムルコトヲ得ヘク共謀者ハ自ラ實行ヲ爲シタルト同一ナルヲ以テ總テ共同正犯タルヘキモノトス
三	三八三	數人共謀シテ人ヲ欺罔シテ財産上不法ノ利益ヲ得ンコトヲ企テ其目的ヲ遂行シタル以上ハ共謀者中其犯罪ノ特別構成要件ノ一ナル欺罔手段ノ實行ニ干與シ他ノ一ナル財産上不法ノ利益取得ノ實行ニ干與セサル者アルモ分

卷	頁	
四	一〇一	
四	一〇一	
四	四二七	
七	四	
七	二六六	

ノトス（大九・一一・四）

○強盗ノ見張ト家宅侵入罪

家宅侵入ノ一人カ強盗ノ為メ他ノ一人ヲ殺害シ共謀シ強盗ヲ為サンコトヲ謀リテ家宅ニ侵入シ他ノ一人ヲ殺害シ立チ去ラシメ家宅ニ侵入

適用ヲ示スニ際リ特ニ之ヲ掲記スルノ要ナシ（昭和九・一一・一五）

○殺害行爲ノ分擔ト正犯ノ罪責　甲乙共謀シテ同時ニ丙丁ヲ殺害センコトヲ企テ甲ハ丙ヲ乙ハ丁ヲ殺害スヘク各自ノ分擔ヲ定メ之ヲ實行シタルトキハ甲乙ハ相互ニ他ノ行爲ヲ利用シ共同ノ目的ヲ遂行シタルモノニシテ甲ハ丁ニ對シ又乙ハ丙ニ對シ直接手ヲ下シタルモノニ非スト雖各共犯者ノ一人ノ行爲ハ互ニ他ノ一人ノ行爲ノ一部ヲ爲シ共同シテ犯罪ヲ實行シタルモノト謂ヒ得ヘキヲ以テ甲乙何レモ其各個ノ殺人行爲ニ付實行正犯ノ罪責ヲ負フヘキハ當然ナリ（大正一一・二・九）

○人ヲ殺害シタル場合ニ於ケル共同正犯ノ罪責　數人カ人ヲ殺害センコトヲ共謀シ共ニ射撃シ其目的ヲ達シタル場合ニハ各自ヲ正犯トシテ處斷スヘク其死因カ何人ノ射撃ニ因リタルヤヲ問ハス共犯者全員ニ於テ刑法上ノ責任ヲ負擔スヘキモノトス從テ共犯者中氏名不明ナル者アル場合ト雖氏名ノ明白ナルモノヲ處斷スル上ニ於テ何等支障ヲ來スヘキモノニ非ス（大正一一・六・一二）

○共同過失死傷罪ト共犯規定適用ノ有無　二人ノ業務上ノ共同過失ニ因リ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ共犯規定ノ適用ナク其各自ニ對シテ刑法第二百十一條ヲ適用處斷スヘキモノトス（大正一一・五・二二）

○共同正犯ノ觀念　共同正犯トハ犯罪ノ特別構成要件タル行爲ノ實行ニ直接加擔シタル者ノミナラス汎ク數人共同シテ犯罪ノ實行ヲ謀議シ共謀者中ノ一人又ハ數人ヲシテ其ノ實行ヲ擔任セシメ因テ犯罪ヲ遂行シタル者ヲモ指稱シ智能的犯罪タルト否トニ依リ區別スヘキニ非スト解スルヲ正當トス（昭和七・四・六）

○犯罪ノ實行ヲ分擔セサル共謀者ト共同正犯　所謂智能的犯罪タルト否トヲ問ハス數人犯罪ノ實行ヲ共謀シ共謀者ノ或者カ其ノ特別構成要件タル行爲全部ノ實行ヲ他ノ者ヲシテ擔任セシメタルトキハ擔任者ヲ利用シテ其ノ犯意ヲ遂行スルコトヲ得ルハ數人カ各自犯罪ノ特別構成要件タル行爲ノ一部ヲ實行シタル場合ニ於ケル他ノ部分ニ對スル關係ト其ノ理ヲ異ニスルモノニ非サルヲ以テ擔任者ニ於テ犯罪ノ特別構成要件タル行爲ノ全部ヲ實行シタルトキハ其ノ單ニ共謀者タルニ止マル者モ共同正犯トシテ罪責ヲ負擔スヘキモノトス（昭和八・二・六）

○通貨僞造ノ謀議ト其ノ實行正犯　數人カ行使ノ目的ヲ以テ通貨ヲ僞造センコトヲ謀議シ之ニ基キ其ノ內ノ或者カ通貨ヲ僞造シタル以上他ノ共謀者モ亦通貨僞造罪ノ實行正犯タル罪責ヲ免レサルモノトス（昭和九・一・二九）

第六十一條

○連續犯ヲ教唆シタル者ノ責任　人ヲ教唆シ連續シテ犯罪ヲ實行スル決意ヲ生セシメ因テ犯罪ノ實行ニ至ラシメタル者ハ教唆者タル責任ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス（大正二・六・三〇）

○教唆罪成立ノ要件　方法ノ如何ヲ論セス苟モ他人ヲシテ犯罪ノ決意ヲ生セシメタル以上ハ教唆ノ責任モ亦連續犯ナリトス（明治四四・八・七）

○死體ノ膽嚢領得ヲ教唆シ且之ヲ收受シタル者ノ罪責　人ヲ教唆シテ死體中ヨリ膽嚢ヲ領得セシメタル後更ニ之ヲ受領シタルトキハ教唆罪ノ外別ニ贓物收受罪ヲ構成スルモノトス（明治四四・八・七）

○親族ノ爲メニスル意思ヲ以テ教唆者ヲ教唆シテ教唆罪ヲ犯サシメタル者ノ罪責　縱令其親族ノ爲メニスル意思ナリト雖刑法第六十一條第二項ノ責罰ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス（大正二・六・三〇）

○宣誓無能力者ト僞證ノ教唆ノ教唆　法律上自カラ證人トナリ宣誓ヲ爲スヘキ能力ナシト雖教唆者ヲ教唆シ僞證ノ教唆ヲ爲サシメタルトキハ教唆者ノ教唆トシテ處罰ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス（大正二・六・三〇）

○數人ヲ教唆シタル者ノ罪責　教唆犯ハ其正犯ニ準シ同一罪責ヲ負擔スヘキモノナレハ數人ニ對シ罪ヲ犯サンコトヲ教唆シ各罪ヲ犯サシメ數個ノ正犯ヲ成立スルニ至ラシメタルトキハ其教唆カ單一ノ意思發動ニ基キタルト否ト又

二二巻　六四四頁　九八　六八　五五　三八　一九　九　九

數人ノ正犯ノ侵害シタル法益カ單一ナルト否トヲ問ハス教唆者ハ其數個ノ正犯ニ對シ各獨立シテ教唆犯ノ罪責ヲ負擔セサルヘカラス（大正七・一二・一九）

○同　旨　數人ニ對シ犯罪ヲ實行スヘキコトヲ教唆シテ各人ニ付各個獨立ノ正犯ヲ成立スルニ至ラシメタルトキハ縱令其ノ教唆カ單一ノ意思發動ニ基キ各正犯ノ侵害シタル法益カ單一ナル場合ト雖教唆者ハ併合罪トシテ罪責ヲ負擔スヘキモノトス（昭和五・一二・八）

○本條ニ所謂正犯ニ準スノ意義　刑法第六十一條ニ所謂正犯ニ準ストハ教唆者ニ科スル刑ヲ被教唆者ニ科スル刑ト同一ニストノ意ニ非ス教唆者ノ行爲ヲ正犯行爲ニ準シ正犯トシテ處罰ストノ謂ニ外ナラサルヲ以テ教唆者ニ對シテ被教唆者ニ科シタル刑ヨリモ重キ刑ヲ量定スルヲ妨ケス（大正九・一一・四）

○豫備罪ト教唆犯ノ成立　教唆犯ハ刑法カ特定ノ構成要件ヲ規定セル犯罪ニ付テハ勿論之等犯罪ノ豫備ニシテ特ニ獨立ノ犯罪トシテ刑ヲ定メタルモノニ付テモ亦成立シ得ヘキモノトス（昭和六・四・二三）

○實行正犯ヲ教唆シタル者ノ豫備罪ニ對スル責任　一般ニ犯罪ノ豫備ハ其ノ實行ノ前提トシテ之ニ至ルヘキ當然ノ過程ニ在ル行爲ナルカ故ニ正犯カ單ニ罰セラルヘキ豫備ヲ爲シタルニ止マリ實行ヲ爲サスシテ止ミタルトキハ其ノ實行ヲ豫メ教唆シタル者ハ當然其ノ豫備ニ付教唆ノ責ニ任スヘキモノトス（昭和六・四・二三）

○教唆犯成立ノ場所　教唆犯ハ他人ヲ教唆シテ犯罪ノ意思ヲ決定セシメ被教唆者ヲシテ其ノ犯意ヲ實行セシムルニヨリテ成立シ他人ヲ教唆スルコトノミニ基キ正犯行爲ノ行ハルルコトハ共ニ成立ノ要件ナルヲ以テ正犯行爲ノ行ハルル場所ハ教唆犯成立ノ場所ナリト謂フヘク正犯行爲カ其ノ罰則ノ施行セラルル區域内ニ於テ行ハルル以上ハ教唆カ右區域外ニ於テ爲サレタルトキト雖教唆犯ノ成立ヲ認メ該罰則ヲ適用スヘキモノトス（昭和九・一二・一〇）

○教唆後正犯實行前ニ於ケル教唆ノ取消ト教唆犯ノ成否　犯罪ヲ教唆シタル後縱令之レカ取消ノ意思ヲ表示シ又ハ犯行ヲ爲ササラシムヘク努ムルトコロアルモ現實ニ其ノ犯意ヲ繰サシメ又ハ犯行前ニ之ヲ防遏スルコトナクシテ被教唆者ニ於テ該教唆ニ基キ犯罪ノ實行ヲ爲スニ至リタルトキハ教唆ノ罪責ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス（昭和九・一二・六）

第六十二條

○他人ニ行使セシムル目的ヲ以テ僞造貨幣ヲ交付シタル行爲ト僞造貨幣輸入罪ノ從犯　他人ヲシテ行使セシムル目的ヲ以テ僞造貨幣ヲ交付シタル行爲ハ獨立罪ヲ構成スルモノニシテ其他人カ犯シタル僞造貨幣輸入罪ノ從犯タルモノニ非ス（大正四・一二・一六）

○從犯ノ行爲カ罪トナルヘキヤ否ヤヲ決スル標準　從犯ノ行爲カ罪トナルヘキヤ否ヤハ正犯ノ行爲カ罪トナルヘキヤ否ヤニ因リテ決スヘキモノトス（大正五・二・三）

○從犯ノ行爲カ連續犯ナルヤ否ヤヲ決スルノ標準　從犯ノ犯罪ハ正犯ノ犯罪ニ附隨シテ成立スルモノナレハ從犯ノ行爲カ連續犯ナルヤ否ヤハ正犯ノ行爲カ連續犯ヲ成スヤ否ヤニ因リ之ヲ決セサルヘカラス（大正七・二・一八）

○正犯ノ行爲カ一罪ヲ構成スル場合ト數回連續セシ從犯行爲ノ處分　正犯ノ行爲カ數罪ヲ成立セシテ一罪ヲ構成スルモノナルトキハ從犯ノ行爲カ連續シテ數回ニ行ハレタリトスルモ其行爲ハ一罪タル正犯行爲ヲ幫助スルニ過キサルモノトス（大正七・二・一八）

○刑法第二百四十條後段ノ從犯ト死亡ノ結果ニ對スル認識ノ有無　刑法第二百四十條後段ニ所謂致死ノ觀念中ニハ犯人ニ於テ死亡ノ結果ヲ認識シタル場合ト之ヲ認識セサル場合トヲ包含スルモノナレハ之カ從犯タルニハ必スシモ從犯者ニ於テ死亡ノ結果ヲ認識シタルコトヲ要セサルモノトス（大正一〇・四・四）

○犯罪豫備中ニ行ハレタル正犯幫助行爲ト從犯　正犯幫助ノ行爲カ正犯ノ犯罪豫備中ニ行ハレタリトスルモ苟

卷	頁
五	三二一
一七	三六七
七	一三七
一八	三〇五
一八	三〇五
三	六五九
二二	六五四
三	二三六
三	二七三
五	三〇
五	三〇
八	一三三

モ正犯カ其幇助ニ因リ進テ犯罪ヲ實行シタルトキハ其實行行爲ノ從犯ヲ構成スルハ言ヲ俟タサル所ニシテ正犯幇助ノ行爲カ正犯ノ犯罪豫備中ニ行ハレタルノ故ヲ以テ豫備行爲ノ從犯タルニ止マルモノト謂フヲ得ス（大正一〇・四・四）

○大正八年制令第七號第一條第一項ノ行爲ヲ幇助シ小銃等購入ノ仲介ヲ爲シタル者ノ罪責　他人カ政治ノ變革ヲ目的トシ多數共同シ安寧秩序ヲ妨害セントシタル行爲ヲ幇助シテ小銃及彈丸購入ノ仲介ヲ爲シタルトキハ大正八年制令第七號第一條第一項ニ該當スル罪ノ從犯ヲ以テ問擬スヘキモノトス（大正一〇・六・一八）

○從犯ノ成立ト幇助行爲ノ態樣　從犯ハ苟モ他人ノ犯罪ヲ幇助スルニ因リテ成立シ其ノ方法ノ如何ハ之ヲ問ハサルカ故ニ犯罪アルコトヲ知リテ其ノ遂行ヲ容易ナラシムルニ於テハ幇助行爲カ正犯ニ對シテ直接ニ爲サルルト其ノ間他人ノ有責又ハ無責ノ行爲ノ介在スルトニ論ナク總テ從犯タルモノトス（昭和九・四・二六）

第六十五條

○身分ニ依リ刑ノ輕重ヲ來スヘキ犯罪ニ於テ身分ナキ共犯者ノ刑責　犯人ノ身分カ犯罪構成要件ニ非シテ窘タ刑ノ輕重ヲ來タスニ過キサル場合ニ在テハ共犯者ノ一人ノ有スル身分ハ其身分ナキ他ノ共犯者ニ影響ヲ及ホササルモノトス（大正三・七・三一）

○犯人ノ身分ニ依リテ構成スヘキ犯罪ヲ來スヘキ犯罪ノ身分ナキ共同正犯者ヲ處罰スル場合ノ判示方　身分ニ依リテ構成スヘキ犯罪ヲ身分ナキ者カ共ニ犯シタルモノトシテ處罰スル場合ニ單ニ共謀シタリトノ判示ニテハ共同正犯タル事實ノ認定トシテ理由不備ノ違法アルモノトス（大正四・三・一）

○占有者ト非占有者ト共謀シテ爲シタル橫領行爲　橫領スルニ當リ占有者ニ非サル者カ其目的物ヲ他ノ容器ニ移シ保管ノ場所ヨリ他ニ搬出スル如キ行爲ヲ爲スニハ必ス之ヲ該行爲ノ承認若クハ現物ノ提供等占有者ノ協力行爲ヲ俟タサルヘカラサル關係ニアルモノナルカ故ニ占有者カ共謀者ノ如上行爲ニ直接手ヲ下ササルノ故ヲ以テ占有者ニハ橫領ノ實行々爲ナキモノト斷スルヲ得サルモノトス（大正八・一〇・四）

○橫領ノ情ヲ知リテ其ノ物ノ處分ノ周旋ヲ爲シタル者ト贓物罪　橫領罪ハ自己ノ占有スル他人ノ物ヲ不法ニ領得スルニ依リ成立スルモノナレハ其占有者ニ非サル者カ占有者ト共謀ノ上橫領ノ意思ヲ決定シ其意思實行ヲ爲シタルトキハ刑法第六十五條第一項第二百五十二條第一項ニ該當スル橫領罪ヲ構成スヘキモノナルモ橫領ノ意思實行ハ苟モ其不法領得ノ意思ヲ外部ニ發現スル行爲アリタル以上特ニ第三者ノ行爲ノ介在及處分行爲ノ完了ヲ要セスシテ直ニ完成スヘキモノナルヲ以テ他人ノ物ノ占有者カ已ニ不法領得ノ意思ヲ決定シ第三者ニ對シ其物ノ處分ノ周旋ヲ依頼スルノ意思表示ヲ爲シタル場合ニ於テハ是不法領得ノ意思ヲ外部ニ發現シタルモノニ外ナラサレハ橫領罪ハ此時ニ於テ完成シ同時ニ其物ハ贓物ヲ組成スルニ至ルヘキヲ以テ其ノ情ヲ知リテ依頼ニ應シ之カ處分ノ周旋ニ從事シタル第三者ノ行爲ハ前示法條ニ該當スル橫領罪ノ共犯ヲ以テ論スヘキモノニ非スシテ當然贓物ニ關スル罪ヲ構成スヘキモノトス（大正八・六・二一）

第二編　罪

第二章　內亂ニ關スル罪

第七十七條

○內亂罪成立ノ要件　內亂罪ノ成立ニハ多衆共同シテ暴動ヲ爲スコトヲ要シ其暴動カ政府ノ顚覆又ハ邦土ノ僭竊其他朝憲紊亂ノ目的ニ出テ且其目的ヲ實行スル手段トシテ行ハルルコトヲ要ス（大正八・九・一八）

巻　頁
八　一三三
八　一八九
二　五三四
二　二三九
三　六九
六　三〇二
六　一六八
六　二九〇

○朝鮮ヲ獨立セシメントスル行爲ト邦土僭竊　朝鮮ヲ獨立セシメントスル行爲ハ帝國領土ノ一部ニ對シ帝國主權ノ實力ヲ排除セントスルモノニシテ所謂邦土僭竊ナルモノニ該當シ朝憲ヲ紊亂スル行爲ナリ（大正八・九・一八）

○朝鮮獨立示威運動ノ性質　朝鮮ノ獨立ヲ希望シ之ヲ多衆共同ノ威力ヲ以テ世上ニ宣示セントスル朝鮮獨立示威運動ハ朝憲紊亂ノ目的ニ出ツルモノナルモ直ニ朝鮮ヲ獨立セシムル希望卽朝憲紊亂ノ目的ヲ實行スル手段ト爲スモノニ非ス（大正八・九・一八）

○朝鮮獨立示威運動ト暴行ノ決意　犯人カ如上ノ示威運動ノ實行ヲ暴行以外ノ方法ニ依ラントスルコトヲ本旨トスルモ其實行ニ際シ之ヲ制止スル者アラハ之ニ對シ暴行ヲ敢テスルモ尙且其實行ヲ繼續センコトヲ決意シタルトキハ其必要ノ發生シタル場合ニ於テ實行方法ヲ暴行ノ手段ニ依ルコトヲ豫メ決意シタルモノト同視スルヲ妨ケス（大正八・九・一八）

○暴行ヲ伴フ朝鮮獨立示威運動ト內亂罪ノ成否　如上ノ場合ニ於テ犯人カ豫期ノ如ク示威運動ノ實行ニ際シ其實行ヲ制止スル者ニ對シ暴行ヲ爲シタリトスルモ該運動カ朝憲紊亂ノ目的ヲ實行スル手段タル關係ニ非サルカ故ニ其暴行モ亦該目的ノ實行手段ニ非サルヲ以テ內亂罪ヲ構成スヘキモノニ非ス（大正八・九・一八）

第七十八條

○內亂ノ陰謀又ハ豫備ノ意義　內亂罪ハ朝憲紊亂ノ目的ヲ以テ暴動ヲ爲スニ依リ成立スルモノナレハ被告等カ舊韓國ノ獨立ヲ企圖シ其目的ヲ達スル爲同志ヲ募リ團體ヲ組織シ兇器ヲ準備シ金錢ヲ募集センコトヲ凝議劃策シ又ハ其ノ劃策ニ基キ一面政治上不穩ニ亙リ一面人ヲ恐喝スヘキ文詞ヲ記述セル文書ヲ他人ニ送付シテ出金ヲ要メ或ハ暴行脅迫ヲ加ヘテ金錢ヲ强奪シ或ハ他ノ資產家ヲ威喝シテ資金調達ヲ容易ナラシムル爲要求ニ應セサル資產家ヲ殺害シ又ハ其家ニ放火スル等ノ行爲ヲ爲スモ其ノ獨立ノ目的ヲ達スル手段トシテ暴動ヲ爲サントスルニ非サルトキハ之ヲ內亂罪ノ陰謀又ハ豫備ヲ以テ論スヘキニアラサルヤ勿論ナルモ若シ其獨立ノ目的ヲ達スル手段トシテ暴動ヲ爲サントスルニアランカ如上被告等ノ凝議劃策及之ニ基ク諸般ノ行動ハ卽チ刑法第七十八條ニ所謂內亂ノ陰謀又ハ豫備ヲ爲シタルモノニ該當スルモノトス（大正九・三・一）

第五章　公務ノ執行ヲ妨害スル罪

第九十五條

○警察官ノ承諾同行ニ對スル拒絕ト公務執行妨害罪　司法警察官ノ犯罪者ナリト認メタルモノニ對スル承諾同行ハ被要求者ノ承諾ヲ條件トシテ之ヲ一定ノ場所ニ同行スル處分ニシテ之ヲ承諾スルト否トハ素ヨリ被要求者ノ任意トスル所ナレハ單ニ之ヲ拒絕シタル場合ハ勿論假令其ノ拒絕ノ意思カ暴行ノ手段ニ依リ表示セラレタルトキト雖其手段カ暴行罪ニ問擬セラルルハ格別之カ爲公務執行妨害罪ヲ構成スヘキモノニアラス又一旦同行ノ要求ニ對シ拒絕アリタル以上ハ最早職務ノ執行行爲ナルモノ存セサルカ故ニ要求者ニ對シ暴行ヲ加フルモ前同樣公務執行妨害罪ヲ構成スヘキ理由ナキモノトス（大正八・八・一一）

○兵卒ナル哨兵ニ對シ暴行ヲ加ヘタル者ト公務執行妨害罪　兵卒ハ官吏公吏ニ非サルハ勿論法令ノ規定ニ依リ公務ニ從事スル職員ニモ非サルニ依リ刑法上ノ公務員ニ該當セス從テ哨兵カ兵卒ナル場合ニ於テ之ニ對シ暴行ヲ加ヘタルトキハ陸軍刑法第六十四條ノ罪ヲ構成スルコトアルモ刑法第九十五條第一項ニ規定スル公務執行妨害罪ヲ構成セス（大正八・九・六）

○憲兵上等兵ニ對スル職務執行妨害罪　憲兵上等兵ハ判任官ノ待遇アリ刑法上ノ官吏ニ該當スルモ其職務ノ執行中ニ非サルトキハ之ニ對シテ暴行ヲ加フルモ刑法第九十五條第一項ノ罪ヲ構成セス從テ憲兵上等兵ナルコトヲ認メ

タルニ止マリ其職務ノ執行中ナル事實ヲ明示セスシテ直ニ同法條ニ問擬スルハ理由ニ不備アルヲ免レス　（大正八・九・六）

○稅務官吏職權執行ノ範疇ト公務執行妨害罪　稅務官吏ノ公務執行ハ密造酒類ヲ捜索スルハ勿論其ノ密造酒類ヲ發見シタル場合ニ於テ其ノ容器及其之ニ關スル物件ノ差押ヲ爲スコトモ亦當然其ノ職權執行ノ範疇ニ屬スルコト疑ヲ容レス從テ稅務官吏カ密造酒類ヲ發見シ其ノ容器ヲ差押ヘントスルニ當リ該容器ヲ破壞シ以テ稅務官吏ノ差押ヲ不能ナラシメタル者ハ公務執行妨害罪ヲ以テ處斷スヘキモノトス　（昭和五・一・三〇）

第六章　逃走ノ罪

第九十九條

○奪取セントスル被拘禁者ノ不存在ト奪取未遂罪　被拘禁者ヲ奪取スル目的ヲ以テ甲官署ニ押寄セタルニ乙官署ニ發送シタル後ナリシトキ其發送ニシテ今少シク遲カリセハ奪取ノ目的ヲ遂クルヲ得タル場合ナルトキハ不能犯ニ非スシテ奪取未遂罪ヲ構成スルモノトス　（大正八・一〇・三〇）

○拘禁官署ノ包圍行爲ト被拘禁者奪取實行著手　敍上ノ場合ニ於テ甲官署ヲ包圍シタル行爲アルトキハ被拘禁者奪取ノ實行ニ著手シタルモノト認ムヘキモノトス　（大正八・一〇・三〇）

○被拘禁者奪取罪ト適法ニ拘禁セラレタルコトノ判示　刑法第九十九條ノ犯罪事實ヲ認ムルニ當リ奪取ノ目的トナリタル被拘禁者カ法令ニ因リテ適法ニ拘禁セラレタル者ナル事實ヲ明示セサルトキハ罪トナルヘキ事實ノ明示ヲ缺如スル違法アルモノトス　（大正八・一〇・三〇）

第七章　犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪

第百三條

○後援スルコトヲ約シテ共犯者ノ氏名ヲ默秘セシメタル者ノ罪責　賭博犯人ヲシテ逮捕處罰ヲ免レシメンコトヲ企圖シ該犯人ヲ自宅ニ集メ已ニ氏名ノ警察官吏ニ知ラレタル犯人等ハ警察署ニ出頭處罰ヲ受ケ其犯罪事實ノ供述ヲ爲スニ該リ他ノ共犯ノ氏名ヲ默秘スヘク其氏名ノ知ラレサル犯人等ハ之ニ因リテ處罰ヲ免カレ各自醵金シテ處罰ヲ受クヘキ犯人等ノ後援ヲ爲スコトトナスヘク勸告シテ之ヲ承諾セシメ因テ以テ處罰ヲ受ケタル犯人等ハ當該官吏ヨリ該犯罪事實ノ審問ヲ受クルニ際シ共犯ノ氏名ヲ供述セス隱避セシメタル所爲ハ刑法第百三條ニ規定セル罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者ヲ隱避セシメタルモノニ該當スルモノトス　（大正三・一一・五）

○犯人藏匿罪ノ成立ト認識ノ程度　刑法第百三條ニハ「罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ云々」ト規定スルニ該ル罪ヲ犯シタル者ナルコトヲ認識シ又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ認識シテ之ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル行爲アルコトヲ要スト解スルヲ相當トス　（大正八・八・一八）

○被藏匿者カ禁錮以上ノ刑ニ該ル者ナルコトノ認識ノ存在ノ推定　被藏匿者カ司法警察官ノ逮捕ヲ避ケ居ル者ナルコトヲ認識シタル事情ヲ基礎トシテ實驗法則上被藏匿者カ禁錮以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者ナルコトノ認識ノ存スルコトヲ合理的ニ推定シ得ラレサルモノニ非ス　（大正八・一二・四）

○本條ニ所謂罰金以上ノ刑ニ該ル罪ノ意義　刑法第百三條ニ所謂罰金以上ノ刑ニ該ル罪トハ其法定刑ヲ標準トシテ立言シタルモノニシテ二種以上ノ選擇刑ノ定アル罪ニ於テ其選擇刑中現ニ罰金以上ノ刑ノ存スルトキハ他ニ罰金

以下ノ刑ノ存スルトキト雖其罪ハ尚同條ニ所謂罰金以上ノ刑ニ該ル罪ニ該當スルモノトス（大正八・一二・四）

○被藏匿者ニ對スル罰條及選擇刑ノ存否ノ知了ト犯人藏匿罪　罪ヲ犯シタル者ヲ藏匿スルニ當リ藏匿者ニ於テ苟モ被藏匿者ノ罪カ罰金以上ノ刑ニ該ルモノナルコトヲ認識シタル以上其罪ハ如何ナル法條ニ該當スルヤ又其罪ニ付他ニ如何ナル選擇刑ノ存スルヤヲ知ルト否トハ犯人藏匿罪ノ成立ニ何等ノ影響ナキモノトス（大正八・一二・四）

○被藏匿者ノ處罰ヲ免レシムル目的ノ有無ト藏匿罪　藏匿者カ被藏匿者ノ罰金以上ノ刑ニ當ル罪ヲ犯シタルモノナルコトヲ認識シテ之ニ發見逮捕ヲ避ケ得ヘキ場所ヲ供給シタル行爲アルトキハ刑法第百三條犯人藏匿罪ヲ構成スルモノニシテ該行爲カ被藏匿者ノ處罰ヲ免レシムルノ目的ニ出テタルコトハ同罪ノ成立ニ必要ナル要件ニ非ス（大正八・一二・四）

第八章　騒擾ノ罪

第百六條

○騒擾罪ノ成立上其多衆相互間ニ意思共通ノ要否　騒擾罪ハ多衆集合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲スニ因リテ成立シ其多衆ノ相互間ニ意思ノ共通アルコトヲ要スルモノニ非ス（大正六・一二・一七）

○騒擾ニ伴フ暴行脅迫行爲ノ擬律　刑法第百六條ノ騒擾罪中ニハ同法第二百二十二條ノ暴行脅迫ヲ包含スルノ法意ナリト解スヘク此場合ニ騒擾罪ト暴行罪若クハ脅迫罪トノ數罪ノ成立ヲ認ムヘキモノニ非スト雖モ暴行脅迫ニ關シ特ニ刑法其他ノ法令ニ規定アリテ別ノ罪ヲ構成スルモノノ如キハ包括的ニ觀察シテ騒擾ノ一罪ノミニ依リ處斷スヘキモノニ非スシテ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルモノトシ處斷スヘキモノトス（大正六・一二・一七）

○本條第二號ニ所謂指揮ノ意義　刑法第百六條第二號ニ所謂指揮ハ言語其他ノ方法ニヨリ群衆ニ對シ其向フ所ヲ指圖スルヲ指稱スルモノニシテ特ニ言語以外ノ行爲ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要スルモノニ非ス（大正六・一一・一七）

○單ニ率先シテ騒擾ノ勢ヲ助ケタル旨敍說セル判決ト本條第二號犯罪事實ノ理由　單ニ率先シテ騒擾ノ勢ヲ助ケタル旨ヲ敍說スルニ止マリ其助勢行爲ヲ具體的ニ明示セサル判決ハ刑法第百六條第二號ニ該當スル犯罪事實ノ敍說トシテ理由ヲ具備セサルモノトス（大正九・二・一六）

第九章　放火及ヒ失火ノ罪

第百八條

○住家ニ直接放火セスシテ導火材料ニ點火シタルモ延燒スルニ至ラサリシ場合ノ處分　犯人カ直接他人ノ住家ニ放火セスシテ住家ニ接スル他ノ物體ヲ導火材料トシ因テ住家ヲ燒燬シ得ヘキコトヲ認識シ該物體ニ點火シ其燃燒作用ヲ繼續シ得ヘキ狀態ニ措キタル場合ハ縱令住家ノ一部ニ延燒スルニ至ラサリシトキト雖モ刑法第百八條ノ犯罪ノ實行ニ著手シタルモノニシテ同條犯罪ノ未遂ヲ以テ論スヘキモノトス（大正五・九・七）

○放火罪ノ既遂ト燃燒ノ程度　犯人カ放火ノ目的物タル他人ノ住家ニ點火シ燃燒作用ノ繼續シ得ヘキ狀態ニ至リタルトキハ縱令其燃燒カ住家ノ一部ニ止マルトキト雖放火罪ノ既遂ヲ以テ論スヘキモノニシテ必スシモ其目的物ノ主タル效用ヲ不可能ナラシムル程度ニ達スルヲ要スルモノニアラス（大正六・三・三一）

○宿直室ノ設備アル面事務所廳舍ニ放火シタル場合ノ擬律　同一建造物内ニ宿直室ノ設備アル面事務所ノ廳舍ニ放火シ之ヲ燒燬シタルトキハ刑法第百八條ノ火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用スル建造物ヲ燒燬シタル罪ヲ構成スルモノトス（大正六・一一・二二）

○放火ノ實行行爲ノ著手　放火ノ目的ヲ以テ石油瓶ヲ椽側ニ投棄シ石油ヲ振撒キ燐寸ヲ摺テ之ニ點火セントスル

巻	頁
六	三九九
六	三九九
六	三九九
四	五二四
六	三九九
四	五二四
四	五三四
七	一
三	四五五
四	五三
四	四九四

○放火罪ノ既遂ト燃燒ノ程度

犯人カ放火ノ目的物タル他人ノ住家ニ對シ燃燒作用ヲ營ムニ適スル物體ヲ點火シ得ヘキ狀態ニ置キ之ニ因リ其ノ一部ニ止マラス其ノ全部ニ延燒スルニ至ルヘキ火勢ヲ生シタルトキハ縱令其ノ燃燒カ住家ノ一部ニ止マリ又ハ他人ノ住家ニ非サルトキト雖放火罪ノ既遂ヲ以テ論スヘキモノニシテ必ス燃燒シタルモノ即チ目的物ノ主タル部分ニ火力カ延燒シタルコトヲ要スルモノニアラス（大正六・三・一一）

第百十二條

タルト燃燒ノ程度ニ達スルヲ要スルモノニアラス（大正六・三・一一）

○犯罪行爲成立ノ段階ニ於ケル豫備

犯罪行爲ノ成立ノ段階ニ於ケル豫備トハ犯罪ノ決意ヲ一歩ヲ進メタル準備行爲ニシテ未タ犯人ノ實行ノ著手ニ至ラサルモノヲ謂ヒ其ノ實行ノ著手ニ著セルト否トハ問フ所ニ非ス（昭和六・四・一）

第百十三條

○放火ノ見張ト共犯者ノ罪責

放火ノ見張ハ犯罪ノ遂行ニ對スル妨害ヲ排除スル犯罪ノ實行ヲ確保スル勢ヲ探リタルトキハ已ニ放火ノ實行ニ著手シタルモノト謂フヘク指頭ヲ負傷シ又ハ故意ナク知ラスシテ點火スルニ至リタルトキハ其ノ負傷ニ因リ其ノ目的ヲ遂ケサリシモ即チ外ラレ其ノ所爲カ意外ノ障礙

二四）

○汽車ノ煤煙ニ因ル失火ト運轉手ノ責任　汽車ノ機關車ノ設備ニシテ火粉ノ飛散ヲ防止シ得サル以上列車ノ遲延時間ヲ回復センカ爲多少投炭量ヲ增加シタリトスルモ火粉ノ飛散シテ林野ヲ燒失スル危險ハ粉炭ノ使用ト設備自體ニ於テ既ニ存スルモノト謂フヘク此ノ設備ノ下ニ粉炭ヲ使用シテ列車ヲ運轉セサル可ラサル運轉手ニ對シ失火ノ責任ヲ歸セシムルハ甚タ酷ニ失スルヲ以テ其ノ責ニ任セシムヘキモノニ非ス（昭和一〇・七・四）

第十章　溢水及ヒ水利ニ關スル罪

第百二十三條

○水利妨害罪ト被害者　水利妨害罪ハ水流ノ沿岸ニ於ケル不定多衆人ノ水流ヲ使用スル權利ヲ妨害スルニ非サレハ成立セサルモノニ非ス特定シタル一人ノ水流ヲ使用スル權利ヲ妨害シタル時モ亦同罪ヲ成立スルモノトス（大正四・二・八）

○自己ノ所有地ヲ經過シテ流下セシムル義務アル場合故意ニ排水ヲ妨害シタル者ノ刑責　甲者カ自己ノ所有地ヲ經由セシメテ乙者ノ所有地ノ水ヲ流下セシムル義務アル場合ニ甲者カ故意ヲ以テ右排水ヲ妨害シタル時ハ水利妨害罪ヲ構成ス（大正四・二・八）

○無權利者ノ他人所有地ノ利用ニ因ル排水ノ阻止ト水利妨害罪　水利妨害罪ハ水利ニ關スル他人ノ權利ヲ侵犯スルコトヲ要件トスルカ故ニ權利ナクシテ事實上他人ノ所有地ヲ利用シテ排水シ居ルニ際シ其ノ他人カ該所有地ノ利用ノ爲ニ地域内ニ或設備ヲ施シタル結果排水ヲ妨クルコトアルモ同罪ヲ構成スルモノニ非ス（昭和一〇・四・一）

頁	節
四	五四三
二二	六六四
三	二四
三	二四
二二	六二四

第十一章　往來ヲ妨害スル罪

第百二十九條

○列車機關士ノ注意義務　列車ノ機關士ハ常ニ線路ノ狀態及牽引車輛ノ性能等ニ留意シ之等ノ狀況ニ應シ適宜速度ノ調節ヲ圖ルヘク又制動機ノ使用カ却テ危險ヲ誘發スル虞アルトキハ之ヲ避クル等脫線ノ危險ニ對シ細心ノ注意ヲ爲スヘキ業務上ノ義務アルモノトス（昭和一一・一一・三〇）

第十二章　住居ヲ侵ス罪

第百三十條

○竊盜ノ目的ノ家宅侵入ト强盜殺人　竊盜ノ目的ヲ以テ家宅内ニ侵入シタル後家人ニ誰何セラレタルヨリ殺意ヲ生シ家人ヲ殺害シテ財物ヲ强奪シタル所爲ハ竊盜殺人ニ非スシテ强盜殺人ナリトス

前示ノ場合ニ於テハ刑法ノ家宅侵入罪ト刑法大全第四百七十八條ノ罪トニ該當スルヲ以テ併合罪トシテ處斷スヘキモノトス（大正四・一・二八）

○强盜ノ見張ト家宅侵入ノ責任　家宅ニ侵入シテ强盜ヲ爲サンコトヲ共謀シ共犯者ノ一人カ强盜ノ爲被害者ノ家宅ニ侵入シタルトキハ他ノ共犯者ハ縱令其際ハ室外ニ立チテ見張ヲ爲シタルニ止マリ現實家宅侵入實行行爲ヲ爲ササリシトスルモ家宅侵入ノ共同正犯ノ責ヲ免ルルヲ得ス（大正九・六・三）

○姦通ト住居侵入　他人ノ妻ト姦通スル目的ヲ以テ其居住ニ入ラントスルトキハ本夫タル居住權者カ被告ノ住居ニ入ルコトヲ認容スル意思ヲ有スト推測シ得ヘキモノニ非サレハ妻カ之ニ承諾ヲ與フルモ本夫ニ對シ何等效力ヲ生スヘ

頁	節
二	六八五
三	七
七	八三

キモノニ非ス（大正一〇・六・三〇）

○他人ノ妻ノ案内ニ依リ其ノ夫殺害ノ爲夫ノ住居ニ立入リタル場合ト住居侵入罪　或者カ他人ノ妻ト共謀シ其ノ同居ノ夫ヲ殺害スル目的ヲ以テ妻ノ案内ニ依リ夫ノ住居ニ立入リタルトキハ住居管理權者タル夫ハ之ヲ認容セサル意意ヲ有セシモノト推測スルヲ相當トスルカ故ニ此ノ場合ニ於ケル妻ノ承諾ハ夫ノ承諾ニ代ル效力ヲ有スルモノニ非ス從テ其ノ者ノ右行爲ハ住居侵入罪ヲ構成スルモノトス（昭和三・一一・八）

○組合員ノ組合事務所ノ侵入ト住居侵入罪　組合員ト雖不法ノ目的ヲ以テ組合事務所内ニ侵入シタルトキハ組合管理者ハ該組合員ノ侵入行爲ヲ許諾スル意思ヲ有スルモノトハ推測シ得ヘカラサルカ故ニ斯ル行爲ハ刑法第百三十條ニ所謂故ナク人ノ住居ニ侵入シタルモノニ該當スルモノトス（昭和七・四・七）

第十四章　阿片煙ニ關スル罪

第百四十條

○阿片煙及阿片煙吸食器具ヲ所持シ阿片煙ヲ吸食シタル者ノ罪責　阿片煙及ヒ阿片煙吸食器具ヲ所持シタル以上ハ自ラ其阿片煙ヲ吸食シ又ハ該器具ヲ其吸食ノ用ニ供シタルト否トヲ問ハス刑法第百四十條ノ犯罪ヲ構成ス從テ阿片煙及阿片煙吸食器具ヲ所持シ阿片煙ヲ吸食シタルトキハ阿片煙吸食罪ノ外阿片煙及阿片煙吸食器具所持ノ罪成立スルモノトス（明治四四・八・三）

○阿片煙吸食器具所持罪ト其ノ器具所有權トノ關係　刑法第百四十條ニ規定スル阿片煙吸食器具ノ所持罪ハ販賣ノ目的以外ニ於テ其器具ヲ所持スルニ因リ成立スルモノナレハ所持ニ付認識即チ故意アルヲ要スルコトハ言ヲ俟タサルモ器具ニ對シ所持者カ所有權ヲ有スルコトハ本罪ノ構成要件ニ非ス（大正七・二・二一）

卷	頁
八	二一二
一五	一七
一九	三二八
一一	六六
五	三八

○阿片煙吸食器具所持罪ト器具所持ノ目的トノ關係　刑法第百四十條ニ於テ阿片煙吸食器具ヲ所持スル行爲ヲ處罰スルハ其目的阿片煙ヲ吸食スルノ行爲ナカラシメンコトヲ期スルニ在リト雖所持者カ自ラ吸食スル爲メ所持スルコトハ本罪ノ構成要件ニ非ス故ニ或ハ他人ニ吸食セシムル目的ヲ以テ所持シ或ハ好奇心ヲ以テ所持スルコトアルモ本罪ヲ構成スヘク要スルニ本條ノ所持罪ハ所持カ販賣ノ目的ニ出テサルニ於テハ其目的ノ如何ハ之ヲ問フコトヲ要セスシテ其罪ヲ構成スルモノトス（大正七・二・二一）

第十六章　通貨僞造ノ罪

第百四十八條

○通貨僞造ノ謀議ト其ノ實行正犯　數人カ行使ノ目的ヲ以テ通貨ヲ僞造センコトヲ謀議シ之ニ基キ其ノ内ノ或者カ通貨ヲ僞造シタル以上他ノ共謀者モ亦通貨僞造罪ノ實行正犯タル罪責ヲ免レサルモノトス（昭和九・一・二九）

○通貨ヲ僞造行使シ因テ不正ニ財物ヲ領得シタル行爲ノ擬律　通貨ヲ僞造シテ之ヲ行使シ因テ不正ニ財物ヲ領得シタルトキハ僞造通貨ノ行使ヲ手段トシテ詐欺罪ヲ行ヒタルモノニシテ僞造通貨行使罪ノ外ニ別ニ詐欺罪ヲ構成スヘク而シテ此兩者ハ手段結果ノ關係アルヲ以テ刑法第五十四條第一項後段ニ依リ牽連ノ一罪ヲ成スモノトス（大正七・二・七）

第百四十九條

流通

○本條第一項ニ所謂流通　刑法第百四十九條第一項ニ規定スル内國ニ流通スル外國ノ貨幣云々トアル流通ノ文字ハ事實上ノ使用ヲ指示スルモノニシテ强制的使用ヲ指示スルモノニ非ス（大正四・一二・一六）

卷	頁
五	三八
二一	四七七
五	一三
三	二三六

○同　旨　刑法第百四十九條第一項ニ規定スル内國ニ流通スル外國ノ貨幣云々トアル流通ノ文字ハ事實上ノ使用ヲ指示スルモノニシテ强制的使用ヲ指示スルモノニ非サレハ同條ノ犯罪ノ成立スルニハ僞造セラルル外國貨幣カ法律上内國ニ於テ通用力ヲ有スルコトヲ要セス（大正九・八・二六）

○帝國領土ノ一小地域ニ流通スル場合ト本條第一項　刑法第百四十九條第一項ノ内國ニ流通スル外國ノ貨幣云々ノ規定ハ帝國ノ領土全體ニ渉リ流通スルヲ要スルノ旨趣ニ非ス領土内ノ一小地域ニ流通スル場合ト雖モ同條ノ適用アルモノトス（大正四・一二・一六）

其他

○帝國内ニ於テ流通スル外國貨幣ヲ帝國外ニ於テ僞造シタル者ノ處分　帝國内ニ流通スル外國貨幣ヲ帝國外ニ於テ僞造シタル被告ニ對シテハ公訴不受理ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス（大正四・一二・一六）

○僞造貨幣交付ト輸入從犯トノ關係　他人ヲシテ行使セシムル目的ヲ以テ僞造貨幣ヲ交付シタル行爲ハ獨立罪ヲ構成スルモノニシテ其他人カ犯シタル僞造貨幣輸入罪ノ從犯タルヘキモノニ非ス（大正四・一二・一六）

○貨幣僞造ノ犯罪事實ノ摘示トシテ模擬ノ程度ノ判示方　貨幣僞造ノ犯罪事實ノ摘示トシテハ僞造セラレタルモノカ如何ナル種類ノ眞貨ニ模擬セラレタルモノナルコト模擬ノ程度カ僞造ト認ムヘキモノナルコトヲ知リ得ルヲ以テ足リ模擬ノ程度若クハ眞貨ノ如何ナル部分ニ如何ナル程度ヲ以テ類似セルヤヲ逐一說明スルヲ要セス（大正四・一二・一六）

第百五十三條

○本條ニ所謂器械ヲ準備シタルモノ　銀貨ヲ僞造スルノ目的ヲ以テ所持ノ大理石ノ板片ニ其鑄型ノ彫刻ヲ依頼シ彫刻師ニ於テ未タ其彫刻ニ著手セサル場合ノ如キハ刑法第百五十三條ニ所謂貨幣僞造ノ用ニ併スル器械ヲ準備シタルモノト謂フヲ得ス（大正元・一二・一二）

巻 七　頁 一二九
三 三六　三一
三 三六　三二
三 三六　三三
三 三六　三三
三 三六　三七
二 八

第十七章　文書僞造ノ罪

第百五十五條

○供託金領收證ノ性質ト公文書　朝鮮銀行元山支店ハ大正十一年制令第二號ニ依リ供託法第一條ニ依ル供託事務ヲ取扱フモノナレハ公務所タルコト論ナキカ故ニ同元山支店カ其ノ名義ヲ以テ作成シタル供託金十圓ノ領收證ハ公文書ナリ（昭和八・六・一五）

○公文書僞造罪ノ成立要件　公文書僞造罪ノ成立スルニハ僞造文書ノ形式内容カ一般人ヲシテ公務所又ハ公務員ノ權限内ニ於テ作成シタル文書ナリト信セシムル程度ニ於テ其形式外觀ヲ具有シ公文書ノ信用ヲ害スル危險アルヲ以テ足ル（大正九・七・八）

○公文書ト私文書ノ各僞造及行使ト連續犯　公文書ト私文書トハ文書ノ性質效用ヲ異ニシ且其ノ罰條ヲモ異ニシ從ツテ其ノ各僞造及僞造文書ノ行使ノ行爲ハ罪質ヲ同シクセサルヲ以テ假令意思繼續シテ右各行爲ヲ反覆スルモ通シテ一個ノ連續犯ヲ構成セサルモノトス（大正一二・八・三〇）

○朝鮮刑事令施行前ニ犯シタル統首洞長又ハ郡守ノ認證、證明ニ關スル文書僞造行使ノ擬律　朝鮮刑事令施行前ニ犯シタル統首、洞長又ハ郡守ノ認證又ハ證明ニ關スル文書僞造行使ノ所爲ニシテ未タ確定判決ヲ經サルモノハ同令第四十五條ニ依リ刑法第百五十五條第一項又ハ同第百五十七條第一項及第百五十八條第一項ヲ適用處斷スヘキモノトス（大正三・七・二三）

○登記濟證僞造ト僞造ノ部分　登記官吏カ不動產登記法第六十條ニ依リ登記ノ完了後登記原因ヲ證スル書面ニ登記濟ナル旨ヲ記載シ登記所ノ印ヲ押捺シテ作成スル登記濟證明書ハ公文書ニシテ該登記原因ヲ證スル書面中ノ記載ヲ

二 三五六　二〇
七 一〇五　一〇
一〇 一〇〇　一〇
二 三九　一一

モ其ノ内容トスルコト勿論ナリト雖其ノ内容ヲ成スハ該書面ノ記載中當該登記ニ關スル登記簿ノ記載ニ該當スルモノノミニ限ルモノトス（昭和三・一二・一三）

○裁判所雇員ト公文書僞造罪　裁判所ノ雇員カ競賣事件ノ執務中行使ノ目的ヲ以テ擅ニ當該裁判所名義ノ帳簿ニ虚僞ノ記入ヲ爲シタルトキハ刑法第百五十五條第一項ノ公文書僞造罪ヲ構成スルモノトス（昭和一一・五・四）

第百五十六條

○不動産ノ認證ニ關スル面長ノ資格　面長ハ一般ノ慣例ニ依リ不動産ニ關スル認證ヲ爲ス職務ヲ有スルモノトス（大正二・四・一六）

○公務員ノ公文書作成ノ權限及形式　公務員カ其ノ名義ヲ以テ一定ノ文書ヲ作成シタル場合ニ於テ其ノ權限及形式ニ付テハ法令ニ特ニ規定ナシトスルモ苟モ慣例上定マリタル權限及形式ニ基キ作成シタルトキハ該文書ハ公文書タルニ妨ケナキモノトス（昭和七・六・三〇）

○土地建物證明規則等ニ依リ認證又ハ證明ヲ爲ス場合ニ於ケル統首洞長及郡守ノ資格　統首、洞長及郡守ハ土地建物證明規則及同施行細則ニ依リ認證又ハ證明ニ關シ公務員ナリトス（大正三・七・二三）

○面長カ自身ノ土地所有者異動申告ニ對シ虚僞ノ認證ヲ爲シタル場合ノ刑責　行使ノ目的ヲ以テ面長カ自己ノ爲シタル土地所有者異動申告ニ對シ虚僞ノ認證ヲ爲シタルトキハ文書僞造罪ヲ構成スルモノトス（大正三・三・三〇）

○僞造ノ委任狀ニ基キ眞所有者ノ所有權保存證明ヲ受ケントスルノ情ヲ知リテ證明ヲ與ヘタル面長ノ刑責　面長カ僞造ノ委任狀ニ基キ擅ニ眞所有者名義ノ土地所有權保存證明ヲ受ケントスルノ情ヲ知リ其證明願書ノ裏面ニ證明ヲ爲シテ交付シタルトキハ刑法第百五十六條ノ文書僞造罪ヲ構成スルモノトス（大正三・四・一六）

卷	頁
一五	四一
二三	六一三
二	一八九
一九	三五八
二三	三一九
二	一八一
二	一八九

○公文書僞造罪ノ成立ニ要スル僞造ノ程度　法令ノ規定ニヨリ作成スヘキモノニ非サルモ苟モ虚僞ノ文書ニシテ其形式外觀ニヨリ一般世人ヲシテ公務員ノ職務權限内ニ於テ作成セラレタル公文書タルコトヲ信セシムルニ足リ且公文書ノ信用ヲ害スル危險アルモノナル以上ハ其作成ハ刑法第百五十六條ノ文書僞造罪ヲ構成ス（大正四・六・三）

第百五十七條

○結數連名簿ノ刑法上ノ性質　結數連名簿ハ刑法第百五十七條第一項ニ規定スル所ノ權利義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ該當スルモノニ非ス（大正三・一二・二八）

○朝鮮刑事令施行前ニ犯シタル統首洞長又ハ郡守ノ認證、證明ニ關スル文書僞造行使ノ擬律　朝鮮刑事令施行前ニ犯シタル統首、洞長又ハ郡守ノ認證又ハ證明ニ關スル文書僞造行使ノ所爲ニシテ未タ確定判決ヲ經サルモノハ同令第四十五條ニ依リ刑法第百五十五條第一項又ハ同第百五十七條第一項及同第百五十八條第一項ヲ適用處斷スヘキモノトス（大正三・七・二三）

○民籍原簿ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル場合ノ擬律　犯人カ民籍法第二條ニ依リ婚家戸主トシテ婚姻ノ申告ヲ爲シタルトキハ刑法第百五十七條第一項ノ罪ヲ構成ス（大正六・五・七）

○典當證明濟契約書ノ成立ト立證ノ責任　證明官吏カ典當權設定ノ證明ヲ爲シ其設定ノ契約書ニ證明濟ノ旨ヲ記入シタルトキハ其記入ノ部分ハ官吏職務上ノ記載ニ係ルヲ以テ之ヲ公正ノ證書トシテ論スルヲ得ヘキモ此記入ノ爲メ其他ノ部分迄公正ノ文書ニ變スルモノニ非ス從テ其契約書ノ成立ニ付爭アルトキハ之ヲ提出シテ利益ヲ主張スル者ニ於テ其眞正ニ成立シタルコトヲ擧證スルノ責アルモノトス（大正七・二・二六）

○契約以外ノ法律行爲ヲ登記原因ト爲シタル場合ノ當事者ノ刑事上ノ責任　當事者間契約ノ内容タル法律

三	一三五
二	三五〇
二	三三九
四	八九
五	一〇二

行爲ヲ以テ登記原因ト爲サシテ當事者ノ合意ニ基ク他ノ法律行爲ヲ以テ登記原因ト爲シタレハトテ朝鮮登錄稅令ノ規定ニ違反スルモノニ非ス（大正七・三・五）

○虛僞ノ賣買價額ヲ以テ登記セシメタル行爲ト本條トノ關係　賣買登記ヲ申請スルニ當リ其賣買カ眞實ニシテ所有權移轉ノ效果ヲ生スルトキハ縱令其登記申請書及登記原因ヲ證スル賣買契約書ニ賣買價額ニ付申請者雙方相通シテ虛僞ノ記載ヲ爲シ登記官吏ヲシテ賣買登記ヲ爲サシムルモ其行爲ハ刑法第百五十七條ニ該當セス（大正七・一二・二八）

○假裝債權額ヲ以テ抵當權設定登記ヲ爲サシメタル者ノ刑責　抵當權ノ設定ハ眞實ナルモ其登記申請ヲ爲スニ當リ申請者相通シ債權ヲ實額以上ニ假裝シテ登記申請書ニ記載シ登記官吏ヲシテ其假裝債權額ノ抵當權設定登記ヲ爲サシメタルトキハ其行爲ハ刑法第百五十七條ニ該當スルモノトス（大正七・一二・二八）

○和解調書ト本條第一項ニ所謂公正證書　民事訴訟法第三百八十一條ニ依ル和解調書ハ（中略）刑法第百五十七條第一項ニ所謂權利義務ニ關スル公正證書ナリ（大正九・六・一九）

○同　旨　申立事項ニ關スルト將又申立人ノ資格ニ關スルトヲ問ハス虛僞ノ申立ヲ爲シ裁判所書記ヲシテ和解調書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ刑法百五十七條第一項犯罪ヲ構成ス（大正九・六・一九）

第百五十八條

○朝鮮刑事令施行前ニ犯シタル統首洞長又ハ郡守ノ認證、證明ニ關スル文書僞造行使ノ擬律　朝鮮刑事令施行前ニ犯シタル統首、洞長又ハ郡守ノ認證又ハ證明ニ關スル文書僞造行使ノ所爲ニシテ未タ確定判決ヲ經サルモノハ同令第四十五條ニ依リ刑法第百五十五條第一項又ハ同第百五十七條第一項及第百五十八條第一項ヲ適用處斷スヘキモノトス（大正三・七・二三）

巻 五 一三七
頁 一三二七

五 一三三九

七 八六

五 一三三九

七 八六

七 八六

三 一三二九

第百五十九條

○僞造文券ノ所有者ノ說示　僞造文券ハ何人ノ所有ニモ屬セサルコトヲ說明スルノ要ナシ（明治四五・六・一三）

○文書僞造行使ト公ノ信用ニ對スル危害　文書僞造行使罪ノ成立ハ公ノ信用ヲ害スル以外ニ於テ更ニ他ノ法益ヲ害スヘキ危險ヲ生スルヲ要セス（明治四五・六・一三）

○文書僞造行使罪ノ成立要件ト法益侵害　他人ノ作成名義ヲ僞リ文書ヲ僞造行使スルニ於テハ之ト同時ニ眞正ナル文書ノ作成名義ニ對スル公ノ信用ヲ害スル危險ヲ生シタルモノトス（明治四五・六・一三）

○文書僞造行使ト其實害ノ說示　行使ノ目的ヲ以テ文券ヲ僞造行使シタリト說示セル以上其以外ニ實害ヲ生シタル理由ノ說明ナキモ違法ニアラス（明治四五・六・一三）

○本條第一項ノ法意　刑法第百五十九條第一項ノ前段ト後段トハ罪質同一ニシテ同一ノ罪トシテ規定セラルルモノトス（大正元・一〇・二五）

○捺印アル領收證用紙ニ署名ヲ記入シテ受領證ヲ僞造シタルトキノ處斷方　一個ノ預金領收證ヲ僞造スルニ當リ捺印アル領收證用紙ヲ使用シ其署名ノ位置ニ署名ヲ記入シテ僞造シタルトキハ押捺シアル印章ヲ使用シタル行爲ト僞造シタル署名ヲ使用シタル行爲トハ之ヲ包括的ニ觀察シテ單ニ第百五十九條第一項ニ該當スル單一ナル僞造罪ヲ以テ論スヘキモノトス

前項ノ場合ニ於テ刑法第百五十九條第一項ノ前段ヲ適用スルモ若クハ後段ヲ適用スルモ又ハ之ヲ區別セスシテ概括的ニ第百五十九條第一項ヲ適用スルモノニ非ス（大正元・一〇・二五）

○文書ノ內容カ眞實ニ合スル場合ト文書僞造罪　苟モ他人ノ作成名義ヲ僞リ文書ヲ僞造シ之ヲ行使シタル場

一三三七

一三三七

一三三七

一三三七

一三三七

一三三

一三三七

二 一三三

合ニ於テハ其内容カ眞實ニ合スル場合ト雖モ文書僞造行使罪ノ成立ヲ妨ケサルモノトス（大正三・四・六）

沒收關係

○僞造文書ト刑法第十九條トノ關係　僞造文書ハ文書僞造ノ所爲ニ付テハ犯罪行爲ヨリ生シタルモノナルト同時ニ僞造文書ヲ行使シタル場合ニ於テハ犯罪行爲ヲ組成シタル物ナリトス

○同　旨　僞造文書ニ依リ重キ僞造文書行使ノ刑ニ從ヒ處斷シタル場合ニ於テモ其僞文書ヲ僞造シ之ヲ行使シタルトキハ刑法第五十四條ニ依リ沒收スルヲ相當トス（大正三・四・六）

僞造文書ニ付テハ同法第十九條第一項第一號同第三號同第二項ニ依リ沒收スルヲ相當トス

○同　旨　僞造文書ハ文書僞造罪ノ方面ヨリ觀察スレハ刑法第十九條第三號ニ所謂犯罪行爲ヲ組成シタル物ニ該當シ僞造文書行使罪ノ方面ヨリ觀察スレハ同條第一號ニ所謂犯罪行爲ヲ組成シタル物ニ該當ス從テ文書僞造罪及僞造文書行使罪ヲ結合シテ一罪ヲ構成スル事案ニ付テハ孰レノ方面ヨリ觀察シテ之カ沒收處分ヲ爲スモ違法ニ非サルヲ以テ該文書ヲ沒收スルニ當リ同條ヲ適用シタル以上ハ特ニ其第何號ニ依リタルヤヲ明記セサルモ不法ニ非ス（大正六・五・三）

○文書ノ作成名義ヲ冒サレタル者ノ害ヲ蒙ルヘキ危險有無ト文書僞造罪　文書僞造罪ノ成立ニ付テハ虛僞ノ文書ヲ作成シテ恰カモ眞正ノ文書ナルカ如クシ以テ法律カ保護スル文書ノ信用ヲ害スヘキ危險アルヲ以テ足リ其以外ニ文書ノ作成名義ヲ冒サレタル者ニ於テ害ヲ蒙ルヘキ危險アルコトヲ要スルモノニ非ス（大正四・六・二一）

○銀行ノ貸付割引事務擔當者ニ對スル僞造ノ保證債務證書ノ交付ト銀行ニ對スル僞造文書行使罪　銀行ノ貸付割引事務擔當者ニ對シテ僞造ノ文書ヲ交付シタル以上ハ銀行ニ對シテ交付シタルト同一ノ效力ヲ有スルニ依リ被告カ銀行ノ貸付割引事務擔當者ニ僞造ノ保證債務證書ヲ交付シタル事實ヲ認メテ僞造文書行使罪アリト爲シタルハ相當ナリ（大正五・二・一四）

○他人名義ノ採用方ノ依賴狀ヲ僞造シ雇入レ主ニ交付シタル者ノ罪責　被告カ自己ノ身分ニ關シ雇入レ主ノ信用ヲ得ル爲メ他人名義ヲ以テ被告人ヲ人夫トシテ採用セラレタキ旨ノ依賴狀ヲ僞造シ之ヲ雇入レ主ニ交付シタルトキハ法律上ノ事項ニ影響ヲ及ホスヘキ事實證明ニ關スル文書ヲ僞造シ之ヲ行使シタルモノナルヲ以テ私文書僞造、僞造文書行使罪ヲ構成ス（大正五・一〇・二）

○借用證書ノ廢紙ニ自己ヲ貸主ト記入シタル場合ト證書全部ノ僞造罪　廢紙ニ歸シタル借用證書ヲ資料トシ其證書記載ノ貸主ノ姓名ヲ削除シ之ニ代ヘテ被告自己ノ姓名ヲ記入シ以テ該證書カ初ヨリ貸主タル被告ニ宛テ交付セラレタル如キ體ニ擬スルニ於テハ證書全部ノ僞造ヲ爲スモノニシテ新ニ證書ノ内容全部ヲ僞造シタル場合ト異ル所ナシ（大正六・五・三）

○婚姻承諾書ニ連署不要者ノ氏名ヲ揭ケテ作成シタル婚姻申告書ト文書僞造行使罪　民籍法上連署ヲ要セサル者ノ氏名ヲ揭ケテ婚姻申告書ヲ作成シ所轄面長ニ提出シタル場合ト雖其者カ婚姻ニ承諾ヲ與ヘタル事實ヲ證明スルニ足ルモノナルトキハ文書僞造行使罪ヲ構成ス（大正六・五・七）

○發信人ノ記名アル賴信紙ト文書僞造　電報規則第二十八條ニ依リ賴信紙中本文ノ末尾若ハ受信人名所ノ下欄ニ記載セラルル發信人ノ氏名ハ受信人ニ電送セラルヘキ通信文ノ内容ヲ成スモノニシテ賴信紙ノ作成名義ニ之ヲ用ユルニ非サルノミナラス受信人ニ電送セラルヘキ通信文ハ電信官署ニ對シテ其電送ヲ依賴スル意思表示ノ内容ヲ成スモノトス故ニ獨リ其内容タル通信文ノミヲ抽出シ受信人ニ對スル關係ニ於テ更ニ又一箇ノ署名アル文書ヲ成スモノト見ルハ妥當ニ非ス（大正七・六・一二）

○電報賴信紙ノ性質　電報規則第二十九條ニ依リ賴信紙ノ端末ニ記載セラルル發信人ノ氏名ハ電信官署ニ於ケル事務取扱ノ用ニ供セラルルニ止マラス賴信紙ノ上部欄外ニ印刷シアル電報賴信紙ノ五文字ト結合シ通信文ノ電送ヲ電信官署ニ對シテ依賴スル旨ノ意思表示ヲ作出スルモノナレハ賴信紙ハ電信官署ニ對スル關係ニ於テ文書タルコト

卷	頁	
三	一八六	
二	一八六	
四	七九	
三	一六三	
三	三一〇	
三	四九八	
四	七九	
四	八九	
五	一九一	

○代表又ハ代理名義ノ冒用ト本人ノ責任　他人ノ代表者又ハ代理人カ其ノ代表若ハ代理名義ヲ用キ文書ヲ作成スル權限ヲ有スル場合ニ其ノ地位ヲ濫用シテ單ニ自己ノ利益圖ル目的ヲ以テ擅ニ其ノ名義ヲ用キ文書ヲ作成スル權限ヲ有スル場合ニ其ノ地位ヲ濫用シテ單ニ自己ノ利益圖ル目的ヲ以テ擅ニ其ノ名義ヲ用キ文書ヲ作成　刑法　第一五九條　文書偽造ノ罪　八九

○委託範圍ヲ超ンテ委託ノ範圍不可分ノ關係アル文書ヲ作成ト文書偽造罪　文書ノ作成ヲ委託セラレタル者カ委託ノ範圍ヲ超ンテ委託ノ範圍不可分ノ關係アル文書ヲ作成スルハ文書偽造罪　大正一二・三・一〇　一〇二

○公文書ト私文書ノ各偽造及行使ト連續犯　公文書ト私文書トハ文書ノ性質及用ヲ異ニシ且其ノ罰條ヲ異ニスルモ通シテ一個ノ連續犯ヲ構成セサルモノトス　大正一二・八・三〇　一〇三

○委託範圍ヲ超ンテ委託ノ範圍不可分ノ關係アル文書ヲ作成スル行爲ハ其ノ各偽造及偽造文書ノ行使ノ行爲ト從ツテ其ノ各行爲ハ同シク罪ヲ目的ヲ以テ假令意思繼續シテ右各行爲ヲ反覆スルモ通シテ一個ノ連續犯ヲ構成セサルモノトス　大正一二・八・三〇　一〇三

○委託範圍ヲ超ンテ委託ノ範圍不可分ノ關係アル文書ヲ作成スル行爲ハ偽造文書ノ行使

書ヲ作成スルモ文書僞造罪ヲ構成セサルハ勿論斯ル文書ニ依リテ爲サレタル意思表示ハ私法上有效ニシテ直接本人ニ對シ其ノ效力ヲ生スルモノトス（昭和四・四・二六）

第百六十條

○仲裁ノ目的ニ出テタル診斷書ノ僞造行使ト其ノ罪責　縱令仲裁ノ目的ニ出テタリトスルモ犯意アリテ診斷書ヲ僞造行使シタルトキハ刑法第百六十條ノ罪責ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス（明治四四・一・一六）

○學校ニ提出スヘキ診斷書ニ爲シタル虛僞ノ記載ト文書僞造罪　學校ニ提出スヘキ病氣届書ニ添附スヘキ診斷書ト雖モ醫師カ虛僞ノ內容ヲ記載シタルトキハ刑法第百六十條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス（明治四四・一・一六）

○本條ニ所謂醫師ノ解釋　刑法第百六十條ニ所謂醫師トハ之ヲ廣義ニ解釋シ醫師法若クハ醫師規則ニ依ル醫師タルト將又醫生規則ニ依ル醫生タルトヲ問ハス汎ク免許ヲ受ケテ醫業ヲ爲ス者ヲ指稱スル律意ナリト解スルヲ妥當トス（大正一一・一一・一一）

第百六十一條

○行使ヲ受ケタル者カ僞造文書ナルコトヲ認識スルノ要否　僞造文書行使罪ハ其文書ヲ行使スルニ依テ成立シ之カ行使ヲ受ケタル者ニ於テ僞造文書ナル事實ヲ了知シタリト否ト又ハ文書ノ眞否如何ヲ認識セサリシト否トノ如キハ右行使罪ノ成立ニ影響ヲ及ホスコトナシ（大正五・二・一四）

第百六十二條

○虛僞記入ノ手形ノ取得ト刑法第十九條ノ適用　商法上ニ於ケル手形ノ僞造モ署名資格ヲ僞リテ手形行爲ヲ爲シタル場合ニ於テノミ成立シ補充權ヲ濫用シテ權限外ノ記入ヲ爲シタルモノハ刑法上虛僞記入罪成立スヘキハ勿論ナルモ手形ノ僞造ニハアラス從テ惡意又ハ重大ナル過失ナクシテ斯ル手形ヲ取得セル者ハ適法ニ手形上ノ權利ヲ取得シ刑法第十九條ヲ適用シ之ヲ沒收スヘキモノニ非ス（大正一四・三・一八）

○本條第二項ニ所謂虛僞記入　刑法第百六十二條第二項ニ所謂虛僞ノ記入トハ有價證券ニ眞實ニ反スル記載ヲ爲ス總テノ行爲ヲ汎稱スルモノニシテ其ノ記入ノ形式カ他人ノ署名ヲ冒スト否トヲ區別スルコトナシ從テ虛僞記入ノ有價證券ハ總テ僞造證券ナリト謂フヲ得サルモノニシテ署名資格ヲ冒用セル場合ニ於テノミ僞造アリト爲スヘキモノトス（大正一四・三・一八）

○他人ノ代表者又ハ代理人ノ權限濫用ニ依ル文書作成ト文書僞造罪　他人ノ代表者又ハ代理人カ一定ノ行爲ヲ爲シ得ヘキ權限上其ノ代表若ハ代理名義ヲ使用シテ文書ヲ作成スルコトヲ得ル場合ナルトキハ偶々其ノ地位ヲ濫用シテ單ニ自己又ハ第三者ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ擅ニ其ノ代表若ハ代理名義ヲ冒用シテ文書ヲ作成スルモ文書僞造罪ハ成立セサルモノトス（昭和二・七・一四）

○本條第二項ノ有價證券虛僞記入　被告人カ爲替手形ヲ所持シ其ノ補充權ヲ濫用シ該手形ニ權限外ノ記入ヲ爲シタル場合ハ刑法上ノ虛僞記入罪成立スヘキハ勿論ナルモ手形ノ僞造罪ヲ構成スヘキモノニ非ス敍上ノ場合ハ刑法第百六十二條第二項ノ虛僞記入罪ニ從ヒ之ヲ處斷スヘキモノトス（昭和五・九・一五）

○所謂空券ト有價證券虛僞記入罪　行使ノ目的ヲ以テ物品ノ寄託ナキニ拘ラス之カ寄託ヲ受ケタル旨虛僞ノ記載ヲ爲シテ倉荷證券ヲ作成スルトキハ刑法第百六十二條第二項ノ罪ヲ構成スルモノトス（昭和九・三・一五）

○有價證券僞造罪ノ成立ト該證券ノ形式　有價證券僞造ノ罪ハ行使ノ目的ヲ以テ形式上人ヲシテ有效ナル有價證券ナリト思料セシメ得ヘキ程度ノモノヲ作成スルニ因リテ成立シ必スシモ有效ナル形式ヲ具備スルコトヲ要スルモノニ非ス（昭和一〇・五・二）

○有價證券僞造罪ノ成立ト滿期ノ記載　約束手形ノ一般要式ヲ具ヘ唯滿期ノ記載カ昭和九年二十四月四日ト爲

巻	頁	
民一六	九九	
一	三六	
一	三六	
九	一三	
三	三一〇	
二三	八	
一四	一五	
一二	八	
一七	三三五	
二一	五〇一	
二三	六三五	

リ居ルモノハ形式上人ヲシテ有效ナル有價證券ナリト思料セシメ得可キモノトス（昭和一〇・五・二）

第十九章　印章僞造ノ罪

第百六十六條

○道地方費ト刑法ニ所謂公務所　朝鮮道地方費令ノ定ムル所ニ依レハ道地方費ハ獨立シテ財產ヲ所有シ事業ヲ經營シ地方稅其ノ他ノ公課ヲ徵收スル等權利義務ノ主體ト爲リ得ルモノニシテ道知事ヲ以テ意思機關及執行機關トスル一種ノ公共團體ト認メタルモノナルコト明白ナルカ故ニ公務所ナルコト疑ヲ容レス（大正一二・一〇・二五）　一〇　一七

○道地方費ノ大豆檢查ニ使用スル證印及記號等ト所謂公務所ノ記號　道地方費カ大豆檢查規則ニ從ヒ大豆檢查ヲ爲スニ當リ使用スル證印及道名記號等ハ刑法第百六十六條第二項ニ所謂公務所ノ記號ニ該當スルモノトス（大正一二・一〇・二五）　一〇　一七

第百六十七條

○捺印アル領收證用紙ニ署名ヲ記入シテ受領證ヲ僞造シタルトキノ處斷方　一個ノ預金證書ヲ僞造スルニ當リ捺印アル領收證用紙ヲ使用シ其署名ノ位置ニ署名ヲ記入シテ僞造シタルトキハ押捺シアル印章ヲ使用シタル行爲ト僞造シタル署名ヲ使用シタル行爲トハ之ヲ包括的ニ觀察シテ單ニ第百五十九條第一項ニ該當スル單一ナル僞造罪ヲ以テ論スヘキモノトス（大正元・一〇・二五）　二　一三

○印章僞造罪ニ所謂行使ノ目的ノ意義　印章僞造罪ニ所謂行使ノ目的トハ僞造印章ヲ眞正ナル印章トシテ使用スルノ意思ヲ指稱スルニ外ナラサルモノトス（昭和九・一〇・三）　二　一三

○印章ヲ僞造シテ權限ニ基ク文書ヲ作成シタル場合ト印章僞造使用罪ノ成立　苟モ他人ノ印章ヲ僞造シ擅ニ之ヲ其ノ者名義ノ文書ニ押捺行使シタル場合ハ縱令該文書ハ正當ナル權限ニ基キテ作成セラレタルトキト雖印章僞造罪ト僞造印章使用罪トヲ構成スルモノトス（昭和九・一〇・三）　二　一三

第二十章　僞證ノ罪

第百六十九條

○其ノ陳述カ本案事件ノ裁判ノ結果ニ影響ヲ及ホスト否トニ關スル僞證者ノ刑責　苟クモ證人トシテ適法ニ宣誓ノ上訊問事項ニ付虛僞ノ陳述ヲ爲スニ於テハ其陳述カ本案事件ノ裁判ノ結果ニ影響ヲ及ホスト否トヲ問ハス僞證罪成立スルモノトス（大正元・一一・二五）　二　二五

○僞證罪ノ構成ト實害ノ有無　僞證罪ハ法律ニ依リ宣誓シタル證人カ訊問事項ニ關シ故意ニ虛僞ノ陳述ヲ爲スニ因リテ成立シ其虛僞ノ陳述カ當該事件ノ裁判ノ結果ニ影響ヲ及ホスヤ否ヤ又實害ヲ生シ若クハ生シ得ヘキモノナルヤ否ヤノ如キハ該罪ノ構成ニ何等ノ關係ヲ有セス（大正四・五・二〇）　三　一三

○僞證罪ノ成立ト陳述者ニ惡意又ハ實害ノ要否　僞證罪ハ法律ニ依リ宣誓シタル證人カ訊問事項ニ關シ故意ニ虛僞ノ陳述ヲ爲スニ因リテ成立スルモノニシテ其虛僞ノ陳述カ他人ヲ害スルノ惡意ニ出テタルコトヲ要セサルハ勿論又裁判ヲ誤マラシムヘキ實害ヲ生シ又ハ生シ得ヘキモノナルコトヲ要セサルモノトス（大正四・五・二〇）　三　一三

○虛僞ノ證言ノ裁判ニ對スル影響ノ有無ト僞證罪ノ成立　苟モ證人トシテ宣誓ノ上虛僞證言ヲ爲ス以上其ノ證言カ直接ノ爭點ニ關スルト將又現ニ裁判ノ結果ニ影響ヲ與フルト否トヲ問ハス僞證罪ハ直チニ成立スルモノトス（昭和一一・八・二四）　三　六九

○證人ノ宣誓シタル事實ノ認定　僞證罪ヲ認ムル場合ニ於テ證人カ宣誓ヲ爲シタル事實ハ宣誓書ノ存在若クハ其

旨ヲ記載セル訴訟記錄ニ據ルニ非サレハ證明スルコトヲ得サルモノニ非ス諸般ノ證據ニ據リテ認定スルヲ妨ケサルモノトス（大正四・九・二）

○證人タル資格ノ有無ト僞證罪ノ成否　證人トシテ宣誓ノ上虛僞ノ陳述ヲ爲スニ於テハ僞證罪ハ成立ス其當時現ニ證人タル資格ヲ有シタルト否トハ僞證罪ノ成立ニ影響ナシ（大正五・六・一二）

○僞證罪ニ於ケル虛僞ノ陳述　僞證罪ニ於ケル虛僞ノ陳述トハ自己ノ實驗ニ付記憶ニ反シテ爲ス陳述ノ謂ニシテ陳述ノ內容タル事實カ客觀的ニ眞實ニ合致セサルト否トヲ問ハサルモノトス（昭和五・一二・八）

○證人タルノ能力ナキ者カ教唆者ヲ教唆シテ僞證ヲ爲サシメタル場合ノ刑責　法律上自ラ證人トナリ宣誓ヲ爲スヘキ能力ナシト雖教唆者ヲ教唆シ僞證ノ教唆ヲ爲サシメタルトキハ教唆者ノ教唆トシテ處罰ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス（大正二・六・三〇）

○僞證教唆罪ト僞證罪ニ付判決ヲ受ケタル者ノ要否　僞證教唆罪アリトシテ處罰スルニハ先ッ僞證罪ヲ犯シタリトシテ判決ヲ受ケタル者アルコトヲ要スルモノニ非ス教唆者ニ於テ僞證ヲ教唆シ被教唆者カ其教唆ニ應シテ決意シ僞證ヲ爲シタル事實ヲ認定シテ僞證教唆罪ニ問擬シタルハ違法ニ非ス（大正四・五・二〇）

○教唆ト僞證トノ因果關係　鑛山ニ關スル紛爭ニ付將來證人トシテ裁判所ニ呼出サレ證言ヲ爲ス場合ニハ眞實ニ反シ被爲ノ告メ利益ナル供述ヲ爲スヘキ旨依頼シ以テ僞證ヲ教唆シタル場合ノ鑛山ニ關スル訴訟事件ニ付テハ證人トシテ喚問セラレサリシモ其後ニ提起セラレタル鑛山ニ關スル訴訟事件ニ付證人トシテ喚問セラレ供述ヲ爲スニ當リ被教唆者カ當初被告ノ僞證教唆ニ因ル僞證ヲ爲スヘキ決意ヲ持續シ僞證ヲ爲シタル以上ハ教唆ト僞證トハ因果關係ヲ有スルモノトス（大正五・四・一〇）

○僞證教唆罪ノ成立ト具體的ニ僞證スヘキ證言事項ヲ指示スルコトノ要否　僞證教唆ハ被教唆者ヲシテ僞證ヲ爲ス決意ヲ爲サシメ被教唆者カ該決意ニ基キ僞證ヲ爲スニ因リ成立スルモノニシテ教唆者ハ必スシモ教被唆者ニ對シ具體的ニ僞證スヘキ證言事項ヲ指示シテ教唆ヲ爲スヲ要スルモノニ非ス（大正五・四・一〇）

○僞證教唆ト詐欺トノ關係　一般ニ裁判所ヲ欺罔シテ裁判ヲ爲サシメ他人ヨリ財物又ハ財產上不法ノ利益ヲ得ル目的ヲ以テスル僞證教唆ノ行爲ハ斯ル詐欺ノ行爲ニ對スル通常ノ手段ナルヲ以テ兩者ノ關係ニ付テハ牽連犯トシテ刑法第五十四條第一項後段ヲ適用スヘキモノトス（昭和七・六・七）

○僞證ノ公訴ト其ノ範圍　僞證ノ犯行ニ加擔シタリトノ公訴事實ハ當然僞證教唆ノ事實ヲモ包含スルモノトス（昭和八・四・二四）

第百七十條

○本條ニ所謂自白ノ意義　刑法第百七十條所謂自白ハ自首及ヒ僞證被告事件ニ於ケル自認ハ勿論僞證アリタル事件ノ手續中ニ於ケル自白ヲモ指稱シ且之等ノ自白ハ必スシモ故ラ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルコトヲ自供スルモノナルコトヲ要セス已ニ爲シタル僞證タル證言カ眞實ニ符合セサルコトヲ表明スル眞實ノ開陳タルコトヲ以テ足ルモノトス（昭和九・一一・一九）

第二十一章　誣告ノ罪

第百七十二條

○巡査ニ對スル虛僞ノ申告ト誣告罪ノ既遂　誣告罪ハ虛僞ノ申告ヲ以テ起訴又ハ捜査處分ノ開始ヲ促スニ因リテ成立スルモノナレハ該罪ノ既遂トナルニハ巡査ニ對シテ虛僞ノ申告ヲ爲スヲ以テ足リ其申告ノ捜査權ヲ有スル官廳即チ檢事又ハ司法警察官ニ到達スルヲ要セス（大正五・六・一二）

巻	頁
三	三五三
一九	三五二
二〇	五四〇
二一	六四九
三	四一三
三	一七三
三	四一三
一七	三六七
二	一〇一
三	一三三
三	三五三

○權限アル官廳官吏ノ監督官廳ニ爲シタル虚僞申告ト誣告罪　誣告罪ノ成立ニハ行爲者カ人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虚僞ノ申告ヲ刑事訴追又ハ搜査ヲ爲シ若クハ懲戒處分ヲ爲シ又ハ其處分ヲ請求スル權限アル官廳又ハ官吏ニ對シ爲スヘキヲ通例トスレトモ其成立ニハ必スシモ虚僞ノ申告カ敍上ノ權限アル官廳官吏ニ對シ爲サルルコトヲ要セス斯ル官廳官吏ノ監督官廳ニ對シ爲サルルモ亦可ナリトス

上記相當官廳以外ノ官廳ニ對シ爲シタル虚僞ノ申告ト雖其申告カ相當官廳ニ到達シタルトキハ誣告罪ノ成立ヲ妨ケス（大正一一・一・二六）

○懲戒處分權ヲ有セサル者ニ對スル虚僞ノ申告ト誣告罪ノ成立　誣告罪ハ懲戒處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ被懲戒者ノ行爲ヲ監視シ同人ノ非行ヲ其ノ懲戒處分權ヲ有スル本屬長官ニ具申シテ同處分ヲ促ス職權ヲ有スル者ニ對シ虚僞ノ申告ヲ爲シタルトキハ直チニ成立スルモノニシテ直接本屬長官其ノ者ニ對シテ之ヲ爲スヲ要スルモノニ非ス（昭和一一・一二・二八）

○數通ノ虚僞ノ申告書ノ提出ト犯罪行爲ノ數　誣告行爲者カ虚僞ノ申告書二通ヲ各別ニ相當官廳以外ノ官廳ニ提出シタルモ其申告書カ同時ニ一括シテ相當官廳ニ到達シタルトキハ犯罪行爲ハ一個ニシテ連續シタル數個ノ行爲ニ非ス（大正一一・一・二六）

○一個ノ誣告行爲ニ對シ連續犯トシテ處斷シタル判決ノ當否　一回ニ誣告ヲ爲シタルモノトシテ處斷スルモ意思繼續シテ數回ニ誣告ヲ爲シタルモノトシテ處斷スルモ一罪トシテ處斷スル點ニ於テ異ル所ナケレハ前者ノ行爲ニ對シ連續犯ニ問擬シタル違法アルモ判決破毀ノ理由ト爲スニ足ラサルモノトス（大正一一・一・二六）

○司法警察官ニ對スル不實ノ申告ト誣告罪ノ成立時期　人ヲシテ刑事ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ搜査權ヲ有スル官吏ニ對シ不實ノ申告ヲ爲スニ於テハ誣告罪ハ直ニ成立スルモノナルカ故ニ虚僞ノ事實ヲ記載セル告訴狀ヲ

卷	頁
九	一
二三	七〇九
九	一
九	一

警察署ニ提出シ司法警察官ニ對シ不實ノ申告ヲ爲シタル以上ハ其申告カ起訴ノ權限アル官廳ニ到達セサル以前ト雖誣告罪ハ完成スルモノトス（大正一一・四・二〇）

○誣告罪ニ於テ共謀者中一人ノ實行行爲ト他ノ共犯者ノ罪責　數人共謀シテ人ニ刑事ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ不實ノ申告ヲ爲サンコトヲ企テ其共謀者ノ一人カ其謀議ニ基キ不實ノ事實ヲ記載シタル告訴狀ヲ作成シ之ヲ當該官廳ニ提出シタルトキハ他ノ共謀者ハ其一人ヲ通シテ犯罪ノ實行行爲ヲ遂行シタルモノニ外ナラサレハ誣告罪ノ罪責ヲ免ルルヲ得サルモノトス（大正一二・三・一五）

○誣告罪ノ構成ト申告者ノ名義表現　誣告罪ハ人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ當該官廳ニ對シ虚僞ノ申告ヲ爲スニ依リテ成立シ其ノ申告ニハ申告者ノ名義ヲ表現スルト否トハ犯罪ノ構成ニ影響ナキモノトス（大正一三・二・二一）

○誣告罪ノ成立ト申告者ニ被申告者カ刑事又ハ懲戒處分ヲ受クルコトノ希望若ハ意欲ノ要否　誣告罪ノ成立ニハ申告事實ノ虚僞ナルコト及其ノ虚僞申告ニ因リ被申告者カ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受クルニ至ルヘキコトノ認識アルヲ以テ足リ其ノ他更ニ申告者ニ於テ被申告者カ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受クルコトヲ希望シ若ハ意欲セルコトヲ要スルモノニ非ス（大正一三・七・九）

○虚僞申告ニ依リ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受クルニ至ルヘキコトノ認識ト未必ノ故意　上敍認識ハ必シモ確定ノモノタルヲ要セス一定ノ結果ノ發生スヘキ可能性ノ存在スルコトヲ認識セル場合即チ所謂未必ノ故意アル場合ニ於テモ亦本罪ノ成立ヲ妨ケス（大正一三・七・九）

○誣告罪ノ成立　告訴狀記載事項カ數個アル場合ニ於テ其ノ事項中一個又ハ數個ノ事實カ眞實ニシテ他ノ事項カ虚僞ナルトキハ其ノ虚僞ノ部分カ眞實ノ部分ニ吸收セラルルコトナク獨立シテ別個ノ誣告罪ヲ構成シ其ノ各事項カ連續

卷	頁
九	四七
一〇	二七
一一	一
一一	三八
一一	三八

關係ニアルト否トハ毫モ其ノ成否ニ關係ナキモノトス（昭和六・一二・二四）

第二十二章　猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪

第百七十八條

○十三歳以上ノ婦女カ熟睡中ノ姦淫ト本條前段ノ罪　十三歳以上ノ婦女カ熟睡シテ他物ノ接觸ヲ覺知セサルニ乘シ之ヲ姦淫シタル者ハ刑法第百七十八條前段ニ所謂人ノ心神喪失ニ乘シ姦淫シタル者ニ該當ス（大正九・五・三一）　七九

第百八十一條

○十三歳未滿ノ幼女ヲ姦淫シテ傷ケタル場合ノ規律　十三歳未滿ノ幼女ヲ淫姦シ因テ處女膜ヲ裂傷シタルトキハ刑法第百八十一條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス（大正元・八・二一）　二四

○十三歳未滿ノ幼女ヲ姦淫シテ傷ケタル場合ノ規律　十三歳未滿ノ幼女ヲ姦淫シ因テ處女膜ヲ裂傷シタルトキハ刑法第百八十一條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス（大正元・八・二一）　二四

○連續シテ十三歳未滿ノ幼女ヲ姦淫死傷セシメタル所爲ノ處斷方　十三歳未滿ノ幼女ヲ姦淫シタル所爲トハ連續シテ犯シタル場合ニ於テモ彼此連續犯トシテ處斷スルヲ得サルモノトス（大正元・八・二一）　二四

○十三歳未滿ノ幼女ヲ姦淫シ因テ死傷ニ致シタル場合ノ罪數　十三歳未滿ノ幼女ヲ姦淫シ因テ其者ヲ死傷ニ致シタル所爲ハ刑法第百八十一條ニ依リ法律上獨立シタル一罪ヲ構成ス（大正元・八・二一）　二四

第百八十三條

○姦通ノ相手方タル他人ノ妻ノ承諾ト住居侵入罪　他人ノ妻ト姦通スル目的ヲ以テ其居住ニ入ラントスルトキハ本夫タル居住權者カ被告ノ住居ニ入ルコトヲ認容スル意思ヲ有スト推測シ得ヘキモノニ非サレハ妻カ之ニ承諾ヲ與フルモ本夫ニ對シ何等效力ヲ生スヘキモノニ非ス（大正一〇・六・三〇）　二四

第二十三章　賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

第百八十五條

○賭錢ノ性質　賭錢ハ賭博罪ノ組成物ナリトス（明治四三・一〇・二八）　一九

○財物ヲ賭ストノ意義及財物ヲ現場ニ提供シ置クコトノ要否　賭博罪成立ノ要素タル財物ヲ賭スルトハ偶然ノ輸贏ニ依リ一定ノ財物ヲ勝者ニ交付スヘキコトヲ約束スルヲ謂フモノニシテ豫メ交付スヘキ財物ヲ現場ニ提供シ置クコトヲ要スルモノニ非ス（大正四・一・二八）　二四

○賭博ノ認定ト其方法判示ノ程度　骨子骨牌ノ使用ニ依ル賭博ハ其性質上偶然ノ事情ニ因リ輸贏ヲ決スルモノナルコト自ラ明カナレハ被告等カ骨子ヲ使用シ各自顯ハレタル目數ヲ比較シ其多キ者ヲ勝者ト爲ス金錢賭ノ賭博ヲ爲シタル旨說示シタル以上賭博罪構成事實ノ說示トシテ缺クル所ナキヲ以テ更ニカブト稱スル賭博ノ方法ニ付詳述セサルモ不法ニ非ス（大正八・一〇・六）　六三一六

○市場相場ヲ標準トセル假裝賣買ト賭博罪　被告等カ眞實本件粗布賣買ノ取引ヲ爲スノ意思即チ粗布現物ノ受渡其代金ノ授受ヲ爲ス意思ナク名ヲ賣買ニ藉リ或ハ賣人トナリ或ハ買人トナリ一定ノ期日ニ於ケル咸興市場ノ相場ヲ標準トシ該相場ト賣又ハ買ノ價格トノ差額金ヲ授受スル目的ノ下ニ粗布ノ賣買ヲ爲スハ相場ノ高低ナル偶然ノ事情ニ依リ前記差額金ノ得喪ヲ爭フモノニシテ其所爲ハ賭博罪ヲ構成スルモノトス（大正九・一一・一五）　七一二五

○鬪鷄使用ノ賭博ト賭博罪構成事實ノ說示　鬪鷄ヲ使用シテ爲ス賭博ハ普通行ハルル賭博ニシテ其性質上偶然ノ事情ニ因リ輸贏ヲ決スルモノナルコト明白ナルヲ以テ被告等カ鬪鷄ヲ使用シ各自ニ配付シタル鬪鷄ノ數カ九若クハ之ニ最近キ數ヲ得タルモノヲ以テ勝者トスル「チクテンイ」ト稱スル賭博ヲ爲シタル旨判示シタルトキハ賭博罪構成事實

ノ說示トシテ缺クル所ナキヲ以テ更ニ其方法ニ付詳說セサルモ違法ニ非ス（大正一一・六・一七）

○賭博罪構成事實ノ說示　骨子骨牌ノ使用ニ因ル賭博ハ其性質上偶然ノ事情ニ因リ輸贏ヲ決スルモノナルコト自ラ明ナレハ被告等カ骨牌ヲ使用シ金錢ヲ賭シ俗ニカブト稱スル博奕ヲ爲シタル旨說示シタル以上賭博罪構成事實ノ說示トシテ缺クル所ナキヲ以テ更ニカブト稱スル博奕ノ方法ニ付詳述セサルモ違法ニ非ス（大正一一・九・一四）　九　一〇二

○麻雀勝敗ノ偶然性ト公知ノ事實　麻雀遊戲ノ勝敗ハ固ヨリ當事者ノ技倆ノ優劣ニ關係スル所ナキニ非スト雖之ノミニ因リテ決セラルルコトナキハ勿論主トシテ偶然ノ事情ニ繫ルモノナルコト一般公知ノ事實ナリトス（昭和八・三・二七）　二〇　四九六

○鬪箋又ハ骨牌ヲ使用スル賭博ト偶然性ノ解釋　數人間ニ鬪箋又ハ骨牌ヲ使用シテ爲ス遊戲カ偶然ノ事情ニ依リ輸贏ヲ決スル賭博ナルコトハ其ノ用具ノ性質上自ラ明白ナリ（昭和八・五・一八）　二〇　五五七

○「チーハー」賭博ノ意義　普通ニ「チーハー」賭博ト稱スルモノハ胴元ニ於テ三十六箇中ノ一語ヲ指定シ之ニ金錢ヲ賭シ偶中シタルトキハ胴元ヨリ賭者ニ賭金ノ三十倍ニ相當スル金員ヲ交付シ偶中セサルトキハ賭者ニ於テ其賭シタル金員ヲ損失スル方法ニシテ即チ相互ニ損失ノ危險ヲ負擔スルモノヲ指稱ス（大正四・七・一二）　三　一六九

○「チーハー」賭博ノ偶然性ト公知ノ事實　俗ニ「チーハー」ト稱スル遊戲カ偶然ノ事情ニ依リ輸贏ヲ決スル賭博ナルコトハ公知ノ事實ナリ（昭和八・五・一八）　二〇　五五七

○飮食物ノ對價ノ決メ方ト本條但書ノ適用　賭者ノ身分地位資產等ニ照シ飮食物ノ價格カ賭者ニ取リ小額ニシテ博戲ノ終了後直チニ其ノ場ニ於テ飮食シタルカ如キ場合ニ於テハ一時ノ娛樂ノ用ニ供スル飮食物ノ費用負擔者及其ノ負擔額ヲ勝敗ニ依リ定メンカ爲ニ博戲ヲ爲シタルモノト解スヲ妥當トスルカ故ニ刑法第百八十五條但書ヲ適用スヘキモノトス（昭和一一・七・二〇）　一三　六三九

○娛樂的賭戲　釀出金額ニ依リ賭戲ノ娛樂的ナリヤ否ヲ判定スヘキ場合ニ賭戲者ノ財產的地位ニ差等アルトキハ低位者ヲ以テ標準トス（昭和一一・一〇・一二）　二三　六八一

第百八十六條

○曾テ賭博罪ヲ犯シタルコトアリト常習賭博者ノ認定　被告カ曾テ賭博罪ヲ犯シタルコトアリトノ事實ハ以テ賭博ノ常習者タルコトヲ認ムル資料ト爲スニ足ルモノトス（大正四・一・二八）　三　四

○常習賭博トシテ認定個數ノ差異ト原判決取消ノ要否　常習賭博ニ於ケル數回ノ行爲ハ集合的一罪ヲ構成スルニ依リ第一審判決ト第二審判決トノ間其行爲ノ個數ニ付差異アルモ等シク同種ノ犯罪ヲ認メタル以上ハ第二審判決ヲ以テ第一審判決ヲ取消スヘキモノニ非ス（大正七・四・四）　五　一三三

○常習賭博罪中一部ノ證據不十分ト無罪言渡ノ要否　常習賭博ニ於ケル數回ノ行爲ハ集合的一罪ヲ構成スルニ依リ假令其數回ノ行爲中證憑十分ナラサルモノアルモ其一部ニ付別ニ無罪ヲ言渡スコトヲ要セス（大正七・四・四）　五　一三三

○賭博常習ノ意義　賭博ノ常習トハ數次反覆シテ習癖的ニ賭博行爲ヲ爲スコトヲ謂フ（大正七・一一・七）　五　二八七

○數次ノ賭博行爲ト常習ノ認定　數次賭博行爲ヲ爲シタル者アルトキ其數次ノ賭博行爲アリタル事實ヲ資料トシテ其行爲者ノ賭博常習者ナルコトヲ認定スルヲ得ヘキモノトス（大正七・一一・七）　五　二八七

○賭博行爲ノ反覆ト常習犯ノ成立　被告カ數次賭博行爲ヲ反覆シタル事實及曾テ賭博行爲ニ付處刑セラレタル事實ハ必スシモ之ニ依リ被告ノ賭博行爲ヲ常習犯ト認メサルヘカラサルモノニ非サルモ被告カ數次賭博行爲ヲ反覆シタル事實ニ依リ或ハ曾テ賭博行爲ニ依リ處刑セラレタル事實ニ依リ或ハ此兩者ノ事情ヲ綜合スルニ依リ自由ナル判斷ヲ以テ被告ニ賭博行爲ヲ爲ス習癖ノ成立ヲ認ムルヲ得ルトキハ之ニ依リ常習犯ノ成立ヲ認ムルモ不法ニ非ス（大正

八・一〇・六）

○賭博ノ前科ト賭博常習ノ判斷　被告カ數次賭博行爲ヲ反覆シタル事實及曾テ賭博行爲ニ付處刑セラレタル事實ハ必スシモ之ニ依リテ被告ノ賭博行爲ヲ常習犯ト認メサルヘカラサルモノニ非スト雖被告カ曾テ賭博行爲ニ付處刑セラレタル事實アルトキハ縱令其前科カ比較的永キ以前ニ屬スルモ其前科アル事實ト其後數次賭博行爲ヲ反覆シタル事實トヲ綜合シ以テ被告ニ賭博行爲ヲ爲ス習癖アリト爲スコトハ事實裁判所ノ自由ニ判斷シ得ル事項ナルニ依リ事實裁判所カ敍上ノ事情ヲ綜合シテ被告ニ賭博行爲ヲ爲ス習癖アリト認メ常習犯ノ成立ヲ認ムルモ違法ニ非ス（大正一一・六・一七）

○常習賭博ノ認定　數次賭博ヲ爲シタル者アルトキハ其數次賭博ヲ爲シタル事實ト賭博ノ前科アル事實トヲ綜合シテ其行爲者ノ賭博常習者ナルコトヲ認定シ得ヘキモノトス（大正一一・九・一四）

○常習賭博ノ意義ト正業ノ有無　刑法第百八十六條第一項ニ所謂常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ專ラ之ニ因リ生活ヲ維持スル者ニ限ラス賭博行爲ノ習癖ノ發露トシテ之ヲ爲ス者ヲ謂ヒ他ニ生活ノ爲正業ヲ營メルト否トヲ問ハサルモノトス（大正一四・五・二一）

○賭博常習者ノ意義　刑法第百八十六條ニ所謂常習トシテ賭博ヲ爲シタル者トハ賭博行爲ヲ爲ス習癖アル者ヲ謂ヒ他ニ正業ヲ有スル者ト雖右習癖アルトキハ賭博ノ常習アル者ト認定スルコトヲ妨ケス而シテ被告人カ數回賭博行爲ヲ反覆シタル事實アルトキハ裁判所ハ之ヲ資料トシテ賭博行爲ノ習癖アルコトヲ認定スルコトヲ得（昭和四・九・二六）

巻頁		
六	三六	一六
九	七五	一〇
九	一〇一	一三
一三	一九	一六

第二十四章　禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

第百八十九條

○本條ニ所謂墳墓　刑法第百八十九條ハ國民ノ信教上ノ良俗ヲ保護スルノ規定ニシテ同條ニ所謂墳墓トハ遺骸等ヲ埋葬シテ死者ヲ祭祀若ハ記念スヘキ場所ヲ謂フモノトス（大正一二・八・二七）

○祭祀絕ヘタル古塚ト本條ニ所謂墳墓　遺骸ヲ埋葬シタル場所ト雖其ノ死者ノ何人ナルカ不明ニシテ且永年祭祀絕ヘ何人モ之ヲ顧ル者ナキ古塚ハ刑法第百八十九條ニ所謂墳墓ナリト謂フコトヲ得スト雖現ニ之ヲ祭祀崇敬シ宗教的儀禮ノ對象ト爲セル者アルニ於テハ縱令一部ノ者カ之ヲ古塚トシテ取扱ヒ來レル事實アリトスルモ尙之ヲ以テ同條ニ所謂墳墓ト謂フコトヲ妨ケス（大正一二・八・二七）

第百九十條

○本條ニ所謂死體　刑法第百九十條ニ所謂死體トハ其全部ナル場合ハ勿論一部分ナル場合ヲモ指稱スルモノトス（明治四四・八・七）

○同　旨　刑法第百九十條ニ所謂死體ハ其火葬スヘキモノタルト埋葬スヘキモノタルトヲ問ハサルモノトス（明治四四・八・七）

○本條ニ所謂死體領得　刑法第百九十條ニ所謂死體ヲ領得スルトハ直接之ヲ領得スル場合ヲ謂ヒ他人ノ領得シタルモノヲ更ニ其者ヨリ受領シ若クハ轉輾シテ受領シタル場合ヲ謂フニ非ラス（明治四四・八・七）

○死體ノ腑臟領得ヲ敎唆シ且之ヲ收受シタル者ノ罪責　人ヲ敎唆シテ死體中ヨリ腑臟ヲ領得セシメタル後更ニ之ヲ受領シタルトキハ敎唆罪ノ外別ニ贓物收受罪ヲ構成スルモノトス（明治四四・八・七）

巻頁		
一	一四七	一〇
一	一四七	一一
一	一四七	一二

○同一死體ニ對スル損壞ト領得ノ罪責　同一死體ニ對スル損壞ト領得トハ一罪トシテ處斷スヘキモノトス（明治四四・八・七）

○死體損壞及領得罪ノ處斷法條　右ノ場合ニ於テ死體損壞罪トシテ擬律スルモ又ハ死體領得罪ト爲スモ將又單ニ刑法第百九十條ニ該當スルモノトスルモ妨ナキモノトス（明治四四・八・七）

○死體遺棄罪ノ構成　死體遺棄罪ハ葬祭ニ關スル良俗ニ反スル行爲ヲ罰スルニ在ルヲ以テ葬祭ノ意思ナクシテ單ニ死體ヲ放置スル意思ヲ以テ土中ニ埋沒スルトキハ死體遺棄罪ヲ構成スルモノトス（昭和四・一〇・三一）

○死體ノ膪嚢領得罪ノ要件ト領得シタル個數ノ判示　死體ノ膪嚢領得罪ニ付領得セシ膪嚢ノ個數ハ犯罪構成ノ要件ニアラス從テ判決中之ヲ領得セシ事實ヲ明示スレハ足レリ其個數ハ揭クルヲ要セサルモノトス（明治四四・八・七）

第二十五章　瀆職ノ罪

第百九十七條

○副理事官ニ對スル債權假差押命令ノ請託ト收賄　判事ノ職務ヲ執行スル權限ヲ有スル副理事官カ債權假差押ノ命令ヲ爲スヘキコトノ請託ヲ受ケ金錢ヲ收受シタルトキハ刑法第百九十七條ニ依リ處斷スヘキモノトス（明治四四・七・五）

○返還シタル收賄金ト追徵　收賄シタル金錢ヲ其贈賄者ニ返還シタル行爲ハ卽チ其收賄金ヲ費用シタルモノニ異ナラス從テ其價額ヲ追徵スヘキモノトス（明治四四・七・五）

○追徵物件ノ價額算定ノ標準　沒收スヘキ物件ノ追徵價額ハ收賄當時ノ時價ニ依ルヘキモノニシテ判決當時ノ時價ニ依ルヘキモノニ非ラス（明治四四・七・五）

○沒收ニ代ル追徵ト沒收不能ノ理由ノ判示　收賄金ヲ沒收スルコト能ハサル場合ニ於テ價額金ヲ追徵スルニハ其不能ナルコトノ理由ヲ判示スルノ要ナキモノトス（明治四四・七・五）

○官吏ノ收賄罪ト相手方請託ノ要否　官吏ノ收賄罪ハ其職務ニ關シ故意ニ賄賂ヲ收受要求又ハ約束シタルニ因リテ成立スルモノニシテ相手方ノ請託ヲ要件トスルモノニ非ス（大正元・一二・一三）

○府郡ニ下附セラレタル恩賜金ニ基キ經營スル事業上ノ事務ノ性質　明治四十三年八月勅令第三百二十九號ニ依リ朝鮮各府郡ニ下附セラレタル恩賜金ノ管理及之ニ依リテ經營スヘキ事業竝ニ其經理ニ關スル一切ノ事務ハ道ノ公務ナリトス（大正五・二・七）

○臨時恩賜金事業トシテ道廳ノ爲ス蠶種成繭共同販賣ノ受託斡旋ノ性質　臨時恩賜金事業トシテ道廳ニ於テ改良蠶種成繭ノ共同販賣ノ委託ヲ受ケ共同販賣ノ斡旋ヲ爲スハ道ノ公務ナリトス（大正五・二・七）

○公務員ノ職務ニ關セスシテ爲シタル收賄又ハ贈賄行爲ノ處分　公務員ニ於テ收賄行爲ヲ爲シ又ハ公務員ニ對シ贈賄行爲アルモ職務ニ關セサルトキハ收賄罪又ハ贈賄罪ヲ構成セス（大正五・五・八）

○府ト學校組合ニ於ケル公務員ノ差異及上司ノ命令囑託ニ依リテ從事スル者ノ行フ事務ノ性質　府及學校組合ハ公共團體トシテ各獨立ノ法人格ヲ有シ一ハ府制ニ定ムル公務員事務ヲ執行シ一ハ學校組合令ニ定ムル公務員事務ヲ執行スルモノナルニ依リ假令上司ノ命令又ハ囑託ニ依リテ事務ニ從事スル場合ト雖法令ノ規定ニ基クニ非サル以上ハ公務員ノ職務行爲ト謂フヲ得ス（大正五・五・八）

○學校組合ノ事務ニ從事スル適格者　學校組合ノ事務ニ從事スル職務權限ヲ有スル者ハ管理者竝ニ其管理者ヨリ事務ニ從事スルコトヲ命セラレタル學校組合ノ吏員及管理者ノ職務ヲ行フ府尹竝ニ府尹ヨリ學校組合ノ行政ニ關ス

頁	卷
一一四七	一
一一四七	一
一六 五一	
一一四七	一
一二八	一
一二八	一
三一	二
三九四	三
三九四	三
三九一	三
三九一	三

ル事務ニ從事スルコトヲ命セラレタル府ノ官吏ニ限リ其以外ノ者ニ於テハ學校組合ノ事務ニ從事スル職務權限ヲ有セサルモノトス（大正五・五・八）

○府吏員カ府尹ノ命令囑託ニ依リ學校組合ノ事務從事中金品收受ノ處分　府吏員カ府尹ノ命令又ハ囑託ニ因リ學校組合ノ事務ニ從事スルコトアルモ法令ノ規定ニ基キ職務ヲ執行スルモノニアラサルニヨリ職務行爲ト稱スルヲ得ス從テ其事務ニ關シテ金品ヲ收受スルモ收賄罪ヲ構成セス又之ニ金品ヲ交付スルモ贈賄罪ヲ構成セス（大正五・五・八）

○瀆職罪ノ成立ト職務上ノ請託ノ要否　公務員カ賄賂ヲ收受シタリトシテ收賄罪ニ問擬スルニハ其職務ニ關シテ收賄シタルコトヲ要シ又公務員ニ賄賂ヲ交付シタリトシテ贈賄罪ニ問擬スルニハ公務員ノ職務ニ關シテ贈賄シタルコトヲ要スルヲ以テ收賄行爲又ハ贈賄行爲アルモ公務員ノ職務ニ關セサルトキハ收賄罪又ハ贈賄罪ヲ構成セス（大正七・三・一四）

○公務員ノ職務ナルヤ否ヤヲ定ムル標準　公務員ノ職務タルニハ法令ノ規定ニ基ク職務タルコトヲ要スルヲ以テ縱令公務員カ上司ノ命令又ハ囑託ニ因リ公務ニ從事スルコトアリトスルモ法令ノ規定ニ基クニ非サル以上ハ公務員ノ職務行爲ヲ以テ目スルヲ得ス（大正七・三・一四）

○巡査補ニ對シ收贈賄罪ノ成否　巡査補ニ關スル職務權限ノ規定ハ勾引狀勾留狀ノ執行ニ關スルモノノ外未タ定メアラサルカ故ニ巡査補ハ勾引狀勾留狀ノ執行ニ關スルモノノ外法令ノ規定ニ基ク職務權限ナキモノト謂ハサルヘカラス從テ縱令巡査補カ上官ノ命令ニ依リ令狀執行以外ニ於ケル警察事務ニ從事スルコトアリトスルモ法令ニ依ルニ非スシテ單ニ公務員ノ手足トナリ之ニ從事スルニ過キサルモノナレハ之ニ關シ巡査補カ賄賂ヲ收受スルモ收賄罪ヲ構成セス又巡査補ニ對シ賄賂ヲ交付スルモ贈賄罪ヲ構成セス（大正七・三・一四）

○本條第一項後段不正行爲ノ認定　刑法第百九十七條第一項後段ニ所謂不正ノ行爲ヲ爲シタリト認定スルニハ必スシモ法規又ハ例規ヲ引用セサルモ犯人ノ所屬課長カ其主管事務ニ付其取扱手續ニ關シ爲シタル供述記載ヲ引用シテ之ヲ認定スルコトヲ得ヘキモノトス（大正一〇・一・一七）

○忠清北道蠶業技手、蠶業傳習所教師ト其ノ職務　大正四年四月一日忠清北道告示第十一號ノ規定ニ依レハ蠶業技手蠶業傳習所教師カ改良蠶種成繭ノ共同販賣ノ斡旋事務ニ關與スヘキ規定ナキカ故ニ蠶業技手タル被告及蠶業講師タル被告カ共同販賣ニ係ル成繭引渡事務ニ關與スルモ法令ノ規定ニ依リ職務ニ從事スルモノト云フヲ得ス（大正五・二・七）

○原蠶種製造所書記ト贈賄　大正八年十一月二十八日朝鮮總督府全羅北道令第十七號ニハ其第二條ニ原蠶種製造所ニ左ノ職員ヲ置ク所長若干名書記若干名云々トノ規定及第五條ニ書記ハ所長ノ指揮ヲ承ケ庶務及會計ニ從事ストノ規定アルヲ以テ全羅北道恩賜原蠶種製造所書記ハ前記道令ノ規定ニ基キ任命セラレ所長ノ指揮ヲ承ケ同製造所ノ庶務及會計ニ從事スル職務權限ヲ有スルモノニシテ刑法第百九十七條第百九十八條ニ所謂公務員ニ該當シ他人カ其職務ニ關シ賄賂ヲ交付スルトキハ贈賄罪ヲ構成ス（大正一一・七・二二）

○原蠶種製造所書記ト公務員タルコトノ說示ノ要否　全羅北道原蠶種製造所書記カ同製造所ノ庶務及會計ニ從事スル職務權限ヲ有スル道令ノ規定アル以上ハ判文上特ニ其道令ヲ揭ケ其公務員タルコトヲ說示スルノ要ナシ（大正一一・七・二二）

○郡守ト面長推薦ノ權限　慶尙南道郡守ハ道知事ニ對シ面長ヲ推薦スルノ職務ヲ有スルニ依リ其ノ職務ニ關シ金品ヲ收受シタルトキハ收賄罪ヲ構成ス（昭和四・七・一八）

○郡守ノ水利組合ニ對スル監督ト收賄罪　郡守ハ水利組合ニ對スル第一次ノ監督官廳トシテ組合費ノ不當ナル賦課ニ付更正ノ手續ヲ執ルコトヲ得ヘキ職務ヲ有スルカ故ニ其ノ職務ニ關シ金品ヲ收受シタルトキハ收賄罪ヲ構成

卷	頁		
三	三九一		
五	五三		
五	五三		
五	五三		
三	二九四		
八	八		
九	九九		
九	九九		
一六	二五		

ス（昭和四・七・一八）

○公務員ノ金圓收受ト職務關係　公務員カ許可申請ニ關スル事務ニ付單ニ該事務管掌者ノ調査立案シタル書類ノ淨書複寫其ノ他單純ナル機械的事實行爲ヲ以テ之ヲ補助スル職務權限ヲ有スルニ止マルトキハ縱令他人ノ爲ニ其ノ申請書類案ヲ作成シ又ハ其ノ申請ニ付該事務管掌者ニ對シ有利ナル條件ヲ以テ成ルヘク速ニ許可ヲ受ケ得ル樣取計ハレ度キ旨依頼スルコトノ請託ヲ受ケ其ノ謝禮トシテ金圓ヲ收受スルモ幷ハ毫モ職務ニ關スルモノニ非ス（昭和八・一一・六）

○收賄ト職務執行ノ前後　收賄罪ハ公務員又ハ仲裁人其ノ職務ニ關シ不法ノ報酬ヲ受クルニ因リテ成立シ其ノ報酬收受ト職務執行ノ前後如何ハ犯罪ノ成否ニ影響ナキモノトス（昭和一〇・一一・一八）

第百九十八條

○官吏ニ對スル贈賄罪成立ノ要件　官吏ニ對スル贈賄罪ハ賄賂ニ依リ其意思ヲ相手方タル官吏ニ表示スルニ因リテ成立シ其相手方ノ應諾ヲ要件トスルモノニアラス（大正元・一二・一三）

○賄賂提供罪ノ成立　公務員又ハ仲裁人ニ對シ現實ニ一定ノ利益ヲ提供シタル場合ハ勿論單ニ口頭又ハ書面ヲ以テ之ヲ提供スヘキ旨表示シタルトキニ於テモ尙賄賂提供罪ヲ構成スルモノトス（昭和四・二・一四）

第二十六章　殺人ノ罪

第百九十九條

○朝鮮人カ其妻ヲ故殺シタル場合ノ擬律　朝鮮人ノ其妻ニ對スル故殺ノ行爲ハ刑法第百九十九條ノ罪ニ該當スルモノニシテ刑法大全第四百七十七條ヲ適用スヘキモノニアラス（大正三・六・一一）

○朝鮮人カ殺意ヲ以テ犯シタル强盜傷人ノ所爲ニ對スル適用法條　朝鮮人カ殺意ヲ以テ犯シタル强盜傷人ノ行爲ニ對シテハ從前ノ刑法大全第五百十條ヲ適用シテ處斷シ同法第四百七十八條ノ强盜殺人未遂罪トシテ處罰スルヲ得サルモノナルヲ以テ朝鮮刑事令第四十一條第一項ニ依リ同令施行ト同時ニ刑法大全第五百十條ノ廢止セラレタル後ト雖同法第四百七十八條ノ適用範圍ヲ擴張シ同條ノ强盜殺人未遂罪トシテ處罰スルヲ得ス强盜傷人ノ點ニ付テハ刑法第二百四十條殺人未遂ノ點ニ付テハ同法第百九十九條第二百三條ヲ適用スヘキモノトス（大正四・四・二二）

○殺人罪ノ成立ト殺害行爲ノ豫謀タルト偶發ニ出テタルトノ區別　殺人罪ハ人ヲ殺スノ認識アリテ之ヲ實行スルヲ以テ其罪ヲ構成シ殺害行爲カ豫謀ニ出テタルト將タ偶發ニ出テタルトハ其罪ノ構成ニ何等消長ヲ與フルコトナケレハ刑事訴訟法第二百三條ニ所謂罪トナルヘキ事實ニ該當セス從テ其豫謀ニ出テタル事實ヲ認定スルニ當リ證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ明示セサルモ違法ニアラス（大正五・一一・二）

○殺人罪ノ認定上殺害ノ手段方法判示ノ要否　殺人罪ニ於テ犯人カ殺意ヲ以テ人ヲ殺害シタル事實ヲ認定シアル以上ハ犯罪構成要件ノ說示トシテ欠クル所ナク其殺害ノ手段方法ノ如キ必スシモ判文ニ明示セサルモ判決ノ理由ニ不備ヲ來スモノニアラス從テ人ヲ殺シ財物ヲ奪取スル場合ニ於テモ犯人カ殺意ヲ以テ人ヲ殺害シ財物ヲ奪取シタル事實ノ認定アル以上殺人罪及强盜致死罪ノ要件ノ說示トシテ欠クル所ナシ（大正六・一一・一五）

○服用ノ虞アル毒物ノ提供ト特定人殺害手段ノ認定　犯人カ特定ノ人ヲ殺害スル目的ヲ以テ其人ノ必然飮食スヘキ狀態ニ毒物ヲ提供シタル以上ハ偶他人カ之ヲ服用スルコトアルヘキ虞ナキニ非サルニモセヨ之ヲ以テ特定ノ人ヲ殺害スヘキ特定ノ手段ト認ムルヲ至當トス（大正八・六・二六）

○殺人行爲ノ見張　殺人行爲ヲ實行スルニ當リ其現場ニ在リテ見張ヲ爲スハ他ヨリノ妨害ヲ排除スルノ任ニ當ル

モノニシテ殺人行爲ノ一部ヲ分擔スルモノナレハ下手者ト共ニ正犯ナリトス（大正九・一一・四）

○殺人ノ共犯ト實行正犯ノ負責　甲乙共謀シテ同時ニ丙丁ヲ殺害センコトヲ企テ甲ハ丙ヲ乙ハ丁ヲ殺害スヘク各自ノ分擔ヲ定メ之ヲ實行シタルトキハ甲乙相互ニ他ノ行爲ヲ利用シ共同ノ目的ヲ遂行シタルモノニシテ甲ハ丁ニ對シ又乙ハ丙ニ對シ直接手ヲ下シタルモノニ非スト雖各共犯者ノ一人ノ行爲ハ互ニ他ノ一人ノ行爲ノ一部ヲ爲シ共同シテ犯罪ヲ實行シタルモノト謂ヒ得ヘキヲ以テ甲乙何レモ其各個ノ殺人行爲ニ付實行正犯ノ罪責ヲ負フヘキハ當然ナリ（大正一一・二・九）

○共謀シテ人ヲ射殺シタル行爲ノ刑責　數人カ人ヲ殺害センコトヲ共謀シ共ニ射擊シ其目的ヲ達シタル場合ニハ各自ヲ正犯トシテ處斷スヘク其死因カ何人ノ射擊ニ因リタルヤヲ問ハス共犯者全員ニ於テ刑法上ノ責任ヲ負擔スヘキモノトス從テ共犯者中氏名不明ナル者アル場合ト雖氏名ノ明白ナルモノヲ處斷スル上ニ於テ何等支障ヲ來スヘキモノニ非ス（大正一一・六・一二）

第二百三條

○殺人未遂ニ對スル法條適用ト刑法第四十三條第四十四條引用ノ要否　刑法第四十三條本文ニ依リ未遂罪ノ減輕ヲ爲スト否トハ裁判所ノ職權ニ屬スルモノナレハ其減輕ヲ爲ササル場合ニ於テ同條ヲ引用セサルハ至當ナリ又殺人未遂ノ場合ニ於テ刑法第二百三條ヲ適用シタル以上ハ同第四十四條ヲ引用セサルモ不法ニ非ス（大正八・六・二六）

第二十七章　傷害ノ罪

第二百四條

○共同暴行者ノ責任　數人共謀シ各自他人ニ暴行ヲ加ヘタル以上ハ各自ノ成シタル傷害ノ輕重若クハ其有無ニ拘ラス各自正犯トシテ全責任ヲ負ハサルヘカラサルモノトス（大正七・六・八）

○暴行ノ認識ナクシテ傷害ヲ生セシメタル者ノ處分　傷害罪ノ成立ニハ犯人ニ於テ他人ニ對シ暴行ヲ加フルコトノ認識アルヲ要シ若シ其認識ナキ場合ニハ犯人ノ行爲ノ結果他人ニ傷害ヲ生セシメタル時ト雖傷害罪ヲ構成スルモノトス（大正七・六・二九）

○共同暴行者ノ刑責　共同正犯ハ共犯者間ニ意思ノ連絡アリ相互ニ共犯者ノ行爲ヲ利用シテ其目的ヲ遂行スルモノナレハ苟モ數人共同シテ暴行ヲ加ヘ他人ノ身體ヲ傷害シタル以上ハ各自ノ負ハシメタル傷害ノ輕重若クハ有無如何ヲ問ハス皆共同正犯トシテ全部ノ刑責ニ任スヘキモノトス（大正七・一〇・一四）

○毛髮截斷ト暴行罪　刑法第二百四條ノ傷害罪ハ他人ノ身體ニ對スル暴行ニ因リ其生活機能ノ毀損即チ健康狀態ノ不良變更ヲ惹起スルコトニ依リテ成立スルモノナレハ不法ニ人ノ毛髮ヲ截斷スル行爲ハ之ヲ以テ健康狀態ノ不良變更ト云フヲ得ス從テ獨立シテ同條ニ所謂傷害罪ヲ構成スルモノニ非スト雖如上ノ行爲カ人ノ身體ノ一部ニ對スル不法傷害タル暴行タルモノトス（大正一〇・三・一〇）

○同一意思ノ發動ニ基ク數個ノ暴行ト一個ノ傷害　同一意思ノ發動ニ基キ數個ノ擧動ヲ以テ同一人ニ對シ暴行ヲ加ヘ其身體ヲ傷害シタル場合ニ於テ數個ノ擧動ハ之ヲ包括シテ一個ノ傷害行爲ト見ルヲ相當トス（大正一〇・三・一〇）

○傷害罪ノ告訴ノ暴行罪ニ對スル效力　自己ニ對シ他人カ暴行ヲ爲シ傷害ヲ加ヘタル事實ヲ申告シテ其ノ訴追ヲ求ムル意思ヲ表示シタルトキハ特ニ暴行カ傷害ノ結果ヲ惹起シタルニ非サルニ於テハ暴行ニ付訴追ヲ求メサルノ趣旨ヲ包含セサル限リ暴行ノ事實ニ付テモ告訴ノ效力アルモノト解スヘキモノトス（昭和八・四・二〇）

巻	頁
七	一三七
九	八
九	六八
六	一八三
五	一八七
五	二三四
五	二八一
八	五七
八	五七
二〇	五三六

第二百五條

○暴行ノ犯意ト傷害致死罪ノ成立　傷害致死罪ノ成立ニ必要ナル犯意ハ犯人ニ於テ他人ニ對シ暴行ヲ加フルノ意思アルヲ以テ足リ其暴行ノ結果タル傷害致死ニ對スル故意アルヲ要セサルモノトス（大正二・九・二五）

○暴行ト致死トノ因果關係　暴行ヲ加ヘテ人ノ身體ヲ傷害シタル場合ニ被害者カ當時適々疾病泥醉等ノ障碍ニ因リ死ノ轉歸ヲ免レサルヘキ狀態ニ在リタリトスルモ苟モ該暴行ニ因ル傷害カ死ノ轉歸ニ動機ヲ與ヘタルモノナルトキハ暴行ト致死トノ間ニ因果ノ關係アリト謂ハサルヘカラス（大正一三・三・一三）

第二百七條

○本條ノ律意　刑法第二百七條ハ暴行者間相互ニ意思ノ連絡ナクシテ共同正犯ヲ以テ論スルコトヲ得サルトキト雖傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ共犯ニ關スル刑法第六十條ノ規定ニ準據シ暴行者各自ヲシテ其傷害ノ結果ニ對シテ全部ノ責任ヲ負ハシムルコトヲ規定シタル律意ナリ（大正七・一〇・一四）

○共同暴行者ニ對スル處分　二人以上ノ者カ共同シテ他人ニ暴行ヲ加ヘ其身體ヲ傷害シタル場合ニ於テハ當然刑法第六十條ヲ適用シ其暴行者各自ヲ共同正犯トシテ之ニ全部ノ責任ヲ負ハシムヘク刑法第二百七條ヲ適用スヘキモノニ非ス（大正七・一〇・一四）

第二百八條

○暴行罪ノ成立ヲ認ムル場合傷害ニ至ラサリシコトノ判示ノ要否　刑法第二百八條ニ規定スル暴行罪ノ事實ヲ認定スルニ人ヲ傷害スルニ至ラサリシコトハ判文中ニ明示スルコトヲ要セス（大正元・一二・一八）

○傷害罪ノ告訴ノ暴行罪ニ對スル效力　自己ニ對シ他人カ暴行ヲ爲シ傷害ヲ加ヘタル事實ヲ申告シテ其ノ訴追ヲ求メサルノ趣旨ヲ包含セサル限リ暴行ノ事實ニ付テモ告訴ノ效力アルモノト解スヘキモノトス（昭和八・四・二〇）

卷	頁
二	二一九
二	一九
五	二八一
五	二八一
二	五九

第二十八章　過失傷害ノ罪

第二百十條

○過失致死罪ノ成立ト過失ノ有無　過失致死罪ハ自己ノ過失ニ因リ他人ニ死ノ結果ヲ惹起セシムルニ依リ成立スルモノニシテ苟モ自己ノ過失ト他人ノ死亡トノ間ニ因果關係ノ存在スル以上其ノ過失カ他人ノ死ノ結果ニ對シ唯一ノ原因ヲ爲スモノナルト將タ他人ノ過失カ中間ニ介在シ之ト相俟テ共同的ニ原因ヲ爲スモノナルヲ問ハス右過失ノ有無ハ普通一般人ノ注意力ヲ標準トシテ定ムヘク此ノ程度ノ注意ヲ用ヰナハ死ノ結果ヲ豫見シ得ヘカリシニ拘ラス豫見セサリシ場合ニ過失アリト爲スヘキモノトス（昭和八・四・二〇）

第二百十一條

○自動車ヲ渡船ニ依リテ渡行セシメントスル場合ト自動車運轉手ノ責任　乘客ヲ乘セタル自動車ヲ渡船ニ依リ此岸ヨリ彼岸ニ上陸セシメントスル場合ニ於テ渡船ト陸上ノ杭トニ結付ケアル繫留繩カ其重量及機關ノ强壓ニ堪ヘ得ルノ牽引力ヲ有スルヤ否ヤノ如キハ繫留繩ヲ繫留スルコトカ自動車運轉手タル被告ノ業務ノ範圍ニ屬スルヤ否ヤヲ區別シテ其注意義務者ノ如何ヲ判斷セサルヘカラス然ルニ之ヲ區別セスシテ直ニ被告ヲ業務上ノ過失致死罪ニ問擬シタル判決ハ理由不備ノ不法アリテ破毀ヲ免レス（大正八・七・一二）

○自動車運轉手ノ不注意ト業務上過失死傷罪ノ成立　自動車ノ運轉手ハ其運轉ニ因リ若ハ之ニ伴ヒテ乘客ニ

卷	頁
二〇	五三六
二〇	五一五
八	二〇六

來スコトアルヘキ生命身體ニ對スル危害ヲ防止スヘキ注意ヲ爲ス義務ヲ有スルコトハ其ノ業體上論ヲ俟タサル所ニシテ該義務ハ乘客ニ對シ進行中ニ乘降ヲ禁スル法規ノ存スル故ヲ以テ阻却セラルヘキモノニアラス故ニ運轉手ニシテ若シ相當ノ注意ヲ拂ヒ自動車ノ進行ヲ停止シテ乘客ヲシテ下車セシメタラムニハ何等危害ノ發生セサルヘカリシニ拘ラス不注意ニモ進行中乘客ヲ促シテ下車セシメ因テ生命身體ニ危害ヲ蒙ムルニ至ラシメタル場合ニハ業務上過失死傷罪ヲ構成ス（大正一一・七・二〇）

○自動車運轉手ノ運轉機能ニ對スル檢査義務　自動車ノ運轉手ノ如キ特殊ノ危險業務ニ從事スル者ハ其ノ業務上危險ノ豫防ニ付一般ノ注意義務ヲ嚴守スルコトヲ要スルモノナルカ故ニ操縱ニ先タチテ先ツ運轉機能ニ缺陷ナキヤ否ヲ檢査スル義務アリ其ノ操縱ニ方リテハ苟モ自動車ノ運轉ニ伴フテ生スルコトアルヘキ一切ノ危險ヲ未然ニ防止スルニ付細心ノ注意ヲ爲スコトヲ要スルモノトス（大正一五・一・二一）

○自動車運轉手ノ注意義務ト被害者ノ過失　運轉手ニシテ上敍業務上必要ナル注意ヲ怠リ因リテ人ヲ傷害シタルトキハ被害者ノ過失ノ有無ヲ問ハス刑法第二百十一條ノ罪責ヲ免カレサルモノトス（大正一五・一・二一）

○自動車運轉手ノ業務ト注意義務　自動車ノ運轉手カ電車停留所ニ電車ノ停車セルヲ認メテ該停留所ト反對側ニアル停留所トノ間ノ電車軌道上ニ自動車ヲ進ムルニ當リテハ同電車ヨリノ降車客カ電車線路ヲ横斷セントシテ電車ノ背後ヨリ突然自動車ノ進路ニ向ヒ歩ヲ移スコト往々アルヲ以テ自動車ノ運轉手ハ須ク同降車客トノ衝突ヲ豫防センカ爲警笛ヲ吹鳴スルハ勿論徐行スル等機宜ニ從ヒ最モ適切ナル操車方法ヲ講スヘキハ其ノ業務上當然ノ義務ナリトス（昭和一一・二・一七）

○朝鮮鐵道ノ機關庫長以下鐵道係員職制第九十三條火夫ノ任務ト慣行ニ因ル他ノ任務ノ併行　朝鮮鐵道ノ機關庫長以下鐵道係員職制第九十三條ノ規定ハ火夫ニ對シ同條ニ規定スル焚火ノ任務以外ニ於テ慣行ニ因ル他ノ

卷	頁
九	九一
一三	一
一三	一
二三	四三九

任務ヲ認ムヘカラサルモノトスル趣旨ノ規定ニ非サルハ勿論焚火ノ任務ト停車場構内常置信號機ヲ注視シ機關士ニ之カ合圖ヲ爲スヘキ任務トハ事實上併行シ得ヘカラサルモノニ非サルヲ以テ事實裁判所カ火夫ニ對シ證據ニ依リ慣行上停車場構内常置信號機ヲ注視シ機關士ニ之カ合圖ヲ爲スヘキ任務ヲ有スルモノト判示シタルモ之ヲ以テ職制上ノ規定ヲ無視シ不當ニ事實ヲ確定シタル不法アリト謂フヲ得ス（大正一一・五・二二）

○本條ニ所謂業務上必要ナル注意ヲ怠リノ意義　刑法第二百十一條ニ所謂業務上必要ナル注意ヲ怠リトアルハ啻ニ法令ニ基ク業務上必要ナル注意ヲ怠リタル場合ノミナラス契約其他慣行ニ因ル業務上必要ナル注意ヲ怠リタル場合ヲモ包含スルモノトス（大正一一・五・二二）

○業務上共同過失死傷罪ト其ノ刑責　二人ノ業務上ノ共同過失ニ因リ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ共犯規定ノ適用ナク其各自ニ對シテ刑法第二百十一條ヲ適用處斷スヘキモノトス（大正一一・五・二二）

○機關士ノ前方注視義務　機關士ハ機關車乘務中特別ノ事情存セサル限リ常ニ前途ヲ注視シ危險ノ發生ヲ未然ニ防止スヘキ注意義務ヲ負フモノトス（昭和五・九・一八）

○列車機關士ノ注意義務　列車ノ機關士ハ常ニ線路ノ狀態及牽引車輛ノ性能等ニ留意シ之等ノ狀況ニ應シ適宜速度ノ調節ヲ圖ルヘク又制動機ノ使用カ却テ危險ヲ誘發スル處アルトキハ之ヲ避クル等脫線ノ危險ニ對シ細心ノ注意ヲ爲スヘキ業務上ノ義務アルモノトス（昭和一一・一一・三〇）

○踏切附近ニ於ケル四、五歳ノ幼兒ト汽動車運轉手ノ注意義務　運轉手カ汽動車ヲ運轉シ一時間四十五粁内外ノ速力ヲ以テ進行中百五十米内外前方ノ踏切外側三、四米ノ附近ニ四、五歳ノ幼兒監護者ナクシテ遊ヒ居ルヲ發見シタルトキハ斯ル幼兒ハ成年者ト異リ未タ智能發達セス經驗ニ乏シキ爲注意力ニ缺クル所アルノミナラス如何ナル行動ニ出ツレハ危害身ニ及フヘキカヲ辨ヘス何時急遽踏切ニ接近シ又ハ立入ラムトスルヤ測ルヘカラサルモノナルヲ以テ

卷	頁
九	五五
九	五五
九	五五
一七	三四〇
二三	六八五

運轉手ハ該幼兒ノ姿勢態度如何ニ拘ラス絶エス細心ノ注意ヲ以テ其ノ行動ヲ注視シツツ適宜警笛ヲ鳴ラスト共ニ斯ル不測ノ場合ニ處スル爲徐行急停車等ノ手段ニ因リ該踏切前ニ於テ汽動車ヲ停車セシメ得ヘキ程度ニ速力ヲ減シテ進行シ機宜ニ應シ其ノ速力ト距離トノ關係ニ付周到ナル注意ヲ以テ急停車ノ處置ヲ執ル等危害ノ發生ヲ未然ニ防止スヘキ業務上ノ注意義務ヲ負フモノトス而シテ縱令幼者カ監護者ナクシテ汽動車軌道ノ踏切外三、四米ノ附近ニ佇立シ汽動車ノ通過ヲ傍觀スルコト往往アリ其ノ都度前敍ノ如ク汽動車ノ速力ヲ減スルトキハ運轉手ハ之カ爲運轉時間ヲ遵守スルコトヲ得スシテ高速度交通機關ノ目的ニ副ハストルモ現ニ人ノ生命身體カ危害ヲ被ルヘキ虞アル狀況ニ在ル場合ニ於テハ之ヲ保護スルカ爲ニ交通ノ便益ヲ多少犧牲ニ供スルハ已ムヲ得サル所ニシテ斯ル場合ニ臨ミナカラ單ニ運轉時間遵守ノ爲人ノ生命身體ノ危害防止ニ必要ナル注意義務ヲ免除スルノ理由毫モ存セサルモノトス（昭和八・九・一一）

○電車車掌ノ注意義務　電車ノ電車停留所附近ニ於テ互ニ擦違フ場合ニハ電車ノ降車客カ不用意ニモ突然電車車掌臺ノ背後ヨリ自己ノ乘車シ居リタル電車ト反對ノ方向ニ進路ヲ執レル電車ノ線路ヲ横斷セントシテ其ノ軌道上ニ歩ヲ移スコトハ往々アルカ故ニ該電車ノ運轉手ハ須ラク同降車客トノ衝突ヲ豫防スル爲警鈴ヲ鳴スハ勿論機宜ニ從ヒ徐行ト共ニ急停車ノ用意ヲ爲ス等最モ適切ナル操車方法ヲ講スヘキハ其ノ業務ノ性質上當然ノ義務ナリ（昭和八・七・三一）

○電車運轉手ト業務上ノ注意義務　通行人繁キ十字路ニ近接シテ停留場存シ之カ標識トシテハ僅ニ大衆ノ注意ヲ惹カサル停車標準目ノ存スルノミニシテ他ニ適當ノ設備ナク却テ之ヨリ稍離レテ西方ニ一見停留場ノ標識ト紛フヘキ文字ノ電柱上ニ大書セルアリテ東行ノ電車ハ該電柱ノ附近ニ停車スルモノト誤認セラルヘキ事情ノ存スル箇所ヲ時恰モ防空演習ニ於ケル燈火管制ノ直前ニシテ民衆ノ街路ヲ低徊往來スル者多キニ際シテ電車ヲ運轉スル者ハ進路ヲ注視シテ大衆ノ擧動ニ留意シ何時ニテモ停車シ得ヘキ程度ノ徐行ヲ爲ス等通行人ニ危害ヲ加フルナキ爲最善ノ注意ヲ拂フヘキ義務アリ（昭和九・四・二六）

卷	頁
二〇	六〇七
二〇	五九三
二一	五三七

○電車運轉手ト業務上ノ注意義務　進行中ナル電車ノ前方軌道ノ傍ニ一時佇立スル通行人ト雖或ハ電車ノ進行シ來ルニ氣付カス又ハ之ニ氣付キタルニ拘ラス未タ甚シク切迫セサル限リ緩急ノ判斷ヲ誤リ軌道ヲ横斷セムトシテ線路内ニ立入ルカ如キコト之ナシトセス該通行人カ老者ナルト否トニ因リ異ルコトナシ故ニ電車ノ運轉手ハ斯ノ如キ通行人アルトキハ適當ニ電車ノ速力ヲ低減シ且警笛ヲ鳴ラシテ警戒ヲ與ヘ其ノ擧動ニ十分ノ注意ヲ拂ヒツツ通行人カ誤リテ軌道内ニ立入ルコトナキヲ保シ難キ間ハ克ク事前ニ停車ノ措置ヲ執リ得ル樣周到ナル用意ヲ以テ操縱ニ當ルヘキ業務上ノ注意義務アルモノトス（昭和一〇・七・一八）

第三十章　遺棄ノ罪

第二百十八條

○本條ニ所謂病者　刑法第二百十八條ニ所謂病者トハ疾病ノ爲扶助ヲ要スル者詳言スレハ疾病ニ因リ他人ノ扶持助力ヲ待ツコト無クシテハ自力ノミニ依リテ生活ヲ維持スルコト能ハサル狀態ニ在ル者ヲ汎稱スルモノトス（大正一四・四・一五）

第三十一章　逮捕及ヒ監禁ノ罪

第二百二十條

○人ヲ取押フヘキ旨ノ委託ニ對シ逮捕留置ヲ爲シタル憲兵ノ責任　憲兵ハ單ニ人ヲ取押フヘキ旨ノ委託ニ基キ逮捕留置スルヲ得ス從テ斯クノ如キ場合ニ於テ憲兵ノ行爲ヲ目シテ故意ナキモノト爲スヲ得サルモノトス（大正三・一一・五）

卷	頁
二三	六七二
一三	一五
二	三二八

○憲兵ヲシテ職務上逮捕シ得ヘキモノト誤解セシメテ不法ニ逮捕セシメタル者ノ刑責　憲兵カ被告ノ電話通告ヲ輕信シ職務上逮捕シ得ヘキモノト誤解シ被害者ヲ逮捕シタル以上ハ憲兵ハ機械的ニ行動ヲ爲シタルモノニシテ被告ニ於テ不法逮捕ノ間接正犯タル責任ヲ免レサルモノトス（大正四・一・二八）

○監禁罪ノ成立要件　監禁罪ハ一定ノ區劃外ニ出ツル能ハサラシムル方法ヲ以テ不法ニ人ノ進退行止ノ自由ヲ制御スルニ依リテ成立ス（大正一二・四・二三）

第三十二章　脅迫ノ罪

第二百二十二條

○犯罪發覺豫防ノ爲メニ爲シタル脅迫ト刑責　詐欺取財ヲ犯シ其發覺ヲ豫防センカ爲メ卽時其場ニ於テ人ヲ脅迫シタルトキハ獨立シタル脅迫罪成立スルモノトス（明治四四・七・二四）

○脅迫罪ノ構成ト脅迫者ノ何人ナルヤノ告知又ハ認識ノ要否　刑法第二百二十二條第一項所定ノ脅迫罪ハ生命、身體、自由、名譽又ハ財產ニ對シ害ヲ加フヘキコトヲ以テ人ヲ脅迫スルニ依リ成立シ苟モ被上ノ脅迫ヲナス以上ハ脅迫者自身ノ何人ナルカヲ被害者ニ告知スルト否ト將又被害者カ脅迫者ノ何人ナルカヲ認知スルト否トハ犯罪ノ構成ニ影響ナキモノトス（大五一三・二・二一）

第二百二十三條

○朝鮮人カ暴行又ハ脅迫ヲ以テ不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ得セシメタルトキノ擬律　朝鮮人カ暴行又ハ脅迫ヲ以テ財產上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタルトキハ刑法大全第五百九十三條ヲ引律比照シテ處斷スヘキモノトス（大正三・八・一三）

○本條ノ法意　刑法第二百二十三條ハ暴行又ハ脅迫ヲ以テ財產上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル場合ヲ包含セサルモノトス（大正三・八・一三）

○強要罪ト強盜罪　刑法第二百二十三條ノ所謂強要罪ノ規定ハ同條所定ノ脅迫又ハ暴行ヲ手段トスル人ノ自由ニ對スル侵害ニ對スルモノニシテ暴行又ハ脅迫ヲ手段トスル財物ノ强取又ハ財產上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシムル如キ財產權ノ侵害ニ對シテハ同法第二百三十六條ノ規定スル所ニ屬シ該法條ノ規定スル所ニアラス（大正一二・二・二六）

第三十三章　略取及ヒ誘拐ノ罪

第二百二十六條

○誘拐ノ意義　誘拐トハ僞計其他人ヲ錯誤ニ陷ラシムヘキ誘惑手段ヲ以テ不法ニ人ヲ自己ノ實力的支配內ニ措クヲ謂フ而シテ右實力的支配內ニ措クトハ前ニ之ヲ有セサリシ者カ新ニ之ヲ獲得スル場合ヲモ包含ス（大正一〇・三・二四）

○一時實家ニ預ケタル妻ト其ノ夫ノ實力的支配　夫カ妻ヲ一時其實家ニ預ケタル場合ト雖夫ハ依然トシテ妻ニ對スル實力的支配ヲ失ハサルモノトス（大正一〇・三・二四）

○妻ノ同居義務ト妻ニ對スル夫ノ誘拐罪　妻ハ夫ト同居スル義務アリト雖是レアルカ爲メニ不法ナル夫ノ命令ニ服從セサルヘカラサルモノニ非ス本件ハ被告カ其妻ヲ支那地ニ移送シ同人ヲシテ被告ト離婚スルノ餘儀ナキニ至ラシメンコトヲ決意シ附近ノ村落ニ於テ一家ヲ構ヘ同居スヘキ旨申欺キテ同人ヲ其實家ヨリ誘出シ支那營口ニ移送シタリト謂フニ在ルカ故ニ誘拐罪ヲ構成スルヤ論ナシ（大正一〇・三・二四）

○本條ニ所謂帝國外ト關東州　租借地タル關東州ハ刑法第二百二十六條ニ所謂帝國外ニ該當セサルモノトス（昭和一〇・七・一五）

第三十四章　名譽ニ對スル罪

第二百三十條

○編輯兼發行人ノ記事掲載及發賣頒布行爲ノ認定上證據ニ依リ之ヲ明示スルコトノ要否　他人ノ名譽ヲ毀損スヘキ記事カ新聞紙ニ掲載セラレ及其新聞紙カ發賣頒布セラレタル場合ニ於テ其記事掲載及發賣頒布ノ行爲ハ卽チ其編輯兼發行人ノ行爲ニ外ナラサルモノト推定スヘキモノナルヲ以テ其編輯兼發行人タルコトヲ證據ニ依リ認メタル以上ハ其者カ其記事掲載及發賣頒布ヲ爲シタルコトニ付テハ特ニ認メタル證據理由ヲ明示セサルモ違法ニアラス（大正六・三・五）

○社會的地位ヲ貶スル事實ノ摘示ト名譽毀損罪ノ成立　人ヲ誹謗スルノ意思ヲ以テ苟モ人ノ社會的地位ヲ貶スル處アル具體的事實ヲ公然摘示シタル以上ハ當然刑法第二百三十條第一項ニ所謂名譽毀損罪ヲ構成スヘキモノトス（大正八・三・二〇）

○貯水池工事ニ關スル攻撃ノ新聞記事ト水利組合長ニ對スル誹謗　甲水利組合ノ事業タル貯水池工事カ豫定ノ日ニ於テ尚且工事ノ大半ヲ餘スカ如キ大失態ノ現狀ニアルハ乙組合長ノ如キ無責任極マルモノアルカ爲ニアラスンハアラス」及「甲組合當局ハ組合員ニ十數萬圓ノ損害ヲ與ヘナカラ平氣ナ顏ヲ爲シ僅ニ人面ヲ保チ居ルノミ」ナル新聞記事ハ孰レモ甲水利組合長ノ職ニ在ル乙ノ社會的地位ヲ貶スルニ足ル具體的事實ノ摘示ナリトス（大正八・三・二〇）

○新聞紙上ニ名譽ヲ毀損スヘキ記事ノ掲載　新聞紙上ニ私行ニ渉ル事實ヲ摘示シ他人ノ名譽ヲ毀損スルカ如キハ正當ナル業務行爲ナリト謂フヲ得サルモノニシテ特ニ法律ニ其處罰スヘキ明文アル場合ハ格別否ラサル限リ刑法第二百三十條ノ名譽毀損罪ヲ構成シ裁判所ハ必スシモ其事實ノ有無ヲ確定スルノ要ナシ（大正一〇・六・三〇）

○名譽毀損罪ノ成立　名譽毀損罪ノ成立スルニハ毀損セラルヘキ人ハ必スシモ之ヲ明確ニ表示スルノ要ナシト雖少クトモ多數ノ者ヲシテ其ノ何人ヲ指示スルモノナリヤヲ推測首肯セシムルニ足ル程度ニ於テ之ヲ表示セサルヘカラサルト共ニ名譽毀損ノ事實ハ詳密ニ之ヲ表顯スルニ及ハサレトモ具體的ニ顯出セシメサルヘカラス（昭和四・五・六）

○新聞紙ニ依ル名譽毀損ト正當業務行爲　苟モ人ノ名譽ヲ毀損スヘキ人ノ記事カ一面ニ於テ警察當局ノ犯罪檢擧ノ活動狀態ヲ表示シタルモノナリトスルモ該行爲ハ新聞記者ノ正當ナル業務ニ因リ爲シタル行爲ト謂フヲ得ス（昭和六・二・一六）

○新聞紙記事ト名譽毀損ノ準據法　舊韓國光武十一年法律第一號新聞紙法第十五條ノ規定ニシテ其ノ效力ヲ失ヒタル以上同法ニ從ヒ發行スル新聞紙ニ掲載セラレタル記事カ人ノ名譽ヲ毀損スルモノトシテ犯罪ヲ構成スヘキヤ否ヤハ專ラ刑法ノ規定ニ照シテ決定スヘキモノトス（昭和七・五・九）

○新聞紙ニ依ル名譽毀損ノ刑責負擔者　舊韓國光武十一年法律第一號新聞紙法ニ依ル新聞紙ノ編輯人又ハ發行人タル者カ其ノ編輯人トシテ當然刑責ヲ負フヘキハ同法ニ依リ發行スルモノニシテ名譽毀損罪ニ對シ何人カ刑責ヲ負フヘキカハ縱令新聞紙ニ依リ之ヲ犯シタル場合ニ於テモ專ラ刑法ニ從ヒテ之ヲ決スヘキモノトス（昭和七・五・九）

○名譽毀損罪ノ目的タル名譽ノ意義　名譽毀損罪ノ目的タル名譽ハ人ノ社會上ノ地位又ハ價値ニシテ人ハ其ノ具體的ナル社會的地位ノ如何ニ拘ラス又此ノ地位カ當然ナリヤ否ヤヲ問ハス公然自己ノ不利益ナル評價ヲ受ケサルノ

巻	頁		
三	六六九	八	二六
四	四五	一六	一五
六	九二	一八	二八一
六	九三	一九	三四一
		一九	三四一

	巻	頁
權利アルモノトス（昭和九・二・五）	二一	四八〇
第二百三十一條		
○本條ニ所謂公然人ヲ侮辱シタル者ノ意義　刑法第二百三十一條ニ所謂公然人ヲ侮辱シタル者トハ第三者ノ耳目ニ達スヘキ場所ニ於テ輕侮ノ表示ヲ爲シタル場合ヲモ包含ス而シテ第三者ノ數ノ多少ハ犯罪ノ成立ニ妨ケナキモノトス（明治四四・七・二四）	一	一四一
○判文中大聲叱スルカ如キ言語ヲ發シ云々ノ旨趣　判文中大聲叱スルカ如キ言語ヲ發シトアルハ用語ノ尋常ナラスシテ人ヲ輕蔑シタル言語ナルヲ形容シタル旨趣ナルコト明カナレハ的確ナラサル判示ト云フヲ得サルモノトス（明治四四・七・二四）	一	一四一

第三十五章　信用及ヒ業務ニ對スル罪

	巻	頁
第二百三十三條		
○本條ニ所謂業務　刑法第二百三十三條ニ規定スル人ノ業務トハ國家ノ行フ農工業商業其ノ他諸般ノ業務ヲモ包含スルモノトス（大正三・九・一七）	二	二五七
○業務上ノ行爲ナリヤ否ヤノ認定　各業務ニ於ケル如何ナル行爲カ業務上ノ行爲ナルヤハ各業務ノ性質ニ依リテ決スヘキモノトス（大正三・九・一七）	二	二五七
○朝鮮總督府鐵道局ノ行フ業務ノ範圍　朝鮮ニ於ケル鐵道交通ニ關スル直接ノ行爲ハ朝鮮總督府鐵道局ノ行フ業務ナルモ直接交通ニ關セサル行爲ノ如キハ假令業務上ノ目的ヲ達スルニ必要ナル行爲ト雖鐵道局ノ業務ト謂フヲ得サルモノトス（大正三・九・一七）	二	二五七
○朝鮮總督府鐵道局ニ於テ停車場新築工事ニ付請負契約ヲ締結スル行爲ノ性質　停車場新築工事ニ付請負契約ヲ締結スル行爲ハ直接交通ニ關セサル行爲ナルヲ以テ鐵道局ノ行フ業務ニ非サルモノトス（大正三・一・七）	二	二五七
○工事ノ請負ニ關シテ不正ノ入札ヲ爲シ朝鮮總督府鐵道局ノ工事擔當者ヲシテ工事請負契約ヲ締結セシメタル事實ト業務妨害　停車場新築工事ニ關シ不正ノ入札ヲ爲シ鐵道局工務課ノ工事擔當者ヲシテ工事請負契約ヲ締結セシメタル事實ヲ以テ刑法第二百三十三條ノ業務妨害罪ニ問擬シタルハ擬律ノ錯誤ナリトス（大正三・九・一七）	二	二五七
○競爭入札者カ談合金ヲ與フルコトノ契約ノ下ニ各自ノ入札ノ權利ヲ拋棄セシメタル行爲ノ刑責　競爭入札者ニ對シ談合金ヲ與フル契約ヲ爲シ因テ以テ各自ノ有スル自由ニ競爭入札ヲ爲ス權利ヲ拋棄セシメタル行爲ハ業務妨害罪ヲ構成スルモノトス（大正三・九・一七）	二	二五七
○競爭入札ヲ爲ス際ニ行ハルル僞計　競爭入札ヲ爲スニ際シ他ノ競爭入札者ヲシテ自由競爭ヲ爲サシメサル爲メニ贈與ヲ爲シ若クハ利益ヲ與フル契約ヲ爲スカ如キハ一ノ僞計ナリトス（大正三・九・一七）	二	二五九
○工事請負ト財產上ノ利益　工事請負業者カ工事ノ請負ヲ爲スハ一ノ財產上ノ利益ナリトス（大正三・九・一七）	二	二五七
○公訴事實ニ指示シタル以外ノ者ヲ被害者ト認メテ信用毀損罪ノ成立ヲ認ムルコトノ當否　公訴事實ニ指示セル被害者ト異レル別人ヲ被害者ト認定シテ信用毀損罪ノ成立ヲ認メタルハ違法ニ非ス（大正四・五・六）	三	一〇九
○本條ニ所謂業務　刑法第二百三十三條ノ所謂業務トハ農工業商業其他經濟的關係ヲ有スル諸般ノ業務ヲ指稱スルモノナルヲ以テ國家カ主トシテ經濟的關係ニ於テ爲ス如上ノ業務ハ同條ノ業務ニ該當スルモ全然經濟的關係ヲ有セサルモノハ之ヲ同條ノ業務ナリト謂フヲ得サルモノトス（大正四・一〇・二五）	三	二一一
○他人名義ノ郵便葉書ヲ以テ被害者ノ取引先ニ爲シタル虛僞ノ通報ト信用毀損罪ノ成立　郵便葉書ニ甲		

ノ信用ヲ毀損スヘキ事項ヲ記載シ他人ノ名義ヲ以テ恰モ其事情ヲ知レル者ヨリ之ヲ通報スルモノナルカ如ク虚僞ノ計策ヲ用ヒ甲ト取引關係アル乙ニ該葉書ヲ送付シ甲ノ信用ヲ毀損シタルトキハ僞計ヲ以テ人ノ信用ヲ毀損シタルモノトス（大正六・八・二〇）

第二百三十四條

○小作爭議調停ノ意思ト業務妨害罪ノ犯意　縱令小作爭議調停ノ眞意ニ出タル行爲ナリトスルモ其ノ手段ニシテ威力ヲ振ヒ業務ヲ妨害セル事實アリ而モ該事實ニ對スル認識アルニ於テハ業務妨害罪ノ犯意ヲ缺如スルモノト謂フヲ得ス（大正一三・三・一〇）

○業務執行ニ因ル他人ノ權利侵害ト第三者ノ關係　刑法第二百三十四條ニ所謂業務トハ人ノ反覆執行スル事業ヲ汎稱スルモノニシテ偶其ノ業務執行ニ依リ他人ノ權利ヲ侵害スルコトアルモ被侵害者ハ之カ排除ノ爲メ法ノ救濟ニ依ラスシテ自ラ暴力ヲ用ユルヲ許サス殊ニ第三者カ之ニ干渉シ右ノ業務ヲ妨害シタルトキハ業務執行者ノ權利ノ有無ヲ問ハス本罪ヲ構成スルモノトス（大正一三・三・一〇）

第三十六章　竊盜及ヒ强盜ノ罪

第二百三十五條

○竊盜罪ト横領罪トノ區別標準　犯人所持内ニ移スヤ否ヤハ竊盜罪ヲ横領罪ト區別スルノ標準ナリトス（明治四四・一・一六）

○他人ニ宛テタル郵便物在中ノ小爲替券ヲ自己ノ所持内ニ移シタルモノノ罪質　他人ニ宛テタル郵便物ヲ受取リ擅ニ之ヲ開封シ在中ノ小爲替券ヲ自己ノ所持内ニ移シタル所爲ハ竊盜ナリトス（明治四四・一・一六）

○數人ヨリ各別ニ預リ居リタル數點ノ衣類ヲ同時ニ竊取シタル所爲ノ罪數　洗張營業者ノ數人ヨリ各別ニ預リ居レル衣類數點ヲ同時ニ竊取シタル所爲ハ一個ノ竊盜罪ヲ構成スルモノニシテ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルモノニ非ス（大正二・九・一）

○重石ノ採掘ト竊盜罪　重石ハ財産權ノ目的タリ得ヘキヲ以テ他人ノ森林山野其他ノ土地ニ於テ之ヲ採掘竊取シタルトキハ刑法第二百三十五條ノ竊盜罪ヲ構成シ其竊取ニ係ル物件ナルコトヲ知リテ買受ケタルトキハ贓物故買罪ヲ構成ス（大正四・二・一五）

○竊盜罪强盜罪ニ於テ共謀者中ノ一人カ竊取强取ヲ爲シタル場合他ノ共謀者ノ處分　竊盜罪强盜罪ニ於テハ被害者ノ意思如何ニ關セス他人ノ財物ヲ竊取若クハ强取スルカ如キ有形ノ行爲ヲ要件トスルモノナレハ共謀者中ノ一人カ竊取若クハ强取ヲ爲シタルトキハ右行爲ハ一人ノ行爲ニ止マリ他ノ共謀者ハ共同正犯タルヘキモノニ非ス（大正五・四・二二）

○竊盜罪、住居侵入罪ニ於ケル被害者カ其居宅ニ在否ノ事實　被害者カ被害當時其住宅ニ不在ナリシ事實ノ如キハ竊盜罪若クハ住居侵入罪ノ構成事實ニ非サルヲ以テ證據ニ基キテ之ヲ認メタル理由ヲ判決ニ明示スルノ要ナシ（大正六・二・一）

○廢寺財産ノ歸屬ト竊盜罪ノ成否　寺院カ燒失シ其結果廢寺ニ歸シタル事實アリトスルモ同寺院ノ所有タリシ財産ハ之カ爲ニ直チニ無主物タルモノニ非ス（大正七・一・三一）

○家屋内侵入ト竊盜ノ着手　竊盜ノ目的ヲ以テ戸締ヲ開キ室内ニ侵入スルトキハ未タ室内ノ財物ニ手ヲ觸ルルニ至ラストスルモ竊盜ニ着手シタルモノナリトス（昭和四・四・二二）

巻頁		
四	三七二	
二	一四	
二	一四	
一	一四三	
一	一四二	
三	一〇七	
三	六六	
三	三八二	
四	一三	
五	二二ノ一四	
一六	八	

第二百三十六條

○暴行ヲ以テ債權證書ヲ認メシメタル所爲ト强盜罪　暴行ヲ以テ債權證書ヲ認メシメタルトキハ外形上不法ニ債權ヲ取得シタルモノニシテ强盜罪ヲ構成ス（大正三・八・一三）　聯

○權利ノ實行上又ハ權利アリト誤信シテ財物ヲ奪取シタル者ノ處分　强盜罪ハ暴行脅迫ヲ用ヒテ他人ノ占有スル財物ヲ不法ニ奪取スルニ因リテ成立スルモノナレハ暴行脅迫ヲ用ヒテ他人ノ占有スル財物ヲ奪取スルモ苟モ犯人カ財物其モノノ引渡ヲ要求スルコトヲ得ヘキ相當ノ權利ヲ有シ其權利ノ實行トシテ財物ヲ奪取シタルモノナルニ於テハ財物ヲ不法ニ領得シタルモノト謂フヲ得サルニ依リ暴行脅迫ノ所爲ニ付罪責ヲ負フヘキハ格別强盜罪ノ罪責ヲ負フヘキモノニ非ス而シテ犯人カ財物ノ引渡ヲ要求スルコトヲ得ヘキ權利アリト信シ暴行脅迫ヲ用ヒ財物ヲ奪取シタル場合ニ實際其權利ヲ實行シタルモノト爲スヲ得サルハ言ヲ俟タサレトモ誤信ノ結果犯意ヲ阻却シ强盜罪ヲ構成スヘキモノニ非ス（大正七・一一・一四）

○反對　權利實行ノ手段トシテ他人ヲ恐喝シタル者ノ刑責　刑法第二百四十九條ノ規定ハ縱ヒ請求ノ權利アルトキト雖被告カ恐喝手段ヲ以テ他人ノ財物ヲ交付セシメ若ハ不法ノ利益ヲ收得シタル場合ヲモ處罰スルモノト解釋スヘキモノトス（大正元・一二・一四）

○强盜罪ト恐喝罪トノ區別　暴行脅迫ヲ以テ被害者ノ意思ノ反抗ヲ抑壓シ全然其自由ヲ剝奪シタル上被害者ヲシテ金品ヲ交付セシメタル行爲ハ强盜罪ニシテ恐喝罪ニ非ス（大正七・一二・一二）

○强盜罪ノ財物ト於音　於音ハ其ノ實債權ノ發生ヲ阻却スヘキ事由アリトスルモ一應外形上債權ノ存在ヲ證明シ得ヘキモノニシテ且所有權ノ目的ト爲リ得ヘキモノナルヲ以テ刑法第二百三十六條第一項ニ所謂財物ニ外ナラス（大正一二・二・二六）

巻	頁
二	二四七
五	二九八
二	三一
五	三一七
一〇	八

○於音ノ强取ト本條第一項ノ財物强取　苟モ暴行又ハ脅迫ヲ手段トシテ他人ヨリ於音ヲ强取スルニ於テハ其ノ作成成立カ該手段ノ施行ノ前後ヲ問ハス刑法第二百三十六條第一項ニ所謂財物ヲ强取シタルモノニ該當ス（大正一二・二・二六）

○强要罪ト强盜罪ノ差異　刑法第二百二十三條ノ所謂强要罪ノ規定ハ同條所定ノ脅迫又ハ暴行ヲ手段トスル人ノ自由ニ對スル侵害ニ對スルモノニシテ暴行又ハ脅迫ヲ手段トスル財物ノ强取又ハ財產上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシムル如キ財產權ノ侵害ニ對シテハ同法第二百三十六條ノ規定スル所ニ屬シ該法條ノ規定スル所ニアラス（大正一二・二・二六）

第二百三十八條

○本條ト第二百四十條トノ關係　刑法第二百四十條ニ所謂强盜ニハ同第二百三十八條ニ依リ强盜ヲ以テ論スヘキモノヲモ包含ス（明治四三・一〇・二八）

○竊盜逮捕ヲ免ルル爲人ヲ殺害シタル場合ノ罪數　竊盜逮捕ヲ免ルル爲メ二人ヲ殺シタルトキハ各一個ノ强盜殺人罪ヲ構成スルモノニシテ一個ノ行爲ニシテ强盜ト殺人トノ二個ノ罪名ニ觸ルルモノニ非ス（明治四三・一〇・二八）

第二百四十條

○本條ノ意義　刑法第二百四十條ハ財物强取ノ既遂タルト未遂タルトヲ問ハス適用スヘキモノトス（明治四三・一〇・二八）

○本條ト第二百三十八條トノ關係　刑法第二百四十條ニ所謂强盜ニハ同第二百三十八條ニ依リ强盜ヲ以テ論スヘキモノヲモ包含ス（明治四三・一〇・二八）

巻	頁
一〇	八
一一	一三
一一	一三
一一	一三
一一	一三

○竊盜逮捕ヲ免ルル爲人ヲ殺害シタル場合ノ罪數　竊盜逮捕ヲ免ルル爲メ二人ヲ殺シタルトキハ各一個ノ强盜殺人罪ヲ構成スルモノニシテ一個ノ行爲ニシテ强盜ト殺人トノ二個ノ罪名ニ觸ルルモノニ非ス（明治四三・一〇・二八）

○竊盜ノ目的ノ家宅侵入ト强盜殺人　竊盜ノ目的ヲ以テ家宅内ニ侵入シタル後家人ニ誰何セラレタルヨリ殺意ヲ生シ家人ヲ殺害シテ財物ヲ强奪シタル所爲ハ竊盜殺人ニ非スシテ强盜殺人ナリトス　前示ノ場合ニ於テハ刑法ノ家宅侵入罪ト刑法大全第四百七十八條ノ罪トニ該當スルヲ以テ併合罪トシテ處斷スヘキモノトス（大正四・一・二八）

○朝鮮人ノ强盜傷人ノ所爲ニ對スル朝鮮刑事令施行ノ前後ニヨル適用法條ノ差異　朝鮮人カ殺意ヲ以テ犯シタル强盜傷人ノ行爲ニ對シテハ從前刑法大全第五百十條ヲ適用シテ處斷シ同法第四百七十八條ノ强盜殺人未遂罪トシテ處罰スルヲ得サルモノナルヲ以テ朝鮮刑事令第四十一條第一項ニ依リ同令施行ト同時ニ刑法大全第五百十條ノ廢止セラレタル後ト雖同法第四百七十八條ノ適用範圍ヲ擴張シ同條ノ强盜殺人未遂罪トシテ處罰スルヲ得ス强盜傷人ノ點ニ付テハ刑法第二百四十條殺人未遂ノ點ニ付テハ同法第百九十九條第二百三條ヲ適用スヘキモノナリ（大正四・四・二二）

○强盜致死罪ニ於ケル財物奪取ト致死トノ關係及人ヲ殺害シテ財物ヲ取得シタル者ノ擬律　强盜致死罪ハ强盜ヲ爲スノ機會ニ致死ノ結果ヲ生セシムルニ依リ成立シ財物ノ奪取カ致死ノ結果ヲ生セシメタル前ナルト其後タルトハ敢テ問フ所ニアラス而シテ人ヲ殺害シ然後財物ヲ取得スルハ奪取ノ意思ヲ以テ人ヲ殺害スル場合ニハ一所爲ニシテ殺人罪及强盜致死罪ヲ構成スルモノトス（大正六・一一・一五）

○本條後段致死ノ觀念ト從犯　刑法第二百四十條後段ニ所謂致死ノ觀念中ニハ犯人ニ於テ死亡ノ結果ヲ認識シタル場合ト之ヲ認識セサル場合トヲ包含スルモノナレハ之カ從犯タルニハ必スシモ從犯者ニ於テ死亡ノ結果ヲ認識シタルコトヲ要セサルモノトス（大正一〇・四・四）

○强盜致死罪成立ノ要件　刑法第二百四十條後段ニ所謂强盜致死罪ノ成立スルニハ致死ノ結果ハ犯人ノ財物奪取行爲ニ反抗スルコトアルヘキ者ニ對シテ生シタルコトヲ要スルヲ通例トシ苟モ之ニ反抗スルコトアルヘキ者タル以上ハ必スシモ現實ニ之ニ反抗スルコトヲ要セス又必スシモ之ニ反抗スヘキ權利若ハ義務アル者タルコトヲ要セス之ニ反抗スヘキ可能性ヲ有スルコトヲ以テ足レリトス（大正一〇・四・四）

○强盜致死罪ノ成立及殺意ノ有無　刑法第二百四十條後段ノ規定ハ啻ニ殺意ナクシテ强盜人ヲ死ニ致シタル場合ヲモ包含スル趣旨ノ規定ナルカ故ニ財物强取ノ手段トシテ故意ニ人ヲ殺害シ因テ財物ヲ强取シタルトキハ一箇ノ行爲ニシテ殺人及强盜致死ノ二罪名ニ觸ルルモノトシテ處斷セサルヘカラサルモノニシテ單純ノ强盜罪ノ罰條タル刑法第二百三十六條ヲ適用スヘキ餘地ヲ存セサルモノトス（大正一〇・四・四）

參考

○反對決議　强盜ヲ爲ス者故意ヲ以テ人ヲ殺シタル場合ニハ第二百四十條ノミヲ適用シ被結合罪タル殺人罪ノ法條（第百九十九條）ハ之ヲ適用スヘカラス（大正一二・五・三・判例調査會）

○强盜殺人未遂罪ノ成立　暴行脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ强取シ又ハ强取セムトシタル際人ヲ殺害セムトシタルモ傷害ヲ加ヘタルニ止マリ死ニ致サレサリシトキハ刑法第二百四十條後段ノ未遂罪ヲ構成スルモノトス（昭和四・四・二五）

○强盜致死罪ニ於ケル財物占有ノ解釋　他人ノ財物ヲ奪取スル目的ヲ以テ暴行ヲ加ヘ人ヲ死ニ致シテ其ノ占有

卷	頁		
一	一三	八	一三
三	七	八	一三
三	九九	一六	一三
四	四五四		

セシ財物ヲ領得シタルトキハ其ノ殺意アリタルト否トヲ問ハス被害者ノ生前既ニ其ノ占有ニ在ル財物ノ强取手段ニ著手シ其ノ完了前被害者死亡シタルモノナルヲ以テ斯ル場合ニ於テハ不法ナル强取ノ行爲ニ對シ財物ノ占有保護ノ完全ヲ期スルカ爲被害者ノ占有ハ死後仍繼續スルモノト同視スルヲ相當トス從ッテ其ノ財物ハ被害者ノ死亡ト同時ニ其ノ占有ヲ離レタルモノト爲スヘキモノニ非ス（昭和八・一・一六）

○財物强取ノ手段タル暴行ト强盜致死罪トノ關係　刑法第二百四十條ニ所謂强盜致死罪ハ强盜ヲ爲ス機會ニ於テ他人ヲ死ニ致スニ因リテ成立スルモノニシテ苟モ致死ニシテ該機會ニ於テ爲サレタル以上必スシモ財物强取ノ手段トシテ行ハレタルコトヲ要スルモノニ非ス從テ財物强取ノ終了後ト雖犯罪ノ發覺ヲ懼レテ退去ニ際シ人ヲ死ニ致スカ如キ場合ハ將ニ强盜ノ機會ニ於テ人ヲ死ニ致シタルモノト云フニ妨ケナシ（昭和八・五・八）

第二百四十四條

親族ノ範圍

○朝鮮人間ニ於ケル親族ノ範圍　刑法ノ適用上朝鮮人間ニ於ケル親族ノ範圍ハ朝鮮ニ於ケル一般慣習ニ依ルヘキモノニシテ民法第七百二十五條以下ノ規定ニ依リテ定ムヘキモノニ非ス

朝鮮ノ一般慣習ニ依レハ其ノ相互間ノ誼禮ヲ本トシ親族ト汎稱スル本宗及異姓ノ有服親、祖妾親及無服親ノ中特ニ血族ニ於テハ有服ノ近親ノミヲ以テ法令上親族ノ範圍トナシタルモノトス（大正一三・一二・四）

第三十七章　詐欺及ヒ恐喝ノ罪

第二百四十六條

○代理人ヨリ騙取シタル詐欺罪ノ被害者　甲者ノ代理人タル其妻乙者ヲ欺キ保管ニ係ル甲者所有ノ金錢ヲ騙取シタルトキハ甲乙共ニ被害者ナリ從テ其ノ詐欺取財罪ヲ認定スルニ該リ甲乙何レヲ被害者ナリト認ムルモ犯罪ノ成立ニ影響ナキモノトス（明治四四・五・二四）

○强制執行官ノ債務名義審査權ノ範圍　執行官ハ提出ヲ受ケタル執行力アル書類ニ對シテハ單ニ其作成ノ眞否ヲ判斷シ執行ヲ許否スルニ止リ進ンテ其書類ノ內容ノ眞否ヲ判斷スルノ權能ナキモノトス（明治四五・六・一七）

○和解調書ニ基ク强制執行ニ因ル詐欺罪　執行力アル和解調書ノ正本ニシテ裁判所ヨリ付與セラレタルモノナルトキハ之ヲ受ケタル執行官ハ其執行ヲ爲スノ外他ニ途ナク此場合ニ執行官ヲ欺罔スルコトハ事實上不能ナリトス（明治四五・六・一七）

第一項ト第二項トノ關係

○本條第一項第二項ノ法意　刑法第二百四十六條第一項ト同條第二項トハ同一罪質タル同一犯罪ヲ規定シタルモノトス（大正元・一二・二三）

○本條第一項及第二項ニ該ル罪ト適用法條　同條第一項ニ該ル罪ト第二項ニ該ル罪トアル場合ニ於テ各項ヲ區別シテ適用スルコトナク概括シテ單ニ第二百四十六條ノ第一項ト第二項トハ罪質同一ニシテ同一ノ罪トシテ規定スルモノナルカ故ニ詐欺罪ヲ斷スルニ當リ刑法第二百四十六條ヲ適用スルモ違法ニアラス（大正元・一二・二三）

○本條ト第一項、第二項區別ノ要否　刑法第二百四十六條第一項ト同條第二項トハ同一罪質タル同一ヲ爲ササルモ不法ニアラス（大正六・一・二二）

○本條第一項、第二項ノ事實認定トニ審判決　刑法第二百四十六條第一項ト同條第二項トハ同一罪質タル同一犯罪ヲ規定スルモノナルカ故ニ縱令第一審ハ同條第一項ニ該當スヘキ事實ヲ認定シ同一公訴事實ニ付第二審ハ同條第二項ニ該當スヘキ事實ヲ認定スルモ第一審判決ヲ取消スノ要ナシ（大正一〇・六・二五）

巻	頁
二〇	四六五
二〇	五四三
一二	四三
一	一〇九
一二	二四五
一二	二四五
二	六六
三	六六
四	一
八	二〇五

○詐欺罪ト其ノ擬律　或行爲ヲ詐欺罪ニ問擬スルニ際リテハ刑法第二百四十六條各項ノ何レヲ適用スルモ又之ヲ區別セスシテ概括的ニ同條ヲ適用スルモ正當ニシテ法律ノ適用ヲ誤レルモノト謂フヲ得ス（昭和七・二・八）

裁判所ニ對スル欺罔

○民事訴訟ニ於テ不法ニ財産上ノ利益ヲ得ンカ爲メ裁判所ニ虚僞ノ主張ヲ爲シタル者ノ刑責　民事訴訟ニ於テ不法ニ財産上ノ利益ヲ得ンカ爲メ裁判所ニ對シテ虚僞ノ主張ヲ爲シタルトキハ卽チ欺罔ノ行爲アルモノニシテ刑法第二百四十六條ニ規定スル詐欺罪ノ實行ニ著手シタルモノトス（大正二・一二・二〇）

○裁判所ヲ欺罔シテ勝訴判決ヲ受ケ後和解名義ノ下ニ金員ヲ收受シタル者ノ刑責　裁判所ヲ欺罔シテ勝訴ノ判決ヲ受ケタル後和解名義ノ下ニ金員ヲ收受シタル場合ニハ金員收受ト欺罔行爲トノ間ニ因果關係存スルヲ以テ刑法第二百四十六條第一項ノ犯罪ヲ構成スルモノトス（大正五・二・七）

○虚僞ノ請求訴訟ト詐欺罪ノ成立　民事訴訟ニ於テ不法ニ財産上ノ利益ヲ得ンカ爲ニ裁判所ニ對シテ虚僞ノ主張ヲ爲シタルトキハ其行爲ハ裁判官ヲシテ錯誤ニ陷ラシムヘキ欺罔手段ヲ用ヰタルモノニシテ卽チ詐欺罪ノ實行ニ著手シタルモノトス（大正八・六・九）

○貸金請求訴訟ニ於テ債務ヲ免レントシタル者ノ擬律　貸金請求ノ訴ニ於テ被告カ金錢借用ノ事實アルニ拘ラス其債務ヲ免レン爲メ裁判所ニ對シ金錢借用ノ事實ナキ旨ヲ陳述シタルトキハ裁判官ヲシテ錯誤ニ陷ラシムヘキ欺罔手段ヲ用ヰタルモノトス（大正八・六・九）

○財物騙取ノ目的ヲ以テ詐欺ノ訴訟行爲ニ依リ勝訴ノ判決ヲ受ケタル場合ト其ノ法律適用　犯人カ金圓騙取ノ目的ヲ以テ詐欺ノ訴訟行爲ニ依リ自己ニ有利ノ判決ヲ受クルモ未タ金圓ヲ領得セサルトキハ刑法第二百五十條第二百四十六條第一項ノ財物騙取未遂罪ヲ以テ處斷スヘキモノトス（昭和六・四・三〇）

卷	頁
一九	二九七
二	一五四
六	一五三
三	二七七
六	一五二
一八	三一〇

談合入札

○請負人カ通謀シ工事擔當者ヲ錯誤ニ陷ラシメテ契約ヲ締結シタルモノノ刑責　停車場新築工事ニ付請負人通謀シ其中ノ一人ニ落札セシムル爲メ其他ノ者ハ高價ノ入札ヲ爲スヘク協定シ表面正當入札ヲ爲ス如ク裝ヒ工事擔當者ヲシテ錯誤ニ陷ラシメ請負契約ヲ締結セシメタルトキハ刑法第二百四十六條第二項ノ犯罪ヲ構成スルモノトス前項ノ場合ニ於テ其工事請負人カ爾後完全ニ工事ヲ竣成シ之ニ相當スル請負金ヲ受領スルモ之カ爲メ犯罪ノ成立ニ影響ヲ及ホスヘキモノニ非ス（大正三・九・一七）

○工事請負ノ財産上ニ於ケル性質　工事請負業者カ工事ノ請負ヲ爲スハ一ノ財産上ノ利益ナリトス（大正三・九・一七）

○談合入札ト詐欺罪　物品購入ニ關スル指名競爭入札ノ場合ニ於テ其指名セラレタル數人中ノ或者等カ談合ノ上談合者中ノ一人ヲシテ落札セシメ且其者ト物品購入者トノ間ニ於テ物品購入ニ關スル契約ヲ締結セシメ以テ其者ヲシテ物品購入者ニ對スル契約上ノ債權ヲ取得セシムル目的ヲ以テ共謀シ其者ノ入札金額ヲ定メ他ノ共謀者ニ於テハ故ラニ其入札金額ヨリモ多額ノ入札ヲ爲シ以テ物品購入者ニ對シテハ眞正ナル競爭入札ヲ爲スモノノ如ク詐リ之ヲ誤信セシメタル上其者ニ落札セシメ其者ヲシテ物品購入者ニ對スル契約上ノ債權ヲ取得セシムルニ於テハ詐欺罪ハ成立スヘク縱令其入札ヲ指名セラレタル數人中ノ他ノ者カ共謀ニ加ハラスシテ入札ヲ爲シ一部競爭入札ノ行ハレタルトキト雖モ詐欺罪ノ構成ヲ妨クルコトナキモノトス

如上ノ場合ニ於テ非共謀者ノ入札金額カ共謀者ノ最低入札金額ヨリモ少額ニシテ非共謀者ニ落札シタルトキハ共謀者ノ詐欺ハ未遂罪ナリトス（大正六・一・二二）

聯

○政府カ隨意契約ニ依リ工事請負契約ヲ締結スル場合ニ於ケル指名入札　政府カ隨意契約ニ依リ工事

（第二四六條）　九四三

卷	頁
一	四一
二	二五七
二	二五七

請負契約ヲ締結スル場合ト雖自由任意ニ選定シ得ヘキ餘地ヲ存セシムル限リハ指名入札ノ方法ヲ用キテ對手者ヲ選定スルヲ妨ケス（大正六・五・一〇）

聯　**○入札者間ニ於テ價額ヲ談合協定シ之ニ從ヒテ入札スルコトノ當否**　入札ハ競爭ニ付シタル場合ナルト將タ隨意契約ニ依リ指名入札ノ方法ヲ用キタル場合ナルトヲ論セス又其契約ノ承諾タル效力ヲ有スヘキ場合ナルト單ニ申込タル效力ヲ有スルニ過キサル場合ナルトニ關セス入札者間ニ於テ各自ノ入札スヘキ價額ヲ談合協定シ其協定價額ニ從ヒテ入札スルコトヲ許容スヘキモノニ非ス（大正六・五・一〇）

聯　**○入札ノ本質ト當事者ノ意思**　入札ハ其本質トシテ常ニ競爭性ヲ有シ而カモ競爭上他ノ入札者ノ入札價額ヲ知ル能ハサル方法ニ屬スルヲ以テ苟モ入札ノ方法ヲ選ヒ之ヲ以テ請負價額ノ申出ヲ爲サシムル以上ハ注文者ニ於テ入札者ニ對シ入札價額ニ付テハ入札者間ニ各自秘密ヲ保持シ互ニ競爭シテ入札スヘキコトヲ要求スルノ意思ヲ有シ又之ニ應シテ入札スル者モ其趣旨ヲ了知シテ入札ヲ爲スノ意思ヲ有スト認ムヘキヲ當然トス（大正六・五・一〇）

聯　**○談合入札ト所謂欺罔手段**　入札ニ際シ入札者間ニ於テ共謀ノ上殊メ最低價入札者ヲ指定シ他ノ入札者ハ其價額以上ニ入札スヘキコトヲ談合協定シ現ニ入札ヲ爲スニ當リテハ恰モ各自獨立ノ見積價額ニ依リテ正當ニ入札ヲ爲スモノノ如ク裝ヒ其實談合協定シタル價額ニ從ヒテ入札シ契約擔當者ヲシテ正當ニ爲シタル入札ナリト誤信セシムル行爲ハ詐欺罪ノ欺罔手段タリ得ヘキモノトス（大正六・五・一〇）

聯　**○談合入札ニ因リ工事請負契約上ノ權利ヲ取得シタル者ノ處分**　竝上ノ欺罔手段ヲ施用シテ契約擔任者ヲ錯誤ニ陷レ最低價入札者ヲ落札人トシ之ト契約ヲ締結セシメ工事請負契約上ノ權利ヲ取得シタルトキハ競爭ニ付シタル場合ナルト將タ隨意契約ニ依リ指名入札ノ方法ヲ用キタル場合ナルトニ區別ナク刑法第二百四十六條第二項ノ詐欺罪ヲ構成スルモノトス（大正六・五・一〇）

	巻	頁
聯	四	一〇一
聯	四	一〇一
聯	四	一〇一
聯	四	一〇一

聯　**○談合入札ノ落札人ニ對シ契約擔任者カ選擇權ヲ有スルコトト欺罔手段ノ因果關係中**　隨意契約ニ依リ指名入札ノ方法ヲ用キ工事請負契約ヲ締結スル場合ニ於テ竝上ノ欺罔手段ト目的行爲タル請負契約上ノ權利取得トノ間ニ契約擔任者カ自由任意ノ裁量ニ依リ最低價入札者ヲ落札人ト爲スヘキヤ否ヤヲ査覈シテ落札人ト爲シタル選擇行爲介在スルモ該介在行爲ハ連鎖的交涉關係ヲ有スルヲ以テ因果關係ヲ中斷スルコトナキモノトス（大正六・五・一〇）

聯　**○連絡交涉アル間接原因ト所謂結果ニ對スル原因**　連絡交涉アル間接原因ハ亦汎ク結果ニ對スル原因ト稱スルヲ得（大正六・五・一〇）

聯　**○反對**　縱令犯人ニ於テ欺罔手段ヲ用キ物ノ交付ヲ受ケ又ハ不法ノ利益ヲ收得スルコトアルモ相手方ニシテ其手段ニ乘シ錯誤ニ陷ラサルニ於テハ詐欺罪ヲ構成スルモノニ非ス（大正四・一〇・二五）

聯　**○請負契約ノ成立ニ依リテ取得シタル請負人ノ權利ノ性質**　請負人ハ請負契約ノ成立ト同時ニ仕事ヲ完成シテ注文者ヨリ報酬ヲ受ケ得ヘキ權利ヲ取得シ其權利ハ經濟的價値ヲ有シ一ノ財産上ノ利益ト稱スルヲ得（大正六・五・一〇）

聯　**○本條第二項ニ所謂財産上不法ノ利益ヲ得ノ意義**　刑法第二百四十六條第二項ニ所謂「財産上不法ノ利益ヲ得」トハ適法ナル原因ナクシテ財産上ノ利益ヲ取得スルヲ指稱ス（大正六・五・一〇）

聯　**○鐵道局ヲ欺罔シテ不法ニ請負上ノ權利ヲ取得シタル場合ニ於ケル鐵道局ノ損害**　被告等カ鐵道局ヲ欺罔シテ不法ニ請負契約上ノ權利ヲ取得シタルトキハ鐵道局ハ其反面ニ於テ右權利取得ニ對當スル請負契約上ノ義務ヲ負擔スルモノニシテ其義務ノ負擔ハ卽チ鐵道局ノ蒙リタル不法ノ損害タルヘキモノトス（大正六・五・一〇）

聯　**○欺罔手段ニ因ル請負契約上ノ權利取得ヲ一面有效ト認メ一面不法ノ權利取得ト認メタル判決ノ當否**

	巻	頁
聯	四	一〇一
聯	四	一〇一
聯	四	一〇一
聯	三	二一一
聯	四	一〇一
聯	四	一〇一
聯	四	一〇一

欺罔手段ヲ施用シテ注文者ヲ錯誤ニ陷レ因テ請負契約ヲ締結セシメタルトキハ其請負契約ハ或ハ契約ノ要素ニ錯誤アルカ爲メ初ヨリ無效トナル場合アルヘク或ハ要素ニ錯誤ナクシテ有效ニ成立スルモ注文者ニ於テ詐欺ヲ理由トシテ之ヲ取消シ契約ハ初ヨリ無效ナリシモノト看做ス場合アルヘク或ハ注文者ニ於テ取消權ヲ行使セスシテ契約關係ヲ持續セシムル場合アルヘシト雖其何レノ場合タルヲ問ハス法律上正當ノ原因アリテ之ヲ締結セシメタルニアラサル限リハ其契約上ノ權利ノ取得ハ卽チ財產上不法ノ利益ヲ得タルモノトナリ詐欺罪ヲ構成スヘキニ付一面ニ於テ請負契約ノ有效ナルコトヲ認メ他ノ一面ニ於テ不法ニ其契約上ノ權利ヲ取得シタルコトヲ認ムルモ理由ニ齟齬ヲ來タスコトナキモノトス敍上詐欺罪ヲ構成スル場合ニ於テ請負契約ノ無效ニ歸シ何等ノ權利義務ヲ發生スルコトナキトキト雖形式上ヨリ立言セハ契約締結ノ行爲アリタルモノナルヲ以テ不法ニ契約上ノ權利ヲ取得シタルモノト稱スルヲ妨ケス從テ一面ニ於テ請負契約ノ無效ナルコトヲ認メ他ノ一面ニ於テ不法ニ其契約上ノ權利ヲ取得シタルコトヲ認ムルモ理由ニ齟齬ヲ來タスコトナシ　（大正六・五・一〇）

聯

○共謀ニ加ハラサリシ入札者アル場合ノ談合共謀者ノ刑事責任ノ有無　共謀シテ談合入札ヲ爲シ因テ詐欺ノ目的ヲ達セントスル場合ニ於テ共謀ニ加ハラサル者入札ヲ爲シ共謀者側ト非共謀者側トノ間ニ一部競爭入札行ハレタリトスルモ共謀者ノ詐欺ノ目的ハ絕對ニ達シ得ヘカラサルモノニ非ス若共謀者側ノ入札額カ非共謀者側ノ入札額ニ比シテ少額ナリシトキハ共謀者側ノ者落札人トナリ豫期ノ如ク詐欺ノ目的ヲ達シ得ヘク若シ又多額ナリシトキハ詐欺ハ未遂ニ止マルニ過キスシテ何レニスルモ詐欺罪ノ構成ヲ阻却スルコトナキモノトス　（大正六・五・一〇）

聯

○競爭入札ヲ爲スモノノ如ク裝ヒ談合入札ニ依リ請負契約ヲ締結セシメタルトキノ處分　競爭入札ヲ爲スモノノ如ク裝ヒ其實談合入札ヲ爲シ當該官吏ヲシテ競爭シテ正當ニ爲シタル入札ナリト誤信セシメ因テ最低價入札者ヲ落札人ト決定シ之ト請負契約ヲ締結セシメ其契約上ノ權利ヲ取得シタルトキハ卽チ作爲ニ因ル欺罔手段ヲ施

用シテ行犯タル詐欺罪ヲ犯シタルモノトス　（大正六・五・一〇）

聯

○競爭入札ニ乘シテ爲シタル談合入札行爲ノ性質　競爭入札ヲ行フニ乘シ談合シテ入札ヲ爲ストキハ其談合入札ハ競爭入札トシテハ假裝行爲ニ屬スルニ依リ其積極的ニ入札ヲ爲ヌ行爲ヲ認メテ競爭入札ヲ爲スモノノ如ク裝ヒ談合入札ヲ爲シタリト認定スルヲ得ヘキモノトス　（大正六・五・一〇）

○刑法ノ詐欺罪ト警察犯處罰規則第一條第十一號　警察犯處罰規則第一條第十一號ノ規定ハ他ノ罪名ニ觸レサル程度ニ於ケル其所爲ヲ罰スル趣旨ニ外ナラサルカ故ニ刑法第二百四十六條詐欺罪ニ該當スルカ如キ所爲ニ對シ之ヲ適用スヘキモノニアラス　（大正六・一・二二）

○談合入札ト警察犯處罰規則第一條第十一號ノ適用　警察犯處罰規則第一條第十一號ノ規定ハ競爭入札ヲ爲スモノノ如ク裝ヒ其實談合入札ヲ爲シ當該官吏ヲシテ正當ニ爲シタル入札ナリト誤信セシメ因テ以テ請負契約ヲ締結セシメ財產上不法ノ利益ヲ取得シ詐欺罪ヲ構成スル場合ニ適用スヘキモノニ非ス　（大正六・五・一〇）

聯

○談合入札ト詐欺罪ノ構成要件及違法阻却原因　法令又ハ契約ニ依リ談合ヲ禁シタル場合ノ入札ニ際シ各入札者共謀シテ豫メ競爭ニ依ル請負金額ノ低下ヲ防止スル目的ヲ以テ入札方法ノ談合ヲ爲シ之ニ基キテ入札ヲ爲シナカラ恰モ競爭入札ノ本旨ニ從ヒ各自獨立シテ決定シタル請負金額ヲ申出テ入札ヲ爲スモノノ如ク裝フハ注文者ノ重要ナル期待事項ニ付注文者ヲ欺罔スルモノニ外ナラスシテ因テ請負契約ヲ締結シ請負人タル地位ヲ取得シタルトキハ注文者ノ損害ニ於テ財產上不法ノ利益ヲ得タルモノトス

土木建築請負業者タル各入札者入札ヲ爲スニ際リ單ニ營業上適正ナル請負價額ヲ維持スル趣旨ノミノ談合ヲ爲シ之ニ基キテ爲ス入札ハ刑法第三十五條ノ認ムル正當行爲ナリトス

然レトモ苟モ落札人タルヘキ入札者ヨリ他ノ入札者ニ對シ自己ノ經濟的不利益ヲ來スヘキ金品其ノ他人ノ需要ヲ滿足

セシムヘキ利益ヲ授與スヘキ約定ヲ包含スル談合ニ基キテ爲ス入札ハ刑法第三十五條ノ認ムル正當行爲ナリト謂フヲ得ス（昭和六・七・三〇）

○競爭入札ニ於ケル談合協定ノ違法　競爭入札ハ入札者カ適正價格ヲ保有シ得ヘキ限リ互ニ競爭スヘキコトヲ利用スルノ方法ニ他ナラサルカ故ニ入札者カ單ニ適正價格ヲ失ハサラムカ爲其ノ限度ニ於テ互ニ協定シテ競爭ヲ排除スルモ毫モ競爭入札ノ目的ニ背馳スルコトナキヲ以テ自由ニシテ適法ナルト同時ニ苟モ此ノ協定カ右ノ限度ヲ超エテ入札者ニ有利ナル入札ヲ爲スヘキ趣旨ニ歸スルニ於テハ必然ニ競爭入札ニ付シタル者ノ正當ナル利益ヲ害スルニ至ルカ故ニ該協定自體違法ナル性質ヲ有スルモノトス而シテ此ノ理ハ協定ノ手段如何ニ依リテ差異アルヘキニ非サルカ故ニ該協定カ協定者間ニ金錢其ノ他ノ經濟的利益ヲ授與スヘキ約定ヲ伴フ場合ニ於テモ斯カル協定ノ違法ナリヤ否ハ一ニ右ノ標準ニ依リテ決スヘキモノトス（昭和一一・二・一七）

○一般請負契約ニ於ケル談合協定ト詐欺罪ノ成否　競爭入札タルト隨意契約タルトヲ問ハス工事ヲ請負ハシメムトシテ數名ノ入札者又ハ見積書提出者ヲ指定シタル場合ニ於テ被指名者間ニ金錢等ノ分配ヲ伴フ所謂談合協定行ハレ其ノ分配セラルヘキ利益多額ナルトキハ請負契約ノ目的タル仕事ノ性質ニ依リテハ勢ヒ其ノ完全ヲ害シテ費用ヲ節減スルコトニ依リ之ヲ補ハムトスルニ至ルヘキヲ以テ斯ノ如キ協定ハ直接ニ注文者ヲ害スヘキ內容ヲ有シ而モ此ノ事情ヲ相手方ニ告クルコトナクシテ單ニ申出ヲ爲シ相手方ヲシテ眞ニ工事ノ完成ニ支障ナキモノト誤信セシメ因テ之ト請負契約ヲ締結セシメタルトキハ卽チ協定者共謀シテ人ヲ欺罔シ請負契約ヲ締結セシメタルモノト謂フヘク刑法第二百四十六條第二項ノ詐欺罪成立スルモノトス（昭和一一・二・一七）

○公務員ヲ欺キ結數連名簿上ニ土地ノ所有者トシテ登錄セシメタルモノノ取扱方　結數連名簿上ニ土地ノ所有者トシテ登錄セラレタル事實ハ財產上利益ノ取得ト言フヲ得サルニ因リ公務員ヲ欺キ登錄セシムルモ刑法第二百四十六條第二項ヲ適用スルヲ得ス（大正三・一二・二八）

卷	頁
一八	三二五
二三	四四九
二三	四四九
二	三五〇

○本條第一項ノ犯罪構成ノ要件　他人ヲ欺罔シ錯誤ニ陷ラシメタル結果財物ヲ交付セシムルカ若シクハ交付ト同一ノ效果ヲ生セシメタル事實アルニ非サレハ刑法第二百四十六條第一項ノ犯罪ヲ構成セス（大正三・一二・二八）

○貸借ノ成立シタルコトナキ日附ノ貸付金ト欺罔シテ辨濟セシメタルモノト詐欺罪　借主カ其雇人ヲシテ被告ニ對シ貸金ノ辨濟ヲ爲サシムル場合ニ被告ニ於テ右雇人カ借用證書ノ日附ヲ知ラサルヲ奇貨トシ貸借ノ成立シタルコトナキ日附ノ貸付金ナリト欺罔シ其方ヘノ辨濟トシテ交付セシメタルトキハ詐欺罪ヲ構成ス（大正四・三・一）

○拂下土地代金ノ納入濟ナルコトヲ誤信セシメテ金員ヲ貸與セシメタル者ノ刑責　居留民團ヨリ拂下ヲ受ケタル土地ニ對シ其代金ノ納入ヲ爲ササル以上ハ未タ其所有權ヲ取得セサルモノナルヲ以テ其代金納入濟ナルコトヲ誤信セシメ之ニ基キ金員貸與ノ決意ヲ爲サシメ金員ノ交付ヲ受ケタル所爲ハ詐欺取財罪ヲ構成スル不法行爲ナリトス（大正四・六・三）

○詐欺取財罪成立後被害者カ加害者ノ行爲ヲ承認許容シタル場合ノ效力　詐欺取財罪成立後ニ於テ縱令被害者カ加害者ノ行爲ヲ承認シ之ヲ許容スヘキ意思ヲ表明スルモ一旦成立シタル犯罪ニ影響ヲ及ホスモノニ非ス（大正四・九・一）

○欺罔手段ノ單純、複雜竝財物カ永久ニ取得サルヘキカ否ト詐欺罪　人ヲ欺罔スル手段ノ單純ナルト複雜ナルト若シクハ財物ノ取得カ永久ニ保持シ得ラルルモノナルト否トハ詐欺罪ノ成否ニ影響ヲ及ホスモノニ非ス（大正四・九・二七）

○保險證券ノ騙取ト詐欺罪ノ既遂　保險證券ハ一ノ財物ナルヲ以テ之ヲ騙取シタル以上ハ縱令保險金ヲ騙取スルニ至ラサルモ詐欺罪ノ既遂ニシテ中止犯ニ非ス（大正五・三・九）

○保險金ノ騙取ト保險者カ相手方ノ虛構シタル失火ノ方法ヲ誤信シタルコトノ要否　被保險者カ保險金

卷	頁
二	三五〇
三	七五
三	一五八
三	一七九
三	一九六
三	三二九

騙取ノ目的ヲ以テ保險ノ目的タル物件ヲ放火ニ因リ燒燬シタル場合ニ於テ保險者ヲシテ失火ニ因ルモノト誤信セシメ以テ保險金ヲ受領スルニ於テハ詐欺罪ハ成立スルモノニシテ被保險者カ保險者ヲシテ失火シタルコトヲ信セシムル爲メニ豫メ虛構シタル失火ノ原因事實タルヘキ方法ニ付保險者カ誤信スルト否トハ詐欺ノ成立ニ影響ナキモノトス（大正五・四・一三）

共同正犯

○詐欺及恐喝罪ノ共同正犯ノ共同實行行爲ノ要否及內一人ヲシテ實行セシメタル共謀者ノ刑責　詐欺罪恐喝罪ニ於テハ共謀ノ上畫策シタル欺罔若クハ恐喝ノ手段ノ實現ハ必スシモ共同シテ之ヲ行フヲ要セス其內ノ一人ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得ヘク此場合ニ於テハ總テ共同正犯タルヘキモノトス（大正五・四・二二）

○數人共謀ノ詐欺罪ノ成立上數人カ共同シテ之ヲ實行スルコトノ要否　詐欺罪ニ於テ數人共謀ノ上畫策シタル欺罔手段ノ實現ハ必スシモ共同シテ之ヲ行フヲ要セス其內ノ一人ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得ヘク此場合ニ於テハ他ノ共謀者ハ其一人ヲ通シテ各自己ノ犯意ヲ遂行シタルモノニシテ自ラ實行ヲ爲シタルト同一ナルヲ以テ共謀者ハ總テ共同正犯タルヘキモノトス（大正六・九・二七）

○共謀者中一人ノ詐欺ノ實行ト共謀者ノ刑責　數人共謀シテ詐欺罪ヲ遂行スル爲其手段方法ヲ劃策シ共謀者中ノ一人ニ於テ共同ノ犯意ニ基キ欺罔行爲ヲ實行シ財物ノ交付ヲ受ケタルトキハ其共謀者ノ一人ハ自己及他ノ共謀者ノ爲ニ犯罪ノ實行ヲ爲シタルモノニシテ他ノ共謀者ハ其一人ヲ通シ犯意ヲ遂行シタルモノト爲スヘキヲ以テ同共謀者ハ詐欺罪ノ共同實行正犯ヲ以テ論スヘク教唆若ハ從犯ノ罪責ニ任スヘキニ非ス（大正九・二・一六）

○詐欺罪ニ於ケル共犯關係　詐欺罪ニ於テ數人共謀ノ上劃策シタル欺罔手段ノ實現ハ必スシモ共同シテ之ヲ行フヲ要セス其ノ內ノ一人ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得ヘク此場合ニ於テハ他ノ共謀者ハ其一人ヲ通シテ各自己ノ犯意ヲ遂行シタルモノニシテ自ラ實行ヲ爲シタルト同一ナルヲ以テ共謀者ハ總テ共同正犯タルヘキモノトス（昭和五・四・一〇）

○共犯者間ニ政治ニ關スル不穩事項ヲ他人ニ告知スルコトヲ以テ詐欺手段トスルコトノ協定アリタルモ實行ナカリシ場合ノ處分　他人カ政治ニ關スル不穩ノ事項ヲ他人ニ告知スルコトヲ以テ詐欺ノ手段ト爲シ之ヲ實行シタルトキハ保安法第七條ノ罪ヲ構成スルモ詐欺罪ノ共犯者間ニ於テ是カ協定ヲ爲シタルニ止マリ詐欺ノ實行ナキトキハ同條ノ罪ヲ構成セス（大正五・一〇・二）

○政治ニ關スル不穩ノ事項ヲ他人ニ告知スルコトヲ以テ詐欺手段トシテ共謀シ其一人カ之ヲ實行セントスル場合更ニ他ノ者ト共謀シテ之ヲ恐喝ノ手段トシテ實行シタルトキノ各犯人ノ刑責　詐欺罪ノ共犯者カ詐欺ノ手段トシテ前示ノ協定ヲ爲シ其一人ニシテ之ヲ實行セントスル場合ニ其一人カ詐欺ノ實行ヲ爲サス更ニ他ノ者ト共謀シ前示手段ヲ以テ恐喝ノ手段ニ供シ之ヲ實行シタルトキハ保安法違反罪ト恐喝罪トハ一所爲ヲ成シ別個ノ犯罪成立スルヲ以テ詐欺ノ手段トシテ前示ノ協定ヲ爲シタルニ止マル者ハ保安法違反ノ罪責ヲ負フヘキモノニアラス（大正五・一〇・二）

○藝娼妓カ詐欺ノ手段ヲ用ヰ男子ヨリ金品ノ贈與ヲ受ケタル所爲ノ擬律　藝娼妓カ男子ヨリ金品ノ贈與ヲ受ケタルノ一事ヲ以テ直ニ詐欺罪ヲ構成スルモノト爲スヘカラサルハ明ナルモ苟モ藝娼妓カ詐欺ノ手段ヲ用ヒ之ニ因リ男子ヲシテ贈與ノ決意ヲ爲スニ至ラシメ因テ金品ノ贈與ヲ受クルニ於テハ詐欺罪ヲ構成スヘキモノニシテ藝娼妓ニアラサル者カ詐欺ニ因リ之ヲ受ケタル場合ト毫モ異ル所ナキモノトス（大正五・一一・二七）

○詐欺ニ因ル意思表示トシテ民法上取消シ得ヘキ場合ニ詐欺罪ノ成否　詐欺罪ハ其詐欺ニ因リ民法上法律

卷	頁
三	三七
三	三八二
四	四三七
七	四
一七	二六六
三	四八九
三	四八九
三	五八一

行爲ノ要素ノ錯誤ヲ惹起シタル場合ノミナラス單ニ民法上相手方ヨリ詐欺ニ因ル意思表示ノ取消ヲ爲シ得ルニ過キサルカ如キ場合ニ於テモ亦成立スルモノナリトス（大正六・一・二二）

○本條第一項ト債權ノ騙取　刑法第二百四十六條第一項ハ同項ニ所謂財物カ特定物ナル場合ニアラサレハ適用スルコトヲ得サルモノニシテ債權ヲ騙取シタル如キ場合ハ之ニ該當セス債權ヲ騙取シタル如キ場合ハ同條第二項ニ擬スヘキモノナリトス（大正六・一・二二）

○他人ヲ欺罔シ債務ノ保證人タラシメ保證書ヲ騙取シ未タ之ヲ債權者ニ交付セサル場合ノ擬律　他人ヲ欺罔シ自己ノ債務ニ保證人タルコトヲ承諾セシメ其保證書ヲ騙取シタルトキハ縱令其保證書ヲ騙取シテ債權者トノ間ニ保證契約上ノ義務發生セサルモ同保證書ハ事實證明ノ用ニ供シ得ラルヘキ文書トシ所有權ノ目的タルコトヲ得ヘキモノナルヲ以テ刑法第二百四十六條第一項ニ所謂財物ト爲スヲ妨ケサルモノトス（大正六・三・一）

○虛無ノ債權ヲ以テ權利質ヲ設定シ財物ヲ騙取シタルトキノ擬律　權利質ヲ設定シ金員借用ノ名義ノ下ニ財物ヲ騙取セントスル場合ニ於テハ犯人カ必スシモ其權利質ノ設定ニ付民法ノ要求スル合法ノ要件ヲ完備シ之ヲ欺罔ノ手段ト爲スコトヲ要セス故ニ犯人カ虛無ノ債權ヲ以テ權利質ノ目的ト爲スコトヲ約シ質權ヲ設定セントスルニ當リ債權者ニ對シ質權ノ目的タルヘキ債權ノ證書ヲ交付セス又第三債務者ノ合法的承諾ナキモ苟モ債權者ニ於テ其債權カ實在シ擔保ニ供セラルルモノト信シ金員貸與ノ決意ヲ爲シ金員ヲ交付シタルトキハ詐欺罪成立ス（大正六・三・一）

○通貨ヲ僞造行使シ因テ不正ニ財物ヲ領得シタル行爲ノ擬律　通貨ヲ僞造シテ之ヲ行使シ因テ不正ニ財物ヲ領得シタルトキハ僞造通貨ノ行使ヲ手段トシテ詐欺罪ヲ行ヒタルモノニシテ僞造通貨行使罪ノ外ニ別ニ詐欺罪ヲ構成スヘク而シテ此兩者ハ手段結果ノ關係アルヲ以テ刑法第五十四條第一項後段ニ依リ牽連ノ一罪ヲ爲スモノトス

巻	頁
四	一
四	一
四	三
四	三

（大正七・二・七）

○詐欺罪ノ成立ニ民事上現實ノ損害アルコトノ要否　犯人ニシテ價正ノ事實ヲ告知シタランニハ相手方カ賣買契約ヲ締結セサルヘキ場合ニ於テ價實ニ反スル事實ヲ告知シ相手方ヲシテ錯誤ニ陷レ賣買契約ヲ締結シ以テ財物ヲ交付セシメタル以上ハ刑事觀念ニ於テ財產上ノ損害ヲ與フルハ必然ナルヲ以テ詐欺罪ハ直ニ成立スヘク民事關係ニ於ケル效果如何ニ依リ民事上現實ノ損害ヲ生スルト否トハ詐欺罪ノ成立ニ影響ナキモノトス（大正六・一二・六）

○實害ノ有無ト詐欺罪ノ成立　他人ヲ欺罔シ借地料名義ノ下ニ金品ヲ騙取シタル以上ハ其之ヲ騙取セラレタルモノニ於テ卽時損害ヲ被ムルヘキコト必然ナルヲ以テ詐欺罪ハ直チニ成立スヘク其者カ其騙取セラレタル金品ニ相當スル土地使用ヲ爲スコトヲ得タルヤ否ヤノ如キ卽チ民法上現實ニ損害ヲ受ケタルコトナキニ非サルヤ否ヤノ如キハ詐欺罪ノ成立ヲ阻却スルモノニ非サルヲ以テ之ヲ判示セサルモ理由不備ニ非ス（大正七・三・二三）

○內拂代金ノ歸屬ト詐欺手段ニ基ク內拂ノ效果　代金ノ內拂ヲ交付ト同時ニ賣主ニ移轉スルヲ通例トスルカ故ニ縱令詐欺ノ手段ニ基キ交付シタルトキト雖其ノ所有權ハ交付ト同時ニ相手方ニ移轉スヘキモノトス（大正七・五・一四）

○欺罔手段判示ノ程度　詐欺罪ニ於ケル欺罔手段ハ一般ニ人ヲシテ動モスレハ錯誤ニ陷ラシムヘキ能力アルコトヲ認メ得ル程度ニ於テ判示スルヲ以テ足レリトス（大正七・六・八）

○騙取物ノ認定カ現金ト小切手ナル相違ト原判決取消ノ要否　第一審ハ千百九十二圓ノ現金ヲ騙取シタリト爲シ第二審ハ千二百九十二圓ノ小切手ヲ騙取シタリト爲スモ共ニ詐欺ノ行爲ニシテ適用法條ヲ以テ第一審判決ヲ取消スノ要ナキモノトス（大正七・六・八）

○詐欺罪ノ成立ニ要スル欺罔手段ト錯誤ヲ惹起セシメタル決意條件ノ程度　被欺罔者ノ決意ノ條件ト爲リタル事項カ虚僞ノ事實ニシテ欺罔者ノ現在ニ於ケル意思狀態ニ反シテ之ヲ告知シタルニ基因シ且一般ニ人ヲシテ錯誤ニ陷ラシムルニ足ル以上ハ欺罔手段トシテ欠クル所ナク因テ被欺罔者カ之ヲ條件トシテ決意ヲ爲スニ於テハ錯誤ニ陷リタルモノト謂ハサルヘカラサルヲ以テ縱令該事項カ其後眞實ノ事實トシテ出現スルコトアリトスルモ被欺罔者ノ錯誤ヲ除却スルモノニ非ス　（大正七・六・八）

○騙取シタル小切金額中一部ノ不正額ト小切手騙取ノ罪責　不正ト認ムヘキ金額ト否ラサル金額トヲ合算シタル一通ノ小切手ハ自證分離スヘカラサルモノナレハ不可分的ニ該小切手騙取ノ罪責ヲ負ハシメタル判決ハ相當ナリ　（大正七・六・八）

○受託査定名義人カ自己ニ所有權アリトノ主張ト詐欺罪ノ成否　土地調査令ニ依ル査定又ハ裁決ニ因リ土地所有者ノ權利確定シタルトキハ假令其査定名義人ハ委託ニ依リ土地申告ヲ爲シタルモノナルトキト雖其受託者タル査定名義人ヲ其土地ノ所有者ト認ムヘキモノナリ從テ委託者ニ所有權ヲ移轉シタル事實ナキ限リハ其査定名義人カ自己ニ所有權アリト陳述スルハ詐言トナルモノニ非ス　（大正八・一・三〇）

○知慮淺薄ノ未成年者ニ對スル詐欺行爲ノ擬律　刑法第二百四十八條ノ罪ハ未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ヲ利用シ詐欺ノ方法ニ非サル誘惑其他ノ方法ヲ以テ其財物ヲ交付セシムルニ因リテ成立シ同第二百四十六條ノ罪ハ被害者カ未成年者ノ知慮淺薄者又ハ心神耗弱者ナルト否トヲ論セス一般ニ人ヲ欺罔シ之ニ因リ財物ヲ騙取スルニ因リテ成立スルモノナレハ苟モ知慮淺薄ノ未成年者ヲ欺罔シ因テ其財物ヲ騙取シタル以上ハ同第二百四十八條ノ犯罪ヲ構成スルニ非スシテ同第二百四十六條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス　（大正八・三・一）

○刑法第二百四十八條ノ罪ト本條ノ罪ノ中一方ノ起訴ト其ノ處斷　刑法第二百四十八條ノ罪ト同第二百四十六條ノ罪トハ財物不正領得ヲ處罰スル點ニ於テ罪質ヲ同ウスル犯罪ナレハ兩者中一方ニ當ル起訴事實ニ付審理ノ結果他方ニ當ル犯罪事實ナルトキハ之ヲ認メテ處斷スルモ事實認定ノ當行ニ屬スルヲ以テ敢テ起訴ナキ事實ヲ認定シタル不法アリト謂フヲ得ス　（大正八・三・一）

○橫領物件ノ擔保ト擔保權者ノ惡意ノ處分行爲　擔保物カ債務者ノ橫領シタル他人ノ物ナルニ於テハ其擔保契約當時債權者カ惡意ナルトキハ其行爲ハ贓物ニ關スル罪ヲ組成スルモノニシテ擔保權ヲ取得スヘキ謂ハレナキハ言ヲ俟タス而シテ債權者カ善意ニシテ且無過失ナルトキハ民法第百九十二條ニ依リ擔保權ヲ取得スルコトアルヘシト雖擔保權者ハ法律ノ規定ニ依ルニ非スシテ擔保物ヲ處分スル權限ナク縱シ橫領犯人タル擔保設定者ニ於テ之カ處分ヲ承諾シタリトスルモ擔保權者ハ之ニ依リ擔保物ヲ自己ノ所有トシテ處分スヘキ權限ヲ取得スヘキ理由ナキカ故ニ債權者カ現ニ擔保物カ債務者ニ於テ橫領シタル他人ノ物ナルコトヲ知悉シタルニ拘ラス他人ニ對シ之ヲ自己ノ所有ト稱シテ賣買ノ申込ヲ爲シ之ヲ誤信セシメテ賣買代金ノ交付ヲ受クル如キハ詐欺罪ヲ構成スヘキ行爲ニ屬シ之ヲ以テ債權者ノ權利ノ行使ナリトシ或ハ法律上制裁ナキ行爲ナリト爲スヲ得ス　（大正八・一〇・四）

○無效證書ノ騙取ト詐欺罪ノ成立　實體法上契約成立セスシテ其證書ノ無效ナル事由存スル場合ト雖苟モ其證書カ外形上權利義務ヲ證明スルニ足ルヘキ體裁ヲ具備シ證書ト認メ得ラルルニ於テハ其證書ハ刑法第二百四十六條第一項ニ所謂財物トシテ詐欺罪ノ目的タリ得ヘキモノトス　（大正九・四・八）

○債權者ト表示セラレサル第三者ノ證書騙取ト詐欺罪ノ成否　證書ハ必スシモ作成名義者ノ占有ヲ離脫シ其證書ノ宛名人タル債權者ノ占有ニ歸屬シ始メテ證書トシテ其存在ヲ有スルニ至ルモノニアラス作成者タル債務者ヨリ債權者ニ交付セラレサル間ニ債權者トシテ表示セラレサル第三者カ之ヲ騙取スルモ詐欺罪ヲ構成ス　（大正九・四・八）

○詐欺罪已遂ト證書ノ利用ニ依ル財產利得ノ要否　財物タル證書ハ之ヲ騙取スルト同時ニ詐欺已遂罪成立シ被

卷	頁
五	一
五	一五二
六	四三
六	六三
六	六四
六	二〇二
七	五五
七	五五

告カ未タ之ヲ利用シ其終局ノ目的タル金員ヲ騙取セサル所以ヲ以テ被告ハ財產上ノ利得ヲ爲ササルモノナリトシ被告ノ所爲ハ已遂罪ニアラスト謂フヲ得ス（大正九・四・八）

○代理人ノ證書不正領得ト詐欺罪ノ成立　委任ニ依リ代理人トシテ委任者ノ事務ヲ管理スヘキモノカ證書ヲ騙取スル意思ヲ以テ委任者ヲ欺罔シ相手方ニ對シ或義務ヲ負擔スヘキ記載アル證書ヲ作成セシメ且相手方ニ交付スル爲之ヲ自己ニ委託セシメ自ラ其交付ヲ受ケ不正ニ之ヲ領得シタルトキハ相手方ニ交付セラレサルモ刑法上之ヲ證書ト認ムルニ妨ケナク其代理人ノ行爲ハ詐欺罪ヲ構成ス（大正九・四・八）

○民法第九十四條第二項ニ依ル保護ト詐欺罪ノ成立　苟モ人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタルトキハ之ニ因リテ詐欺罪成立スルヲ以テ被害者カ民法第九十四條第二項ノ規定ニ依リ虛僞賣買ノ無效ヲ對抗セラルルコトナクシテ所有權ヲ取得スルヲ得敢テ損害ヲ受クルコトナシトスルモ其私法上ノ保護ニ因リテ損害ヲ受クルコトナキ事實ハ右詐欺罪ノ成立ヲ阻却スルコトナキモノトス（大正一〇・二・二四）

○騙取物件ノ權利ノ歸屬ヲ判斷セスシテ成立ヲ認メタル詐欺罪ノ判決　騙取ノ目的物ノ權利ノ歸屬ヲ判斷セスシテ詐欺罪ノ成立ヲ認メタル判決ハ違法ナリ（大正一〇・三・二四）

○請求權未發生ノ約束手形ノ償還請求ト詐欺罪　消費貸借ノ成立ヲ豫期シテ債務者タラントスル者カ該貸借成立ノ曉ニ於ケル債務ノ辨濟ヲ確保センカ爲メ豫メ約束手形ヲ振出シテ債權者タラントスル者ニ對シ之ヲ交付シタル場合ニハ手形ノ交付ヲ受ケタル者ハ消費貸借カ成立セサル限リ振出人ニ對シ手形上ノ請求權ヲ有セサルコト論ナキ所ナルヲ以テ若シ振出人以外ノ第三者ニ該手形ヲ呈示シ恰モ振出人ニ對シテ右請求權ヲ有スルモノノ如ク裝ヒテ相手方ヲ欺罔シ以テ其支拂ヲ求ムルトキハ詐欺罪ヲ構成ス（大正一〇・六・二）

○署名者以外ノ者ニ對スル手形債務ノ履行請求ト詐欺罪　手形ノ署名者以外ノ者ト雖手形ノ所持人ヨリ手形

債務ノ履行ヲ求メラレタル場合ニ必スシモ之ヲ拒絶スルモノト速斷スルヲ得ス換言スレハ手形ノ所持人ハ手形ノ署名者以外ノ者ヨリ其履行ヲ受ケ得ル可能性ヲ有スルモノナレハ若シ手形ノ所持人カ詐欺ノ手段ヲ用キテ手形ノ署名者以外ノ者ニ對シ手形債務ノ履行ヲ求メンカ玆ニ詐欺罪ハ成立スルモノトス（大正一〇・六・二）

○擅ニ他人名義ノ裏書ヲ爲シタル手形ノ交付ニ基ク前債務ノ免脫ト詐欺罪　被告カ被告振出ノ約束手形ニ擅ニ他人名義ノ裏書ヲ爲シ第三者ニ對シ該手形ヲ正當ノ裏書ナル如ク裝ヒテ交付シ以テ第三者ヲ欺罔シ曩ノ手形ノ切替ヲ爲シ第三者ニ對スル前債務ヲ免レ詐欺ヲ遂ケタル事實アルトキハ第三者ハ右手形ノ裏書ヲ正當ナルモノト誤信シタル結果曩ノ手形債務ヲ免脫シタルニ歸スルヲ以テ被告ノ手形振出行爲ノ效力如何ニ關係ナク詐欺罪ヲ構成ス（大正一〇・六・二）

○詐欺罪ト賣渡抵當　刑法第二百四十六條第一項ニ規定セラレタル詐欺罪ハ人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取スルニ因リテ成立スルモノナレハ從テ同罪ヲ構成センカ爲メニハ必スヤ其財物ノ取得カ他人ヲ欺罔シタル爲メ其他人カ錯誤ニ陷レル結果ニ出テサルヘカラス故ニ縱令欺罔手段ヲ施用シタリト雖モ相手方カ毫モ之カ爲メニ錯誤ニ陷ルコトナク他ノ理由ニ依リ財物ヲ交付スル場合ノ如キハ詐欺未遂罪ハ成立スヘケンモ詐欺既遂罪ヲ構成セサルコト論ヲ俟タサルヲ以テ詐欺罪ノ旣遂ヲ認定スルニ方リテハ須ラク犯人カ欺罔手段ヲ用キタル爲メ被欺罔者カ錯誤ニ陷リタル結果財物ノ授受アリタルコトヲ確定セサルヘカラス而シテ通常賣渡抵當ト稱スルモノハ債務者カ債權者ニ對シ其債務ヲ擔保スル爲メ其所有ノ財產ニ付キ賣買ノ形式ヲ採リタル一ノ信託行爲ニシテ其內容ハ固ヨリ同一ニアラス且ツ其內容如何ニヨリテハ自ラ犯罪ノ構成ニ關スル歸結ニ影響ヲ及ホスヘシト雖モ而カモ債務者カ豫メ擔保物件ノ所有權ヲ外部關係ニ於テハ全ク債權者ニ移轉シ內部關係ニ於テハ猶之ヲ債務者ニ留保スルヲ普通ノ狀態トスルヲ以テ債務者カ債權者ニ對シ自己ノ負擔セル債務ニ付キ其所有ノ不動產ヲ此普通ノ狀態ニ於ケル賣渡抵當ト爲シタルニ拘ハラス之カ登記未了ナルヲ奇貨

トシ更ニ第三者ニ對シ右事實ヲ隱祕シ該不動產ヲ賣却スル契約ヲ爲シ賣買ニ因ル所有權移轉登記手續ヲ完了シ代金ヲ右第三者ヨリ受取リタルコトアリトセンカ此場合右金員ノ詐欺既遂罪ヲ認ムルカ爲メニハ第三者カ債務者ノ右隱祕ニ因リ欺罔セラレ錯誤ニ陷リタル結果右金員ヲ債務者ニ交付シタルモノナル事實ヲ認定セサルヘカラス何トナレハ凡ソ不動產ニ關スル物權ノ得喪及變更ハ其登記ヲ爲スニ非レハ之ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルハ朝鮮民事令第十三條ノ規定スル所ニシテ同條ニ所謂第三者ハ善意ナルト將タ惡意ナルトヲ問ハサルカ故ニ第三者ハ債務者カ右事實ヲ隱祕スルニ拘ラス其事實ヲ知得シ毫モ錯誤ニ陷ルコトナクシテ而カモ尙ホ右不動產ヲ買受クルコト是レアルヘケレハナリ而シテ斯カル場合ニハ縱令第三者タル買受人カ代金ヲ支拂ヒタル事實アリトスルモ詐欺罪ノ既遂ヲ以テ論スヘキモノニ非スシテ其未遂ヲ以テ論スヘキモノナルコト前段ノ說示ニ照ラシ毫モ疑ナキ所ナリトス　（大正一〇・一一・一七）

○「モルヒネ」ヲ「コカイン」ノ詐欺トモルヒネコカイン服用注射ニ關スル取締規則第一條ノ罪ノ手段　刑法第五十四條ニ所謂犯罪ノ手段タル行爲トハ或犯罪ノ性質上之カ手段トシテ普通用ヰラルヘキ行爲ヲ指稱スルモノニシテ「モルヒネ」ヲ「コカイン」ノ詐欺ハモルヒネコカイン服用注射ニ關スル取締規則第一條ノ罪ノ手段トシテ普通用ヰラルル行爲ナリト云フ能ハサルヲ以テ前者ハ後者ノ手段タル行爲ニ非ス　（大正一一・六・二九）

○人ヲ欺罔シ不法ニ財物ヲ交付セシメタル行爲ト本條第一項ノ罪　刑法第二百四十六條第二項ノ規定ハ人ヲ欺罔シ自己又ハ第三者ニ對シ勞務ヲ提供セシメ或ハ其債務ノ免除又ハ延期ヲ爲サシムルカ如キ財物以外ノ利益ヲ不法ニ領得スル行爲ニ適用セラルヘキモノニシテ苟モ人ヲ欺罔シ不法ニ財物ヲ交付セシメタル以上ハ其財物ノ交付ヲ受ケタル者カ犯人自身ナルト將又第三者ナルトヲ問ハス同條第一項ヲ適用處斷スヘキモノトス　（大正一一・九・二一）

○手形金支拂ノ延期ト本條第二項ノ罪ノ構成　手形金ノ支拂ヲ爲スヘキ期日ニ於テ延期ノ期日ニ支拂ヲ意思ナ

キニ拘ラス各債權者ヲ欺罔シテ之カ支拂延期ヲ承諾セシメタルトキハ一時ニモセヨ不法ニ債務ノ履行ヲ免レ財產上ノ利益ヲ得タルモノニシテ刑法第二百四十六條第二項ノ罪ヲ構成スルモノトス　（大正一一・一二・一四）

○欺罔行爲ニ因ル背任ト詐欺罪ノ成立　若シ他人ノ事務ヲ處理スル者ニ於テ其事務ヲ處理スルニ當リ其本旨上一定セラレタル任務ノ範圍ヲ超エテ其超越部分ニ付テモ共ニ其任務ノ範圍ニ屬スルカ如ク他人ヲ欺罔シ因テ財物ヲ交付セシメ又ハ財產上不法ノ利益ヲ得若クハ第三者ヲシテ之ヲ得セシメタルトキハ其行爲ハ右任務ノ範圍ヲ超越スル限度ニ於テハ固ヨリ事務ノ處理ト謂フヲ得サルヲ以テ背任罪ノ要件ヲ缺如シ斯ル行爲ハ詐欺罪ヲ構成ス　（大正一一・一二・二一）

○詐欺ニ因リ不動產ヲ騙取シ更ニ之ヲ利用シ第三者ヨリ金品ヲ詐取シタル場合ノ罪數　詐欺ニ因リ不動產ヲ騙取シ更ニ之ヲ利用シ第三者ヲ欺罔シテ金品ヲ騙取シタル場合ニ於テハ當初ノ詐欺ニ於ケル被害者ハ不動產所有者ニシテ其被害法益ハ其所有物タル不動產ナルニ反シ溯後ノ詐欺ニ於ケル被害者ハ第三者ニシテ其被害法益ハ第三者所有ノ金品ナレハ後者ノ犯罪行爲ハ前者ノ行爲ノ法律上當然ノ結果ニ非サルヲ以テ各自獨立シテ犯罪ヲ構成シ得ヘキモノトス　（大正一二・四・五）

○許可以前ニ爲サレタル漁業權ノ讓渡ト讓受人ノ責務　漁業權讓渡ノ契約ハ朝鮮總督ノ許可ニ依リテ始メテ權利移轉ノ效力ヲ生シ其ノ許可以前ニ在テハ單ニ當事者間ニ漁業權ヲ移轉セシムヘキ債權的權利關係ヲ生スルニ過キス而シテ此種債權的權利ノ讓渡ニ付テハ債權讓渡ノ手續ヲ履踐スヘキモノナルヲ以ノ許可以前ニ於テ讓受人ヨリ更ニ他人ニ讓渡シタルトキハ新ニ之ヲ讓受ケタル者ハ漁業權者ト協力シテ漁業權讓渡ニ因ル許可出願ノ手續ヲ爲スヘキモノトス　（大正一二・六・二一）

○漁業權出願手續ヲ爲サシムル權利ノ獲得ト詐欺罪ノ構成　讓受人カ許可以前ニ於テ前示債權的權利ヲ他人

ニ讓渡シタルトキハ他ニ特別ノ事由ナキ限リハ讓渡ニ依リテ其ノ權利關係ヲ脫退シタルモノト認ムルヲ相當トス從テ脫退後ニ於テ欺罔手段ヲ施シ自己名義ニ許可出願ノ手續ヲ爲サシムルノ權利ヲ獲得シタルトキハ財產上不法ノ利益ヲ得タルモノニシテ詐欺罪ヲ構成スルモノトス（大正一二・六・二一）

○權利ナキ者ニ漁業權讓渡許可出願手續ヲ爲サシムル確定判決ト詐欺罪ノ目的　現在ニ漁業權名義ヲ有セサル者ニ對シテ漁業權讓渡ニ因ル許可出願ノ手續ヲ爲サシムル債權的權利ヲ獲得スル民事訴訟ヲ提起シ其ノ勝訴ノ確定判決ヲ得タルトキト雖財產上ノ利益ヲ有スルニ至ルコト明ナルヲ以テ其ノ權利取得ハ詐欺罪ノ目的タルコトヲ得ルモノトス（大正一二・六・二一）

○本條第二項不法利得ノ意義　刑法第二百四十六條第二項所定ノ不法利得罪ハ犯人ノ爲シタル欺罔行爲ノ結果被害者ヲシテ財產上ノ處分ヲ爲サシムルニ至リタルコトヲ要スルハ勿論ナルモ被害者カ債權者ナル場合ニ於テ債務ノ免除、延期ノ承諾、其ノ他條件ノ輕減竝權利ヲ拋棄セシムルカ如キ現實ノ處分行爲ヲ爲サシメタル場合ノミナラス債權者ノ不作爲ノ態度ヲ招來スル場合ニ於テモ亦其ノ成立ヲ認ムルヲ得ヘシ例之債權者ヲシテ其ノ權利ノ實行ニ關シ消極的行爲ヲ爲サシメ以テ債權者ニ不利ニシテ犯人又ハ第三者ニ利益ナル財產上ノ處置ヲ爲サシムルカ如シ蓋シ法條ニ財產上ノ利益ト謂フハ消極的ニ財產ノ減少ヲ免カルル場合ヲモ意味シ而シテ又幷ハ一時的ナルト永久的ナルトヲ問ハサルモノナルヲ以テ斯ル結果ヲ犯人カ得有スルニ至ルヘキ債權者ノ不作爲ハ均シク財產上ノ處分ナリト理解スルヲ相當トスヘケレハナリ（大正一四・二・二七）

○賣渡擔保流抵當特約附貸借ト詐欺罪ノ成否　賣渡擔保流抵當特約附貸借ニ於ケル賣渡擔保ノ法律關係ハ所謂信託關係ノ範疇ニ屬シ其ノ貸借債務履行期前ニ在リテハ通常該擔保物ノ所有權ハ依然トシテ信託者タル擔保提供者ノ所有ニ存シ物權移轉ノ效果ヲ生セス（所謂內部關係）唯第三者ニ對スル所謂外部關係ニ於テノミ受託者タル債權者ニ所有權移轉アルモノト解スヘキカ故ニ其ノ間債權者ニ於テハ信託者ノ爲ニ其ノ所有ノ該擔保物件ヲ保管占有スルモノニ外ナラスシテ之ヲ自己ノ爲領得ノ意思ヲ表現セムカ其ノ方法カ欺罔手段ニ依ルト否トヲ問ハス即時橫領罪ヲ構成スヘク從テ詐欺罪ヲ構成セサルモノトス（昭和五・一・二七）

○僞證教唆ト詐欺トノ關係　一般ニ裁判所ヲ欺罔シテ裁判ヲ爲サシメ他人ヨリ財物又ハ財產上不法ノ利益ヲ得ル目的ヲ以テスル僞證教唆ノ行爲ハ斯ル詐欺ノ行爲ニ對スル通常ノ手段ナルヲ以テ兩者ノ關係ニ付テハ牽連犯トシテ刑法第五十四條第一項後段ヲ適用スヘキモノトス（昭和七・六・七）

○虛僞記入有價證券ノ行使ト詐欺罪ノ成立　虛僞ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シテ他人ヲ欺罔シ因テ金錢ヲ交付セシメタルトキハ詐欺罪成立シ被害者カ該有價證券ノ無效ナルニ因リ其ノ發行者ニ對シテ損害ノ賠償ヲ請求スルノ權利ヲ取得スルト否トハ罪ノ成立ニ影響ナキモノトス（昭和九・三・一五）

○手段ノ不法ト詐欺罪ノ成立　苟モ詐欺ノ手段ニ因リ他人ヲ錯誤ニ陷レ財物ヲ交付セシメタル以上ハ其ノ行爲ハ不法ニ他人ノ財產權ヲ侵害シタルモノニシテ刑法第二百四十六條ニ該當シ其ノ用ヰタル手段カ不法ヲ原因トスル行爲ニシテ民法上ノ救濟ヲ得ル能ハサルカ爲メニ詐欺罪ノ成立ヲ阻却スルモノニアラス（昭和九・九・二六）

第二百四十七條

○和解ノ委託ヲ受ケタル者カ其和解成立ノ隱蔽ト背任罪　和解ノ委託ヲ受ケ相手方ト和解契約ヲ締結シタルニ拘ハラス其和解ノ成立ヲ通知セスシテ之ヲ隱蔽シタル所爲ハ刑法第二百四十七條ニ所謂其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ云々トアルニ該當ス（明治四四・一〇・六）

○土地買收ノ受任者カ仲介人ト共謀シテ契約成立前前拂ヲ爲シタル受任者ノ責任　土地買收行爲ノ受任者カ仲介人ト共謀シ契約成立前ニ買入資金ノ前拂ヲ爲シ仲介人ノ便宜ヲ計リ受任者自カラ仲介人カ賣買ニ依リ得タル

利益ノ分配ヲ受クヘキコトヲ約シ買入資金ヲ交付スルカ如キハ委任ノ本旨ニ反スルモノトス（大正三・九・二一）

○商行爲ノ受任者カ委任者ノ禁止シタル行爲ヲ爲ス權限　商行爲ノ受任者ト雖委任者ニ於テ禁止シタル行爲ヲ爲ス權限ヲ有セサルモノトス（大正三・九・二一）

○銀行支配人カ故意ニ自己若ハ第三者ノ利益ヲ圖リ銀行ノ利益ナル權利ヲ行使セサルトキノ刑責　銀行カ他人ニ金員ヲ貸與シ不動產ヲ典當ニ供セシメ特約ニ依リ辨濟期ヲ經過シ其辨濟ヲ爲ササル場合ニハ銀行ハ債務本來ノ趣旨ニ從ヒ其履行ヲ求ムルト又典當物ノ流質處分ヲ爲スト其一ヲ選擇シ其權利ヲ行使シ得ヘキコトヲ定メタルニ債務者カ期日ヲ經過シ債務ノ辨濟ヲ爲ササルトキハ銀行ノ支配人ハ本人タル銀行ノ財產上ノ利益ヲ增進スヘキ義務アルモノナルカ故ニ其利益アル權利ヲ選擇シテ之ヲ行使スヘキ責務アルモノナリ從テ支配人カ其一ノ權利ノ行使ヨリ銀行ニ利益ナルコトヲ認識シナカラ自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ故意ニ其利益ナル權利ヲ行使セサルトキハ其任務ニ違背シタルモノトス（大正五・一二・一四）

○本條ニ所謂本人ニ財產上ノ損害ヲ加ヘタルトキノ意義　刑法第二百四十七條ニ本人ニ財產上ノ損害ヲ加ヘタルトキトアルハ本人ノ現ニ有スル財產ヲ減少セシメタルトキハ勿論將來本人カ當然收得スルコトヲ得ヘカリシ財產上ノ利益ヲ喪失セシムルカ如キヲモ指稱スルモノトス（大正五・一二・一四）

○鑛業許可出願事務ノ受託ト受託者ノ任務ニ對スル證據說明　數人共同シテ鑛物ノ採掘ヲ經營センコトヲ約シ其一人カ他ノ共同者ヨリ鑛業許可ニ至ルマテノ出願ニ關スル一切ノ事務ノ委託ヲ受ケタルニ其提出シタル圖面カ著シク實地ト相違スルノ故ヲ以テ願書ヲ却下セラレタル場合ニ於テハ特約ノ認ムヘキモノアラサル限リ更ニ適當ナル圖面ヲ作成シ遲滯ナク再出願ノ手續ヲ爲スヘキ任務ヲ負フモノト認ムルヲ相當トス

如上ノ場合ニ於テ其前段事實ニ付證據說明アル以上ハ特ニ其後段事實タル再出願ノ手續ヲ爲スヘキ任務アルコトニ付證據說明ナシトスルモ之カ爲ニ證據ニ基カスシテ再出願ノ手續ヲ爲スヘキ任務アルコトヲ認メタル不法アリト謂フヲ得ス（大正六・一一・一）

卷	頁
一	二九五
二	三九五
三	五九五
三	五九五

○背任罪ノ性質　背任罪ハ他人ノ爲メ其ノ事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其ノ任務ニ背キタル行爲即任務ノ性質本旨ニ從ヒ其ノ範圍內ニ於テ適當ニ處理スヘキ義務ニ違反シ其ノ權限ヲ濫用シタル行爲ヲ爲シテ本人ニ財產上ノ損害ヲ加フルニ依リテ成立ス（大正一一・一二・二一）

○欺罔行爲ニ因ル背任ト詐欺罪ノ成立　若シ他人ノ事務ヲ處理スル者ニ於テ其ノ事務ヲ處理スルニ當リ其ノ本旨上一定セラレタル任務ノ範圍ヲ超エテ其ノ超越部分ニ付テモ共ニ其ノ任務ノ範圍ニ屬スルカ如ク他人ヲ欺罔シ因テ財物ヲ交付セシメ又ハ財產上不法ノ利益ヲ得若クハ第三者ヲシテ之ヲ得セシメタルトキハ其ノ行爲ハ右任務ノ範圍ヲ超越スル限度ニ於テハ固ヨリ事務ノ處理ト謂フヲ得サルヲ以テ背任罪ノ要件ヲ缺如シ斯ル行爲ハ詐欺罪ヲ構成ス（大正一一・一二・二一）

第二百四十八條

○刑法ニ所謂未成年者ト朝鮮人　刑法ノ規定中未成年者トハ二十年未滿ノ者ヲ指示スルモノニシテ朝鮮ニ於テハ成年トナルヘキ年齡ニ付テノ法令又ハ慣習存セサルモ朝鮮人ニシテ二十年未滿ノ者ハ刑法ノ規定中未成年者トアルニ該當スルモノトス（大正七・六・一七）

○朝鮮人ニ對シ本條ニ所謂未成年者ト認定スヘキ標準　刑法第二百四十八條ニ所謂未成年者トハ二十年未滿ノ者ヲ指示スル者ニシテ朝鮮人ニ付テハ成年トナルヘキ年齡ニ付テノ法令又ハ慣習存セサルモ朝鮮人ニシテ二十年未滿ノ者ハ同條ニ所謂未成年者ニ該當スルモノト解スルヲ相當トス（大正八・二・六）

○知慮淺薄ノ未成年者ニ對スル詐欺行爲ノ擬律　刑法第二百四十八條ノ罪ハ未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神

卷	頁
四	四四二
九	一四一
九	一四一
五	二〇二
六	五二

耗弱ヲ利用シ詐欺ノ方法ニ非サル誘惑其他ノ方法ヲ以テ其財物ヲ交付セシムルニ因リテ成立シ同第二百四十六條ノ罪ハ被害者カ未成年ノ知慮淺薄者又ハ心神耗弱者ナルト否トヲ論セス一般ニ人ヲ欺罔シ之ニ因リ財物ヲ騙取スルニ因リテ成立スルモノナレハ苟モ知慮淺薄ノ未成年者ヲ欺罔シ因テ其財物ヲ騙取シタル以上ハ同第二百四十八條ノ犯罪ヲ構成スルニ非スシテ同第二百四十條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス（大正八・三・一）

○本條ノ罪ト第二百四十六條ノ罪ノ中一方ノ犯罪事實ニ對スル起訴ト處斷　刑法第二百四十八條ノ罪ト同第二百四十六條ノ罪トハ財物ノ不正領得ヲ處罰スル點ニ於テ罪質ヲ同ウスル犯罪ナレハ兩者中一方ニ當ル起訴事實ニ付審理ノ結果他方ニ當ル犯罪事實ナルトキハ之ヲ認メテ處斷スルモ事實認定ノ當行ニ屬スルヲ以テ敢テ起訴ナキ事實ヲ認定シタル不法アリト謂フヲ得ス（大正八・三・一）

第二百四十九條

○權利實行ノ手段トシテ他人ヲ恐喝シタル者ノ刑責　刑法第二百四十九條ノ規定ハ縱ヒ請求ノ權利アルトキト雖被告カ恐喝手段ヲ以テ他人ノ財物ヲ交付セシメ若ハ不法ノ利益ヲ收得シタル場合ヲモ處罰スルモノト解釋スヘキモノトス（大正元・一一・一四）

○請求權ヲ有スル者ノ爲シタル恐喝行爲ト恐喝罪ノ成立　縱令請求ノ權利ヲ有スルモ恐喝手段ヲ施用シ因テ財物ヲ交付セシメ若クハ不法ノ利益ヲ收得シタルトキハ刑法第二百四十九條ノ罪ヲ構成スルモノトス（大正七・二・七）

聯

○權利ノ實行トシテ財物ヲ奪取シタル者ノ刑責　强盜罪ハ暴行脅迫ヲ用ヒテ他人ノ占有スル財物ヲ不法ニ奪取スルニ依リテ成立スルモノナレハ暴行脅迫ヲ用ヒテ他人ノ占有スル財物ヲ奪取スルモ苟モ犯人カ財物其モノノ引渡ヲ要求スルコトヲ得ヘキ正當ノ權利ヲ有シ其權利ノ實行トシテ財物ヲ奪取シタルモノナルニ於テハ財物ヲ不法ニ領得シタルモノト謂フヲ得サルニ依リ暴行脅迫ノ行爲ニ付罪責ヲ負フヘキハ格別强盜罪ノ罪責ヲ負フヘキモノニアラス

卷	頁
六	六三
六	六三
二	二一
五	二一

而シテ犯人カ財物ノ引渡ヲ要求スルコトヲ得ヘキ權利アリト信シ暴行脅迫ヲ用ヒ財物ヲ奪取シタル場合ニ實際其權利ナキモノナルトキハ其行爲ハ權利ヲ實行シタルモノト爲スヲ得サルハ言ヲ俟タサレトモ誤信ノ結果犯意ヲ阻却シ强盜罪ヲ構成スヘキモノニアラス（大正七・一一・一四）

○反對　刑法第二百四十九條ノ規定ハ縱ヒ請求ノ權利アルトキト雖被告カ恐喝手段ヲ以テ他人ノ財物ヲ交付セシメ若クハ不法ノ利益ヲ收得シタル場合ヲモ處罰スルモノト解釋スヘキモノトス（大正元・一一・一四）

○孫ノ債務ヲ辨濟セサレハ告訴スヘシト稱シテ財物ヲ交付セシメタルモノノ刑責　被告カ被害者ニ對シ其孫ニ於テ被害者名義ノ借用證書ヲ僞造シ被告ヨリ金員ヲ取引シタリト稱シテ右金員ノ辨濟ヲ迫リ且ツ之ヲ辨濟セサレハ其孫ハ懲役ヲ免レサルヘキ旨ヲ告ケ被害者ヲ恐喝シ以テ財物ヲ交付セシメタル以上ハ恐喝罪ヲ構成シ被告カ眞ニ其孫ニ對シ告訴ヲ爲スノ意思アリタルヤ否ヤハ恐喝罪ノ成立ニ影響ヲ及ホスモノニ非ス（大正四・九・二三）

○恐喝罪ト强盜罪トノ區別　暴行脅迫ヲ以テ被害者ノ意思ノ反抗ヲ抑壓シ全然其自由ヲ剝奪シタル上被害者ヲシテ金品ヲ交付セシメタル行爲ハ强盜ニシテ恐喝罪ニ非ス（大正七・一二・一二）

○恐喝罪ノ成立ニ必要ナル財產權ノ侵害ト損害ノ發生　恐喝ノ手段ヲ用ヰ他人ノ財產權ヲ侵害シタル事實アル以上ハ他ニ財產上ノ損害ヲ發生スルト否トハ恐喝罪ノ構成ニ影響ヲ及ホスヘキモノニ非ス（大正五・一・二〇）

○刑事擔保ノ手段ヲ以テ借用證書ヲ取得シタルモノノ擬律　恐喝罪ノ手段トシテ告知シタル害惡ノ實現カ違法ニ非サル場合ニ於テモ之ヲ告知シテ不法ニ財產上ノ利益ヲ得タルトキハ其所爲ハ恐喝罪ヲ構成スヘキモノナルヲ以テ犯人カ被害者ノ子ニ詐欺セラレタル事實アリ之ヲ告訴シ得ヘキ權利アリテ告訴ノ事實ハ違法ニ非ストスルモ犯人カ被害者ヨリ借用證書ノ交付ヲ受クヘキ何等權利ナキニ拘ラス不法ノ利益ヲ得ル目的ヲ以テ被害者ニ對シ其子ヲ告訴スヘシト告ケ因テ被害者ヲシテ畏怖ノ念ヲ生シ借用證書ヲ交付セシメタルトキハ其所爲ハ權利ノ實行ニ非スシテ恐喝罪

卷	頁
五	二九八
二	二一
三	一八四
五	三一七
三	二六四

ヲ構成スヘキモノトス（大正八・一・一六）

○將來ノ日附ヲ以テ振出日附ト爲シタル手形ノ取得ト恐喝罪　手形交付後ノ年月日ヲ以テ振出日附ト爲シ之ヲ手形ニ記載スルモ其手形ハ無效トナルコトナク振出日附到來ノ時ヨリ完全ニ手形上ノ效力ヲ發生シ振出日附到來前ニ於テモ一ノ財物タルコトヲ失ハサルヲ以テ恐喝シテ交付セシメタルトキハ卽時ニ恐喝取財罪ヲ構成スルモノトス（大正九・七・二・九）

○共犯關係ノ場合ニ引用セル證據ト理由ノ明示　甲カ乙及丙ト共謀シテ治安妨害罪（保安法第七條違反罪及恐喝取財未遂罪ヲ犯シタリト事實ヲ認定シタル場合ニ引用ノ證據ニ依レハ乙カ之ニ干與シタルコトヲ認ムヘキモノナキモ甲カ丙ト共謀シテ敍上ノ罪ヲ犯シタル事實ヲ認ムルニ足ルヘキモノアルトキハ甲ノ罪ヲ斷スル上ニ於テハ其罪トナルヘキ事實ハ證據ニ依リテ之ヲ認メタル理由ノ明示アルモノト謂フヘキヲ以テ理由ニ不備ヲ來スコトナシ（大正九・一一・四）

○共犯者ヲシテ恐喝文書ヲ發送セシメタル者ノ刑責　甲カ恐喝取財ノ目的ヲ以テ共謀者ト共ニ恐喝ノ文言ヲ記載シタル文書ヲ作成シ共謀者ノ一人又ハ數人ヲシテ郵便ニ付シ資產家ニ發送セシメタルトキハ甲カ恐喝實行ノ一部行爲ヲ爲シタルモノナルニ依リ他ノ共謀者ニ於テ當初ノ目的ヲ遂行シ右恐喝文書ノ發送ヲ受ケタル資產家ヨリ金員ヲ出給セシメタル以上ハ分擔シテ恐喝罪ヲ實行シタルモノトナリ甲モ亦恐喝既遂ノ罪責ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス（大正九・一一・四）

○新聞紙ニ告訴アリタル事實ノ記載ヲ爲スヘシトノ通告ト恐喝手段トシテノ畏怖ノ能否　犯罪アリトシテ告訴アリタルニ際シ苟モ之ヲ新聞紙ニ揭載セラルルニ於テハ其ノ記事ニシテ告訴事項ノ內容ニ及ヒ且其ノ事項ハ眞實ナリトノ批判ヲ交ヘタル場合ハ勿論單ニ告訴アリタリトノ事實ノミニ止ル場合ト雖尙被告訴人ノ名譽ヲ毀損スル虞アリ普ク人ノ畏忌スル所ナルヲ以テ新聞紙ニ告訴アリタル事實ノ記載ヲ爲スヘシトノ通告モ亦一般的ニ人ヲシテ畏怖セシムルノ可能性アルモノトス（大正一四・八・一〇）

第二百五十條

○對手方カ畏怖ノ念ヲ生セサルトキト恐喝未遂罪　恐喝ノ犯意ヲ以テ他人ニ對シ害惡ヲ通告シ以テ畏怖ノ念ヲ生セシメ得ヘキ手段ヲ施用シタル以上ハ恐喝ノ實行ニ著手シタルモノニシテ偶々其者カ畏怖ノ念ヲ生セサルトキト雖モ恐喝未遂罪ノ構成ヲ妨ケス（大正八・七・一九）

第二百五十一條

○刑法ノ適用上朝鮮人間ニ於ケル親族ノ範圍　刑法ノ適用上朝鮮人間ニ於ケル親族ノ範圍ハ朝鮮ニ於ケル一般慣習ニ依ルヘキモノニシテ民法第七百二十五條以下ノ規定ニ依リテ定ムヘキモノニ非ス（大正一三・一二・四）

○朝鮮ノ一般慣習ニ依ル法令上ノ親族ノ範圍　朝鮮ノ一般慣習ニ依レハ其ノ相互間ノ誼禮ヲ本トシ親族ト汎稱スル本宗及異姓ノ有服親、祖冤親及無服親ノ中特ニ血族ニ於テハ有服ノ近親ノミヲ以テ法令上親族ノ範圍トナシタルモノトス（大正一三・一二・四）

第三十八章　橫領ノ罪

第二百五十二條

○橫領ト竊盜トノ區別標準　犯人所持內ニ移スヤ否ヤハ竊盜罪ヲ橫領罪ト區別スルノ標準ナリトス（明治四四・一・一六）

○公務員ト共謀シ其公務員ノ業務上ノ占有物ヲ橫領シタル者ノ罪責　既ニ民團ノ所有ニ歸シタル稅金ヲ職

務上保管セル吏員ト共謀シテ之カ占有ヲ移シ以テ橫領シタル者ハ橫領罪トシテ處罰スヘキモノトス（明治四四・五・八）

○橫領ノ意義ト官金貸付行爲ニ因ル橫領罪ノ成立　橫領トハ自己ノ占有スル他人ノ物ニ付權利ナキ處分行爲ヲ爲スヲ謂フ從テ職務上保管セル官金ヲ知人ニ貸與シタルトキハ橫領罪ヲ構成スルモノトス（明治四四・六・二六）　一二三

○橫領罪成立ノ要件　橫領罪ノ成立ハ領得物ノ費消ヲ要件ト爲スモノニ非ス（大正元・一二・一三）　二三一

○職務上保管ノ義務アルモノノ橫領ニ付其ノ義務ナキモノノ加功ト刑法第二百五十三條　甲者ノ職務上保管シタル金圓ノ橫領ニ付職務上保管ノ義務ヲ有セサル乙者ノ加功ヲ認メ刑法第二百五十三條ヲ適用處斷シタルハ擬律錯誤ナリトス（大正元・一二・一三）　二三一

○橫領罪ニ於テ買主カ善意ナルトキ及被害者カ橫領物件ヲ回復シ得ル場合ニ於ケル犯人ノ刑責　占有セル他人ノ不動產ヲ賣却シテ之ヲ橫領スルニ該リ買主カ其他人ノ所有タルコトヲ知リ居タル事實アルト否トヲ又被害者カ橫領セラレタル物件ヲ回復スルヲ得ル場合ナルト否トノ如キハ橫領罪ノ成否ニ影響ナキモノトス（大正三・三・三〇）　二三一

○橫領罪ノ成立要件及不正領得ナル行爲ノ意義　橫領罪ハ自己ノ占有スル他人ノ物ヲ不正ニ領得スルニ因リテ成立スルモノニシテ不正領得ナル行爲ハ目的物ニ對シ擅ニ費消其他ノ處分行爲ヲ爲シタル場合ニノミ限ラス他人ニ交付スヘキモノナルニ拘ラス之ヲ交付セス不正ニ領得スルノ意思ヲ以テ之ヲ抑留シタル場合モ亦不正領得ノ行爲タルヘキモノトス（大正五・五・四）　二一八一

○橫領罪ノ成立要件及目的物ヲ處分スルコトノ要否　橫領罪ハ犯人カ其占有スル他人ノ物ヲ不正ニ自己ニ領得スル意思ノ實行アルニ因リテ成立スルモノナレハ其意思アリト認ムヘキ外部行爲ヲ實行シタルノミヲ以テ足リ必スシモ其物ニ對シ經濟上ノ用法ニ從フ處分行爲ヲ爲スコトヲ要セス（大正五・九・二八）　三四七六

○占有中ノ擔保物ヲ買受ケタリトシテ其返還ヲ拒絕シタル者ノ刑責　犯人カ其占有スル他人ノ物ニ付擔保權ヲ有シ其債權未タ辨濟セラレサルニ因リ所有者ヨリ返還ノ請求アルモ之ヲ拒絕スル權利ヲ有スルトキト雖モ犯人カ其理由ニ因リ之ヲ拒絕スルニ非スシテ當初ヨリ之ヲ買受ケ所有權ヲ取得シタルモノナリト稱シテ之ヲ拒絕スルニ於テハ不法ニ之ヲ領得スル意思ノ實行ニ外ナラサルモノトス（大正五・九・二八）　三四七六

○橫領罪ニ於ケル被害金額ノ多寡ト犯情ノ輕重　橫領罪ニ於ケル被害金額ノ多寡ハ犯情ノ輕重ヲ定ムルニ付參酌シ得ヘキハ勿論ナレトモ必スシモ金額ノ多寡ノミニ依リ之ヲ定メサルヘカラサルモノニ非ス（大正五・一〇・三〇）　三五二八

○賣却ノ受託者カ自己ヲ買主トシテ爲シタル賣買證明ト橫領罪　土地賣却ノ委託ヲ受ケタル者カ特ニ買主トナルヘキ者ノ指定シアラサルトキニ於テ自ラ買主ト爲リタレハトテ直チニ之ヲ以テ橫領罪ヲ構成スルモノト謂フヲ得サルハ勿論ナルモ苟モ不正ニ自己ニ領得スル意思ヲ以テ賣渡證書ヲ僞造シ之ヲ行使シテ買主名義ノ證明ヲ受クルニ於テハ橫領罪ヲ構成ス（大正六・八・二〇）　四三八三

○土地ノ受託者カ不正領得ノ目的ヲ以テ保存登記ヲ經タル場合ト橫領罪　信託行爲ニ因リ土地臺帳ニ自己名義ト爲リ居ル他人所有ノ土地ヲ其委託ニ因リ占有中自己名義ノ所有權保存登記ヲ受ケタル場合ニ於テ信託行爲ノ完全ヲ期スル目的ニ出テタルトキハ橫領罪ヲ構成スルコトナシト雖不正ニ自己ニ領得スル目的ニ出テタルトキハ橫領罪ヲ構成ス（大正六・八・二〇）　四三八三

○共有物ヲ橫領シタル共有者ノ責任　共有物カ橫領ノ目的物トナリタルトキハ其橫領行爲ハ共有者カ共同シテ有スル單一所有權ヲ侵害スルモノニシテ共有者ノ有スル各個ノ持分ヲ侵害シ共有者ノ數ニ相應スル權利侵害アリト見ルヘキモノニアラサレハ縱令犯人カ共有者ノ一人ニシテ橫領シタルトキハ共有物全部ニ付橫領罪成立スヘキモノトス（大正七・四・一一）　五二八

○普通ニ所謂賣渡抵當ト辨濟期前ニ債權者ノ爲シタル處分行爲　普通ニ所謂賣渡抵當ナルモノハ當事者間ニ所有權ヲ移轉スルノ意思表示ヲ爲スモ其所有權移轉ノ效果ニ制限ヲ加ヘ之ニ依リテ債權擔保ノ目的ヲ達セントスルモノナレハ其所有權ノ移轉ハ債權擔保ノ目的ヲ遂行スルニ必要ナル範圍內ニ於テ其效力ヲ生スルモノト爲シ特別ノ意思表示ナキ限リハ第三者ニ對スル外部關係ニ於テハ所有權移轉ノ效果ヲ生スルモ當事者間ノ內部關係ニ於テハ所有權移轉ノ效果ヲ生セス所有權ハ依然トシテ設定者ニ存シ唯辨濟期ニ至リ辨濟ヲ爲ササルトキニ始メテ債權者ハ擔保ノ目的ヲ達スル爲メ外部關係ニ於テ移轉シタル所有權ニ其目的物ヲ處分シテ辨濟ニ充當スルコトヲ得ヘキ權利ヲ有スルニ過キサルモノトス

敍上ノ如キ普通ノ賣渡抵當ノ契約アリタル場合ニ債權者カ辨濟期前ニ在リテ其目的物ヲ處分シ又ハ辨濟ノ提供アリタルニ拘ラス之ヲ受取ラスシテ其目的物ヲ處分シタルトキハ自己ノ占有スル他人ノ物ヲ橫領シタル罪ヲ構成シ之カ處分ヲ免ルルヲ得サルモノトス　（大正八・二・三）

○橫領ノ情ヲ知リテ其ノモノノ處分ノ周旋ヲ爲シタル者ノ罪責　橫領罪ハ自己ノ占有スル他人ノ物ヲ不法ニ領得スルニ依リ成立スルモノナレハ其占有者ニ非サル者カ占有者ト共謀ノ上橫領ノ意思ヲ決定シ其意思實行ヲ爲シタルトキハ刑法第六十五條第一項第二百五十二條第一項ニ該當スル橫領罪ヲ構成スヘキモノナルモ橫領ノ意思實行ハ苟モ其不法領得ノ意思ヲ外部ニ發現スル行爲アリタル以上特ニ第三者ノ行爲ノ介在及處分行爲ノ完了ヲ要セスシテ直ニ完成スヘキモノナルヲ以テ他人ノ物ノ占有者カ已ニ不法領得ノ意思ヲ決定シ第三者ニ對シ其物ノ處分ノ周旋ヲ依賴スルノ意思表示ヲ爲シタル場合ニ於テハ是不法領得ノ意思ヲ外部ニ發現シタルモノニ外ナラサレハ橫領罪ハ此時ニ於テ完成シ同時ニ其物ハ贓物ヲ組成スルニ至ルヘキヲ以テ其情ヲ知リテ依賴ニ應シ之カ處分ノ周旋ニ從事シタル第三者ノ行爲ハ前示法條ニ該當スル橫領罪ノ共犯ヲ以テ論スヘキモノニ非スシテ當然贓物ニ關スル罪ヲ構成スヘキモノトス

（大正八・六・二一）

○占有者ト非占有者ト共謀シテ爲シタル橫領行爲　他人ノ物ノ占有者カ占有者ニ非サル者ト共謀シ占有物ヲ橫領スルニ當リ占有者ニ非サル者カ其目的物ヲ他ノ容器ニ移シ保管ノ場所ヨリ他ニ撤出スル如キ行爲ヲ爲スニハ必ヤ該行爲ノ承認若クハ現物ノ提供等占有者ノ協力行爲ヲ俟タサルヘカラサル關係ニアルモノナルカ故ニ占有者カ共謀者ノ如上行爲ニ直接手ヲ下ササルノ故ヲ以テ占有者ニハ橫領ノ實行行爲ナキモノト斷スルヲ得サルモノトス　（大正八・一〇・四）

○橫領罪ノ成立ト事實上其物ノ處分竝占有移轉ノ要否　橫領罪ハ自己ノ占有スル他人ノ物ヲ不法ニ領得スルノ意思ヲ有シ該意思ヲ外部行爲ニ發現スルニ依リ完成シ必スシモ物ニ對スル事實上ノ處分行爲ヲ實行スルヲ要セス從テ又必スシモ物ノ占有ヲ他ニ移轉スルヲ要スルモノニ非ス　（大正八・一〇・四）

○他人ノ所有土地ニ對スル所有申告ト橫領罪　橫領罪ハ他人ノ物ヲ占有スル者カ不正ニ之ヲ領得スルニ因リ成立スルモノニシテ查定名義人カ土地所有申告以前ニ土地ノ所有者ニ非ス眞ノ所有者カ他ニ存在セシヨリ同人ト賃貸借其他ノ契約ヲ締結シ他人ノ土地ヲ占有セシヲ奇貨トシテ擅ニ自己ノ所有トシテ土地所有ノ申告ヲ爲シタルトキハ其申告ノ行爲ハ不正領得ノ意思ノ外部ニ表顯セラレタルモノニ外ナラサレハ橫領罪ハ之ニ依リ直ニ成立スヘク該申告ノ結果同申告者ノ所有ト查定確定シタル爲メ橫領罪ノ成立ヲ阻却スルモノニ非ス　（大正一〇・三・二四）

○信託契約ノ解除ト信託物ノ所有權　信託契約ニ因リ受信者ヲシテ土地ノ查定ヲ受ケシメタルトキハ查定確定ト同時ニ一旦受信者ノ所有ト確定スルモ內部關係ニ於ケル所有權ハ反對ノ意思表示ナキ限リ直ニ信託者ニ復歸スルノニシテ其後猶信託契約ヲ持續スルニ於テハ外部關係ニ於ケル所有權者ハ受信者タル查定名義人ナルヲ以テ他人トノ間ニ賣買契約ヲ爲スニハ受信者タル查定名義人ニ於テ之ヲ爲スヘキモノナルコト勿論ナルモ信託契約ヲ解除シ內部關

係ニ於ケル所有者カ外部關係ニ於ケル所有權ヲモ回復シタル後ハ信託者タリシ者ニ於テ之ヲ爲スヘキモノニシテ同人カ之ヲ他人ニ賣却シタルトキハ其所有權ハ當然買主ニ移轉スルモノトス（大正一一・三・一六）

○信託契約解除後ニ爲シタル受信者ノ賣却行爲ト横領罪　如上ノ場合ニ於テ受信者タリシ者カ右所有權移轉ノ事實ニ伴フ登記未濟ニシテ依然自己ノ所有名義ニ在ルヲ奇貨トシ之ヲ他人ニ賣却シタル以上ハ横領罪ヲ構成ス（大正一一・三・一六）

○質權者ノ轉質ト横領罪　質權者ハ自己ノ有スル權利ノ範圍内ニ於テノミ轉質ヲ爲シ得ヘキモノニシテ若シ其權利ノ範圍ヲ超ヘ轉質ヲ爲サント欲セハ質權設定者ノ承諾ヲ得ヘキモノト解スルヲ相當トス故ニ質權者カ一定金額ノ債權ノ擔保トシテ質物ノ交付ヲ受ケタル場合ニ其債權額以下ノ債務ノ爲該質物ヲ轉質スルハ固ヨリ權利ノ行使ナリト雖若シ其債權額以上ノ債務ノ爲之ヲ轉質スルトキハ其轉質ハ自己ノ有スル權利ノ範圍ヲ超越セルモノニシテ質權設定者ノ承諾ナキ限リ之ヲ以テ權利行使ナリト爲スヲ得サルハ勿論斯ル行爲ハ自己ノ占有セル他人ノ物ヲ不法ニ利用收益セントスルモノニ外ナラスシテ不法領得ノ行爲ナルコト明ナレハ横領罪ヲ構成スヘキモノトス（大正一一・九・一六）

○委任事務處理中受任者ノ名ヲ以テ取得シタルモノノ處分ト横領罪　受任者カ委任事務ヲ處理スルニ際リ自己ノ名ヲ以テ第三者ヨリ取得シタル物ノ所有權ハ一應受任者ニ歸屬シ受任者ハ委任ノ本旨ニ從ヒテ該所有權ヲ委任者ニ移轉スル債務ヲ負フニ過キサルモノナルカ故ニ受任者カ之ヲ處分スルモ横領罪ヲ構成スルモノニ非ス（大正一五・三・二九）

○自己領得ノ意思ヲ以テ他人ノ物ヲ占有シタルモノト横領罪　刑法第二百五十二條第二百五十三條所定ノ横領罪ノ目的物ハ自己ニ領得スル意思ニ非スシテ占有ヲ始メタルモノナルヲ要シ當初ヨリ自己ニ領得スル意思ヲ以テ不法ニ他人ノ物ヲ自己ノ占有ニ歸セシメタル場合ニ於テハ盜罪詐欺罪等ヲ構成スヘク該占有物ノ處分ニ因リ更ニ横領

卷	頁
九	四二
九	四二
九	一〇八
一三	二〇

罪ヲ構成スヘキモノニ非ス（大正一五・三・二九）

○査定名義人ノ合有財産ノ處分ト横領罪　林野調査令ニ依リ當該官廳カ林野ノ所有者及其ノ疆界ヲ査定スルニ當リ合有者ノ一人ノ氏名及宗中財産タルコトヲ竝記シテ査定シタルトキハ其ノ合有者ノ一人ハ他ノ者トノ信託契約ニ因リ外部關係ニ於ケル完全ナル所有權ヲ取得シタルモノトシ其ノ者ノ所有トシテ査定シタルモノニシテ宗中財産タルコトノ記載ハ單ニ合有者ノ一人タル査定名義人ト他ノ全員トノ内部關係ニ於テ合有タルコトヲ表明シタルニ過キサルモノト解スヘキモノトス從テ査定名義人カ宗中ノ同意ヲ得ルコトナクシテ之ヲ自己ノ爲ニ處分スル意思ヲ表示シタルトキハ横領罪構成スルモノトス（昭和二・一二・一二）

○信託不動産ニ抵當權ノ設定ト横領罪　門中ノ信託ニ因リテ林野ノ所有者トシテ査定ヲ受ケ林野臺帳上所有名義人トナリタル者カ自己ノ債務ノ爲恣ニ其ノ林野ニ抵當權ヲ設定シタルトキハ横領罪ヲ構成ス（昭和四・七・一八）

○横領罪ノ成立ト不正領得意思ノ表現方法　凡ソ横領罪ハ自己ノ占有スル他人ノ物ヲ不法ニ領得スルニ依リ成立スルモノナルカ故ニ該占有物ニ付不正領得ノ意思ヲ外部ニ表現スルヲ要シ其ノ表現ノ方法ハ必ラスシモ其ノ物ニ付法律上若ハ事實上關係アル人ニ對シテ之ヲ表現スルコトヲ要スルモノニ非スシテ只其ノ意思ヲ外部行爲ニ發露スレハ以テ足ルモノトス（昭和二・五・五）

聯

○信託ノ目的タル物件ノ横領ト贓物故買罪　宗中カ其合有財産ヲ他ノ者ニ信託シタル場合ニ於テ右受託者カ宗中ノ同意ヲ得ルコトナクシテ之ヲ自己ノ爲賣却處分シタルニ因リ横領罪ニ該當スルトキト雖其ノ情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル第三者ノ行爲ハ贓物故買罪ヲ構成スルモノニ非ス（昭和四・三・一九）

○賣渡擔保流抵當特約附貸借ト横領罪ノ成立　賣渡擔保流抵當特約附貸借ニ於ケル賣渡擔保ノ法律關係ハ所謂信託關係ノ範疇ニ屬シ其ノ貸借債務履行期前ニ在リテハ通常該擔保物ノ所有權ハ依然トシ信託者タル擔保提供者ノ所

卷	頁
一三	二〇
一四	四二
一六	三一
一四	一
一六	六三

有ニ存シ物權移轉ノ效果ヲ生セス（所謂內部關係）唯第三者ニ對スル所謂外部關係ニ於テノミ受託者タル債權者ニ所有權移轉アルモノト解スヘキカ故ニ其ノ間債權者ニ於テハ信託者ノ爲ニ其ノ所有ノ該擔保物件ヲ保管占有スルモノニ外ナラスシテ之ヲ自己ノ爲領得ノ意思ヲ表現セムカ其ノ方法カ欺罔手段ニ依ルト否トヲ問ハス卽時橫領罪ヲ構成スヘク從テ詐欺罪ヲ構成セサルモノトス（昭和五・一・二七）

○橫領罪ニ於ケル不動產ノ占有　不動產ノ登記簿上ノ所有名義者ニ非サル者ト登記簿上ノ所有名義者トノ間ニ特種ノ事情介在シ後者ハ前者ノ要求アラハ何時ニテモ直ニ異議ナク其ノ指名シタル者ニ所有權移轉登記ヲ爲シ得ヘキ關係ニアル時ハ不動產ノ登記簿上ノ所有名義者ニ非サル者ハ其ノ不動產ヲ第三者ニ對シ法律上有效ニ處分シ得ヘキ狀態ニアルコト恰モ自己カ登記簿上ノ所有名義者タル地位ニアルト何等撰フ所ナケレハ斯ル登記簿上ノ所有名義者ニ非サル者ト雖刑法第二百五十二條ニ規定スル他人ノ物ノ占有者ニ該ルモノト解スルヲ妥當トス（昭和六・六・一五）

○二重賣買ト贓物罪　既ニ讓渡シタル土地ニ付登記簿上所有名義ノ依然トシテ讓渡人ニ在ルヲ奇貨トシ擅ニ他ニ賣却シタルトキハ賣主ニ付テハ橫領罪ヲ構成シ情ヲ知ッテ買受ケタル者ニ付テハ贓物罪ヲ構成ス被害者カ故買者ニ對シ贓物返還請求權ヲ有スルト否トハ問フ處ニ非ス被害者ハ未タ所有權移轉登記ヲ經スト雖領得者タル賣主ニ對シテハ其ノ土地ノ引渡請求權ヲ有シタレハナリ（昭和一一・七・二〇）

第二百五十三條

○業務上ノ橫領罪ト占有取得事實ノ判定　業務上ノ橫領罪ヲ認定スルニ該リ「某ヨリ預リタル右金二拾圓ヲ云々費消シタル旨」判示スルニ止リ右金二拾圓云々ニ照應スヘキ預リタル事實關係ヲ明示セサリシハ占有スル事實ヲ判定セサルモノニシテ理由不備ノ判決ナリトス（明治四四・四・二四）

○事實上或ル事ヲ業務トスルモノト本條ノ業務　事實上或ル事ヲ業務トスル以上ハ刑法第二百五十三條ノ業務ニ該當ス故ニ代書業ノ傍他人ノ依賴ヲ受ケ訴訟代理及ヒ債權取立ノ業務ニ從事中ナルコトヲ認メ其橫領ノ所爲ヲ同條ニ問擬シタルハ相當ナリ（明治四四・八・二一）

○私金ヲ公金ト信シタルモノノ刑責　引繼者ニ於テ公金保管ノ職務ヲ有スル者ニ對シ之カ保管ヲ爲サシムル爲或金員ヲ公金トシテ交付シ其者亦之ヲ公金ト信シテ收受保管中該金員ヲ橫領シタルトキハ該金員カ偶々公金ニ非スシテ引繼者ノ私金タリシ場合ト雖モ其所爲ハ刑法第二百五十三條ノ業務上橫領罪ヲ構成スルモノトス（大正二・一・二〇）

○職務ノ範圍及職務上保管金ノ橫領ニ付其保管カ上官ノ命ニ依ルコトノ判示ノ要否　慣例上或ル職務ニ附隨セル事務モ亦其職務ノ一部ニ外ナラサルモノトス職務上保管セル金員ヲ橫領シタル事實ヲ認定スル以上其保管カ上官ノ命ニ依リ爲サレタル事實ハ之レヲ判示スルヲ要セサルモノトス（大正二・一・二〇）

○水害救恤金ヲ保管スル公錢領收員ノ資格　公錢領收員ハ業務トシテ水害救恤金ヲ保管スルモノニアラス（大正二・一一・一七）

○本條ニ所謂業務ノ意義　刑法第二百五十三條ニ所謂業務トハ法令慣習若ハ契約ニ因リ一定ノ事務ヲ常業トスルヲ謂フモノニシテ其事務ヲ處理スルニ當リ特ニ委託者ノ指圖ヲ受ケサルヘカラサル場合ナルト又ハ然ラスシテ適宜裁量ヲ爲シ得ル場合ナルトヲ問ハス苟モ其業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ橫領スルニ於テハ同條ノ犯罪ヲ構成ス（大正六・八・二〇）

○面事務所建築寄附金ノ費消ト業務橫領罪　面ハ面事務所建築寄附金ヲ受クルコトヲ得ヘク其受ケタル金員ハ面ノ收入ニ屬スルモノナレハ面ノ會計員カ其保管中擅ニ之ヲ費消シタルトキハ刑法第二百五十三條所定ノ業務上橫領罪ヲ構成ス（大正一一・三・一六）

巻	頁
一七	二五九
一八	三一四
二三	八三二
一	九七
一	一五八
二	七八
二	七八
二	一二九
四	三八三
九	三六

○面會計員ノ國有地賣拂代金ノ横領費消ト業務横領罪　國有地賣拂代金中驛屯土賣拂代金ニ付テハ法令中面ヲシテ收納セシムル場合アリト雖驛屯土以外ノ國有地賣拂代金ハ面ヲシテ收納セシムヘキ旨ノ法令ナク又面ノ會計員カ業務トシテ之ヲ取扱フヘキモノトスル法令又ハ慣例ノ認ムヘキモノナキヲ以テ單ニ面ノ會計員カ國有地賣拂代金ヲ横領費消シタル事實ノミヲ認メ其驛屯土賣拂代金ナルコトヲ明ホセスシテ輒ク刑法第二百五十三條所定ノ業務上横領罪ニ問擬シタル判決ハ理由不備ノ不法アルヲ免レサルモノトス（大正一一・三・一六）

○領得ノ意思ヲ以テ自己ノ占有ニ歸セシメタル場合ト横領罪　刑法第二百五十三條所定ノ横領罪ノ目的物ハ自己ニ領得スル意思ニ非スシテ占有ヲ始メタルモノナルヲ要シ當初ヨリ自己ニ領得スル意思ヲ以テ不法ニ他人ノ物ヲ自己ノ占有ニ歸セシメタル場合ニ於テハ盜罪詐欺罪等ヲ構成スヘク該占有物ノ處分ニ因リ更ニ横領罪ヲ構成スヘキモノニ非ス（大正一五・三・二九）

○新聞社ノ災害被害者救濟金ノ取次ト本條ノ業務　新聞社カ災害被害者救濟ノ爲一般世人ヨリ金品ノ寄贈ヲ募集シ該救濟事業經營者ニ之カ取次ヲ爲ス場合ニハ一定ノ期間繼續シテ金品寄贈者ノ委託ニ基キ金品ヲ受取リ該經營者ニ交付スル事務ヲ行フモノナレハ該事務ハ刑法第二百五十三條ニ所謂業務ト謂フヘク又取次ヲ委託セラレタル金品ヲ占有スルハ業務上之ヲ占有スルモノト謂ハサルヘカラス（昭和八・四・二四）

○委託者ノ爲ニスル公金ノ費消ト横領　横領罪ハ自己ノ占有スル他人ノ物ヲ不正ニ自己又ハ第三者ノ爲ニ領得スルニ因リテ成立スルモノナレハ公金保管者カ其ノ所有者ノ爲ニ該公金者ヲ費消シタルトキハ縱令制規ノ支出手續ヲ履踐セサルノ違法アリトスルモ之ヲ目シテ不正ニ自己又ハ第三者ノ爲ニ領得シタリト謂フヲ得サルカ故ニ横領罪ヲ構成スヘキモノニ非ス（昭和八・六・一）

○町總代ト業務上横領罪　町總代カ慣行上町民ノ出捐ニ係ル神社費、撒水費等町民ノ爲ニノミ使用スヘキ金錢ヲ管理占有中ニ自己ノ用途ニ費消シタルトキハ刑法第二百五十三條ノ罪ヲ構成ス（昭和九・三・一六）

○水利組合ニ於ケル出納事務ト組合長又ハ理事ノ職務　朝鮮水利組合令ニ依ル水利組合ニ於テ出納役アルトキハ出納事務ハ出納役ノ權限ニ專屬シ其ノ事故アルトキニ限リ組合長又ハ組合長ノ指定スル他ノ吏員ニ於テ其ノ事務ヲ掌ルコトヲ得ルモノトス從テ出納役アル場合組合長又ハ理事カ組合員ヨリ自己ニ送付シ來レル組合費及督促手數料ヲ保管スルコトハ其ノ當然ノ職務ニ非サルカ故ニ之ヲ出納役ニ交付セスシテ横領スルモ直ニ以テ業務上横領ナリト謂フコトヲ得サルモノトス（昭和一〇・五・九）

第二百五十四條

○殺人被害者ノ遺產ノ歸屬及加害者カ殺害後財物ヲ領得シタルトキノ罪責　死亡ニ因ル相續開始ノ場合ニハ死者ニ相續人アルトキハ相續人ニ於テ死者ノ遺產ヲ承繼シ相續人ナキトキハ其遺產ハ死者ノ住居セシ里洞ノ有ニ歸屬スルコトハ朝鮮ニ於ケル慣習ナルヲ以テ犯人カ財物劫取ノ意思ナク單ニ人ヲ殺害スル意思ヲ以テ人ヲ殺害シ然ル後其被害者カ携帶セシ財物ヲ領得スルハ無主物ノ先占ナリト謂フヲ得ス而シテ其領得行爲ニシテ被害者ノ遺產カ死亡ニ因リ被害者ノ所持ヲ離レ相續人又ハ里洞ノ所持ニ移ラサル間ニ行ハレタルトキハ刑法第二百五十四條ノ横領罪ヲ構成スルモノトス（大正六・八・三〇）

○强盜致死罪ニ於ケル財物占有ノ解釋　他人ノ財物ヲ奪取スル目的ヲ以テ暴行ヲ加ヘ人ヲ死ニ致シテ其ノ占有セシ財物ヲ領得シタルトキハ其ノ殺意アリタルト否トヲ問ハス被害者ノ生前既ニ其ノ占有ニ在ル財物ノ强取手段ニ著手シ其ノ完了前被害者死亡シタルモノナルヲ以テ斯ル場合ニ於テハ不法ナル强取ノ行爲ニ對シ財物ノ占有保護ノ完全ヲ期スルカ爲被害者ノ占有ハ死後仍繼續スルモノト同視スルヲ相當トス從ツテ其ノ財物ハ被害者ノ死亡ト同時ニ其ノ占有ヲ離レタルモノト爲スヘキモノニ非ス（昭和八・一・一六）

巻　頁
九　三六
一三　三〇
三〇　五三
三〇　五六〇
二一　五〇九
三三　六三九
四　三九九
三〇　四六五

第三十九章　贓物ニ關スル罪

第二百五十六條

○死體ノ膽嚢ヲ收受シタル者ノ罪責　他人カ死體中ヨリ截取シタル膽嚢ヲ收受シタル者ハ刑法第二百五十六條第一項ヲ適用シ處斷スヘキモノトス（明治四四・八・七）

○死體ノ膽嚢領得ヲ教唆シ且之ヲ收受シタル者ノ罪責　人ヲ教唆シテ死體中ヨリ膽嚢ヲ領得セシメタル後更ニ之ヲ受領シタルトキハ教唆罪ノ外別ニ贓物收受罪ヲ構成スルモノトス（明治四四・八・七）

○重石ノ採掘竊取ト贓物故買罪　重石ハ財產權ノ目的タリ得ヘキヲ以テ他人ノ森林山野其他ノ土地ニ於テ之ヲ採掘竊取シタルトキハ刑法第二百三十五條ノ竊盜罪ヲ構成シ其ノ竊取ニ係ル物件ナルコトヲ知リテ買受ケタルトキハ贓物故買罪ヲ構成ス（大正四・二・一五）

○贓物故買罪ノ成立上如何ナル犯罪ノ贓物タルカヲ知リタルコトノ要否　刑法第二百五十六條第二項ノ贓物故買罪ノ成立スルニハ犯人ニ於テ單ニ贓物タル情ヲ知リ之ヲ買受クルヲ以テ足リ必スシモ如何ナル犯罪ノ贓物タルヤヲ知ルノ要ナキカ故ニ犯人カ横領罪ノ贓物ト信シ竊盜罪ノ贓物ヲ買受クルモ苟モ其贓物タル情ヲ知レル以上ハ贓物故買罪ヲ構成スヘキモノトス（大正六・六・三〇）

○債權ノ擔保トシテ贓物ヲ受取リタル場合ト贓物寄藏罪　贓物故買罪ハ犯人カ贓物タルノ情ヲ知リ金錢其他ノ物件ヲ對價トシテ贓物ノ所有權ヲ取得スルニ因リ成立シ單ニ債權ノ擔保トシテ之ヲ受取リタル場合ハ贓物寄藏罪ヲ構成スルモノトス（大正七・四・四）

○刑法以外ノ法令ニ規定シタル犯罪ニ因リ得タル物件ト贓物　贓物トハ刑法ニ規定シタル犯罪ニ因リ取得シタル物件ニ限ルヘキモノニ非スシテ他ノ法令ニ規定シタル犯罪ニ因リ取得シタル物件モ亦贓物ナリトス（大正七・六・二四）

○横領罪ノ完成ト情ヲ知ツテ處分ノ周旋ヲ爲シタル者ニ對スル擬律　横領罪ハ自己ノ占有スル他人ノ物ヲ不法ニ領得スルニ依リ成立スルモノナレハ其占有者ニアラサル者カ占有者ト共謀ノ上横領ノ意思ヲ決定シ其意思實行ヲ爲シタルトキハ刑法第六十五條第一項第二百五十二條第一項ニ該當スル横領罪ヲ構成スヘキモノナルモ横領ノ意思實行ハ苟モ其不法領得ノ意思ヲ外部ニ發現スル行爲アリタル以上特ニ第三者ノ行爲ノ介在及處分行爲ノ完了ヲ要セスシテ直ニ完成スヘキモノナルヲ以テ他人ノ物ノ占有者カ已ニ不法領得ノ意思ヲ決定シ第三者ニ對シ其物ノ處分ノ周旋ヲ依賴スルノ意思表示ヲ爲シタル場合ニ於テハ是不法領得ノ意思ヲ外部ニ發現シタルモノニ外ナラサレハ横領罪ハ此時ニ於テ完成シ同時ニ其物ハ贓物ヲ組成スルニ至ルヘキヲ以テ其情ヲ知リテ依賴ニ應シ之カ處分ノ周旋ニ從事シタル第三者ノ行爲ハ前示法條ニ該當スル横領罪ノ共犯ヲ以テ論スヘキモノニ非スシテ當然贓物ニ關スル罪ヲ構成スヘキモノトス（大正八・六・二一）

○贓物ノ意義竝我法令ノ效力ノ及ハサル場所ニ於ケル犯罪　本條ニ所謂贓物ハ財產權ノ侵害ヲ惹起スヘキ違法行爲ニ因リ領得シタル物ヲ指稱スルモノニシテ其ノ領得行爲ヲ以テ違法ナリト爲スニハ我刑罰法令ノ上ヨリ觀察シテ客觀的ニ財產權ノ侵害ヲ惹起スヘキ違法性ヲ有スルヲ以テ足リ必スシモ該刑罰法令ノ適用ヲ受クヘキモノタルヲ要スルモノニ非ス從テ領得行爲カ敍上觀察ニ從ヒ違法ノモノタル以上假令該行爲カ我刑罰法令ノ效力ノ及ハサル場所ニ於テ行ハレタル場合ト雖モ尙其領得物ヲ以テ贓物ナリト爲スヲ妨ケス（大正九・八・一六）

○信託物ノ賣買ト信託事實知了ノ關係　信託行爲ニ於テハ信託者ト受託者トノ內部關係ニ於テハ所有權移轉ノ效果ヲ生セサルモ第三者ニ對スル關係ニ於テハ表面上ノ所有者ト眞ノ所有者ト看做サルヘキモノニシテ第三者カ表面上

卷	頁
一	一四七
一	一四七
三	六六
四	三四一
五	二二三
五	二〇六
六	一六八
七	二三

ノ所有者タル受託者ヨリ信託ノ目的タル物件ヲ買受ケタル場合ニ信託ノ事實ヲ知了シタルト否トニ拘ハラス右賣買ハ有效ニシテ第三者ハ完全ニ其所有權ヲ取得スヘキモノトス

竝上ノ場合ニ於テ買主タル第三者ノ行爲カ贓物故買罪若クハ贓物收受罪ヲ構成スルト否トハ右處分行爲ノ民法上ノ效力ニ影響ヲ及ホササルモノトス（大正一二・二・一七）

○贓物收受罪ノ構成要件　贓物收受罪ハ犯人カ贓物タルノ情ヲ知リ無償ニ之ヲ取得スルニ因リ成立スルモノニシテ其取得スルニ至レル事情ノ如キハ本罪ノ構成要件ニ非ス（大正一二・三・一五）

○贓物被害者ニ歸屬シタル場合ト贓物罪ノ成否　贓物ニ關スル罪ヲ規定シタル理由ハ此等ノ行爲ニ因リ被害物件ノ回復ヲ不能又ハ困難ナラシメ依テ間接ニ財產權ヲ侵害スル結果ヲ生スルカ故ナリト雖既ニ贓物ニ關スル罪ヲ犯シタル以上ハ玆ニ法益ノ侵害ヲ來タシ縱令其後ニ贓物カ被害者ノ手中ニ歸屬シ又ハ歸屬シタルト同一狀態ニ至リタル事實アリトスルモ犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキモノニ非ス（大正一二・三・一五）

○小切手ト引換ヘラレタル金錢ノ贓物性　小切手ヲ橫領シタル者カ之ト引換ヘニ支拂ヲ受ケタル金錢ハ尙贓物タル性質ヲ具有スルモノトス（昭和元・一二・二七）

聯

○信託ノ目的タル物件ノ橫領ト贓物故買罪　宗中カ其合有財產ヲ他ノ者ニ信託シタル場合ニ於テ右受託者カ宗中ノ同意ヲ得ルコトナクシテ之ヲ自己ノ爲賣却處分シタルニ因リ橫領罪ニ該當スルトキト雖其ノ情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル第三者ノ行爲ハ贓物故買罪ヲ構成スルモノニ非ス（昭和四・三・一九）

○反對　贓物トハ汎ク犯罪行爲ニ因リ領得シタル物件ヲ謂フモノナレハ苟モ其ノ情ヲ知リテ之ヲ有償的ニ讓受ケタル限リ贓物故買罪ヲ構成スルモノニシテ被害者カ故買者ニ對シテ贓物ノ返還請求權ヲ有スルヤ否ヤハ同罪ノ成立トハ全ク別個ノ關係ニ屬スルモノトス（昭和二・一二・一二）

○二重賣買ト贓物罪　既ニ讓渡シタル土地ニ付キ登記簿上所有名義ノ依然トシテ讓渡人ニ在ルヲ奇貨トシ擅ニ他ニ賣却シタルトキハ賣主ニ付テハ橫領罪ヲ構成シ情ヲ知ツテ買受ケタル者ニ付テハ贓物罪ヲ構成ス被害者カ故買者ニ對シ贓物返還請求權ヲ有スルト否トハ問フ處ニ非ス被害者ハ未タ所有權移轉登記ヲ經スト雖領得者タル賣主ニ對シテハ其ノ土地ノ引渡請求權ヲ有シタレハナリ（昭和一一・七・二〇）

第四十章　毀棄及ヒ隱匿ノ罪

第二百六十條

○刑法ニ所謂建造物ノ意義　刑法ニ所謂建造物トハ家屋其他之ニ類スル建築物ヲ指稱スルモノニシテ屋蓋ヲ有シ墻壁又ハ柱材ニ依リテ支持セラレ土地ニ定著シ少クトモ其內部ニ人ノ出入シ得ヘキモノタルコトヲ要ス（大正五・一二・二一）

○人ノ通行ニ備フル門ト建造物　門カ邸宅ノ圍障ノ一部ヲ成シ開閉シテ人ノ通行ニ備フルニ止リ人ノ出入シ得ル內部ヲ有セサルトキハ建造物ナリト云フヲ得ス（大正五・一二・二一）

○戶ノ如キ物件ヲ建造物ノ一部ト認メ得ヘキ要件　戶ノ如キ物カ建造物ノ一部ヲ構成スルモノト認メ得ルニハ建造物ノ內部タルト外部タルトニ論ナク之ヲ毀損スルニ非サレハ取外シ得サル狀態ニ在ルコトヲ要ス（大正五・一二・二一）

卷	頁
一〇	一
一〇	一九
一〇	一九
一二	六七
一六	六三
一四	四三
一三	六三
三	六〇六
三	六〇六
三	六〇六

刑法施行法

第五十三條

○累犯加重ノ決定ニ對スル不服申立及抗告決定ニ對スル抗告申立　判決確定後再犯者タルコトヲ發見シ其加重スヘキ刑ヲ定ムル裁判アリタルトキハ刑法施行法第五十三條第二項ノ規定ニ依リ被告ハ勿論檢事ヨリ抗告ヲ以テ不服ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘク而シテ抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ刑事訴訟法第二百九十四條第二項ニ依リ抗告申立人ヨリ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得サルモ該規定ハ其ノ相手方ヨリ更ニ抗告スルコトヲ得ヘキモノトス（大正六・六・三五）

第六十一條

○刑法施行法第六十一條ノ場合ト被害者ヲ判文上明示スルノ要否　贓物犯人ノ手ニ在リ其被害者アルコト明ナル以上ハ刑法施行法第六十一條ニ則リ處分スヘキモノニシテ其被害者ノ何人ナリヤハ判文上具體的ニ之ヲ明ニセサルモ濫法ニアラス（大正六・七・九）

○被害者ノ氏名不詳ト犯人手裡ノ贓物ノ處分　刑法第十九條第二項ニ「沒收ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セサルトキニ限ル」トアルハ沒收物ニ付犯人以外ノ者カ所有權其他ノ物權ヲ有スルトキハ之カ沒收ヲ爲スヲ許ササル律意ニ出テタル規定ナリト解スヘキヲ以テ竊盜行爲ニ因リ得タル贓物ノ如キ假令判決當時ニ在リテ其被害者ノ氏名不詳ナルトキト雖犯人以外ノ者ニ於テ所有權其他ノ物權ヲ有スルコト明ナル物ニ付テハ之カ沒收ヲ爲スヲ得スト解釋スルヲ立法ノ旨趣ニ恰當スルモノトス從テ其贓物ニシテ犯人ノ手ニ在ルトキハ刑法施行法第六十一條ニ則リ之ヲ被害者ニ還付スルノ言渡ヲ爲ササルヘカラス（大正七・一・二六）

	巻	頁
五	四	三三五
八	四	三三三

刑事訴訟法

第一編　總則

第二章　裁判所職員ノ除斥、忌避及回避

第二十四條

○豫審終結決定ヲ爲シタル判事ノ判決宣告關與　事件ニ付豫審終結決定ヲ爲シタル判事ハ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキモノナルヲ以テ其ノ事件ノ判決ノ宣告ニ關與スルハ違法ナリ（昭和五・六・二六）

第五章　裁判

第五十一條

○事實ノ審理ニ關與セサル判事ニ依ル判決宣告　判決ノ宣告ハ裁判所カ訴訟審理ノ末事件ニ關シテ爲ス意思決定タル判決自體トハ異リ單ニ其ノ成立シタル判決ヲ公示スル方法タルニ過キサルヲ以テ縱令事件ノ審理ニ關與セサル判事ト雖判決ノ宣告ニ關與スルコトヲ得ルモノトス（昭和五・六・一六）

○豫審終結決定ヲ爲シタル判事ノ判決宣告關與　事件ニ付豫審終結決定ヲ爲シタル判事カ其ノ事件ノ判決ノ宣告ニ關與シタル一事ハ其ノ判決ニ影響ヲ及ホスモノニ非ス（昭和五・六・二六）

	巻	頁
一七	三〇九	
一七	三〇七	
一七	三〇九	

第六章　書類

第五十八條

○公判期日外ニ於ケル證人訊問調書ト裁判所書記ニ關スル記載　公判期日外ニ於ケル證人訊問ノ調書ニハ裁判所書記ハ之ニ署名捺印スヘキコトノ外特ニ列席者トシテ掲記スルコトヲ要セス（昭和一〇・七・一）　三　六六一

第六十條

○公判調書ノ記載事項　公判期日ニ出頭セサル辯護人ノ氏名ハ之ヲ公判調書ニ記載スルヲ要セス（大正一三・四・二八）　二　二九

第六十三條

○判事ノ捺印ヲ缺ク公判調書ノ效力　公判調書ニ判事ノ署名ノミアリテ捺印ヲ缺クモ其公判調書ハ無效ニアラス（昭和三・二・二七）　一五　八

第六十八條

○合議裁判所ノ裁判書ノ契印　合議裁判所ノ裁判書ハ其裁判ニ關與シタル一人ノ判事契印ヲ爲スヲ以テ足ルモノトス（昭和四・一一・二九）　一六　五八

第七十一條

○合議裁判所ノ裁判書ノ契印　合議裁判所ノ裁判書ハ其ノ裁判ニ關與シタル一人ノ判事契印ヲ爲スヲ以テ足ルモノトス（昭和四・一一・二九）　一六　五八

○公判調書及豫審請求書ニ於ケル契印缺如ト其ノ效力　公判調書及豫審請求書ニ契印ヲ缺如シテ刑事訴訟法第七十一條ノ方式ニ違背スル場合ト雖前後相合シテ夫々眞正單一ナル文書ナルコト明瞭ナル場合ニ於テハ之等ハ孰レモ有效ナルモノトス（昭和一一・二・一七）　二三　四四八

第八章　期間

第八十一條

○本條ニ所謂一般休日ノ意義　刑事訴訟法第八十一條ノ一般ノ休日ト指定セラレタル日ヲ指稱スルモノナレハ昭和七年四月十三日內閣告示第二號ノ靖國神社臨時大祭ニ付陸海軍隊諸生徒諸官員ニ休暇ヲ賜ハリタル日ノ如キハ之ニ該當セス（昭和七・六・二七）　一九　三六三

第十三章　證人訊問

第百九十六條

○同一證人ヲ豫審及公判ニ於テ訊問シタル場合ト宣誓　豫審ト公判トハ其ノ訴訟手續ノ段階ヲ異ニスルモノナルヲ以テ同一證人ニ對シ豫審及公判ニ於テ訊問ヲ爲ス場合ハ其ノ宣誓ハ各別ニ之ヲ爲サシムヘキモノトス（昭和五・一二・一一）　一七　三七五

○數名ノ被告人中一部ニ對スル關係ニ付宣誓ナキ證人訊問調書ノ效力　曩ニ宣誓ノ上訊問ヲ受ケタル證人ヲ其ノ後被告人增加シタルニ拘ラス前ノ宣誓ヲ引用シタル儘訊問シ增加シタル被告人ニ對スル宣誓ヲ爲サシメタリシ

事由ノ記載ナキニ於テハ該訊問調書ハ增加シタル被告人ニ對スル關係ニ付其ノ效ナキモノトス（昭和一一・二・一七）

第二百八條

○本條ニ依ル證人訊問ト訴訟關係人ノ立會不要　裁判所カ刑事訴訟法第三百二十六條ニ依ラス同法第二百八條ニ基キ證人訊問ヲ爲スニ際シテハ訴訟關係人ノ立會ヲ必要トセサルモノトス（昭和九・八・二七）

第二百十六條

○告訴補充調書ト司法警察吏ノ立會不要　司法警察官告訴ニ付調書ヲ作ル場合ニ於テハ司法警察吏ヲシテ立會ハシムルコトヲ要セス（昭和四・一一・一四）

第十五章　通譯

第二百三十二條

○國語ニ通セサル被告人ニ對スル判決ノ言渡ト通事ノ要否　刑事訴訟法第二百三十二條ハ國語ニ通セサル被告人ニ陳述ヲ爲サシムル場合ハ勿論判決ノ趣旨ヲ了解セシムルカ爲ニモ通事ヲ用フル法意ナリト解スルカ故ニ苟モ被告人ニシテ國語ニ通セサランカ判決ノ言渡ニ際シテモ通事ヲ用フヘキモノトス（昭和一一・九・一七）

第十六章　訴訟費用

第二百四十二條

○訴訟費用ノ裁判ノ附隨性　本案ノ裁判ニ對スル上告理由ナキトキハ訴訟費用ノ裁判ニ對スル不服ノ申立ハ其ノ當否ヲ審究スルコトナク之ヲ排斥スヘキモノトス（昭和一一・六・一八）

第二編　第一審

第一章　捜査

第二百五十八條

○告訴ノ效力ト指名セサル犯人　親告罪ノ告訴ハ被害者又ハ被害者ノ爲ニ告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者カ犯罪捜査ノ機關ニ對シ犯罪事實ヲ申告シテ犯人ノ訴追ヲ求ムル意思ヲ表示スルニ因リテ成立シ其ノ效力ハ犯罪事實ヲ對象トシテ不可分ナルモノナルカ故ニ偶告訴狀ニ犯人トシテ指名シタル者カ人違ニシテ眞ノ犯人ハ他ニ存スル場合ニ於テモ告訴ノ效力ハ其ノ眞ノ犯人ニ及フヘキモノトス（昭和七・五・九）

第二百六十四條

○刑事訴訟法施行前提起シタル姦通ノ告訴ノ效力　姦通罪ニ付舊刑事訴訟法施行當時同法ニ基キ有效ニ爲シタル本夫ノ告訴ハ刑事訴訟法第二百六十四條所定ノ婚姻ノ解消又ハ離婚ノ訴ノ提起ナル要件ヲ具備セサルモノト雖同法第六百十六條第二項ニ依リ同法施行後ニ於テモ尙其ノ效力ヲ有ス（大正一三・五・三）

第二百七十三條

○告訴補充調書ト司法警察吏ノ立會不要　司法警察官告訴ニ付調書ヲ作ル場合ニ於テハ司法警察吏ヲシテ立會ハシムルコトヲ要セス（昭和四・一一・一四）

第二章　公訴

第二百八十一條

○牽連犯ノ公訴時效　牽連犯ノ公訴時效ハ其ノ手段又ハ原因タル行爲ニ付時效完成セサル以前其ノ目的又ハ結果タル行爲カ爲サレタル限リ最モ重キ刑ニ該ル行爲ヲ標準トシテ全行爲ノ時效期間ヲ決スヘキモノトス　（昭和五・九・二九）

○想像上ノ數罪ノ公訴時效　想像上ノ數罪ハ科刑上一罪トシテ取扱ハルルモノナレハ想像上ノ數罪ニ付テノ公訴時效ノ成否ハ其ノ最モ重キ從ツテ處斷スヘキ罪ノ刑ニ依リテ判斷シ想像上ノ數罪ヲ構成スル各犯罪行爲ニ對スル刑ニ依リ各別ニ其ノ成否ヲ定ムヘキモノニ非ス　（昭和一〇・六・一〇）

第二百八十四條

○連續犯ノ公訴時效　連續犯ニ付テハ公訴時效ハ假ニ其ノ行爲ヲ分離シテ考案スレハ其ノ一部ハ他ノ行爲ノ成立セシ當時又ハ起訴ノ際已ニ公訴時效完成スヘキ場合ニ該當スルトキト雖最後ノ行爲ノ終リタル時ヲ標準トシテ全部ノ行爲ニ付其ノ期間ヲ起算スヘキモノトス　（昭和三・六・七）

第二百九十一條

○僞證ノ公訴ト其ノ範圍　僞證ノ犯行ニ加擔シタリトノ公訴事實ハ當然僞證敎唆ノ事實ヲモ包含スルモノトス　（昭和八・四・二四）

○起訴事實ト公訴ノ範圍　起訴事實カ特定セラレ且一定ノ罪名ヲ付セラレタルトキト雖モ公判裁判所ハ該事實ニ對スル罪名如何ハ勿論其ノ之ヲ基礎トシテ構成スル犯罪ノ態樣性質ニ關スル檢事若クハ豫審判事ノ見解如何ニ拘ラス

卷	頁
一七	三五四
二三	六五二
一五	一三
二〇	五三九

荷モ之ト連續其ノ他想像的競合若ハ牽連關係ヲ有シテ一罪ヲ構成スヘキ總テノ事實ニ付審理判決ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス　（大正一四・六・八）

○公訴ノ同一性　詐欺ノ公訴事實ニ付裁判所カ恐喝又ハ橫領ノ事實ヲ認定スルモ其ノ一事ニ依リ直ニ起訴以外ノ事實ニ付判斷ヲ爲シタルモノト謂フヲ得ス　（昭和三・一・二三）

○豫審終結決定ト公訴ノ範圍　荷モ豫審終結決定ニ因リテ裁判所ノ公判ニ付セラレタル具體的犯罪事實ト連續スルモノナル以上豫審終結決定書ニ何等顯出セラレサル事實ハ勿論其ノ理由中ニ於テ否定セラレタルモノト雖公訴ノ範圍ニ屬スルモノトス　（昭和四・六・一七）

○一罪ノ一部ニ對スル公訴ノ提起ト爾餘ノ部分　一罪ノ一部ニ付公訴ノ提起アリタルトキハ爾餘ノ部分ハ當然該公訴中ニ包含スルモノトス　（昭和四・八・一六）

○公訴ノ範圍ト公判裁判所ノ判斷　公訴提起ノ際明示シタル事實ト明示セサル事實トカ相互ニ連續犯又ハ牽連犯等法律上ノ一罪ノ關係ニ在リヤ否ヤハ檢事又ハ豫審判事ノ判斷ニ依リテ定マルヘキモノトス　（昭和七・八・二九）

○明示ノ起訴事實無罪ノ場合ニ於ケル公訴ノ範圍ト判決ノ確定力　公判裁判所カ其ノ明示ノ事實ノ存在ヲ認メサルトキハ之ト明示外ノ事實トノ間ニ連續犯又ハ牽連犯等ノ關係アリ得ヘカラサルヤ當然ナルヲ以テ若公判裁判所明示ノ事實ニ付證明ナシトシテ無罪ノ判決ヲ爲シタルトキハ他ニ其ノ公訴ノ範圍ニ屬スル明示外ノ事實ナルモノハアリ得ヘカラサルモノニシテ縱令明示ノ事實カ假ニ其ノ儘存在スルモノトシ之ト照合スレハ相互ニ連續犯又ハ牽連犯等ノ關係ニ在ルヘキ明示外ノ事實存スルモ明示ノ事實ニ付爲シタル無罪ノ判決ハ右明示外ノ事實ニ對シ毫モ確定力ヲ及ホスモノニ非ス　（昭和七・八・二九）

卷	頁
一三	二五
一五	一
一六	二二
一六	三五
一九	三六六
一九	三六八

第四章　公判

第一節　公判準備

第三百二十條

○公判期日ニ於ケル續行期日ノ告知ト不出頭辯護人ニ對スル召喚手續　辯護人ニ對シ適法ニ召喚アリタルニ拘ラス出頭セサリシ公判期日ニ於テ續行期日ヲ定メテ告知シタル場合ニハ該辯護人ニ對シ別ニ續行期日ニ對スル召喚ヲ爲スノ要ナキモノトス其ノ續行期日ニ於テ更ニ續行期日ヲ告知シタルトキ亦同シ　（昭和一一・二・一七）　二三　四四八

第三百二十一條

○辯護人ノ召喚ト猶豫期間　第一回ノ公判期日ト辯護人ニ對スル召喚狀ノ送達トノ間ニハ猶豫期間ヲ存スルコトヲ要セサルモノトス　（昭和五・一〇・一六）　一七　三五六

第二節　公判手續

第三百三十七條

○證言ノ取消ト其ノ證據力　證人カ受命判事ノ取調ニ際シ檢事ニ對シテ爲シタル供述ヲ取消スモ該供述ハ其ノ取消ニ因リ證據力ヲ失フモノニ非ス　（昭和九・八・二七）　二一　五九六

第三百四十條

○證據調ノ方式ニ關スル規定ノ法意　刑事訴訟法第三百四十條第三百四十一條及第三百四十七條ノ證據調ノ方式ニ關スル規定ハ當該事件ニ付證據ト爲リ得ヘキ一切ノ資料ニ對シテ之ヲ履踐スルコトヲ要スルモノニ非スシテ裁判所カ事實認定ノ爲必要ナリト認ムル書證及物證ニ付テノミ右ノ手續ヲ經ルヲ要シ其ノ手續ヲ經サルモノハ被告人ノ不利益ニ援用スルコトヲ許ササル法意ナリト解スヘキモノトス　（昭和二・五・五）　一四　一

○審理更新前ノ公判調書ノ朗讀　被告人數名中ノ一被告人カ第一回公判期日ニ其ノ公判廷ニ出頭シ裁判長ノ訊問ヲ受ケタル後死亡シ其ノ後開廷セラレタル第二回公判期日ニ裁判所カ其審理ヲ更新シタル場合ニハ右被告人ノ供述ヲ記載シタル第一回公判調書ハ其ノ相被告人ニ對シテハ一ノ證據書類ニ過キサルヲ以テ斯ル場合ニハ刑事訴訟法第三百四十條第三百四十七條ノ手續ヲ履踐スヘキモノトス　（昭和六・一・二六）　一八　二七七

第三百四十一條

○證據調ノ方式ニ關スル規定ノ法意　刑事訴訟法第三百四十條、第三百四十一條及第三百四十七條ノ證據調ノ方式ニ關スル規定ハ當該事件ニ付證據ト爲リ得ヘキ一切ノ資料ニ對シテ之ヲ履踐スルコトヲ要スルモノニ非スシテ裁判所カ事實認定ノ爲必要ナリト認ムル書證及物證ニ付テノミ右ノ手續ヲ經ルヲ要シ其ノ手續ヲ經サル者ハ被告人ノ不利益ニ援用スルコトヲ許ササル法意ナリト解スヘキモノトス　（昭和二・五・五）　一四　一

○公判廷ニ於テ提出シタル證據物ト證據調ノ方式　刑事訴訟法第三百四十一條所定ノ證據調ノ方式ハ當該事件ニ付公判廷ニ於テ提出シタル一切ノ證據資料ニ對シテ之ヲ履踐スルコトヲ要スルモノニ非スシテ裁判所カ犯罪事實ノ認定ヲ爲スニ必要ナリト認ムル書證及物證ニ付テノミ踐行スルヲ要スルモノト解スヘキモノトス　（昭和一一・二・一〇）　二三　四三五

第三百四十三條

○本條ト檢事ノ被疑者訊問調書　檢事カ朝鮮刑事令第十二條第一項ノ規定ニ依リ爲シタル被疑者ノ訊問ニ付刑

事訴訟法第五十六條ノ規定ニ從ヒ作成セラレタル調書ハ同法第三百四十三條ノ除外シタル所謂法令ニ依リ作成シタル訊問調書ニ該當スルモノトス（昭和七・一二・一）

第三百四十四條

○證據申請ヲ拋棄シタルモノト認ムヘキ場合ハ決定不要　公判裁判所カ證人訊問申請ニ關スル決定ヲ留保シタル場合ト雖其ノ後ノ公判ニ於テ被告人及辯護人ノ辯論ニ依リ其ノ證據申請ヲ拋棄シタルモノト認メ得ヘキトキハ裁判所ハ之ニ對シ決定ヲ爲サスシテ公判ヲ終結シ判決ヲ言渡スモ違法ニ非ス（昭和四・八・一六）

第三百四十七條

○證據調ノ方式ニ關スル規定ノ法意　刑事訴訟法第三百四十條、第三百四十一條及第三百四十七條ノ證據調ノ方式ニ關スル規定ハ當該事件ニ付證據ト爲リ得ヘキ一切ノ資料ニ對シテ之ヲ履踐スルコトヲ要スルモノニ非スシテ裁判所カ事實認定ノ爲必要ナリト認ムル書證及物證ニ付テノミ右ノ手續ヲ經ルヲ要シ其ノ手續ヲ經サル者ハ被告人ノ不利益ニ援用スルコトヲ許ササル法意ナリト解スヘキモノトス（昭和二・五・五）

第三百五十條

○辯論ノ再開ト公判手續更新ノ要否　辯論ノ再開ハ一旦終結シタル辯論ヲ再ヒ開始シ終結前ノ辯論ヲ續行スルモノニ外ナラサルヲ以テ裁判所辯論ヲ再開シタルトキハ終結前ノ辯論トノ關係ニ於テ不開廷引續キ十五日以上ニ亙リ又ハ判事ノ更迭アリタル場合ニ非サル限リ單ニ其ノ必要トスル取調ヲ爲セハ足リ特ニ檢事ノ被告事件ノ陳述其ノ他公判手續ヲ更新スルノ要ナキモノトス（昭和六・九・三）

第三百五十三條

○判決ノ宣告ト公判手續更新不要　刑事訴訟法第三百五十三條ノ十五日以上不開廷ノ場合ニ關スル公判手續更新ノ規定ハ判決ノ宣告ヲ爲ス場合ニハ適用ナシ（大正一五・三・一）

第三百五十四條

○判事ノ更迭ト公判手續ノ更新　被告事件ニ付審問ヲ爲シタル第二回公判ト第四回公判トノ間ニ他ノ構成判事ノ下ニ開廷セラレシ單ニ續行期日ヲ指定シタルニ止ル如キ裁判ノ基礎ト爲ラサル手續アリタルニ過キサル第三回公判期日ノ介在アリトスルモ第二回ト第四回ノ構成判事ノ同一ナル以上ハ他ニ更新事由ノ存セサル限リ第四回公判期日ニ於テ公判手續ヲ更新スル必要ナシ（大正一三・六・二〇）

第三節　公判ノ裁判

第三百六十條

○本條第一項ニ所謂證據ニ依リ罪トナルヘキ事實ヲ認メタル理由ヲ說明スヘシトノ意義　刑事訴訟法第三百六十條第一項所定ノ證據ニ依リ罪トナルヘキ事實ヲ認メタル理由ヲ說明スヘシトノ規定ハ犯罪事實ト證據トノ間ニ於ケル推理判斷ノ連續關係換言スレハ如何ナル證據ニ依リ如何ナル事實ヲ認定シタルカノ心證ノ憑據ヲ判文上ニ明カニセシムルヲ以テ其ノ法意トス故ニ單ニ證據ノ項目ヲ羅列スルニ止リ以テ認定事實トノ間ニ推理判斷ノ連鎖ヲ認メ得ヘカラサルモノハ敍上ノ理由ヲ具備セサルモノナリト謂ハサルヘカラスト雖證據ノ如何ナル點ニ依リ事實ノ如何ナル點ヲ認定シタルカニ付其ノ推理判斷ノ由來スル根據ヲ推認シ得ヘキ程度ニ說示シタルモノナルニ於テハ敍上ノ理由ヲ具備スルモノニシテ必シモ證據ノ內容ヲ具體的ニ說明スルノ要ナキモノトス（大正一四・八・一〇）

○本條第二項ニ所謂法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由タル事實上ノ主張ノ意義　刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ所謂法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由タル事實上ノ主張トハ犯罪構成要件以外ノ事由ニシテ法律カ其

卷	頁
一九	三八〇
一六	三五
一四	一
一八	四一
一三	二
一二	三五
一三	三八

ノ事由存スルニ於テハ犯罪不成立ニ歸スヘキ旨ヲ特ニ規定シタルモノニ該當スル事實ヲ主張スルコトヲ謂フモノニシテ單ニ犯罪構成要件ヲ充實スル事實ノ欠缺ヲ主張スルカ如キハ之ニ屬セサルモノトス（昭和七・三・三）

○本條第二項ニ所謂刑ノ減免ノ原由タル事實ト自首　刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ所謂刑ノ減免ノ原由タル事實トハ其ノ事實アルニ於テハ當然刑ノ減免ヲ爲ササルヘカラサル事實ヲ指稱スルモノニシテ自首ノ如キ其ノ刑ヲ輕減スルト否トヲ裁判所ノ自由裁量ニ任セタルモノヲ包含セサルモノトス（昭和八・四・四）

○闘箋又ハ骨牌ヲ使用スル賭博ト偶然性ノ解釋　數人間ニ闘箋又ハ骨牌ヲ使用シテ爲ス遊戲カ偶然ノ事情ニ依リ輸贏ヲ決スル賭博ナルコトハ其ノ用具ノ性質上自ラ明白ナリ（昭和八・五・一八）

○「チーハー」賭博ノ偶然性ト公知ノ事實　俗ニ「チーハー」ト稱スル遊戲カ偶然ノ事情ニ依リ輸贏ヲ決スル賭博ナルコトハ公知ノ事實ナリ（昭和八・五・一八）

第三編　上訴

第一章　通則

第三百七十八條

○上訴ノ委任代理ハ不適法　上訴ニ付テハ刑事訴訟法第三百七十八條第三百七十九條ニ被告人ノ法定代理人、保佐人、夫、原審ニ於ケル代理人、辯護人ハ被告人ノ爲上訴ヲ爲スコトヲ得ル旨規定スルニ止リ他ニ被告人ニ代リテ上訴ヲ爲シ得ヘキ條規存セサルカ故ニ刑事訴訟法ハ上訴ノ委任代理ハ之ヲ許容セサル法意ナリト解スルヲ妥當トス（昭和七・八・一九）

卷	頁
一九	三〇九
二〇	五〇二
二〇	五五七
二〇	五五七
一九	三六四

第三百七十九條

○上訴ノ委任代理ハ不適法　上訴ニ付テハ刑事訴訟法第三百七十七條第三百七十九條ニ被告人ノ法定代理人、保佐人、夫、原審ニ於ケル代理人、辯護人ハ被告人ノ爲上訴ヲ爲スコトヲ得ル旨規定スルニ止リ他ニ被告人ニ代リテ上訴ヲ爲シ得ヘキ條規存セサルカ故ニ刑事訴訟法ハ上訴ノ委任代理ハ之ヲ許容セサル法意ナリト解スルヲ妥當トス（昭和七・一九）

○上告申立ヲ爲シタル原審辯護人ト上告趣意書ノ提出　タル場合ト雖上告審ニ於ケル辯護人ニ選任セラレサル限リ上告趣意書ヲ差出スコトヲ得サルモノトス（昭和七・九・七）

○被告人ノ上訴拋棄ト辯護人ノ上訴ノ效力　被告人カ上訴ノ拋棄ヲ爲シタルトキハ原審ニ於ケル辯護人ノ爲シタル上訴ハ被告人ノ明示シタル意思ニ反スルモノニシテ其ノ效ナキモノトス（昭和八・一一・一）

卷	頁
一九	三六四
一九	三七三
二〇	六一九
二〇	五七五

第二章　控訴

第三百九十四條

○併合罪中ノ一部無罪ト判決ノ確定力　併合罪ノ關係ニアル數罪ニ付一ノ有罪判決ヲ言渡シタル場合ニ於テハ各罪ノ間ニハ不可分ノ關係ヲ生スルヲ以テ其ノ或罪ニ付控訴ノ申立アリタル時ハ控訴ヲ申立テサル他ノ罪ニ付テモ亦同時ニ移審ノ效力ヲ生シ前示罪ト共ニ當然控訴審ニ繫屬スト雖其ノ或罪カ有罪ニシテ他ノ罪カ無罪ナル場合ニアリテハ之ト異ナリ兩者ノ間ニハ何等ノ交渉モナク互ニ分離スルモノナルカ故ニ有罪部分ノ判決ニ對スル控訴ハ無罪部分ノ判決ノ確定力ヲ妨ケサルト同時ニ無罪部分ノ判決ノ確定力ヲ停止スルコトナキモノトス（昭和八・六・二六）

第三百九十九條　附帶控訴ノ申立ハ公判廷ニ於テハ口頭ヲ以テモ爲シ得ルモノトス（昭和九・六・一四）

○口頭ニ因ル附帶控訴申立

第四百一條　第一審ノ判決又ハ公判手續ニ不當又ハ違法ノ點アルモ第二審判決ニ於テ之カ取消ヲ言渡スヘキモノニ非ス（大正一五・三・一）

○第一審ノ判決又ハ公判手續ノ瑕疵ト第二審判決

○控訴審ノ判決ト第一審判決適否ノ判示　控訴審ニ於テハ控訴ノ有效ニ成立シタル事件ニ付テハ全然第一審ト獨立シテ審理ヲ爲シ且第一審ノ當否ニ關係ナク更ニ判決ヲ爲スヘキモノトス（昭和三・二・二七）

第四百三條　控訴審ノ言渡シタル刑カ刑事訴訟法第四百三條ニ所謂原判決ノ刑ヨリ重キヤ否ヤハ專ラ第一審判決主文ニ揭クル刑ノ內容ノミヲ對象トシテ決スヘク判決理由ヲモ對象トシテ之ヲ決スヘキモノニ非ス（昭和八・一・二六）

○本條ニ於ケル刑比較ノ基準

第四百三條　併合罪ノ關係ヲ生スルコトナケレハ斯ル犯罪ニ付同時ニ裁判セントスルニハ併合罪ノ規定ヲ適用シ一個ノ刑ヲ科セスシテ其ノ各々ニ對シ刑ヲ併科スヘキモノナルヲ以テ其ノ言渡シタル判決主文亦實質上全然獨立セル二個ノ主文ナルカ故ニ上訴審ニ於テ刑ノ變更ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ二個ノ主文ヲ別個獨立モノトシテ不利益變更禁止ノ法則ニ從ハサルヘカラサルモノトス從テ敍上犯罪ニ付夫々刑ヲ併科シテ言渡シタル第一審ノ有罪判決ニ對シ被告人ノミ控訴シタル事件ニ付控訴審ニ於テ確定判決前ノ犯罪ニ對シ無罪ヲ言渡シ確定判決後ノ犯罪ニ對シ有罪ノ言渡ヲ爲サントスル場合ニハ第一審カ確定判決後ノ犯罪ニ對シ言渡シタル刑ニ比シ之ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得サルモノトス（昭和八・二・九）

○確定判決前ノ犯罪及其ノ後ノ犯罪ト刑ノ不利益變更

第四百三條　確定判決前ノ犯罪ト確定判決後ノ犯罪トノ間ニハ何等ノ關係ヲ生スルコトナケレハ斯ル犯罪ニ付同時ニ裁判セントスルニハ併合罪ノ規定ヲ適用シ一個ノ刑ヲ科セスシテ其ノ各々ニ對シ刑ヲ併科スヘキモノナルヲ以テ其ノ言渡シタル判決主文亦實質上全然獨立セル二個ノ主文ナルカ故ニ上訴審ニ於テ刑ノ變更ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ二個ノ主文ヲ別個獨立モノトシテ不利益變更禁止ノ法則ニ從ハサルヘカラサルモノトス從テ敍上犯罪ニ付夫々刑ヲ併科シテ言渡シタル第一審ノ有罪判決ニ對シ被告人ノミ控訴シタル事件ニ付控訴審ニ於テ確定判決前ノ犯罪ニ對シ無罪ヲ言渡シ確定判決後ノ犯罪ニ對シ有罪ノ言渡ヲ爲サントスル場合ニハ第一審カ確定判決後ノ犯罪ニ對シ言渡シタル刑ニ比シ之ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得サルモノトス（昭和八・二・九）

卷	頁
一三	五八九
一三	一一
一五	八
二〇	四六八
二〇	四七五

第三章　上告

第四百十條　豫審終結決定ヲ爲シタル判事ノ判決宣告關與ト上告理由　事件ニ付豫審終結決定ヲ爲シタル判事ハ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキモノナルヲ以テ其ノ事件ノ判決ノ宣告ニ關與スルハ違法ナルモ刑事訴訟法第四百十條第二號ニ所謂「審判」中ニハ判決ノ宣告ヲ包含セサルモノナルヲ以テ右違法ハ當然上告ノ理由ト爲ルモノニ非ス（昭和五・六・二六）

○豫審終結決定ヲ爲シタル判事ノ判決宣告關與ト上告理由

○本條第十三號ノ法意　刑事訴訟法第四百十條第十三號ニ所謂法律ニ依リ公判ニ於テ取調フヘキ證據ノ取調ヲ爲ササリシトキトハ同法第三百四十二條ノ如キ當該證據ハ之ヲ公判廷ニ於テ取調フヘキ旨ヲ定メタル特別ノ規定存スル場合ヲ指稱スルモノトス（昭和七・六・七）

第四百十一條　包括的ニ觀察シテ單純一罪トシテ處斷スヘキヲ連續犯トシテ刑法第五十五條ヲ適用處斷シタリトスルモ均シク一罪トスルモノナレハ判決ニ影響ヲ及ホササルコト明瞭ナルヲ以テ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス（昭和九・九・一七）

○一罪トシテノ處分ト上告理由

第四百十六條　公訴棄却ノ判決ノ如ク單ニ形式的公訴權ノ存在セサルコトヲ宣言スル所謂形式的裁判ニシテ被告事件ノ事實ヲ認定スルモノニ非サルモノニ對シテハ超躍的上告ヲ許ササルモノトス（昭和九・九・二七）

○公訴棄却ノ判決ト超躍的上告

卷	頁
一七	三〇九
一九	三五三
二一	六〇七
二二	六〇七